



GLA

取扱説明書



Mercedes-Benz

マーク

この説明書には以下のマークがあります。

警告

警告ステッカーには、お客様や他の乗員などの健康または生命を危険にさらすおそれのある事項について記載されています。

環境に関する注意

環境に関する注意は、環境を意識した行動や廃棄についての情報を提供しています。

! 車両の損傷につながる危険を喚起する、機材の損傷に関する注意です。

i これらのマークは、お客様の助けになるような、便利な操作方法や詳細情報を示しています。

▶ このマークは、お客様に従っていただきたい説明を示しています。

▶ 連続しているマークは、いくつかの手順がある操作を示しています。

(▷ このマークは、項目についての詳細情報がある場所を示しています。ジ)

▷▷ このマークは次のページに続く警告または操作を示しています。

ディ この表記は、マルチファンクションディスプレイ/COMAND ディスプレイのメッセージを示しています。

車両のソフトウェア部品は © 2005 The FreeType Project <http://www.freetype.org> の著作権により保護されています。

メルセデス・ベンツ車をお買い上げいただきありがとうございます

運転される前に、この取扱説明書をお読みいただき、特に安全面と警告事項についてのご理解を深めてください。お客様自身と周りの人々を危険から守り、お車を最大限に楽しんでいただくことができます。

お客様の車両の装備や名称はオプションや仕様により異なる場合があります。

この取扱説明書のイラストは主に左ハンドル車両のものを使用しています。右ハンドル車両では、車両の部品の配置や位置、そして操作方法が異なる場合がありますので、ご注意ください。

取扱説明書には 100 km/h を上回る車両速度での性能データおよび車両状況も記載されています。ただし、公道を走行するときは常に、その場所で適用される法定速度または制限速度を遵守してください。

メルセデス・ベンツは車両を最先端にする改良を絶えず行なっています。

メルセデス・ベンツでは、デザインや装備の分野の変更を行なう権利を有しています。そのため、本取扱説明書の記述やイラストが異なることがあります。

以下のものは、車両の一部です。常に車両に搭載してください。

- 取扱説明書
- 整備手帳
- 装備に応じた補足版

また次のオーナーに車両をお譲りになる場合は、必ずすべての書類をお渡しください。

スマートフォンアプリの GLA ガイドを使用することもできます。



Apple® iOS



Android™

メルセデス・ベンツのガイドアプリはお客様の国ではまだ使用できないことがあることに留意してください。

Daimler AG の技術文献チームはお客様が安全で快適な運転をされることを望んでいます。

メルセデス・ベンツ日本株式会社

さくいん	4	各部の名称	27
はじめに	22	安全性	39
		開閉	87
		シート、ステアリングとミラー ..	109
		ライトおよびフロントワイパー ..	123
		エアコンディショナーシステム ..	143
		走行装備	159
		マルチファンクションディスプレイと表示	229
		収納と機能	303
		メンテナンスおよび手入れ	319
		万一のとき	337
		ホイールとタイヤ	359
		サービスデータ	379

あ

アクティブパーキングアシスト	
機能/注意事項	214
重要な安全上の注意	214
中止	219
駐車	216
駐車スペースからの退出	218
駐車スペースの検知	215
ディスプレイメッセージ	279
アクティブライトシステム	128
アシスト画面(マルチファンクショ ンディスプレイ)	240
アシストメニュー(マルチファンク ションディスプレイ)	240
アダプティブハイビームアシスト	
機能/注意	129
ディスプレイメッセージ	273
アダプティブブレーキ	82
アダプティブブレーキアシスト	
機能/注意	75
ディスプレイメッセージ	264
アダプティブブレーキライト	77
アテンションアシスト	
機能/注意	224
設定/解除	242
ディスプレイメッセージ	277
アプローチ/デパーチャアングル ..	190
荒地の走行	
参照 オフロード走行	
安全	
子供を乗せるとき	59
助手席エアバッグ自動解除シス テム	50
安全システム	
チャイルドセーフティシート ...	60
アンチロック・ブレーキング・シ ステム	
参照 ABS(アンチロック・ブ レーキング・システム)	
アンビエントライト	
照度の設定(マルチファンク ションディスプレイ)	245

い

イグニッションロック	
参照 キーの位置	
イモビライザー	83

インジケーター

参照 方向指示灯

インテリアライト

参照 ルームライト

インテリジェントライトシステム

オン/オフ	244
概要	128
ディスプレイメッセージ	272
ロービームヘッドライトの左 側/右側通行の設定	245

う

ウインタータイヤ

ウインタータイヤ	363
速度制限(マルチファンクショ ンディスプレイ)	246

ウインドウ

清掃	332
デフロスター	152
参照 サイドウインドウ	

ウインドウウォッシャー

注意	386
補給	326

ウインドウウォッシャー液

参照 ウインドウウォッシャー

ウインドウバッグ

機能	50
ディスプレイメッセージ	266

ウォッシャー液

ディスプレイメッセージ	288
-------------------	-----

ウッドトリム(清掃の説明)

運転席

概要	28
----------	----

運転席ドア

参照 ドア

運転のヒント

一般	184
オートマチックトランスミッ ション	171
下り坂の傾斜	185
新品のブレーキパッド/ライ ニング	186
砂地の走行	189
スノーチェーン	364
タイヤの轍	190
ディストロニック・プラス ...	204
冬季の走行	187

凍結した路面	187
凍結防止剤等が撒かれた路面でのブレーキ性能の制限	186
慣らし運転について注意事項 ..	160
濡れた路面の走行	186
ハイドロプレーニング現象	186
ブレーキ	185

え

エアコンディショナー

ウインドウの曇りを取る	152
エアコンディショナーシステム	145
エアコンディショナーシステムの使用に関する注意事項	145
オン/オフ	148
温度の設定	150
クライメートコントロール(後席独立調整)の使用に関する注意事項	147
クライメートコントロール(左右独立調整)	147
コンビエンスオープニング/クロージング(内気循環モード)	154
システムの概要	144
重要な安全上の注意	144
送風口の調整	156
送風配分の選択	151
送風量の調整	151
ゾーン機能の設定/解除	151
内気循環モードの作動/解除 ..	154
表示灯	150
フロントウインドウの霜を取る	152
余熱ヒーターのオン/オフ	155
リアデフォグガーの作動/解除	153
リアデフォグガーの不具合	154
AC モード	148
AC モードの不具合	150
AUTO モード	150

エアコンディショナーシステム

参照 エアコンディショナー

エアバッグ

ウインドウバッグ	50
概要	46

格納場所	48
サイドバッグ	49
作動	56
重要な安全上の注意点	47
助手席エアバッグ表示灯	41
ディスプレイメッセージ	268
ニーバッグ	49
フロントエアバッグ(運転席、助手席)	48

エマージェンシーキー

運転席ドアの解錠	95
機能/注意	89
車両の施錠	95
挿入	89

エレクトロニック・スタビリティ・プログラム

参照 ESP®(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)

エンジン

エンジン番号	381
オーバーヒート	325
警告灯(エンジン診断)	298
けん引始動(車両)	355
作動不良	166
始動時のトラブル	166
ジャンプスタート	349
停止	181
ディスプレイメッセージ	274
ECO スタートストップ機能 ..	163

エンジンオイル

エンジンオイル量の点検	322
オイルグレードについての注意	384
温度(マルチファンクションディスプレイ)	248
充填容量	384
ディスプレイメッセージ	277
添加剤	384
粘度	384
補給	323
油量および消費についての注意	322
レベルゲージを使用してオイル量を点検する	323

エンジン自動始動(ECO スタートストップ機能)

エンジン自動停止(ECO スタートストップ機能)

エンジン自動始動(ECO スタートストップ機能)	164
エンジン自動停止(ECO スタートストップ機能)	163

エンジンの始動	
キー操作	162
エンジンの電子制御部品	
故障(誤作動)	166
お	
オイル	
参照 エンジンオイル	
応急用スペアタイヤ	
サービスデータ	378
重要な安全上の注意	377
全体的な注意事項	377
取り外し	378
オーディオシステム	
参照 別冊取扱説明書	
オーディオメニュー(マルチファンクションディスプレイ)	237
オートマチックトランスミッション	
アクセルペダルのポジション ..	171
運転のヒント	171
エマージェンシーモード	177
エンジンの始動	162
オートマチック走行モード	173
概要	167
ギアシフト操作	171
キックダウン	171
シフトポジション	170
シフトポジション表	
示	168, 170
ステアリングパドルシフト	172
セレクターレバー	169
走行モード選択スイッチ	171
走行モード表示	168
ダイレクトセレクタレバー	168
ドライブポジションの選択	169
トラブル(不具合)	177
ニュートラルの選択	169
上り坂勾配で車両を停車したままにする	171
パーキングポジションPの選択	168
パーキングポジションPの選択(AMG車)	170
発進	162
マニュアルギアシフト	173
リバースギアの選択	169
オートマチックトランスミッションのエマージェンシーモード	177
オートマチックヘッドライトモード	124
オートライト	
ディスプレイメッセージ	273
参照 ライト	
オーバーヘッドコントロールユニット	36
オドメーター	
参照 トリップメーター	
オフロードシステム	
オフロード4ETS	78
オフロードABS	73
オフロードESP®	82
オフロード走行モード	210
DSR	208
オフロード走行	
アプローチ/デパーチャーアングル	388
一般的な注意	188
最大水深	387
重要な安全上の注意	187
走行後のチェックリスト	189
走行前のチェックリスト	189
登坂走行	190
登坂能力	388
オフロードプログラム	210
オフロードライト	129
温度	
エンジンオイル(マルチファンクションディスプレイ)	248
外気温度	231
設定(エアコン)	150
冷却水	230
冷却水(マルチファンクションディスプレイ)	248
か	
外気温度計	231
解錠	
車内から(セントラルロックングスイッチ)	94
非常時の解錠	95
懐中電灯	338
カップホルダー	
重要な安全上の注意	312

センターコンソール	313
リア	313
可変スピードリミッター	
可変機能	194
可変機能の解除	196
機能/注意	194
現在の速度を記憶する	195
重要な安全上の注意	194
選択	195
参照 スピードリミッター	
LIM 表示灯	194
環境保護	
全体的な注意事項	22
冠水路の走行(オンロード)	186
寒冷時の走行	
スノーチェーン	364
滑りやすい路面	187
全体的な注意事項	363

き

ギアまたはセレクターレバー(清掃の説明)	335
キー	
位置(エンジンスイッチ)	161
エマージェンシーキー	89
エンジンの始動	162
コンビニエンスオープニング機能	101
コンビニエンススクローリング機能	101
重要な安全上の注意	88
設定変更	89
セントラルロックによる施錠/解錠	88
ディスプレイメッセージ	288
電池交換	91
電池点検	91
不具合(異常)	92
紛失	92
キーの位置(イグニッションロック)	161
キックダウン	
運転のヒント	171
マニュアル走行モード	175
救急セット	338
給油	
給油のしかた	178

重要な安全上の注意	177
燃料計	30
参照 燃料	

緊急

事故後の自動措置	58
緊急時点灯機能	132

<

クルーズコントロール

解除	193
機能/注意	191
クルーズコントロールレバー	192
現在の速度を記憶および維持する	192
作動条件	192
重要な安全上の注意	191
選択	192
走行装備	191
速度の設定	193
ディスプレイメッセージ	282
LIM 表示灯	192
グローブボックス	305

け

警告灯/表示灯

エンジン診断	298
各部の名称	31
シートベルト	289
車間距離警告	301
乗員保護装置	297
スポーツハンドリングモード	294
ディストロニック・プラス	301
燃料残量	298
燃料タンク	298
ブレーキ	290
冷却水	298
ABS	291
ESP®	293
ESP®オフ	294
LIM(可変スピードリミッター)	194
LIM(クルーズコントロール)	192
LIM(ディストロニック・プラス)	198

警告灯と表示灯

助手席エアバッグ	41
----------	----

計測(レースタイマー)	249
携帯電話	
周波数	380
送信出力(最大)	380
取り付け	380
メニュー(マルチファンクショ ンディスプレイ)	238
警報	
オフにする(ATA)	83
機能のオン/オフを切り替える (ATA)	83
ATA(盗難防止警報システム) ...	83
けん引	
けん引フックの取り付け	353
けん引フックの取り外し	353
重要な安全上の注意	352
フロントアクスルをつり上げた 状態	354
フロントおよびリアが接地した 状態で	354
4MATIC 車両に関する注意事 項	355
けん引始動	
エンジンエマージェンシース タート	355
けん引フックの取り付け	353
けん引フックの取り外し	353
重要な安全上の注意	352
けん引防止	
オフにする	84
解除	84
機能	83
待機状態	83

こ

高圧式スプレーガンの使用	330
コーナリングライト	
機能/注意	128
ディスプレイメッセージ	270
電球の交換	135
故障	
参照 けん引 / けん引始動	
参照 パンクしたタイヤ	
故障メッセージ	
参照 ディスプレイメッセージ	
故障メッセージを表示させる	
参照 ディスプレイメッセージ	

子供	
乗員保護装置	60
小物入れ	
アームレスト(下)	306
アームレスト(前部)	306
運転席および助手席シート下 部	306
カップホルダー	312
グローブボックス	305
重要な安全上の注意	305
センターコンソール	305
センターコンソール(リア)	307
メガネホルダー	305
ラゲッジネット	307

コリジョンプリベンションアシスト

距離警告機能の作動/解除	241
操作/注意事項	74
ディスプレイメッセージ	253
コンビエンスオープニング/ク ローズ(内気循環モード)	154
コンビエンスオープニング機 能	101
コンビエンスクローズ機 能	101
コンビネーションスイッチ	127

さ

サービス	
参照 メンテナンスインジケーター	
サービスデータ	
応急用スペアタイヤ	378
車両データ	386
タイヤ/ホイール	372
サービスプロダクト	
燃料	382
ブレーキ液	385
サイドウインドウ	
開閉	100
コンビエンスオープニング機 能	101
コンビエンスクローズ機 能	101
重要な安全上の注意	100
不具合(異常)	103
リセット	102
サイドトリムパネルの開閉	135

サイドバッグ	49	事故のとき	59
サイドランプ		室内センサー	
オン/オフの切り替え	126	解除	85
サマータイヤ	363	機能	84
山間地域の走行		待機状態	84
アプローチ/デパーチャアング		指定サービス工場	
ル	190	参照 メルセデス・ベンツ指定	
下り坂走行	191	サービス工場	
最大登板能力	190	始動(エンジン)	161
坂の頂上	190	シフトインジケーター(マルチファンク	
サンバイザー	314	クションディスプレイ)	248
		シフトポジション表示(DIRECT	
		SELECT レバー)	168
		車外ライト	
		設定オプション	124
		参照 ライト	
		車間距離警告機能	
		機能/注意	74
		警告灯	301
		作動/解除	241
		遮光フィルム	317
		車載工具	339
		車体寸法	386
		車台ナンバープレート	
		参照 ビークルプレート	
		車台番号	
		参照 VIN	
		ジャッキ	
		収納場所	339
		使用方法	369
		車内ライト	
		消灯遅延機能(マルチファンク	
		クションディスプレイ)	246
		車両	
		運搬	355
		解錠(キー)	88
		各種の設定	243
		けん引	352
		けん引始動	352
		ジャッキアップ	369
		ジャッキダウン	372
		車両が動き出さないよう固定す	
		る	369
		車両データ	386
		施錠(キー)	88
		装備	23
		正しい使用	25
		駐車	183
し			
シート			
運転席のシートポジション	110		
シートヒーターのトラブル	117		
シートヒーターを使用する	115		
重要な安全上の注意	111		
調整(手動)	112		
調整(電動式)	113		
調整(パフォーマンスシート) ..	115		
電動ランバーサポートを調整す			
る	115		
表面の手入れ	335		
ヘッドレストの調整	113		
メモリー機能(設定の記憶)	121		
シートベルト			
運転席および助手席シートベル			
ト	46		
解除	45		
概要	42		
警告灯	289		
警告灯(機能)	46		
シートベルト調整の作動/停止			
(マルチファンクションディス			
プレイ)	247		
重要な安全上の注意点	42		
高さ調整	44		
正しい着用方法	44		
着用	44		
手入れ	336		
シートベルトテンショナー			
作動	56		
事故			
事故後の自動措置	58		
時刻			
参照 別冊の取扱説明書			

データ取得	25	助手席エアバッグ表示灯	
電子制御部品	380	問題(誤作動)	268
発進	162	助手席シート	
非常時の解錠	95	バックレストを倒す/起こす ..	307
非常時の施錠	95	助手席フロントエアバッグ解除シ	
車両データ		ステム	
トランクの積載量(最大)	386	ディスプレイメッセージ	268
ルーフの積載量(最大)	386	助手席フロントエアバッグ自動解	
車両データ(オフロード走行)		除システム	
アプローチ/デパーチャーアン		ディスプレイメッセージ	268
グル	388	診断機の接続部	24
最大水深	387		
登坂能力	388		
車両を運搬する	355		
ジャンプスタート(エンジン)	349		
充電			
参照 高電圧バッテリーの充電			
周波数			
携帯電話	380		
無線機	380		
乗員安全性			
子供を乗せるとき	59		
事故後の自動措置	58		
重要な安全上の注意点	40		
PRE-SAFE®(予見的乗員保護			
システム)	58		
乗員の安全性			
ペットを乗せるとき	72		
乗員保護装置			
概要	40		
警告灯	297		
警告灯(機能)	40		
消灯遅延機能			
車外ライト(マルチファンク			
ションディスプレイ)	245		
車内ライト	246		
助手席エアバッグ			
表示灯	41		
助手席エアバッグ解除システム			
作動	50		
システム自己診断	53		
トラブル	55		
助手席エアバッグ自動解除システ			
ム			
作動	50		
システム自己診断	53		
トラブル	55		
		す	
		スタートストップ機能	
		参照 ECO スタートストップ機能	
		ステアコントロール	82
		ステアリング	
		安全のために	117
		スイッチ(マルチファンクショ	
		ンディスプレイ)	231
		スイッチの概要	32
		清掃	335
		調整(手動)	117
		パドルシフト	172
		ステアリング(ディスプレイメッ	
		セージ)	287
		ストップウォッチ(レースタイ	
		マー)	249
		スノーチェーン	364
		スピードメーター	
		セグメント表示	231
		デジタル	235
		表示単位の設定	243
		補助スピードメーターのオン/	
		オフ	243
		メーターパネル内	30
		参照 メーターパネル	
		スピードリミッター	
		スノータイヤ	196
		ディスプレイメッセージ	282
		スポーツハンドリングモード	
		警告灯	294
		作動/解除(AMG 車)	80
		スライディングルーフ	
		参照 パノラミックスライディ	
		ングルーフ	

せ

施錠

参照 セントラルロックシステム

施錠(ドア)

車内から(セントラルロック
グスイッチ) 94
非常時の施錠 95

施錠確認シグナル音(マルチファンク
ションディスプレイ) 247
設定

初期化(マルチファンクシ
ョンディスプレイ) 248
マルチファンクションディス
プレイ 243

設定変更(キー) 89

セットアップ画面(マルチファンク
ションディスプレイ) 249

センサー(日常の手入れ) 333

洗車(手入れ) 329

センターコンソール

下部 35
上部 34

セントラルロックシステム

車速感応ドアロック(マルチ
ファンクションディスプレ
イ) 246
施錠/解錠(キー使用) 88

セントラルロック

参照 セントラルロックシステム

そ

走行安全システム

EBD(エレクトロニック・ブ
レーキパワー・ディストリ
ビューション) 82

走行安全装備

アダプティブブレーキ 82
アダプティブブレーキアシ
スト 75
アダプティブブレーキライト ... 77
概要 72
コリジョンプリベンションアシ
スト 74
コリジョンプリベンションアシ
ストプラス 76
車間距離警告機能 74
重要な安全上の注意点 72

ステアコントロール 82
4ETS(エレクトロニック・ト
ラクション・サポー
ト) 78

ABS(アンチロック・ブレーキ
ング・システム) 73

BAS(ブレーキアシスト) 73

ESP®(エレクトロニック・ス
タビリティ・プログラム) 77

ETS(エレクトロニック・トラ
クション・システム) 78

ETS/4ETS(エレクトロニッ
クトラクションシステ
ム) 78

走行距離記録 233

参照 オドメーター

走行時の注意

オフロード走行 188
冠水路の走行(オンロード) 186
登坂走行 190
濡れた路面 186

走行装備

アクティブパーキングアシ
スト 214
アテンションアシスト 224
可変スピードリミッター 194
クルーズコントロール 191
ディストロニック・プラス ... 196
ディスプレイメッセージ 277
パークトロニック 211
ブラインドスポットアシスト .. 225
ホールド機能 205
リアビューカメラ 219
レーススタート(AMG車) 207
レーンキーピングアシスト ... 227

走行モード

オートマチック 173
セットアップ画面(マルチファ
ンクションディスプレイ) 249
表示 170
表示(ダイレクトセレクトレ
バー) 168
マニュアル 173

走行モード選択スイッチ 171

操作安全性

重要な安全上の注意 23

操作システム	
参照 マルチファンクション ディスプレイ	
送風口	
サイド送風口の調整	156
重要な安全上の注意	156
送風の設定	156
中央送風口の調整	156
リア	157
送風配分の設定	151
送風量の設定	151
ゾーン機能	
オン/オフ	151
速度制限の設定	
参照 可変スピードリミッター	
速度の制御	
参照 クルーズコントロール	
重要な安全上の注意	366
全体的な注意事項	366
タイヤの取り付け	
ジャッキアップ	369
ジャッキダウン	372
車両が動き出さないよう固定す る	369
車両の準備	368
車輪の装着	371
車輪の取り外し	371
タイヤフィット	341
ダイレクトセレクトレバー	
参照 オートマチックトランス ミッション	
タコメーター	231
ダッシュボード	
参照 メーターパネル	

た

タイヤ	
ウィンタータイヤ	363
応急用スペアタイヤ	377
回転方向	368
交換	367
サマータイヤ	187, 363
重要な安全上の注意	360
新品の車輪の取り付け	371
タイヤサイズ(データ)	372
タイヤの交換	367
タイヤの取り付け	368
タイヤの取り外し	371
タイヤのトレッド	362
耐用年数	362
ディスプレイメッセージ	283
点検	361
ホイールとタイヤの組み合わせ せ	374
保管	368
参照 パンクしたタイヤ MOExtended タイヤ	362
タイヤ空気圧	
指定	364
達している(タイヤフィット) ..	344
達しない(タイヤフィット)	343
ディスプレイメッセージ	283
タイヤ空気圧警告システム	
再起動	366

ち

チャイルドセーフティシート	
後ろ向き乗員保護装置	64
純正	68
助手席に装着	63
適切な位置	65
テザーアンカー	62
前向き乗員保護補助装置	64
ISOFIX	61
チャイルドブルーロック	
重要な安全上の注意	70
リアサイドウインドウ	71
リアドア	71
駐車	
重要な安全上の注意	180
助手席側ドアミラーの位置 ...	119
リアビューカメラ	219
参照 アクティブパーキングアシスト 参照 パークトロニック 参照 駐車	
著作権	26
て	
停止表示板	338
ディストロニック・プラス	
運転のヒント	204
解除	202
機能/注意	196
クルーズコントロールレバー ..	198

警告灯	301	マットペイント	331
作動条件	199	マフラー	334
指定最低距離の設定	202	リアビューカメラ	333
重要な安全上の注意	197	ルーフライニング	336
選択する	198	ワイパーブレード	332
ディスプレイメッセージ	280	データ	
マルチファンクションディスプレイの表示	203	参照 サービスデータ	
ディスプレイ(日常の手入れ)	334	テールゲート	
ディスプレイメッセージ		開度の設定	99
安全装備	253	開閉(車外から)	97
エンジン	274	車外からの自動開閉	97
キー	288	車内からの自動開閉	98
車両	284	重要な安全上の注意	96
全体的な注意事項	252	障害物検知	96
走行装備	277	ディスプレイメッセージ	286
タイヤ	283	非常時の解錠	99
非表示(マルチファンクションディスプレイ)	252	開いたときの寸法	386
メンテナンスインジケーター ..	327	テールランプ	
呼び出し(マルチファンクションディスプレイ)	252	ディスプレイメッセージ	271
ライト	269	参照 ライト	
デイトタイムドライビングライト		テザーアンカー	62
ディスプレイメッセージ	272	デジタルスピードメーター	235
点灯/消灯(スイッチ)	124	テレビ	
点灯/消灯(マルチファンクションディスプレイ)	244	操作(マルチファンクションディスプレイ)	238
手入れ		参照 別冊の取扱説明書	
ウインドウ	332	添加剤(エンジンオイル)	384
ウッドトリム	335	電球	
カーペット	336	参照 電球の交換	
ギア/セレクターレバー	335	電球の交換	
高圧式スプレーガン	330	カバー(フロントホイールアーチ)の取り外し/取り付け	134
シート表皮	335	コーナリングライト機能	135
シートベルト	336	重要な安全上の注意	132
自動洗車機	329	電球の種類概要	133
車外ライト	333	電球を外す(フロント)	135
車内	334	ハイビームヘッドライト	134
ステアリング	335	バックランプ	136
センサー	333	ブレーキランプ	136
洗車	330	方向指示灯(リア)	136
注意	329	リアフォグランプ	136
ディスプレイ	334	ロービームヘッドライト	134
塗装面	331	電源ソケット	
トリム部品	335	使用上の注意	315
プラスチックトリム	334	センターコンソール	316
ホイール	331	ラゲッジルーム	316
		リア	316

電子制御部品	
注意	380
電池(キー)	
交換	91
重要な安全上の注意	90
点検	91
電動ブラインド	
開閉	106
パノラミックスライディング ルーフ	106
電話	
着信を受ける	239
通話の拒否/終了	239
ディスプレイメッセージ	287
電話帳からの番号	239
メニュー(マルチファンクショ ンディスプレイ)	238
リダイヤル	239
と	
ドア	
オートマチックロック(マ ルチファンクションディスプレ イ)	246
車速感応ドアロック(スイッ チ)	95
重要な安全上の注意	93
セントラルロックによる施錠/ 解錠(キー使用)	88
操作パネル	37
ディスプレイメッセージ	287
非常時の解錠	95
非常時の施錠	95
開く(車内から)	94
ドアミラー	
格納/展開(自動)	119
格納/展開(電動)	118
施錠時の格納(マルチファンク ションディスプレイ)	247
外側に曲げられたとき	119
調整	118
防眩(自動)	119
メモリー機能(設定の記憶)	121
リセット	119
リバースポジションの記憶	119
ドアロック	
車速感応	95
盗難防止警報システム	
けん引防止機能	83
車内センサー	84
盗難防止システム	
イモビライザー	83
ATA(盗難防止警報システム) ...	83
読書灯	131
塗装面(日常の手入れ)	331
ドライブシステム	
レーントラッキングパッケー ジ	225
トランク	
参照 テールゲート	
トランクの積載量(最大)	387
トランスミッション	
参照 オートマチックトランス ミッション	
取扱説明書	
車両装備	23
トリップコンピューター(マルチ ファンクションディスプレイ) ...	234
トリップメーター	
初期化(マルチファンクショ ンディスプレイ)	235
呼び出し	233
トリム部品(清掃の説明)	335
な	
内気循環モードの作動および解 除	154
ナビゲーション	
メニュー(マルチファンクショ ンディスプレイ)	235
参照 別冊の取扱説明書	
慣らし運転	160
に	
ニーバッグ	49
荷物固定用リング	310
荷物の積み方	304
ね	
燃費(マルチファンクションディス プレイ)	234
燃料	
給油	177

グレード(ガソリン)	382	参照 パークトロニック	
重要な安全上の注意	382	パーキングランプ	
消費に関する情報	383	ディスプレイメッセージ	272
走行可能距離の表示	234	点灯/消灯	126
タンク容量/予備燃料	382	パークトロニック	
添加剤	383	インジケーター	212
燃料計	30	解除/作動	213
燃料消費の表示	234	機能/注意	211
平均燃費	234	重要な安全上の注意	211
無鉛ハイオク	382	センサーの感知範囲	211
問題があるとき	180	走行装備	211
AMG車	383	不具合(故障)	214
燃料および油脂		パーセルシェルフ	310
ウォッシャー液	386	ハイウェイモード	129
エンジンオイル	384	灰皿	314
重要な安全上の注意	381	ハイドロブレーキング現象	186
冷却水(エンジン)	385	ハイビームヘッドライト	
燃料キャップ		アダプティブハイビームアシス	
参照 燃料給油口フラップ		トのオン/オフを切り替える ..	130
燃料給油口フラップ		ディスプレイメッセージ	271
開く	179	電球の交換	134
燃料残量		点灯/消灯	127
警告灯	298	バッグフック	310
走行可能距離の呼び出し(マルチファンクションディスプレイ)	234	バックランプ	
ディスプレイメッセージ	277	ディスプレイメッセージ	272
燃料タンク		電球の交換	136
不具合	180	発進	
容量	382	オートマチックトランスミッション	162
燃料容量		バッテリー(車両)	
燃料計	30	ジャンプスタート	349
は		充電	347
パーキング		重要な安全上の注意事項	345
パーキングブレーキ	182	ディスプレイメッセージ	276
パーキングアシスト		電圧	387
参照 パークトロニック		容量	387
パーキングブレーキ		パドルシフト	172
警告灯	297	バニティミラー(サンバイザー内)	314
ディスプレイメッセージ	257	パノラミックスライディングルー	
電気式パーキングブレーキ ..	182	フ	
パーキングヘルプ		開閉	105
アクティブパーキングアシスト	214	重要な安全上の注意	103
参照 ドアミラー		電動ブラインドの開閉	106
		不具合(故障)	108
		リセット	107
		レインクローズ機能	105

パワーウィンドウ			
参照 サイドウィンドウ			
パンク			
参照 応急用スペアタイヤ			
パンクしたタイヤ			
車両の準備	340		
タイヤフィット	341		
MOExtended タイヤ	340		
ひ			
ビークルプレート	380		
ヒーター			
参照 エアコンディショナー			
非常時の解錠			
運転席ドア	95		
車両	95		
テールゲート	99		
非常時の車両の施錠	95		
非常点滅灯	127		
ディスプレイメッセージ	288		
ビデオ (DVD)	238		
ビデオ DVD (マルチファンクショ ンディスプレイ)	238		
ヒューズ			
エンジンルーム内のヒューズ ボックス	356		
交換の前に	356		
重要な安全上の注意	355		
配置表	357		
ヒューズボックス			
助手席足元のヒューズボック ス	357		
表示灯			
参照 警告灯/表示灯			
ヒルスタートアシスト	162		
ふ			
フォグライト			
点灯/消灯	125		
フォグランプ			
強化機能	129		
点灯/消灯	125		
フューエルリザーブ			
参照 燃料			
ブラインドスポットアシスト			
機能/注意	225		
作動/解除	242		
ディスプレイメッセージ	279		
プラスチックトリム (清掃の説 明)	334		
ブレーキ			
アダプティブブレーキアシス ト	75		
運転のヒント	185		
警告灯	290		
重要な安全上の注意	185		
ディスプレイメッセージ	253		
パーキングブレーキ	182		
ブレーキ液 (注意)	385		
ホールド機能	205		
ABS	73		
BAS	73		
ブレーキアシスト			
参照 BAS (ブレーキアシスト)			
ブレーキ液			
注意	385		
ディスプレイメッセージ	262		
ブレーキ液量	327		
ブレーキランプ			
アダプティブ	77		
ディスプレイメッセージ	270		
電球の交換	136		
フロアマット	316		
フロントウィンドウワイパー			
参照 ウィンドウ			
フロントフォグランプ			
ディスプレイメッセージ	271		
フロントワイパー			
不具合	141		
分割可倒式シート	307		
へ			
ヘッドライト			
ウォッシャー (注記)	386		
ウォッシャーシステム (機能)	128		
ウォッシャーの補給	326		
くもり	131		
参照 オートマチックヘッドラ イトモード			
ヘッドライト光軸の調整	126		
ヘッドレスト			
調整	113		
調整 (機械的)	113		
調整 (電動式)	114		

調整(リア)	114
取り外し/取り付け(リア)	114
ペットを乗せるとき	72
ベルト	
参照 シートベルト	

ほ

ホイール

交換/ローテーション	367
締め付けトルク	372
重要な安全上の注意	360
清掃	331
清掃 (警告の注意)	368
タイヤの交換	367
点検	361
ホイールサイズ/タイヤサイ ズ	372
保管	368

ホイールとタイヤの組み合わせ

参照 タイヤ

ホイールボルトの締め付けトルク 372**方向指示灯**

ディスプレイメッセージ	270
電球の交換(フロント)	135
電球の交換(リア)	136
点灯/消灯	127

ホールド機能

解除	206
機能/注意	205
作動	206
ディスプレイメッセージ	278

補充

AMG 車についての注意	383
--------------------	-----

補助スピードメーター 243**ボンネット**

アクティブボンネット(歩行者 保護)	320
重要な安全上の注意	320
ディスプレイメッセージ	287
閉じる	322
開く	321

ま

マットペイント(日常の手入れ) ...	331
マフラー(手入れ)	334

**マルチファンクションステアリン
グ**

概要	32
マルチファンクションディス プレイの操作	231

**マルチファンクションディスプレ
イ**

アシストメニュー	240
安全に関する重要事項	230
オーディオメニュー	237
機能/注意	233
基本画面	233
コンフォートサブメニュー ...	247
サブメーター	244
車両サブメニュー	246
設定初期化サブメニュー	248
設定メニュー	243
操作	231
ディストロニック・プラス ...	203
ディスプレイメッセージ	252
テレビの操作	238
点検メッセージの表示	328
トリップメニュー	233
ナビゲーションメニュー	235
ビデオ DVD の操作	238
メーターパネルサブメニュー ..	243
メッセージの記憶	252
メニューの概要	233
メンテナンスメニュー	242
ライトサブメニュー	244
レースタイマー	249
AMG メニュー	248
TEL メニュー	238

み

ミラー

参照 ドアミラーまたはルームミラー
参照 バニティミラー (サンバ イザー内)
参照 ルームミラー

む

無線機

周波数	380
送信出力(最大)	380
取り付け	380

め

メーターパネル	
各部の名称	30
警告灯/表示灯	31
設定	243
メーターパネル照明	230
メガネホルダー	305
メッセージ	
参照 ディスプレイメッセージ	
メッセージの記憶(マルチファンク ションディスプレイ)	252
メディアインターフェース	
参照 別冊取扱説明書	
メモリーカード(オーディオ)	237
メモリー機能	121
メルセデス・ベンツ指定サービス 工場	25
メルセデス・ベンツ純正部品	22
メンテナンスインジケーター	
注意	327
特別な点検が必要なとき	329
メンテナンスインジケーターの リセット	328
メンテナンスメッセージ	327
メンテナンスメッセージの非表 示	328
メンテナンスメッセージの表 示	328
メンテナンスメニュー(マルチファ ンクションディスプレイ)	242

よ

容量(サービスデータ)	381
余熱ヒーター(エアコンディショ ナー)	155
予備(燃料タンク)	
参照 燃料	

ら

ライセンスランプ(ディスプレイ メッセージ)	271
ライター	315
ライト	
アクティブライトシステム	128

アンビエントライトの照度の設 定(マルチファンクションディ スプレイ)	245
インテリジェントライトシステ ムのオン/オフ	244
オフロードライト	129
コーナリングライト	128
車外ライト消灯遅延機能の作 動/解除(マルチファンクシ ョンディスプレイ)	245
車内ライト消灯遅延機能の作 動/解除	246
車幅灯	126
ディスプレイメッセージ	269
デイトタイムドライビングライト の点灯/消灯(スイッチ)	124
デイトタイムドライビングライト の点灯/消灯(マルチファンク ションディスプレイ)	244
パーキングランプ	126
ハイウェイモード	129
ハイビームヘッドライト	127
非常点滅灯	127
フォグランプ	125
フォグランプ(強化機能)	129
ヘッドライト光軸	126
ヘッドライトのオートモード ..	124
ヘッドライトのパッシング ...	127
方向指示灯	127
ランプスイッチ	124
リアフォグランプ	125
ロービームヘッドライト	125
ロケイターライティングのオン/ オフの切り替え(マルチファ ンクションディスプレイ)	245
参照 ルームライト	
参照 電球の交換	
ライトセンサ	273
ラゲッジネット	307
ラゲッジルーム	305
ラゲッジルームの拡大	308
重要な安全上の注意	308
使用に関する注意事項	310
ラゲッジルームのフロア	
収納スペース	311
重要な安全上の注意事項	311
開く/閉じる	311

ラジオ	
放送局の選択	237
参照 別冊の取扱説明書	
ラップタイム(レースタイマー) ...	249
ランバーサポート	
電動ランバーサポートの調整 ..	115
ランプ	
参照 警告灯/表示灯	

り

リア	
送風口の調整	157
リアシート	
バックレストの角度の調整	309
リアデフォッガー	
機能のオン/オフ	153
トラブル(故障)	154
リアビューカメラ	
オン/オフ	220
機能/注意	219
清掃の説明	333
リアフォグランプ	
ディスプレイメッセージ	271
電球の交換	136
点灯/消灯	125
リアベンチシート	
バックレストを倒す/起こす ..	308
リアランプ	
参照 ライト	
リアワイパー	
オン/オフの切り替え	138
ワイパーブレードの交換	139
リバースギア(セレクターレバー)	169
リバース機能	
サイドウィンドウ	100
テールゲート	96
電動ブラインド	106
パノラミックスライディング ルーフ	104

る

ルート(ナビゲーション)	
参照 ルート案内(ナビゲーション)	
ルート案内(ナビゲーション)	235
ルーフの積載量(最大)	387

ルーフライニングとカーペット (清掃の説明)	336
ルーフラック	311
ルームミラー	
防眩(自動)	119
防眩(手動)	118
ルームライト	
アンビエントライトの照度の設 定(マルチファンクションディ スプレイ)	245
概要	131
緊急時点灯機能	132
自動点灯	132
手動点灯	132
読書灯	131

れ

冷却水(エンジン)	
温度(マルチファンクション ディスプレイ)	248
温度計	230
警告灯	298
重要な安全上の注意	385
定期交換	325
ディスプレイメッセージ	274
補給	325
量の点検	324

冷房

参照 エアコンディショナー	
レインクローズ機能(パノラミック スライディングルーフ)	105
レーススタート(AMG 車両)	207
レースタイマー(マルチファンク ションディスプレイ)	249
レーダーセンサーシステム	
オン/オフ	247
ディスプレイメッセージ	278
レーンキーピングアシスト	
機能/注意	227
設定 / 解除	242
ディスプレイメッセージ	278
レールトラッキングパッケージ ..	225

ろ

ロービームヘッドライト	
ディスプレイメッセージ	270
電球の交換	134

点灯/消灯	125
左側/右側通行の設定	245
ロケイターライティング(マルチファンクションディスプレイ)	245

わ

ワイパー

ディスプレイメッセージ	288
リアワイパー	138
ワイパーの操作	137
ワイパーブレードの交換	138

ワイパーブレード

交換(フロントウインドウ)	139
交換(リアウインドウ)	139
重要な安全上の注意	138
清掃	332

輪止め	369
-----------	-----

英字

空気圧

参照 タイヤ空気圧

自動車

参照 車両

車両のメンテナンス

参照 メンテナンスインジケーター

照明

参照 ライト

4ETS

参照 ETS/4ETS (エレクトロニックトラクションシステム)

4ETS(エレクトロニック・トラクション・サポート)	78
----------------------------------	----

4MATIC(フルタイム4輪駆動システム)

ディスプレイメッセージ
 286 |

4MATIC (フルタイム4輪駆動)	208
--------------------------	-----

12V ソケット

参照 電源ソケット

ABS(アンチロック・ブレーキング・システム)

機能/注意
 73 |

警告灯
 291 |

重要な安全上の注意
 73 |

ディスプレイメッセージ
 253 |

AC モードのオン/オフ	148
--------------------	-----

AMG

パフォーマンスシート
 115 |

AMG メニュー(マルチファンクションディスプレイ)	248
----------------------------------	-----

ATA(盗難防止警報システム)

機能
 83 |

警報の解除
 83 |

作動/解除
 83 |

BAS(ブレーキアシスト)	73
---------------------	----

COMAND システム

参照 別冊の取扱説明書

CPA プラス

作動 / 解除
 241 |

操作 / 注意事項
 76 |

ディスプレイメッセージ
 263 |

DSR(ダウンヒル・スピード・レギュレーション)

ディスプレイメッセージ
 278 |

DSR(ダウンヒル・スピード・レギュレーション)

機能/注意
 208 |

DVD オーディオ(マルチファンクションディスプレイ)
 237 |

EASY-VARIO-PLUS システム

ラゲッジルームの拡大
 308 |

EBD(エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション)

機能/注意
 82 |

ディスプレイメッセージ
 257 |

ECO スタートストップ機能

一般的な注意
 163 |

エンジン自動始動
 164 |

エンジン自動停止
 163 |

概要
 163 |

作動/解除
 165 |

重要な安全上の注意
 163 |

ECO ディスプレイ

機能 / 注意事項
 184 |

マルチファンクションディスプレイ
 234 |

ESP®(エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)

機能/注意
 77 |

警告灯
 293 |

作動/解除(AMG 車)
 80 |

作動/解除(AMG 車を除く)
 79, 241 |

重要な安全上の注意	78
全体的な注意事項	77
ディスプレイメッセージ	253
特性	79
4ETS	78
AMG メニュー(マルチファン クションディスプレイ)	249
ETS	78
ETS/4ETS	78
ETS(エレクトロニック・トラク ション・システム)	78
ETS/4ETS(エレクトロニックト ラクションシステム)	78
ISOFIX 対応チャイルドセーフ ティシート	61
LIM 表示灯	
可変スピードリミッター	194
クルーズコントロール	192
ディストロニック・プラス ...	198
M+S タイヤ	363
MOExtended タイヤ	340
MP3	
操作	237
参照 別冊の取扱説明書	
PRE-SAFE®(予見的乗員保護シ ステム)	
機能の仕方	58
ディスプレイメッセージ	264
SRS(乗員保護補助装置)	
ディスプレイメッセージ	265
VIN	380

環境保護

全体的な注意事項

🌀 環境に関する注意

Daimler は、包括的な環境保護の一つとして対策を明確にしています。

それは、地球上で少しずつ使われ、自然と人間双方の要求に注意を促す、我々の存在の源となる自然資源のためです。

環境的に配慮のある方法で車両を操作することも、環境を保護する一助になります。

燃費やエンジン回転、トランスミッション、ブレーキ、タイヤの摩耗具合は、以下の要因に左右されます。

- お客様の車両の使用状況
- お客様の個人的な運転スタイル

お客様は、いずれの要因にも影響を及ぼしています。以下のことにご注意ください。

使用状況

- 短距離の走行は燃料消費を増やす原因となります。
- タイヤの空気圧が常に適正であることを確認してください。
- 不要な重量物は積載しないでください。
- 必要でないときは、ルーフラックを取り外してください。
- 定期的な車両の整備は、環境保護に貢献します。整備の間隔を守ってください。
- 点検整備は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

個人的な運転スタイル

- エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。
- 車両を停止したままのエンジン暖機は行なわないでください。
- 注意して運転し、前方の車両との適切な距離を保持してください。
- 頻繁な、または急な加速やブレーキ操作は避けてください。

• 適切なタイミングでギアを変え、それぞれのギアの使用は、エンジン最高回転数の $\frac{2}{3}$ までにとどめてください。

• 渋滞しているときは、エンジンを停止してください。

• 車両の燃費に注意してください。

メルセデス・ベンツ純正部品

🌀 環境

Daimler AG では、新品同様の品質を持つ、リサイクルしたアッセンブリーやパーツも供給しています。新品と同様の保証が適用されます。

■ 以下の部位の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナー、また乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。

- ドア
- ドアピラー
- サイドシル
- シート
- ダッシュボード
- メーターパネル
- センターコンソール

これらの部位にオーディオなどのアクセサリーを取り付けしないでください。修理や板金作業を行なわないでください。乗員保護装置の作動効果が損なわれるおそれがあります。

アクセサリーを装着するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

メルセデス・ベンツにより承認されていない安全性に関わる部品、タイヤおよびホイール、ならびにアクセサリーなどを使用した場合は、車両の走行安全性を損なうおそれがあります。ブレーキシステムなどの安全に関連したシステムが故障するおそれがあります。メルセデス・ベ

ンツ純正部品または同等の品質の部品のみを使用してください。タイヤやホイール、アクセサリーなどは必ず、車両用に明確に承認された製品のみを使用してください。

メルセデス・ベンツでは、純正部品や交換部品、アクセサリーに対して、それらの信頼性や安全性、適合性が明確に車両に適しているかをテストしています。継続的な市場調査に関わらず、メルセデス・ベンツはすべての部品を入手できるわけではありません。そのため、公的に承認されている、またはテストセンターによって独自に承認されている場合でも、メルセデス・ベンツ車でのそのような部品の使用については、メルセデス・ベンツは責任を負い兼ねます。

メルセデス・ベンツ純正部品を注文するときは、常に車台番号 (VIN) (▶ 380 ページ) を確認する必要があります。

取扱説明書

車両の装備

車両のすべての標準およびオプション装備については、別冊の補足版をご覧ください。

装備や操作について不明点があるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

取扱説明書と整備手帳は重要な書類ですので、車内に保管してください。

操作安全性

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

規定の点検整備または必要な修理を行っていないと、故障やシステム故障を引き起こすおそれがあります。事故の危険性があります。

規定の点検整備、必要な修理は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行ってください。

⚠ 警告

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

⚠ 警告

排気システムの熱くなった部品に触れた場合は、葉、草または小枝のような可燃性の物質が発火するおそれがあります。火災の危険性があります。

オフロードまたは舗装されていない道路を走行するときは、車両の下側を定期的に点検してください。特に、挟まった植物や他の可燃物を取り除いてください。損傷している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

⚠ 警告

電子部品、ソフトウェア配線への改造は、それらの機能およびその他のネットワークでつながっている構成部品の機能を損なうことがあります。特に、安全にかかわるシステムに影響が生じるおそれがあります。結果として、車両の機能が適切に作動しないあるいは走行安全性が危険にさらされることがあります。けがや事故の危険が高まります。

また、決して配線、電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。電気装備および電子機器に関するすべての作業および改造はメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですべて行ってください。

車両の電子制御部品に変更を行なった場合は、一般使用許可は無効になります。

■ 以下のときは、車両が損傷することがあります：

- 高い縁石や舗装されていない道路で車両が立ち往生した
- 縁石や道路のくぼみなどの障害物の上を速すぎる速度で走行した
- 重量のある障害物がボディ下部やシャーシの部品にぶつかった

このような状況では、目に見える損傷はなくても、ボディ、ボディ下部、シャーシ部品、ホイール、タイヤが損傷しているおそれがあります。このようにして損傷した部品は予期せず故障するおそれがあり、事故の場合には、設計されている負荷に耐えることができなくなるおそれがあります。

ボディ下部のパネルが損傷しているときは、葉、草または小枝のような可燃性の素材がボディ下部とボディ下部パネルの間に堆積することがあります。これらの素材が排気システムの高温の部品に触れた場合は、発火するおそれがあります。そのような場合には、すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場 で点検および修理を受けてください。走行している場合に、走行安全性が損なわれていると感じた場合は、道路や交通状況に注意しながらすみやかに移動し、停車してください。このような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。

診断器接続部

診断器接続部は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場 で診断機器のみを接続するように想定されています。

⚠ 警告

機器を診断機の接続部に接続すると、車両システムの操作に影響を与える場合があります。車両の走行安全性が損なわれ

ることがあります。事故の危険性があります。

いかなる機器も車両の診断機の接続部に接続しないでください。

⚠ 警告

運転席の足元の荷物は、ペダルの自由な動きを妨げたり、または踏んだペダルを妨害することがあります。これは車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。

運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。フロアマットは指示にしたがって必ず確実に固定し、ペダル操作の妨げにならないようにペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。緩んだフロアマットを使用したり、フロアマットを重ねて置かないでください。

■ エンジンが停止しているときに診断機の接続部の装備品を使用すると、スターターバッテリーが放電することがあります。

診断機器を診断器接続部に接続すると、例えば排出物モニター情報のリセットにつながります。これにより、次の主要な点検の際の排出ガス試験の要件に適合しなくなる場合もあります。

日常点検および定期点検

お客様自身の責任において日常点検と定期検査を行なうことが法律で定められています。それぞれの検査手順についての詳細情報は、整備手帳をご覧ください。

オートマチックトランスミッションの操作

全体的な注意事項

適切にご使用いただくために、オートマチックトランスミッションを使用する前に、特徴や操作に関連する事項についての理解を深めてください。

"走行および駐車"の指示もご覧ください。
(▶ 167 ページ)。

オートマチックトランスミッションの特徴

クリープ現象

エンジンがかかっている状態でトランスミッションがトランスミッションポジション **D** または **R** のときは、駆動輪に動力が伝達されています。その結果、アクセルペダルを踏んでいなくても、車両が動き出します。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場

メルセデス・ベンツ指定サービス工場には、車両に必要とされる適切な作業を行なうための、必要とされる専門的な知識、工具および資格があります。これは特に安全に関する作業に当てはまります。

整備手帳にある注意に従ってください。以下の作業については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

- 安全に関する作業
- 整備やメンテナンス作業
- 修理作業
- 改造、装着、交換
- 電子部品の作業

メルセデス・ベンツ指定サービス工場をご利用いただくことを、メルセデス・ベンツは推奨します。

正しく使用するために

警告ステッカーをはがすと、お客様や他の方々危険を認識できないことがあります。警告ステッカーをはがさないでください。

車両を運転しているときは以下の情報に従ってください。

- 本説明書の安全に対する注意点
- 本説明書のサービスデータ
- 道路交通法
- 自動車に関する法律と安全基準

車両に記憶されているデータ

車両の多くの電子部品は、データメモリーを持っています。

これらのデータメモリーは、以下に関する技術情報を一時的または恒常的に保存します：

- 車両の作動状態
- 発生した事象
- 故障

一般的に、この技術情報は構成部品、モジュール、システムまたは環境の状態について記録します。

例えば、以下を含みます：

- フルードレベルなどのシステム構成部品の作動条件
- 車輪回転数/速度、動きの減速度、横方向の加速度、アクセルペダルの位置などの車両の状況メッセージおよび個別の構成部品
- ライト、ブレーキなどの重要なシステム構成部品の故障および異常
- エアバッグの作動、スタビリティコントロールシステムの介入などの特殊な走行状態での車両の反応および作動条件
- 外気温度などの外気条件

このデータはあくまで技術的な特性のみであり、以下で使用されます：

- 故障や不具合の検知および改良の支援
- 事故後などの車両機能の解析
- 車両機能の最適化

データを使用して、車両の動きをたどることはできません。

お客様の車両が整備を受けたときは、この技術情報が発生事象データメモリーおよび故障データメモリーから読み出されます。

例えば以下の整備が含まれます：

- 修理整備
- 整備処理
- 保証作業
- 品質保証

この情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場の認定された従業員（メーカーを含む）が特別な診断機を使用して読み出します。必要に応じて、より詳細な情報を取得します。

故障が解決されたあと、情報は故障メモリーから消去されるか、絶えず上書きされます。

車両を操作する場合、その他の情報と併せて（必要に応じて、該当機関に相談し）、この技術データから個人を特定することができる場合があります。

以下の例が含まれます：

- 事故レポート
- 車両への損傷
- 目撃者証言

お客様と合意したその他の追加機能によっても、特定の車両データを車両から取得することができます。追加機能は、非常時の車両位置などを含んでいます。

著作権の情報

全体的な注意事項

車両およびその電子部品に使用されているフリーおよびオープンソースのソフトウェアのライセンスに関する情報は、下記のウェブサイトで見ることができます。

<http://www.mercedes-benz.com/opensource>

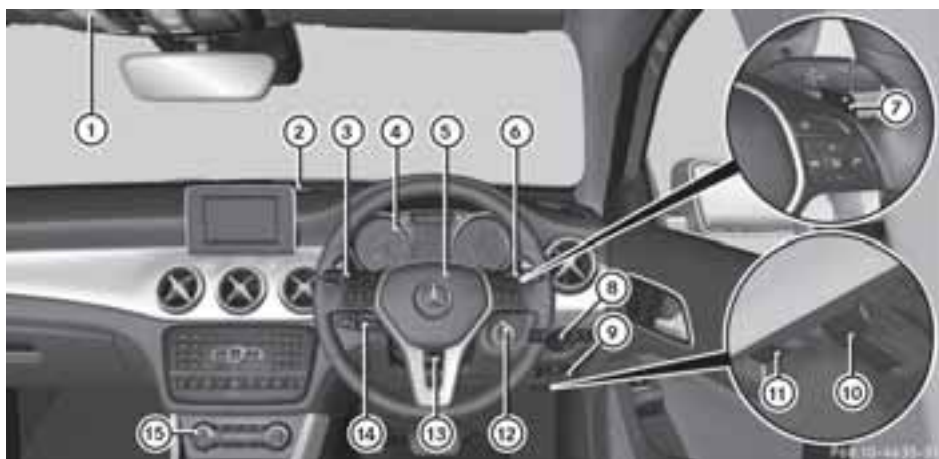
運転席	28
メーターパネル	30
マルチファンクションステアリング	32
センターコンソール	34
オーバーヘッドコントロールパネル	36
ドアコントロールパネル	37

運転席



	機能	ページ
①	パドルシフト	172
②	コンビネーションスイッチ	127
③	メーターパネル	30
④	ホーン	
⑤	ダイレクトセレクトレバー	168
⑥	パークトロニックインジケーター	211
⑦	ルーフオペレーティングユニット	36
⑧	エアコンディショナーシステム	144

	機能	ページ
⑨	エンジンスイッチ	161
⑩	ステアリングの調整	117
⑪	クルーズコントロールレバー	192
⑫	電気式パーキングブレーキ	182
⑬	ランプスイッチ	124
⑭	診断用接続部	24
⑮	ボンネットを開く	321



機能	ページ
① ルーフオペレーティングユニット	36
② パークトロンニックインジケーター	211
③ コンビネーションスイッチ	127
④ メーターパネル	30
⑤ ホーン	
⑥ ダイレクトセレクトレバー	168
⑦ パドルシフト	172
⑧ ランプスイッチ	124

機能	ページ
⑨ 電気式パーキングブレーキ	182
⑩ ボンネットを開く	321
⑪ 診断用接続部	24
⑫ エンジンスイッチ	161
⑬ ステアリングの調整	117
⑭ クルーズコントロールレバー	192
⑮ エアコンディショナーシステム	144

メーターパネル

ディスプレイおよび操作



機能	ページ
① セグメント付きスピードメーター	231
② マルチファンクションディスプレイ	233
③ タコメーター	231

機能	ページ
④ 冷却水温度	230
⑤ 燃料計	
⑥ メーターパネル照明	230

警告および表示灯




P54.33-2855-31











機能	ページ
① ロービームヘッドライト	125
② 車幅灯	126
③ ハイビームヘッドライト	127
④ ESP®	293
⑤ 電気式パーキングブレーキ (赤色)	297
⑥ 電気式パーキングブレーキ (黄色)	297
⑦ 距離警告	301
⑧ 方向指示灯	127
⑨ 乗員保護装置	40
⑩ シートベルト	289
⑪ このランプには機能はありません。 AMG 車両のスポーツハンドリングモード	294


機能	ページ
⑫ 冷却水	298
⑬ リアフォグランプ	125
⑭ フロントフォグランプ	125
⑮ エンジン診断	298
⑯ このランプには機能はありません。	
⑰ 予備燃料	298
⑱ ESP® 解除	293
⑲ ABS	291
⑳ ブレーキ	290

マルチファンクションステアリング



	機能	ページ
①	マルチファンクションディスプレイ	233
②	オーディオ/COMANDディスプレイ：別冊の取扱説明書をご覧ください。	
③	 音声認識機能の作動：別冊の取扱説明書をご覧ください	





	機能	ページ
④	 通話の拒否、または終了 電話帳/リダイヤルメモリーの終了  発信、または通話を受ける リダイヤルメモリーへの切り替え   音量の調整  ミュート	238
⑤	  メニューの選択 231   サブメニューの選択またはリストのスクロール 231  選択の確定 231 ディスプレイメッセージを非表示にする 252	






	機能	ページ
⑥	 戻る 音声認識機能の停止：別冊の取扱説明書をご覧ください	231

センターコンソール

センターコンソール、上部



機能	ページ
① オーディオシステム/ COMAND システム：別 冊の取扱説明書を参照く ださい。	
②  シートヒーター	115
③  ダウンヒル・スピー ド・レギュレーション	208
④  パークトロンニック	211
⑤  ECO スタートス トップ機能	163

機能	ページ
⑥  非常点滅灯	127
⑦  助手席エアバッグ表示灯	41
⑧  走行モードの選択	171
 AMG 車：ESP [®]	80
⑨  オフロードプログラ ム	210

センターコンソール、下部









	機能	ページ
①	灰皿	314
	ライター	315
	電源ソケット	315
	小物入れ	305
②	小物入れ	305
③	カップホルダー	312

	機能	ページ
④	メディアインターフェース付き小物入れ	305
⑤	オーディオ/COMAND用コントローラー：別冊の取扱説明書をご覧ください。	

オーバーヘッドコントロールパネル



	機能	ページ
①	 リアルームライトの点灯/消灯の切り替え	132
②	 右側読書灯の点灯/消灯の切り替え	131
③	 フロントルームライト消灯/ルームライトの自動点灯のオフ	132
④	ルームミラー	118

	機能	ページ
⑤	メガネホルダー	305
⑥	 電動ブラインド付きパノラミックスライディングルーフの開閉	105
⑦	 フロントルームライトの点灯	132
⑧	 左側読書灯の点灯/消灯の切り替え	131

ドアコントロールパネル



各部の名称

	機能	ページ
①	ドアを開く	94
②	車両の施錠/解錠	94
③	シートおよびドアミラー設定の保存	121
④	シートの電動調整	113
⑤	ドアミラーの電動調整および格納/展開	118

	機能	ページ
⑥	サイドウィンドウの開閉	100
⑦	後席サイドウィンドウのチャイルドプルーフロックの設定/解除	71

役に立つ情報	40
乗員の安全性	40
子供を乗せるとき	59
ペットを乗せるとき	72
走行安全装備	72
盗難防止警報システム	83

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて情報をご覧ください。(▷ 25 ページ)

乗員の安全性

乗員保護装置をご使用になる前に

乗員保護装置は、事故の際に車両乗員が車内部品にぶつかる危険性を低減します。乗員保護装置は、事故の間に車両乗員が受ける衝撃を低減することもできます。乗員保護装置には以下が含まれます：

- ・シートベルトシステム
 - ・エアバッグ
 - ・チャイルドセーフティシート
 - ・チャイルドセーフティシート固定装置
- 乗員保護装置の構成部品は、相互に関連して作動します。すべての乗員が以下の条件を満たしている場合に限り、乗員保護装置の保護機能が働きます。
- ・シートベルトを正しく着用している (▷ 44 ページ)
 - ・シートおよびヘッドレストが正しく調整されている (▷ 111 ページ)

運転者として、ステアリングが適切に調整されていることを確認してください。正しい運転席シートの位置に関する情報に注意してください (▷ 110 ページ)。

さらに、作動する場合にエアバッグが正しく膨らむようにしなければなりません (▷ 47 ページ)。

エアバッグは、正しく着用されたシートベルトの機能を補助し、事故の際に追加的な安全装置として乗員の保護機能を向上させます。例えば、事故の際にシートベルトにより提供される保護が十分な場合には、エアバッグは作動しません。さらに、事故の状況下で追加的な保護機能を提供するエアバッグのみが事故発生時に作動します。ただし、シートベルトとエアバッグは外側から車両に入り込んだ物に対する保護は通常行ないません。

乗員保護装置の作動方法に関する情報は、「シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動」にあります (▷ 56 ページ)。

車両に乗車している子供、ならびにチャイルドセーフティシートに関するさらなる情報は、「子供を乗せるとき」をご覧ください (▷ 59 ページ)。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

改造が行なわれた後は、乗員保護装置が正しく機能しなくなることがあります。例えば、事故のときに作動しなかったり、または予期せず作動することにより、乗員保護装置が意図した保護機能を発揮しないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

乗員保護装置の部品を改造しないでください。また、配線、電子部品やソフトウェアを決して改造しないでください。

障害のある方に合わせてエアバッグシステムを改造する必要がある場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

乗員保護装置警告灯

乗員保護装置の機能は、イグニッションがオンになった後、そしてエンジンがか

かっている間は定期的に点検されます。そのため、不具合は適時検出することができます。

メーターパネルの乗員保護装置警告灯は、イグニッションをオンにしたときに点灯します。エンジンが始動した後、数秒以内に消灯します。乗員保護装置の構成部品は、作動準備が整っています。

乗員保護装置警告灯  が以下の場合、不具合が発生しています。

- イグニッションをオンにした後に点灯しない
- エンジンがかかって数秒後に消灯しない
- エンジンがかかっている間に再度点灯する

⚠ 警告

乗員保護装置が故障している場合は、車両の減速度が大きい事故の際に、乗員保護装置の構成部品が不意に作動したり、またはまったく作動しないことがあります。これは、たとえばシートベルトテンショナーあるいはエアバッグに影響を与えることがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で乗員保護装置の点検を受けて修理してください。

助手席エアバッグ表示灯



助手席エアバッグ自動解除システム装備車では、表示灯は助手席エアバッグの状態を示します。

- 助手席エアバッグオン ① が点灯：助手席エアバッグが有効です。すべての作動基準が満たされている場合に、事故の場合に助手席エアバッグは作動します。
- 助手席エアバッグオフ ② が点灯：助手席エアバッグが無効です。そのときは、事故のときには作動しません。

助手席シートの乗員によって、助手席エアバッグは有効または無効のいずれかにする必要があります。走行前および走行中のいずれのときも、確認しなければなりません。

- 後ろ向きチャイルドセーフティシートの子供：助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しなければなりません。助手席エアバッグは無効になります。必ず"助手席エアバッグ自動解除システム"(> 50 ページ) および"子供を乗せるとき"(> 59 ページ)の情報に従ってください。

- 前向きチャイルドセーフティシートの子供：取り付けられているチャイルドセーフティシートおよび子供の年齢および体格によって、助手席エアバッグは有効または無効にします。したがって、必ず"助手席エアバッグ自動解除システム"(> 50 ページ) および"子供を乗せるとき"(> 59 ページ)の情報に従ってください。

- 他のすべての乗員：助手席エアバッグオン表示灯は点灯する必要があります。助手席エアバッグは有効になります。助手席の乗員の体格によって、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することがあります。助手席エアバッグが無効になります。そのときは、事故のときには作動しません。この場合は、助手席シートを使用しないでください。

必ず"助手席エアバッグ自動解除システム" (▷ 50 ページ) および"シートベルト" (▷ 42 ページ) および"エアバッグ" (▷ 46 ページ)の情報に従ってください。そこには、適切なシート位置に関する情報もあります。

シートベルト

はじめに

正しく装着されたシートベルトは、衝突あるいは車両が横転したときに乗員の動きを抑えるもっとも効果的な手段です。これにより、乗員が車内の部品にぶつかったり、車両から投げ出されることを防ぎます。シートベルトを着用することで、乗員と展開するエアバッグの距離を最適に保つこともできます。

シートベルトシステムは以下で構成されています。

- シートベルト
- フロントシートベルト用およびリアの外側シートベルト用シートベルトテンショナー
- フロントシートベルトおよびリアの外側シートベルト用のベルトフォースリミッター

シートベルトが急に、あるいは激しくシートベルトアウトレットから引き出されると、リトラクターがロックされます。シートベルトはそれ以上引き出すことはできません。

ベルトテンショナーは、衝突が起これると、乗員の身体にぴったり合うようにシートベルトを締めます。しかし、シートバックレストの方向に乗員を引き戻すことはしません。

しかし、ベルトテンショナーは、正しくないシート位置を正しくしたり、着用の仕方が正しくないシートベルトの取回しを正しくすることはありません。

ベルトフォースリミッターは、乗員の身体に加わるシートベルトの拘束力が一定レベル以上にならないように抑える働きをします。

フロントシートのベルトフォースリミッターは、減速力の一部となるフロントエアバッグと連動しています。これにより、事故の際に乗員が受ける衝突が緩和されます。

❗ 助手席に乗車していない場合は、助手席シートベルトのプレートバックルに差し込まないでください。衝突の際にシートベルトテンショナーが作動することがあります。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

正しく装着されないと、シートベルトは意図された保護機能を果たすことができません。間違ったシートベルトの装着は、たとえば事故のとき、ブレーキを掛けた時や急な方向転換のときに、けがの危険を増やします。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

すべての乗員が適切に着席して、シートベルトを正しく着用していることを確認してください。

⚠ 警告

バックレストをほぼ垂直の位置に動かしていない場合は、シートベルトは意図された保護レベルを発揮しません。ブレーキ時または事故の場合に、シートベルトの下側にもぐり込み、腹部または頸部などがけがを負うおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

走行を開始する前に、シートを正しい位置に調整してください。バックレストがほぼ垂直の位置にあり、シートベルトのショルダー部分が肩の中央にかかっていることを常に確認してください。

△ 警告

身長が約 150 cm 未満の乗員は、追加の適切な乗員保護装置を使用しないとシートベルトを正しく装着できません。正しく装着されないと、シートベルトは意図された保護機能を果たすことができません。間違ったシートベルトの装着は、たとえば事故のとき、ブレーキを掛けた時や急な方向転換のときに、けがの危険を増やします。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

そのため身長約 150 cm 未満の乗員は、必ず適切な乗員保護装置を使用してください。

年齢が 12 歳以下で、身長が 150cm 以下の子供が乗車する場合：

- 子供は常に、メルセデス・ベンツの車両に適したチャイルドセーフティシートに固定してください。チャイルドセーフティシートは子供の年齢、体重および体格に適応していません。
- 助手席エアバッグ自動解除システムの説明および安全上の注意事項に従っていることを確認してください。(▷ 50 ページ)
- チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明に加えて、本取扱説明書の"子供を乗せるとき"の説明および安全上の注意事項 (▷ 59 ページ) に常に従ってください。

△ 警告

以下の場合、シートベルトは意図された保護機能を発揮しないことがあります：

- 損傷している、改造されている、極端に汚れている、漂白されている、または着色されている
- シートベルトのバックルが損傷している、または極端に汚れている
- シートベルトテンショナー、ベルトアンカーまたはリトラクターが改造されている

事故が起こった際には目には見えない場合でも、たとえばガラスの破片によってシートベルトに損傷していることがあります。改造または損傷したシートベルトは事故のときなどに裂けたり、または作動しないおそれがあります。改造されたシートベルトテンショナーは不意に作動したり、または必要なときに作動しないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

シートベルト、シートベルトテンショナー、ベルトアンカーまたはリトラクターを改造しないでください。シートベルトが損傷していない、擦り切れていない、そして汚れていないことを確認してください。事故後はただちに、シートベルトをメルセデス・ベンツ指定サービス工場点検してください。

お客様の車両用にメルセデス・ベンツにより特別に承認されたシートベルトのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します。

スポーツシートまたは AMG パフォーマンスシート装備車両： 標準の 3 点式シートベルトが装備されています。スポーツまたはレーシングシートベルトのような異なるマルチポイントシートベルトを取り付けた場合、乗員保護装置は保護効果を十分に発揮することができません。

△ 警告

シートバックレスト開口部を通してシートベルトを繰り出した場合、事故の際にシートベルトバックレストが損傷もしくは破損するおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

標準の3点式シートベルトのみを使用してください。シートベルトシステムを改造しないでください。

シートベルトの正しい使用方法

シートベルトの安全上の注意事項に従ってください(▷ 42 ページ)。

走行を開始する前に、すべての乗員はシートベルトを正しく着用する必要があります。車両が動いている間も、すべての乗員は、シートベルトを正しく着用するようにしてください。

シートベルトを着用するときは、必ず以下を確認してください。

- シートベルトのプレートは、必ずそのシートのベルトバックルに差し込まれていること。
- シートベルトは乗員の身体に密着していること。

冬用コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。

- シートベルトにねじれがないこと。
その場合のみ、発生する力をシートベルトの表面に分散することができます。
- ベルトの肩の部分は、必ず肩の中心を横切るようにしてください。

シートベルトの肩の部分は、首に触れずに、また腕の下に通さないようにしてください。可能であれば、シートベルトを適切な高さに調整します。

- 腰ベルトは膝の上を横切り、できるだけぴったり低い位置を通るようにしてください。

腰ベルトは、必ず股関節を横切るように取回し、腹部を横切らないようにします。これは特に妊娠中の女性にあてはまります。必要であれば、腰ベルトを股関節部分まで押し下げてから、ベルトの肩部分をしっかりと引きまます。

- シートベルトは鋭利なもの、尖ったもの、あるいは壊れやすいものの上を取回さないでください。

ペン、キーあるいは眼鏡など、もしそのようなものが衣服に付いていたり、衣類の中にある場合は、それらを適切な場所に保管してください。

- 1つのシートベルトは必ず1人で使用します。

乗員の膝の上に幼児や子供を座らせて、絶対に走行しないでください。事故の際に、車両乗員とシートベルトの間でつぶされるおそれがあります。

- 乗員が着用しているシートベルトで荷物などを固定することはできません。

シートベルトは、乗員を固定して抑えるためのものです。物、手荷物または貨物を固定するためには常に、「積載のガイドライン」に従ってください(▷ 304 ページ)。

シートベルトの着用および調整

シートベルトに関する安全上の注意事項(▷ 42 ページ)、およびシートベルトの正しい使用に関する情報(▷ 44 ページ)に注意してください。



- ▶ シートを調整します (▷ 110 ページ)。シートバックレストは、ほとんど垂直の位置にしておく必要があります。
- ▶ シートベルトをゆっくりとシートベルトアウトレット ③ から引き出して、シートベルトのプレート②をベルトバックル ① に差し込みます。シートベルトをシートベルトアウトレット③からゆっくりと引き出します。
- ▶ プレート ② をベルトバックル ① に差し込みます。必要に応じて、運転席および助手席のシートベルトは、自動的に強く引き締められます。"ベルト調整"をご覧ください (▷ 46 ページ)。
- ▶ 必要な場合は、肩ベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。



ベルトの肩の部分は、必ず肩の中心を横切るようにしてください。必要に応じて、シートベルトアウトレットを調整します。

- ▶ **上げる**：ベルトガイドを上方にスライドします。ベルトガイドはさまざまな位置でロックされます。
- ▶ **下げる**：ベルトガイドのリリース ① を持ち、ベルトガイドを下方にスライドします。
- ▶ 希望の位置でベルトガイドのリリース ① を放し、ベルトガイドがロックされていることを確認します。

シートベルトのロック解除

! シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。ベルトが完全に収納されていないと、シートベルトやプレートがドアに挟まれたりシート機構に引っかかることがあります。その結果、ドアやドアトリムパネル、シートベルトを損傷するおそれがあります。損傷したシートベルトは保護機能を果たすことができなくなるため、必ず新品と交換してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。



- ▶ ロック解除スイッチ ①を押して、シートベルトのプレート ②をしっかり持ち、ベルト引き出し口 ③の方に戻します。

シートベルトの調整

シートベルト調整は、PRE-SAFE® コンビニエンス機能の一部です。この機能は、運転席および助手席のシートベルトを乗員の上半身に適合させます。


以下のときに、シートベルトを少し引き込みます。


- シートベルトのプレートがベルトバックルに差し込まれている、そして
- イグニッションがオンである


車両乗員とシートベルトの間たるみを検知した場合は、シートベルト調整は特定の締め付け力を加えます。調整している間は、シートベルトを強くつかまないでください。

シートベルト調整は、マルチファンクションディスプレイで設定/解除できます (▶ 247 ページ)。

運転者および助手席乗員のシートベルト警告

メーターパネルのシートベルト警告灯  は、すべての車両乗員がシートベルトを着用しなければならないことを促します。点灯し続けるか、または点滅します。さらに、警告音が鳴ることがあります。

運転者と助手席乗員がシートベルトを着用したときは、シートベルト警告灯  が消灯し、警告音が停止します。

i シートベルト警告灯  に関するさらなる情報は、「メーターパネルの警告および表示灯、シートベルト」(▶ 289 ページ)をご覧ください。

エアバッグ

はじめに

エアバッグの取り付け位置は、AIRBAGのマークで示されています。

エアバッグは正しく着用しているシートベルトの補助を行なうものです。シートベルトの代わりになるものではありません。エアバッグは、適用される事故の状況で補助的な保護を行ないます。

事故の際に、すべてのエアバッグが作動するわけではありません。各エアバッグシステムは、それぞれ独立して作動します (▶ 56 ページ)。

ただし、現在利用することができるどのシステムも、けがや致死を完全になくすることはできません。

エアバッグが作動せざるを得ない速度により、エアバッグを原因とするけがの危険性を完全に排除することもできません。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

正しいシート位置から外れている場合、エアバッグは本来の保護機能を発揮できず、作動によりさらに負傷の原因となるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。危険な状態を防ぐために、すべての乗員は以下の項目について確認してください。

- シートベルトを正しく着用していること（妊娠中の女性を含む）
- 正しい位置に座り、エアバッグからできるだけ離れていること
- 以下の注意事項を遵守すること
エアバッグと乗員との間に何も物が置かれていないことを必ず確認してください。
- 走行を開始する前にシートを正しく調整してください。必ずシートが垂直に近い位置であることを確認してください。ヘッドレストの中央は、ほぼ目の高さで頭部をサポートしていなければなりません。
- 運転席および助手席シートをできるだけ後方に動かします。運転席シートの位置は、車両を安全に運転できるものでなければなりません。
- ステアリングは外側のみを握ってください。それにより、エアバッグを十分に作動させることができます。
- 運転中は、常にバックレストにもたれてください。ドアまたはサイドウィンドウに寄りかからないでください。そのように寄りかかると、エアバッグの作動範囲内に入る可能性があります。
- 両足は、常にシート前方のフロアに置いてください。ダッシュボードの上に足をのせないでください。その場合、エアバッグの作動範囲内に入る可能性があります。
- 身長が 150cm 以下の乗員は、適切な乗員保護装置に常に固定してください。

この身長に満たない場合、シートベルトを正しく着用することができません。

お子様を車両に乗せて走行する場合、以下の注意事項にも従ってください。

- 年齢 12 歳未満で 150cm 未満の子供は、適切なチャイルドセーフティシートに固定し、安全を確保してください。
- チャイルドセーフティシートはリアシートに装着してください。
- 助手席エアバッグが無効になっており、後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用する場合に限り、子供を助手席シートに固定してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し続けている場合は、助手席エアバッグは無効になっています（▶ 41 ページ）。
- チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明に加えて、助手席エアバッグ自動解除システム（▶ 50 ページ）、および"子供を乗せるとき"（▶ 59 ページ）の説明および安全上の注意事項に常に従ってください。

車内に置いている物がエアバッグの正常な機能を妨げる場合があります。 運転を開始する前に、エアバッグが作動する際の速度により生じる危険を防ぐために、以下のことを確認してください。

- 乗員とエアバッグとの間に、人、動物、物が無い。
ダッシュボード上、例えば助手席エアバッグの上などに物を置かない。
- シート、ドア、Bピラーの間に物を置かない。
- グリップハンドルまたはコートフックに、コートハンガーなどのかたい物が無い。
- カップホルダーなどのアクセサリーをドア、サイドウィンドウ、リアサイド

トリムや側面など、エアバッグの作動範囲内に装着しない。

- 衣服のポケットに重い物やとがった物を入れない。このような物は適切な場所に収納する。

⚠ 警告

エアバッグのカバーを改造したり、ステッカーのような物をそれらに貼付している場合は、エアバッグが正しく機能しなくなるおそれがあります。けがの危険性が高まります。

エアバッグのカバーを改造したり、それらに物を貼付しないでください。

⚠ 警告

エアバッグを制御するセンサーがドアの内部にあります。ドアまたはドアパネル、ならびに損傷したドアに改造または作業が正しく行われていないと、センサーの機能が損なわれることがあります。したがって、エアバッグは正しく機能しなくなることがあります。その結果、エアバッグは設計されているように車両乗員を保護することができません。けがをするおそれが高まります。

ドアまたはドアの部品を改造しないでください。ドアまたはドアパネルの作業は常にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

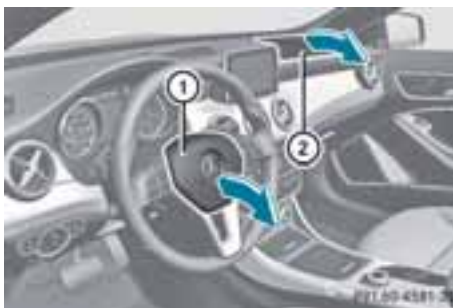
エアバッグと取り付け位置

エアバッグ	取り付け位置
運転席エアバッグ	ステアリングパッド部
助手席エアバッグ	グローブボックス上部のダッシュボード
運転席ニーバッグ	ステアリングコラム下部のダッシュボードカバー

エアバッグ	取り付け位置
サイドバッグ	運転席/助手席シートのバックレストのクッション外側およびリアシートの外側部分
ウインドウバッグ	Aピラー側方からCピラーのルーフレーム

フロントエアバッグ

❗ 助手席シートには重い物を置かないでください。助手席シートに同乗者がいるとシステムが誤って判断する原因になります。衝突の際に助手席側の乗員保護装置が作動して交換する必要が出るおそれがあります。



運転席エアバッグ①はステアリング前面で作動し、助手席エアバッグ②はグローブボックスの前面および上部で作動します。

フロントシートで作動した場合、フロントエアバッグはさらに頭部と胸部を保護します。

助手席エアバッグオフ表示灯および助手席エアバッグオン表示灯は、助手席エアバッグのステータスについて示します。(▷ 41 ページ)

助手席エアバッグ②は、以下の場合にのみ作動します。

- 助手席シートに乗車していることを助手席エアバッグ自動解除システムが検知した (▷ 50 ページ) 助手席エアバッグオン表示灯が点灯する (▷ 50 ページ)
- 乗員保護装置が重度の事故を予測している

運転席ニーバッグ



運転席ニーバッグ①はステアリングコラムの下で作動します。運転席ニーバッグは、フロントエアバッグと一緒に作動します。

運転席シートの運転席ニーバッグは、大腿部、膝、下腿部を保護します。

サイドバッグ

⚠ 警告

シートカバーによって、シートに内蔵されているエアバッグの作動を遮る、または妨げることがあります。その結果、設計されているようにエアバッグが車両乗員を保護できません。さらに、助手席エアバッグ自動解除システム機能が制限されることがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

フロントシートには、シートカバーを使用しないでください。



フロントサイドバッグ①およびリアサイドバッグ②はバックレストの外側クッション脇で作動します。

作動するときは、サイドバッグは胸部の補助的な保護を行ないます。前席シート乗員の骨盤の補助的な保護も行ないます。ただし、以下の保護は行ないません。

- 頭部
- 頸部
- 腕部

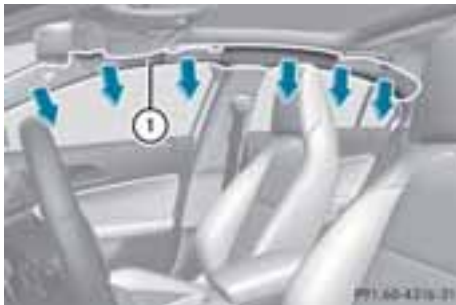
側面衝突の際は、サイドバッグは衝撃が発生した側で作動します。

助手席エアバッグ自動解除システム装備車両：助手席側のサイドバッグは以下の条件下で作動します。

- 助手席シートで乗員が検知された、または
- シートベルトのプレートが助手席シートのシートベルトバックルに固定されている

シートベルトのプレートがシートベルトバックルに固定されている場合は、対応する状況の事故が発生した場合に助手席側のサイドバッグが作動します。この場合は、助手席シートに乗車しているかどうかとは独立して作動します。

ウインドウバッグ



ウインドウバッグ①はルーフレーム側面に内蔵され、AピラーからCピラー間の範囲で作動します。

作動した際に、ウインドウバッグは頭部を保護します。ただし、胸部および腕部には保護機能は働きません。

側面衝突の場合、ウインドウバッグは衝突が発生した側で作動します。

ウインドウバッグの作動がシートベルトによる保護に補助を行なうことができるとシステムが判断した場合は、ウインドウバッグは他の状況の事故で作動することがあります(▶ 56 ページ)。

助手席エアバッグ自動解除

はじめに

助手席シートのチャイルドセーフティシートを検知するために、助手席エアバッグ自動解除システムは助手席シートの乗員を分類します。その結果に応じて、助手席エアバッグおよび助手席ニーバッグは有効または無効のいずれかになります。後ろ向きチャイルドセーフティシートが助手席シートに装着されている場合、助手席エアバッグオフ表示灯はシステムセルフテストの後に点灯し、そのまま点灯し続けます。助手席エアバッグおよび助手席ニーバッグは無効の状態です。

システムは、以下を無効にはしません。

- サイドバッグ
- ウインドウバッグ
- シートベルトテンショナー

お客様の車両に、助手席エアバッグ自動解除システムが装備されていることを確認してください(▶ 63 ページ)。そうでない場合は、チャイルドセーフティシートは常に適切にリアシートに取り付けてください(▶ 65 ページ)。

どうしてもチャイルドセーフティシートを助手席シートに取り付ける必要がある場合、チャイルドセーフティシートの正しい位置決めに従ってください。チャイルドセーフティシートの下または背面にクッションなどの物を置かないでください。そうするときのみ、助手席エアバッグ自動解除システムの正しい機能が保証されます。チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明に加えて、チャイルドセーフティシートの適切な位置に関する情報(▶ 65 ページ)に常に従ってください

操作



- ① 助手席エアバッグオン表示灯
- ② 助手席エアバッグオフ表示灯

表示灯は助手席エアバッグが無効か有効かを知らせます。

- ▶ スタートストップボタンを 1 回または 2 回押すか、エンジンスイッチのキーをポジション **1** または **2** に回します。システムは自己診断を実行します。

助手席エアバッグオフ表示灯および助手席エアバッグオン表示灯は同時に約 6 秒間点灯しなけれなりません。

表示灯は助手席エアバッグのステータスを表示します。

- 助手席エアバッグオン ① が点灯: 助手席エアバッグは有効です。すべての作動基準が満たされている場合に、事故の場合に助手席エアバッグは作動します。
- 助手席エアバッグオフ ② が点灯: 助手席エアバッグは無効です。そのときは、事故のときには作動しません。

車両が動いている間に助手席エアバッグの状態が変化した場合は、メーターパネルにエアバッグのディスプレイメッセージが表示されます (▶ 268 ページ)。助手席シートに乗車しているときは常に、助手席エアバッグオンまたは助手席エアバッグオフ表示灯に注意してください。走行前および走行中のいずれのときも、助手席エアバッグの状況に注意してください。

助手席シートにチャイルドセーフティシートが装着されていない場合、助手席乗員は以下のように座る必要があります：

- シートベルトを正しく着用する
- シートのバックレストに背中を付け、ほぼ起こした位置にする
- 可能な場合は、フロアに足を置く

助手席乗員がこれらの条件を遵守しない場合は、助手席エアバッグ自動解除システムは助手席乗員が以下を行なうことにより、影響を受けることがあります。：

- 車両のアームレストで自分自身を支えることで体重を移動する
- シートクッションから体重を浮かせるように着座する

助手席エアバッグは上記のような動作の結果、誤って無効になる場合があります。この場合は、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままになります。その場合、事故の際に助手席エアバッグは作動しません。

⚠ 警告

助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している場合は、助手席フロントエアバッグは無効になります。事故のときに作動せず、意図した保護機能を発揮できません。そして、特にダッシュボードのすぐ近くに乗員が着座している場合は、助手席にいる人が車両のインテリアに接触するなどのおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席に乗車しているときは、常に以下を確認してください。

- 助手席乗員の分類が適切であり、助手席乗員に応じて助手席フロントエアバッグが有効または無効になっている
- 助手席ができるだけ後方に移動している
- 乗員が正しく着座している

走行前および走行中のいずれのときも、助手席の状況が正しいことを確認してください。

⚠ 警告

助手席に子供を後ろ向きのチャイルドセーフティシートに固定し、助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合は、事故のときに助手席エアバッグが作動します。エアバッグにより、子供が衝撃を

受けるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席エアバッグが無効になっていることを確認してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していなければなりません。

⚠ 警告

子供を助手席の前向きチャイルドセーフティシートに固定して、助手席位置をダッシュボードのすぐ近くにした場合は、事故のときに、子供は以下のようになることがあります。

- 例えば助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している場合に、車両のインテリアに接触する
- 助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合にエアバッグにぶつかる

これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席シートはできるだけ後方に移動してください。車両のベルト引き出し口から肩部分のシートベルトがチャイルドセーフティシートの肩部分のベルトガイドに正しくかかっていることを必ず確認してください。シートベルトの肩部分のストラップは、車両のベルト引き出し口から前方および下方に取り回されていなければなりません。必要に応じて、車両のベルト引き出し口と助手席シートを適切に調整します。チャイルドセーフティシートのメーカーの取扱説明書に加えて、本取扱説明書のチャイルドセーフティシートの適切な位置決めに関する情報をご確認ください。

助手席エアバッグ自動解除システムが以下を検知した場合：

- 助手席に乗車してなく、システムの自己診断後に助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、点灯したままである。

これは助手席エアバッグが無効であることを示しています。

- 後ろ向きチャイルドセーフティシートで子供が助手席シートに乗車していて、システムの自己診断後に助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、点灯したままである。これは助手席エアバッグが無効であることを示しています。

ただし、後ろ向きチャイルドセーフティシートの場合、システムの自己診断の後に助手席エアバッグオン表示灯が点灯し、点灯したままになることがあります。これは助手席エアバッグが有効であることを示しています。分類の結果は、他の要因や、チャイルドセーフティシートおよび子供の体格によって異なります。チャイルドセーフティシートは適切なリアシートに装着することを推奨します。

- 助手席シートに後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用して子供が座っている場合、システムの自己診断の後に分類の結果に応じて助手席エアバッグオン表示灯または助手席エアバッグオフ表示灯のいずれかが点灯し、点灯したままになる。分類の結果は、他の要因や、チャイルドセーフティシートおよび子供の体格によって異なります。


助手席シートはできるだけ後方に移動してください。"助手席シートのチャイルドセーフティシート"(▷ 63 ページ)および"チャイルドセーフティシートの適切な位置決め"(▷ 65 ページ)に関する情報に必ず従ってください。チャイルドセーフティシートはできれば適切なリアシートに装着してください。

- 助手席シートに小さな体格の方（10代の若者または小柄な大人）が乗車していて、システムの自己診断後に、分類の結果に応じて助手席エアバッグオン表示灯または助手席エアバッグオフ

表示灯のいずれかが点灯し、点灯したままになる。

- 助手席エアバッグオン表示灯が消灯している場合、助手席シートをできるだけ後ろに移動してください。あるいは、小柄な体格の乗員はリアシートに着座してください。
- 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯している場合は、小さな体格の人は助手席を使用しないでください。
- 助手席シートに大人または大人に相当する体格の人が乗車していて、システムの自己診断後に助手席エアバッグオン表示灯が点灯し、点灯したままになる。これは、助手席エアバッグが有効であることを示しています。

子供が乗車している場合は、「子供を乗せるとき」にある注意事項に従っていることを確認してください (▶ 59 ページ)。

助手席エアバッグ自動解除システムに不具合がある場合は、メーターパネルの赤色の乗員保護装置警告灯  および助手席エアバッグオフ表示灯が同時に点灯します。この場合は、助手席エアバッグは無効になり、事故の際に作動しません。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でシステムの点検を受けてください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。助手席シートは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのみ修理してください。

助手席シート、シート表皮またはシートクッションが損傷している場合は、必要な修理作業をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で実施してください。

安全上の理由から、メルセデス・ベンツによりテストされ承認されたチャイルドセーフティシートのみを、助手席エアバッグ自動解除システムと組み合わせて使用することをお勧めします。

システムセルフテスト

⚠ 危険

システムの自己診断中に助手席エアバッグオフ表示灯および助手席エアバッグオン表示灯が点灯しない場合は、システムに不具合があります。助手席エアバッグが意図せずに作動したり、高い減速度を伴う事故の際に全く作動しないことがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

この場合は、助手席シートを使用しないでください。助手席シートにチャイルドセーフティシートを取り付けしないでください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で助手席エアバッグ自動解除システムの点検および修理を受けてください。

⚠ 警告

システムの自己診断後に助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままの場合は、助手席エアバッグは無効になっています。事故のときには作動しません。この場合は、助手席に乗員が着座しているときなどに、助手席エアバッグは意図した保護機能を発揮できません。

特にダッシュボードの非常に近くに乗員が着座している場合などは、車両のインテリアに接触するおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席に乗車しているときは、常に以下を確認してください。

- 助手席シートの人の分類が適正であり、助手席シートにいる乗員に応じて助手席エアバッグが有効または無効になっている
- 乗員が正しくシートベルトを着用して正しく着座している
- 助手席をできるだけ後方に移動している

助手席エアバッグオフ表示灯が点灯してはいけないときに点灯したままの場合は、助手席シートを使用しないでください。助手席シートにチャイルドセーフティ

シートを取り付けないでください。ただしメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですて助手席エアバッグ自動解除システムの点検および修理を受けてください。

警告

シート表面とチャイルドセーフティシートの間にある物が助手席エアバッグ自動解除システムの機能に影響を及ぼすおそれがあります。これにより、事故の間に助手席エアバッグが意図されたように機能しなくなるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

シート表面とチャイルドセーフティシートの上に物を置かないでください。チャイルドセーフティシートの底面と背面が助手席のシートクッションおよびバックレストに密着していることを確認してください。常にチャイルドセーフティシートメーカーの取扱説明書に従ってください。

システムの自己診断後に、助手席エアバッグオフ表示灯または助手席エアバッグオン表示灯は助手席エアバッグのステータスを表示します (▷ 50 ページ)。詳細な情報は「助手席エアバッグ自動解除システムのトラブル」に収録されています (▷ 55 ページ)。

助手席エアバッグ自動解除システムのトラブル

"システムの自己診断"の注意事項に従っていることを確認してください (▶ 53 ページ)。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p>大人または大人に相当する体格の方が助手席シートに乗車していても、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、点灯したままになる。</p>	<p>助手席シート乗員の分類が適切でない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 助手席シート乗員の分類の適切な条件が満たされていることを確認します (▶ 50 ページ)。 ▶ 助手席エアバッグオフ表示灯が点灯したままの場合は、助手席シートは使用できません。 ▶ すみやかに助手席エアバッグ自動解除システムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。
<p>助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しない、および/または点灯したままにならない。</p> <p>助手席シートの状態が以下のようになっている：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 乗車していない • 後ろ向きチャイルドセーフティシートが取り付けられている 	<p>助手席エアバッグ自動解除システムに不具合がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ シートとチャイルドセーフティシートの間にも挟まれていないことを確認してください。 ▶ チャイルドセーフティシート底面全体がシートクッションに接触している事を確認してください。 ▶ チャイルドセーフティシートを取り付けるときは、シートベルトが締まっていることを確認します。助手席シートを調整することにより、シートベルトを引いて締めないでください。これにより、シートベルトおよびチャイルドセーフティシートが強く締めすぎのおそれがあります。 ▶ チャイルドセーフティシートが正しく取り付けられていることを点検します。ヘッドレストがチャイルドセーフティシートに負荷をかけていないことを確認します。必要な場合は、それに応じてヘッドレストを調整してください。 ▶ シートに重量のかかる物が載っていないことを確認してください。 ▶ 助手席エアバッグオフ表示灯が消灯したままの場合および/または助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合、後ろ向きのチャイルドセーフティシートを助手席シートに取り付けしないでください。チャイルドセーフティシートは適切なりアシートに装着することを推奨します。 ▶ すみやかに助手席エアバッグ自動解除システムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

シートベルトテンショナーおよびエアバッグの展開

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

エアバッグの作動後は、エアバッグの部品が熱くなっています。けがの危険性があります。

エアバッグの部品に触れないでください。できるだけすみやかに、作動したエアバッグをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。


⚠ 警告

作動した火薬式シートベルトテンショナーは作動しなくなり、意図した保護機能を発揮できなくなります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

したがって、作動した火薬式シートベルトテンショナーは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

事故後は車両をメルセデス・ベンツ指定サービス工場までけん引することを、メルセデス・ベンツは推奨します。特にシートベルトテンショナーが作動したり、エアバッグが展開した場合は、このことを考慮してください。

PRE-SAFE®で使用されている電気モーターは、危険な状況でシートベルトの締め付けを行いません。この作動は何回でも行なわれます。

シートベルトテンショナーが作動したり、エアバッグが展開したりするときは、作動音が聞こえ、少量の粉末が放出されることもあります。乗員保護装置警告灯  が点灯します。

衝撃音は、ごくまれに聴力に影響を与えることがあります。一般に、放出される粉末は健康に害はありませんが、ぜんそくや肺疾患のある方は、この粉末により一時的に呼吸障害を起こすおそれがあり

ます。もし安全であるなら、呼吸障害を防止するため、すぐに車両から離れるか、窓を開けてください。

作動

衝突の初期段階の間、乗員保護装置のコントロールユニットは、車両の減速度または加速度に関する以下のような重要な物理的データの評価を行いません。

- 時間
- 方向
- 強さ

このデータの評価に基づいて、乗員保護装置のコントロールユニットは正面衝突または追突の際にシートベルトテンショナーを作動させます。

シートベルトテンショナーは、以下の場合のみ作動します。

- イグニッションがオンである
- 乗員保護装置の構成部品が作動可能である。"乗員保護装置警告灯"をご覧ください。(▷ 40 ページ)
- シートベルトのプレートがフロントシートのそれぞれのベルトバックルに固定されている

後席のシートベルトテンショナーは、シートベルトの固定状態とは独立して作動します。

乗員保護装置のコントロールユニットが特定の正面衝突など、非常に重大な事故を検知すると、乗員保護装置の追加構成部品が相互に関係なく作動します。

- フロントエアバッグと運転席二乗員エアバッグ
- ウィンドウバッグ：作動することでシートベルトの乗員保護機能を高めるとシステムが判断したとき。

助手席エアバッグ自動解除システム装備車の場合：助手席シートの乗員によって、助手席エアバッグは有効または無効のいずれかになります。助手席エアバッグは、

助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合のみ、事故の際に作動します。助手席エアバッグ表示灯に関する情報に従ってください(▶ 41 ページ)。

お客様の車両には 2 段階式のフロントエアバッグが装備されています。最初の作動段階では、けがの危険性を低減させるために火薬ガスでフロントエアバッグが充填されます。数ミリ秒以内に第 2 段階目が作動すると、フロントエアバッグは完全に作動します。

シートベルトテンショナーおよびエアバッグの作動規定値は、車両のさまざまなポイントでの車両の減速度または加速度の評価に基づいて判断されます。この処理は事前に実行されます。作動/展開決定処理は、衝突の初期段階に適切なタイミングで行なわれる必要があります。

車両の減速度や加速度、衝撃の方向は、基本的に以下の要素によって決まります。

- 衝突時の衝撃エネルギーの分散度
- 衝突の角度
- 車両の変形特性
- 車両と衝突した物体の特性

衝突の発生後に検知される要素は、エアバッグの作動条件とは必ずしも一致しません。また、エアバッグを作動させる基準とはなりません。

エアバッグが作動せずに車両が著しく変形することがあります。変形しやすい衝撃吸収部品のみが衝突の影響を受け、エアバッグを作動させるのに十分な減速度に達していない場合です。反対に車両が軽度のみ変形したにも関わらず、エアバッグが作動することがあります。縦方向のボディメンバーなどの高剛性の部品が衝撃を受けたため、結果として大きな減速度が発生した場合などです。

乗員保護装置のコントロールユニットが側面衝突を検知するか、あるいは車両が横転した場合は、乗員保護装置の適切な構成部品が、事故の形態に応じて相互に独立して作動します。この状況で、作動により乗員保護機能が高まるとシステムが判断した場合は、シートベルトテンショナーも作動します。

- シートベルトテンショナーおよびシートベルトの使用から独立した、衝突が発生した側のサイドバッグ
助手席エアバッグ自動解除システム装備車：助手席（フロント）サイドバッグは以下の条件で作動します。
 - 乗員が助手席シートで検知された、または
 - 助手席シートベルトのプレートがバックルに確実に差し込まれているとき
- シートベルトの使用および助手席に乗員がいるかどうかを考慮しない衝突が発生した側のウインドウバッグ
- 特定の状況で車両が横転して、作動がシートベルトの乗員保護機能を高めるとシステムが判断したときの運転席側および助手席側のウインドウバッグ

i 事故の際に、すべてのエアバッグが作動するわけではありません。各エアバッグシステムは、それぞれ独立して作動します。

エアバッグシステムの作動は、検知された事故の大きさ、特に車両の減速度または加速度、および以下のような事故の形態により決定されます。

- 正面衝突
- 側面衝突
- 横転

PRE-SAFE® (予期乗員保護措置)

はじめに

特定の危険な状況で、PRE-SAFE®は車両乗員を保護するために予防的な措置を行いません。

重要な安全上の注意事項

■ 足元やシートの背後に荷物などが置かれていないことを確認してください。PRE-SAFE®を作動したとき、シートや物を損傷するおそれがあります。

車両に PRE-SAFE®が装備されていても、事故のときのけがの可能性をなくすることはできません。常に実際の道路や天候状況に適するように運転スタイルを合わせ、先行車両との間に十分に安全な距離を保ってください。注意して運転してください。

機能

PRE-SAFE®は以下のときに作動します。

- BAS が作動しているときなど、緊急ブレーキ状態のとき
- 物理的限界を超えて車両の走行姿勢が著しいアンダーステアやオーバーステアになるなど、危険な走行状態になったとき
- ディストロニック・プラス装備車の場合：アダプティブブレーキアシストが強力に介入したとき。

PRE-SAFE®は検知した危険な状態に応じて、以下のように作動します。

- フロントシートベルトの張力をあらかじめ高めます。
- 車両が横滑りすると、パノラミックスライディングルーフが完全に閉じて、

サイドウィンドウが少しの隙間を残して閉じます。

- メモリー機能付き車両：助手席シートが好ましくない位置にある場合は調整されます。

事故につながることなく危険な状況が過ぎた場合は、PRE-SAFE®がシートベルトの張力を緩めます。PRE-SAFE®により行なわれたすべての設定が元に戻ります。

シートベルトのプリテンションが低下しない場合：

- ▶ 車両が停止しているときにバックレストやシートを後方に少し動かします。あらかじめ高められていたシートベルトの張力が緩み、ロック機構が解除されます。

シートベルト調整は、PRE-SAFE®コンビニエンス機能の一部です。さらなる情報は"シートベルト調整"にあります。(▷ 46 ページ)

事故後の自動措置

衝突の種類および大きさによって、事故の後はただちに以下の措置が行なわれません。

- 非常点滅灯が作動することにより
- 緊急時点灯機能が作動します
- 車両ドアが解錠されます
- フロントサイドウィンドウが下がります
- エンジンが停止します

事故の後で**事故の後で**

- ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。
- ▶ 非常点滅灯を作動させます。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを手動で効かせてください。
- ▶ 車両から出るときは乗員が危険にさらされていないことを確認してください。
- ▶ 危険な場所の近くに誰もいないことを確認してください。フェンスなど区切った安全な場所に乗員を退避させます。
- ▶ 適切な場所に停止表示板を置いてください。

自動車専用道路や高速道路では、停止表示板を使用することにより後続車両に警告を発することが法律で義務付けられています。

車両が動かなくなったとき

- ▶ オートマチックトランスミッションをシフトポジション **N** にシフトします。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを手動で解除してください。
- ▶ 安全な場所まで車両を押してください。必要な場合は、他の人に救援を求めてください。

オートマチックトランスミッションをシフトポジション **N** にできない場合、運転者と乗員は危険な範囲からただちに離れてください。

i イグニッションがオンで車輪が回転したときは、車両は自動的に施錠されます。そのため、車両を押すときやダイナモメーターでテストを行なう場合は、閉め出される危険性があります。

i 踏切内で車両が動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急な状況では、非常信号用具も使用してください。

子供を乗せるとき**重要な安全上の注意事項**

事故の統計では、後席に固定された子供は助手席に固定された子供よりも安全であることが示されています。この理由のため、リアシートはチャイルドセーフティシートに取り付けることを、メルセデス・ベンツは強く推奨します。子供の安全性が高くなります。

年齢が 12 歳以下で、身長が 150cm 以下の子供が乗車する場合：

- 子供は常に、メルセデス・ベンツ車両に適したチャイルドセーフティシートに固定してください。チャイルドセーフティシートは子供の年齢、体重および体格に適応してはいけません。
- チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明に加えて、本項目の説明および安全上の注意事項を遵守していることを確認してください。
- 助手席エアバッグ自動解除システムの説明および安全上の注意事項に従っていることを確認してください。(▶ 50 ページ)

⚠ 警告

保護者のいない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキを解除したとき
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンを始動する

加えて、車両装備を操作し、挟み込まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

⚠ 警告

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートが直射日光または熱にさらされている場合は、部品が高温になることがあります。子供がこれらの部品、特にチャイルドセーフティシートの金属部品で火傷を起こすおそれがあります。けがの危険性があります。運転者および子供が車両から離れる場合は、チャイルドセーフティシートを直射日光にさらさないように気をつけてください。毛布などで覆ってください。チャイルドセーフティシートが直射日光にさらされた場合は、子供を固定する前に冷ましてください。保護者のいない子供を車内に残さないでください。

すべての乗員が適切に着席して、シートベルトを正しく着用していることを確認してください。これはとくに子供にあてはまります。

シートベルトに関する安全上の注意事項 (▷ 42 ページ) およびシートベルトの正しい使用に関する情報 (▷ 44 ページ) に従ってください。

チャイルドセーフティシート

チャイルドセーフティシートの正しい使用の説明に従ってください (▷ 65 ページ)。

安全上の理由のため、メルセデス・ベンツにより推奨されたチャイルドセーフティシートのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します (▷ 68 ページ)。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートが適切なシート位置に正しく取り付けられていない場合は、意図した保護機能を発揮することができません。事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに子供を保護することができません。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まりません。

チャイルドセーフティシートメーカーの装着指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用を常に遵守してください。チャイルドセーフティシートの底面全体が常にシートクッションに接触している事を確認してください。チャイルドセーフティシートの下または背面にクッションなどの物を置かないでください。チャイルドセーフティシートには、必ずこのシート専用の純正シートカバーを使用してください。損傷したカバーを取り替えるときは、必ず純正品を使用してください。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートが正しく取り付けられていない、または固定されていない場合は、事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに外れるおそれがあります。チャイルドセーフティシートが投げ出されて、乗員にぶつかるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

着座していないチャイルドセーフティシートも常に正しく取り付けてください。常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。

物、手荷物または貨物の収納に関するさらなる情報は「積載のガイドライン」にあります。

⚠ 警告

事故で負荷を受けたチャイルドセーフティシートやその固定装置は、意図した保護機能を発揮できないことがあります。事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに、子供が保護されません。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

事故で損傷したり、または負荷を受けたチャイルドセーフティシートはただちに交換してください。チャイルドセーフティシートを再度取り付ける前に、チャイルドセーフティシートの固定装置をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。

どうしても子供を助手席シートに乗車させる必要がある場合は、「助手席シートのチャイルドセーフティシート」にある情報を遵守していることを確認してください (p 63 ページ)。

車内およびチャイルドセーフティシートにある警告ラベルに注意してください。

i メルセデス・ベンツにより推奨されたチャイルドセーフティシートを清掃するためには、メルセデス・ベンツ純正のカーケア用品を使用することを推奨します。このことに関する情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐに入手できます。

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

⚠ 警告

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートは、体重が 22 kg 以上でチャイルドセーフティシートに内蔵されたセーフティベルトを使用して固定されている子供には十分な保護効果をもたらしません。例えば、事故のときに子供が正しく固定されないなどのおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

子供の体重が 22 kg 以上の場合は、必ず子供が車両のシートベルトでも固定される ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを使用してください。使用可能であれば、チャイルドセーフティシートをテザーアンカーベルトでも固定してください。

チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの装着および操作説明、およびチャイルドセーフティシートの正しい使用に関する説明に従っていることを確認してください (p 65 ページ)。

各走行前に、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置が両方の ISOFIX 固定リングに正しく固定されていることを確認します。

! チャイルドセーフティシートを装着するときは、中央リアシートのシートベルトを挟み込まないように注意してください。シートベルトが損傷するおそれがあります。



① ISOFIX 固定リング

▶ ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを左右の ISOFIX 固定リング ①に取り付けます。

ISOFIX は、専用設計されたチャイルドセーフティシートのリアシートへの規格化された固定システムです。2 つの ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート用の ISOFIX 固定リング ①は、リアシートの左および右に取り付けられています。

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置に対応していないチャイルドセーフティシートは、車両のシートベルトで固定してください。チャイルドセーフティシートを装着するときは、メーカーの装着および操作説明、およびチャイルドセーフティシートの正しい使用に関する説明に従っていることを確認してください (▶ 65 ページ)。

テザーアンカー

はじめに

テザーアンカーは、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートとリアシートを接続するための補助的な固定装置です。これにより、けがの危険性をさらに低減する補助を行いません。チャイルドセーフティシートにテザーアンカーベルトが装備されている場合は、常に使用してください。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

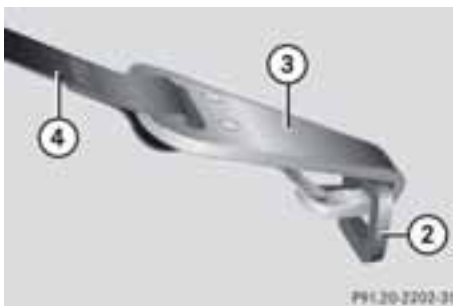
リアシートのバックレストが固定されていない場合は、事故、急ブレーキまたは急な進路変更のときに前に倒れるおそれがあります。結果として、チャイルドセーフティシートが意図した保護機能を発揮できません。固定されていないリアシートのバックレストは、事故のときなどにさらなるけがの原因となるおそれもあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

テザーアンカーベルトを取り付けた後は、常にリアシートのバックレストを固定してください。ロック確認インジケータに注意してください。垂直位置になるようにリアシートのバックレストを調整します。

テザーアンカー



テザーアンカーは、両方の外側リアシートのバックレスト背面にあります。



調整式ヘッドレスト装備車両

- ▶ **1本のベルトストラップ付きテザーアンカーベルト**：ヘッドレスト①を上方に押し上げます。
- ▶ **ヘッドレスト①下のヘッドレストの2本の支柱の間にテザーアンカーベルト④を通します。**

または

- ▶ **2本のシートベルト付きテザーアンカーベルト**：左右のテザーアンカーベルト④をヘッドレストの横から取り回します①。

調整式ヘッドレスト非装備車両：

- ▶ **1本のベルトストラップ付きテザーアンカーベルト**：テザーアンカーベル

ト④をヘッドレスト①の上の中央に取り回します。

または

- ▶ **2本のシートベルト付きテザーアンカーベルト:**左右のテザーアンカーベルト④をヘッドレストの横から取り回します①。

全車両：

- ▶ テザーアンカーを装備した ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートを装着します。その場合は、常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。
- ▶ テザーアンカーベルト④のテザーアンカーフック③をテザーアンカー②に掛けます。

以下を確認します：

- 図のように、テザーアンカーフック③がテザーアンカー②に掛かっていること
- テザーアンカーベルト④がねじれていないこと
- ラゲッジルームカバーが装着されている場合は、テザーアンカーベルト④がリアシートバックレストとラゲッジルームカバーの間を通っていること
- ▶ テザーアンカーベルト④をピンと張ります。その場合は、常にチャイルドセーフティシートメーカーの装着指示に従ってください。

調整式ヘッドレスト装備車両

- ▶ 必要な場合は、ヘッドレスト①を再度少し下に動かして戻します (▶ 114 ページ)。テザーアンカーベルト④の正しい取り回しを妨げていないことを確認してください。

助手席でのチャイルドセーフティシート

全体的な注意事項

事故の統計では、後席に固定された子供は助手席に固定された子供よりも安全であることが示されています。この理由のため、チャイルドセーフティシートはリアシートに取り付けることを、メルセデス・ベンツは強く推奨します。

助手席エアバッグ自動解除システム装備車両：どうしても助手席シートにチャイルドセーフティシートを取り付ける必要がある場合は常に、"助手席エアバッグ自動解除システム"にある情報に従ってください (▶ 50 ページ)。

このようにして、以下のために発生するおそれのある危険性を防ぐことができます。

- 助手席エアバッグ自動解除システムによって検知されていないチャイルドセーフティシート
- 助手席エアバッグの意図しない無効
- ダッシュボードのすぐ近くなど、不適切なチャイルドセーフティシートの位置



助手席側サンバイザーの警告ステッカーに従ってください。イラストを参照ください。

⚠ 警告

助手席に子供を後ろ向きのチャイルドセーフティシートに固定し、助手席エア

バッグオン表示灯が点灯している場合は、事故のときに助手席エアバッグが作動します。エアバッグにより、子供が衝撃を受けるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

助手席エアバッグが無効になっていることを確認してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯していなければなりません。

有効になっているフロントエアバッグで保護されているシートでは、後ろ向きチャイルドセーフティシートを使用しないでください。子供に致命的な、または重大なけがを引き起こすことがあります。助手席エアバッグオン表示灯が点灯している場合は、助手席エアバッグは有効になっています(▶ 41 ページ)。

助手席エアバッグ自動解除システム非装備車



車両の助手席シートに助手席エアバッグ自動解除システムが装備されていない場合は、専用のステッカーによって示されます。ステッカーは、助手席側ダッシュボードの側面に貼付されています。助手席ドアを開いたときに、このステッカーが見えます。

この場合は常に、後ろ向きチャイルドセーフティシートは適切なリアシートに取り付けてください(▶ 65 ページ)。

"後ろ向きチャイルドセーフティシート"および"前向きチャイルドセーフティシート"にある情報、ならびにチャイルドセーフティシートの適切な位置に関する情報に注意してください(▶ 65 ページ)。

後ろ向きチャイルドセーフティシート

どうしても助手席に後ろ向きチャイルドセーフティシートを取り付ける必要がある場合は、助手席エアバッグが無効であることを確認してください。助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し続けている場合のみ(▶ 41 ページ)、助手席エアバッグは無効になっています。

チャイルドセーフティシートメーカーの装着および取扱の説明に加えて、チャイルドセーフティシートの適切な位置に関する情報に常に従ってください(▶ 65 ページ)。

前向きチャイルドセーフティシート

どうしても前向きチャイルドセーフティシートを助手席シートに取り付ける必要がある場合、助手席シートをできるだけ後方の位置に動かしてください。車両のベルト引き出し口から肩部分のシートベルトストラップがチャイルドセーフティシートの肩部分のベルトガイドに正しくかかっていることを必ず確認してください。シートベルトの肩部分のストラップは、車両のベルト引き出し口から前方および下方に取り回されていなければなりません。必要に応じて、車両のベルト引き出し口と助手席シートを適切に調整します。

チャイルドセーフティシートメーカーの装着および取扱の説明に加えて、チャイルドセーフティシートの適切な位置に関する情報に常に従ってください(▶ 65 ページ)。

チャイルドセーフティシートの適切な装着位置

はじめに

車両には、欧州経済共同体基準 ECE R44 により承認されたチャイルドセーフティシートのみを装着してください。

助手席シートのチャイルドセーフティシート どうしてもチャイルドセーフティシートを助手席シートに取り付ける必要がある場合:

- ▶ "助手席シートでのチャイルドセーフティシート" にある指示に常に注意してください (▶ 63 ページ)。

指示には車両のベルト引き出し口から肩部分のシートベルトをチャイルドセーフティシートの肩部分のベルトガイドに正しく取り回す手順が説明されています (▶ 64 ページ)。

- ▶ 助手席シートはできるだけ後方に移動してください。

助手席シートの前向きチャイルドセーフティシートに子供を固定する場合は、助手席シートも最も高い位置に動かします。

- ▶ バックレストをほぼ垂直の位置に動かします。

前向きチャイルドセーフティシートの底面と背面が、助手席シートのクッションおよびバックレストに完全に接していなければなりません。チャイルドセーフティシートはルーフに接触してはいけません。それに応じて、バックレストの角度を調整します。チャイルドセーフティシートメーカーの装着説明にも従ってください。

- ▶ 電動調整付きシートでは、シートクッション角度は必ず一番高く、垂直の位置に設定してください。

体重カテゴリー III のいくつかのチャイルドセーフティシートでは、このことにより使用範囲が制限されることがあ

ります。ルーフへの接触の可能性により、チャイルドセーフティシートを最大サイズに設定することができません。

"ユニバーサル"カテゴリーのチャイルドセーフティシートは、オレンジ色の認証ラベルと "Universal (ユニバーサル)" の文字で判別できます。



例：チャイルドセーフティシートの認証ラベル

"ユニバーサル"カテゴリーのチャイルドセーフティシートは、"ベルト付きチャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性"または "ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性"の表にしたがって、U、UF または IUF と表示されたシートで使用できます。

セミユニバーサルチャイルドセーフティシートは、認可ラベルの "Semi-universal (セミユニバーサル)" の文字で示されています。これらは、車両およびシートがチャイルドセーフティシートメーカーの車両モデルリストに載っている場合に使用できます。さらなる情報は、チャイルドセーフティシートメーカーにお問い合わせになるか、メーカーのウェブサイトをご覧ください。

ベルト付きチャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性

表の凡例:

- X この体重カテゴリーの子供に適合していないシート
- U この体重カテゴリーでの使用が承認された "ユニバーサル"カテゴリーのチャイルドセーフティシートに適合
- UF この体重カテゴリーでの使用が承認された "ユニバーサル"カテゴリーに属している前向きチャイルドセーフティシートに適合
- L 推奨チャイルドセーフティシートに適合: "推奨チャイルドセーフティシート"の表をご覧ください (p. 68 ページ)。車両およびシートがチャイルドセーフティシートメーカーの車両モデルリストに載っている場合、セミユニバーサルチャイルドセーフティシートに適合。
- (▲) 助手席エアバッグ自動解除システム装備車:助手席エアバッグオフ表示灯が点灯します。
- (◆) サポートブラケット付きのチャイルドセーフティシートはこのシートには適していません。

体重カテゴリー	シート位置			
	助手席シート		リアシート ¹	
	助手席エアバッグが無効になっていない	助手席エアバッグが無効になっている	左、右	センター部
カテゴリー 0: 10 kg 以下	X	U (▲)、L (▲)	U	U、L (◆)
カテゴリー 0+: 13 kg 以下	X	U (▲)、L (▲)	U	U、L (◆)
カテゴリー I: 9~18 kg	UF、L	U、L	U	U、L (◆)
カテゴリー II: 15~25 kg	UF、L	U、L	U	U、L (◆)
カテゴリー III: 22~36 kg	UF、L	UF、L	U	U、L (◆)

¹ カテゴリー 0 または 0+ のベビーカーシートまたはカテゴリー I の後ろ向きチャイルドセーフティシートをリアシートで使用する場合は、シートが後ろ向きチャイルドセーフティシートに接触しないように運転席または助手席シートを調整しなければなりません。

ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートの装着のためのシートの適合性

表の凡例:

- X この体重カテゴリーおよび/またはサイズカテゴリーで、ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適合していない ISOFIX の位置。
- IUF このカテゴリー（適応体重）に適合する"ユニバーサル"の前向き ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置に適しています。
- IL 推奨しているような ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートに適合。以下の表"推奨チャイルドセーフティシート" (> 68 ページ)をご覧ください。
メーカーは、適合している ISOFIX 対応チャイルドセーフティシートも推奨しています。そのためには、お客様の車両とシートがチャイルドセーフティシートメーカーのモデルリストに掲載されていなければなりません。さらなる情報は、チャイルドセーフティシートメーカーにお問い合わせになるか、メーカーのウェブサイトをご覧ください。

体重カテゴリー	サイズ等級	装備	リアシート、左および右 ¹
キャリコット	F	ISO/L1	X
	G	ISO/L2	X
0 : 10 kg 以下 約 6 ヶ月以下	E	ISO/R1	IL
0+ : 13 kg 以下 約 15 ヶ月以下	E	ISO/R1	IL
	D	ISO/R2	IL
	C	ISO/R3	IL ^{2, 3}
I : 9~18 kg 約 9 ヶ月~4 歳	D	ISO/R2	IL
	C	ISO/R3	IL ^{2, 3}
	B	ISO/F2	IUF
	B1	ISO/F2X	IUF
	A	ISO/F3	IUF

1 カテゴリー 0 または 0+ のベビーカーシートまたはカテゴリー I の後ろ向きチャイルドセーフティシートをリアシートで使用する場合は、シートが後ろ向きチャイルドセーフティシートに接触しないように運転席または助手席シートを調整しなければなりません。

2 スタイルまたはアーバンパッケージまたは 4 ウェイまたは 6 ウェイフロントシート装備車両：フロントシートを一番高い位置に設定します。

3 2 ウェイフロントシート装備車両：フロントシートを一番前の位置に設定します。

推奨チャイルドセーフティシート

全体的な注意事項

"助手席のチャイルドセーフティシート"
(▷ 63 ページ) および"チャイルドセーフ
ティシートの適切な位置" (▷ 65 ページ)
の情報に常に注意してください。

適切なチャイルドセーフティシートに関
するさらなる情報は、メルセデス・ベン
ツ指定サービス工場で入手できます。

推奨チャイルドセーフティシート

体重カテゴリー	メーカー	タイプ	認証番号 (E1 ...)	注文番号 (A 000 ...) カラーコード：9H95
カテゴリー 0： 10 kg 以下 約 6 ヶ月以下	Britax Römer	ベビーセーフ プラス	03 301146 04 301146	970 10 00
		ベビーセーフ プラス II	04 301146	970 20 00
カテゴリー 0+： 13 kg 以下 約 15 ヶ月以下	Britax Römer	ベビーセーフ プラス	03 301146 04 301146	970 10 00
		ベビーセーフ プラス II	04 301146	970 20 00
カテゴリー I：9～ 18 kg 約 9 ヶ月～4 歳	Britax Römer	デュオプラ ス	03 301133	970 11 00
			04 301133	970 16 00
			04 301133	970 21 00
グループ II/III： 15～36 kg 約 4～12 歳	Britax Römer	キッド フィックス	04 301198	970 18 00
				970 19 00
				970 22 00

推奨"ユニバーサル"/"セミユニバーサル"カテゴリー ISOFIX 対応チャイルドセーフティシート：

体重カテゴリー	サイズ等級	メーカー	タイプ	認証番号 (E1 ...)	注文番号 カラーコード：9H95
キャリコット	F	-	-	-	-
	G	-	-	-	-
カテゴリー 0： 10kg 以下	E	-	-	-	-

体重カテゴリー	サイズ等級	メーカー	タイプ	認証番号 (E1 ...)	注文番号 カラーコード： 9H95
カテゴリー 0+： 13kg 以下	E	Britax Römer	ベビーセー フプラス	03 301146 04 301146	B6 6 86 8224
	D	-	-	-	-
	C	-	-	-	-
カテゴリー I： 9~18kg	D	-	-	-	-
	C	-	-	-	-
	B	-	-	-	-
	B1	Britax Römer	デュオプラ ス	03 301133 04 301133	A 000 970 11 00
					A 000 970 16 00
			04 301133	A 000 970 21 00	
A	-	-	-	-	

チャイルドブルーロック

重要な安全上の注意事項

警告

子供を車両に乗せて走行している場合は、以下のおそれがあります。

- ドアを開き、それにより他の人または道路使用者を危険にさらす
- 車両から降りて、対向交通にぶつかる
- 例えば、車両装備を操作して挟まれる事故やけがの危険性があります。

子供を車両に乗せて走行する場合は、使用可能なチャイルドブルーロックを常

に作動させてください。車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

以下のチャイルドブルーロック

- リアドア (▷ 71 ページ)
- リアサイドウィンドウ (▷ 71 ページ)

⚠ 警告

保護者のいない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキを解除したとき
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンを始動する

加えて、車両装備を操作し、挟み込まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

⚠ 警告

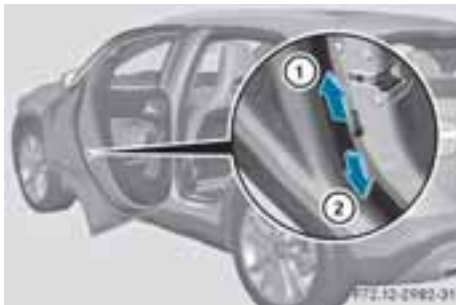
人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

⚠ 警告

チャイルドセーフティシートが直射日光または熱にさらされている場合は、部品が高温になることがあります。子供がこれらの部品、特にチャイルドセーフティシートの金属部品で火傷を起こすおそれがあります。けがの危険性があります。

運転者および子供が車両から離れる場合は、チャイルドセーフティシートを直射日光にさらさないように気をつけてください。毛布などで覆ってください。チャイルドセーフティシートが直射日光にさらされた場合は、子供を固定する前に冷ましてください。保護者のいない子供を車内に残さないでください。

リアドアのチャイルドブルーロック



リアドアのチャイルドブルーロックで、各ドアを個別にロックできます。チャイルドブルーロックでロックされているドアは、車内から開くことができません。車両が解錠されているときは、車外からドアを開くことができます。

- ▶ **設定する**：チャイルドブルーロックレバーを矢印 ① の方向に押し上げます。
- ▶ チャイルドブルーロックが正常に設定していることを確認します。
- ▶ **解除する**：チャイルドブルーロックレバーを矢印 ② の方向に押し下げます。

リアサイドウィンドウのチャイルドブルーロック



- ▶ **設定/解除する**：スイッチ ① を押しします。
表示灯 ② が点灯している場合は、リアサイドウインドウの操作は無効になります。運転席ドアのスイッチを使用するのみ、操作が可能です。表示灯 ② が消灯しているときは、後席のスイッチを使用する操作が可能です。

ペットを乗せるとき

⚠ 警告

ペットを車内に放置または固定していない場合、ボタンやスイッチを押してしまう場合があります。

その結果：

- 車両装備を作動させて、挟まれる
- システムをオンまたはオフにして、他の道路交通者を危険にさらす

さらに、事故の際やステアリングを切ったとき、急ブレーキをかけたときに、ペットが投げ飛ばされ、乗員が負傷するおそれもあります。事故やけがの危険性があります。

けっしてペットを車内に放置しないでください。走行中は、適切なキャリーなどを使用して、ペットを必ず正しく固定してください。

走行安全装備

走行安全装備の概要

この項目には、以下の走行安全システムについての情報があります：

- **ABS (Anti-lock Braking System)**：アンチロック・ブレーキング・システム (▶ 73 ページ)
- **BAS (Brake Assist System)**：ブレーキアシストシステム (▶ 73 ページ)

- **CPA (衝突警告システム)** (距離警告機能およびアダプティブブレーキアシスト) (▶ 74 ページ)
- **CPA (衝突警告システム)** プラス (▶ 74 ページ)
- **アダプティブブレーキライト** (▶ 77 ページ)
- **ESP® (Electronic Stability Program)**：エレクトロニック・スタビリティ・プログラム (▶ 77 ページ)
- **EBD (Electronic Brake force Distribution)**：エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション (▶ 82 ページ)
- **アダプティブブレーキ** (▶ 82 ページ)
- **ステアコントロール** (▶ 82 ページ)

重要な安全上の注意事項

運転スタイルを合わせなかったり、注意が散漫になると、走行安全装備は事故の危険性を低減できないだけでなく、物理的法則を超えることもできません。走行安全装備は、運転の補助のために設計された単なる支援に過ぎません。先行車両との距離や車両の速度、適切なブレーキ操作の責任は運転者にあります。常に実際の道路や天候、交通状況に応じて運転スタイルを合わせ、先行車両との間に安全な距離を保ってください。注意して運転してください。

i 記載している走行安全装備は、タイヤと路面との間に十分な接触があるときのみ、可能な限り効果的に作動します。"タイヤとホイール" (▶ 360 ページ) のタイヤ、推奨されるタイヤトレッドの最小深さなどに関する情報に特に注意してください。


冬の走行状況では、常にウィンタータイヤ (M+S tyres) を、必要であればスノーチェーンを使用してください。このようにすることでのみ、本章に記載され

ている走行安全装備が可能な限り効果的に作動します。

ABS (アンチロック・ブレーキング・システム)

全体的な注意事項

ABS は、ブレーキを効かせたときに車輪がロックしないようにブレーキ圧を制御します。これにより、ブレーキを効かせているときに、ステアリング操作を続けることができます。

メーターパネルの ABS 警告灯  は、イグニッションをオンにすると点灯します。エンジンがかかっているときは消灯します。

重要な安全上の注意事項

i 走行安全システムの "重要な安全上の注意事項" の項目に従ってください (p. 72 ページ)。

警告

ABS に異常があるときは、ブレーキ時に車輪がロックすることがあります。ステアリングでの操縦性およびブレーキ性能が著しく損なわれることがあります。さらに、他の走行安全装備が解除されます。横滑りや事故の危険が高まります。

注意して運転してください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場での ABS の点検をしてください。

ABS が故障している場合は、走行安全装備を含めた他のシステムも作動しません。ABS 警告灯 (p. 290 ページ) とメーターパネル (p. 253 ページ) に表示されるディスプレイメッセージに関する情報に従ってください。

路面の状況に関わらず、ABS は約 8 km/h 以上の速度で作動します。滑りやすい路面では、軽くブレーキを効かせただけでも ABS は作動します。

ブレーキ

▶ **ABS が作動した場合**：ブレーキ操作をしなければならない状況が終わるまで、ブレーキペダルをいっぱい力で踏み続けてください。

▶ **急ブレーキを効かせる**：ブレーキペダルをいっぱい力で踏んでください。

ブレーキ時に ABS が作動した場合は、ブレーキペダルに小刻みな振動を感じます。

ブレーキペダルの小刻みな振動は、危険な路面状況を知らせることができ、走行中に特別な注意を喚起させるものとして機能します。

オフロード ABS

オフロードプログラムを作動させると、オフロード地形に特に適した ABS システムが自動的に設定されます (p. 210 ページ)。

30 km/h 以下の速度では、ブレーキ中は前輪が周期的にロックします。オフロードを走行しているときは、作動中の土を掘る作用により制動距離が減少します。これによりステアリング能力が制限されます。

BAS (ブレーキアシスト)

全体的な注意事項

BAS は、緊急ブレーキ状態で作動します。ブレーキペダルを素早く踏み込むと、BAS が自動的に制動力を高めて制動距離を短縮します。

重要な安全上の注意

i "重要な安全上の注意" を遵守してください。 (p. 72 ページ)

⚠ 警告

BAS が故障している場合は、緊急ブレーキの状況での制動距離が長くなります。事故の危険性があります。

緊急ブレーキの状況では、ブレーキペダルを思いっきり踏んでください。ABS が車輪のロックを防ぎます。

ブレーキ操作

- ▶ 緊急ブレーキ状態から脱するまで、ブレーキペダルをしっかりと踏み続けてください。

ABS がホイールのロックを防ぎます。

ブレーキペダルから足を放すと、ブレーキは通常の作動状態に戻ります。BAS の機能が解除されます。

CPA (衝突警告システム)**全体的な注意事項**

コリジョンプリベンションアシストは、以下に説明のあるアダプティブブレーキアシストおよび距離警告信号から構成されています。

車間距離警告機能**重要な安全上の注意事項**

i "重要な安全上の注意事項" の項目に従ってください (▷ 72 ページ)。

⚠ 警告

車間距離警告機能は、以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差する交通
- カーブを走行するとき

そのため、車間距離警告機能はすべての危険な状況で警告を行うとは限りません。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

⚠ 警告

車間距離警告機能は、常に障害物および複雑な交通状況を明確に識別できるわけではありません。

そのような場合は、車間距離警告機能は以下になることがあります。


- 不必要な警告を発する
- 警告を発しない

事故の危険性があります。

常に交通状況に十分注意を払い、車間距離警告機能のみに頼らないでください。



機能

- ▶ **設定/解除する**：マルチファンクションディスプレイで車間距離警告機能を設定または解除します (▷ 241 ページ)。

車間距離警告機能が解除されているときは、マルチファンクションディスプレイのアシスト一覧表示に  マークが表示されます。

車間距離警告機能は、先行車両との追突事故の危険性を最小限にしたり、そのような衝突の影響を低減させることで運転者を支援します。車間距離警告機能が衝突の危険を検知した場合は、視覚的および聴覚的に警告が発せられます。車間距離警告機能は、運転者の操作なしに衝突を避けることはできません。

車間距離警告機能は、以下の速度で警告を発します。

- 約 30 km/h またはそれ以上で、数秒間にわたり前方を走行している車両との間に保たれている距離が不十分な場合 メーターパネルの車間距離警告灯  が点灯します。
- 約 7 km/h またはそれ以上で、先行車両に急激に接近した場合 断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの車間距離警告灯  が点灯します。

- ▶ 先行車両との車間距離を広げるためにただちにブレーキを効かせてください。または
- ▶ 安全確認のうえ、危険回避の操作を行なってください。

システムの特性により、危険ではなくとも、特に複雑な走行状況がシステムが警告を表示する原因になることがあります。レーダーセンサーシステムの支援で、車間距離警告機能は車両の進路に長時間ある障害物を検知することができます。

約 70 km/h 以下の速度では、車間距離警告機能は停止している、または駐車している車両のような静止物にも反応できません。

障害物に接近し、車間距離警告機能が衝突の危険を検知した場合は、視覚的および聴覚的両方で運転者に警告を行ないます。

特に以下のときは、障害物の検知が困難になります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 雪または激しい雨が降っている
- 他のレーダー発生源による干渉がある
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こっている
- オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行している
- 先行車両が他の車線を走行している
- 新車または CPA（衝突警告システム）プラスのメンテナンス後

慣らし運転の項目にある注意事項に注意してください（▶ 160 ページ）。

車両のフロント部分が損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を受けてください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。

アダプティブブレーキアシスト

i 走行安全システムの“重要な安全上の注意事項”の項目を遵守してください（▶ 72 ページ）。

警告

アダプティブブレーキアシストは、障害物や複雑な交通状況を常に明確に識別できるとは限りません。

そのような場合は、アダプティブブレーキアシストは以下になることがあります。

- 不必要に介入する
- 介入しない

事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキを効かせる準備をしてください。危険な状態を脱したら、通常の運転スタイルに戻してください。

警告

アダプティブブレーキアシストは、以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 対向車
- 交差する交通
- 静止している障害物
- カーブを走行するとき

その結果、アダプティブブレーキアシストはすべての危険な状況では作動しない場合があります。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

システムの特性により、危険ではないけれど、特に複雑な走行状況もブレーキアシストが介入する原因になることがあります。

アダプティブブレーキアシストは、7 km/h 以上の速度での危険な状況の間にブレーキを効かせる支援を行ない、

レーダーセンサーシステムを使用して交通状況を判断します。

センサーシステムを利用して、アダプティブブレーキアシストは車両の進路に長時間ある障害物を検知することができます。

障害物に接近して、アダプティブブレーキアシストが衝突の危険性を検知した場合は、アダプティブブレーキアシストは、衝突を回避するために必要な制動力を計算します。ブレーキを強く効かせた場合は、アダプティブブレーキアシストは交通状況に適したレベルまで制動力を自動的に増加させます。

▶ 緊急ブレーキの状況が終わるまで、ブレーキペダルを踏み続けてください。ABS が車輪のロックを防ぎます。

以下の場合、ブレーキは再度通常通り作動します。

- ブレーキペダルを放した
- 衝突の危険がなくなった
- 車両前方に検知される障害物がなくなった

その後、アダプティブブレーキアシストは解除されます。

PRE-SAFE® 装備車両： アダプティブブレーキアシストが特に高いブレーキ圧を必要としている場合は、予期乗員保護措置 (PRE-SAFE®) が同時に作動します。

約 250 km/h の車両速度までは、検知期間の間に 1 度は検知された動いている障害物にも、アダプティブブレーキアシストは反応することができます。アダプティブブレーキアシストは静止している障害物には反応しません。

レーダーセンサーシステムの故障によりアダプティブブレーキアシストが作動しない場合は、ブレーキシステムは完全なブレーキ倍力効果および BAS とともに作動可能なままになります。

特に以下の状況では、障害物の検知が困難になります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 雪または激しい雨が降っている
- 他のレーダー発生源による干渉がある
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起こっている
- オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行している
- 先行車両が他の車線を走行している
- 新車または CPA (衝突警告システム) プラスのメンテナンス後

慣らし運転の項目にある注意事項に注意してください (p. 160 ページ)。

車両のフロント部分が損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を受けてください。これは、低速走行時の衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。

CPA (衝突警告システム) プラス


全体的な注意事項

CPA (衝突警告システム) プラスは、ディストロニック装備車両でのみ作動します。

CPA (衝突警告システム) プラスは、自動ブレーキ機能により CPA (衝突警告システム) の機能を拡張したものです。CPA (衝突警告システム) プラスは、先行車両との追突事故の危険性を最小限にしたり、そのような衝突の影響を低減させることで運転者を支援します。CPA (衝突警告システム) プラスが衝突の危険があることを検知した場合は、視覚的および聴覚的に警告が発せられます。危険な状況では、CPA (衝突警告システム) プラスは自動ブレーキも行ないません。

機能

▶ **設定/解除する**：マルチファンクションディスプレイでCPA（衝突警告システム）プラスを設定または解除します（▶ 241 ページ）。

CPA（衝突警告システム）プラスが解除されている場合は、のシンボルがアシスト一覧表示に表示されます。

運転席のシートベルトが着用されている場合は、7 km/h～200 km/hの速度域内で、CPA（衝突警告システム）プラスは自動的にブレーキを効かせることができます。

7 km/h～30 km/hの速度域内では、CPA（衝突警告システム）プラスは静止物に対しても自動ブレーキで反応することができます。

PRE-SAFE®装備車両：CPA（衝突警告システム）プラスの自動ブレーキ機能が強力に介入した場合は、予期乗員保護措置（PRE-SAFE®）が同時に作動します。特に以下のときは、障害物の検知が困難になります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 雪または激しい雨が降っている
- 他のレーダー発生源による干渉がある
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射が起きている
- オートバイのような幅が狭い車両が前方を走行している
- 先行車両が他の車線を走行している
- 新車またはCPA（衝突警告システム）プラスのメンテナンス後
慣らし運転の項目にある注意事項に注意してください（▶ 160 ページ）。

車両のフロント部分が損傷した後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を受けてください。これは、低速走行時の

衝突で車両のフロント部分に目に見える損傷がない場合にも当てはまります。

アダプティブブレーキランプ

アダプティブブレーキライトは緊急ブレーキ状態で以下のように後続の車両に警告します。

- ブレーキランプの点滅
- 非常点滅灯が作動

約 50 km/h 以上の速度から車両に急ブレーキを効かせた場合、またはBASまたはBASプラス（ブレーキアシストプラス）によりブレーキ操作が支援された場合は、ブレーキランプが素早く点滅します。このようにして、より注意を引きやすい方法で後方の車両に警告を行いません。

約 70 km/h 以上の速度で停止するまで急ブレーキを効かせた場合は、非常点滅灯が自動で作動します。再度ブレーキを効かせると、ブレーキランプが点灯し続けます。非常点滅灯は、約 10 km/h 以上で走行すると自動的に消灯します。非常点滅灯スイッチ（▶ 127 ページ）を押して、消灯させることもできます。

ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）

全体的な注意事項

i "重要な安全上の注意"を遵守してください。（▶ 72 ページ）

ESP®は走行安定性およびトラクション（タイヤおよび路面の間の動力伝達）をモニターします。

ESP®は、車の走行ラインが運転者の望む進行方向から外れていると判断すると、1本または複数のタイヤにブレーキを効かせ、車の走行姿勢を安定させます。また、エンジン出力を調整して、物理的限

界内で運転者の意志に沿った方向に車の向きを保つように作動します。ESP®は、濡れた路面や滑りやすい路面での発進操作をアシストします。また、ESP®はブレーキ時の車の姿勢も安定させることができます。

4ETS (エレクトロニック・トラクション・サポート)

i "重要な安全上の注意事項" の項目を遵守してください (▷ 72 ページ)。

4ETS トラクションコントロールは、ESP®の一部です。

ETS は、駆動輪が空転したときに、駆動輪に個別にブレーキを効かせます。これにより、片側が滑りやすい路面などの滑りやすい路面での発進や加速を可能にします。さらに、駆動力のある 1 本または複数の車輪にさらなる走行トルクが伝達されます。

ESP®を解除しても、ETS は作動します。

ETS/4ETS (エレクトロニック・トラクション・サポート)

i "重要な安全上の注意事項" の項目を遵守してください (▷ 72 ページ)。

4ETS トラクションコントロールは、ESP®の一部です。

ETS は、駆動輪が空転したときに、駆動輪に個別にブレーキを効かせます。これにより、片側が滑りやすい路面などの滑りやすい路面での発進や加速を可能にします。さらに、駆動力のある 1 本または複数の車輪にさらなる走行トルクが伝達されます。

ESP®を解除しても、ETS は作動します。

オフロード 4ETS (エレクトロニック・トラクションシステム)

オフロードの地形に特別に適した 4ETS システムは、オフロードプログラムが作動すると自動的に設定されます (▷ 210 ページ)。

重要な安全上の注意事項

警告

ESP®が故障している場合は、ESP®は車両を安定させることはできません。さらに、他の走行安全装備はオフになります。これにより、横滑りや事故の危険性が高くなります。

注意して運転してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

! 電気式パーキングブレーキをブレーキダイナモメーターでテストしているときは、イグニッションをオフにしてください。さもないと、ESP® によるブレーキの作動により、ブレーキシステムを破壊することがあります。


! 4MATIC 装備車両：電気式パーキングブレーキをダイナモメーターを使用してテストしているときは、イグニッションをオフにしてください。



さもないと、ESP® によるブレーキの作動により、ブレーキシステムを破壊することがあります。

! 4MATIC 装備車：機能または性能テストは 2 軸ダイナモメーターでのみ実行します。そのようなダイナモメーターで車両を操作する前に、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。駆動系またはブレーキシステムが損傷するおそれがあります。

! 4MATIC 装備車は、前輪または後輪を持ち上げた状態でけん引しないでください。

4MATIC 装備車両：両アクスルを接地させて車両をけん引するときは、ESP®の注意事項を遵守することが重要です (▶ 354 ページ)。




エンジンがかかっているときにメーターパネルのESP®解除警告灯  が点灯し続ける場合は、ESP®が解除されています。

ESP®警告灯  および ESP®解除警告灯  が点灯し続けるときは、故障によりESP®が作動していません。

警告灯 (▶ 293 ページ) およびメーターパネルに表示されるディスプレイメッセージ (▶ 253 ページ) に関する情報を遵守してください。

以下のときは、故障および警告メッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

- エンジンをかけた状態で立体駐車場などのターンテーブルで車両を回転させた、または
 - 立体駐車場に進入するときなど、長くて狭いらせん状の走行路を走行した
- 以下のような警告灯も点灯することがあります。


- ESP®警告灯 
 - ESP®解除警告灯 
 - ABS 警告灯 
- ▶ 道路や交通状況に注意しながら、車両を停止します。
 - ▶ エンジンを停止します。
 - ▶ イグニッションをオフにします。
 - ▶ エンジンを再始動してください。一定時間後に、メッセージが消え、警告灯が消灯します。消灯しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場 で原因を調査してください。

i 推奨されたタイヤサイズの車輪のみを使用してください。そのときにのみ、ESP®は正しく機能します。

ESP®の特性

全体的な注意事項

走行を開始する前にESP 警告灯  が消灯した場合は、ESP®が自動的に設定されています。

ESP®が作動した場合は、メーターパネルのESP®警告灯  が点滅します。

ESP®が作動した場合：

- ▶ どのような状況でもESP®を解除しないでください。
- ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。
- ▶ 実際の道路や天候の状況に適するように運転スタイルを合わせてください。

ECO スタートストップ機能

ECO スタートストップ機能は、車両が停止すると自動的にエンジンを停止します。再度発進するときは、エンジンは自動的に始動します。ESP®は、以前の設定状況のままになります。**例：**エンジンを停止する前にESP®が解除されていた場合は、エンジンを再度始動したときにESP®は解除されたままになります。

ESP®の解除/設定 (AMG 車両を除く)

重要な安全上の注意事項

以下のESP®の状態を選択することができます：

- ESP®が作動している
- ESP® の機能が解除されている

⚠ 警告

ESP®を解除すると、ESP®は車両を安定させなくなります。横滑りや事故の危険が高まります。

以下に記載された状況でのみ ESP®を解除してください。

以下の状況では、ESP®を解除したほうが良いことがあります。

- スノーチェーンを装着しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂地や砂利道を走行するとき

i 上記の状況でなくなったら、ただちに ESP®を待機状態にしてください。そうしないと車が横滑りしたり車輪が空転し始めたときに、ESP®の機能で車の走行姿勢を安定させることができません。

ESP®の解除/作動

マルチファンクションディスプレイ経由で ESP®を解除または作動させることができます。


▶ 解除する： (p 241 ページ)

メーターパネルの ESP® オフ表示灯


 が点灯します。

▶ 作動させる： (p 241 ページ)

メーターパネルの ESP® オフ表示灯

 が消灯します。

ESP®の機能が解除されているときの特性

ESP®を解除しているとき 1 本または複数の車輪が空転し始めると、メーターパネルの ESP®表示灯  が点滅します。このような状況では、ESP®は車両を安定させません。

ESP®を解除すると、以下ようになります。

- ESP®は作動せず、走行安全性を高めることはできなくなります。
- エンジントルクの制御は行なわれなくなり、駆動輪が空転することがあります。
- やわらかい路面でホイールが空転した場合は、エンジンの出力制御により駆動力の確保が行なわれます。
- トラクションコントロールは引き続き作動します。
- ブレーキを踏むと、ESP®は自動的に作動します。

ESP®の解除/設定 (AMG 車両)**重要な安全上の注意事項**

i "重要な安全上の注意事項" の項目を遵守してください (p 72 ページ)。

以下の ESP®の状態を選択することができます：

- ESP®を設定する。
- スポーツハンドリングモードに設定する。
- ESP®を解除する。

⚠ 警告

スポーツモードが作動しているときは、横滑りおよび事故の危険が高まります。以下に記載されている状況でのみスポーツモードを作動してください。

⚠ 警告

ESP®を解除すると、ESP®は車両を安定させなくなります。横滑りや事故の危険が高まります。

以下に記載された状況でのみ ESP®を解除してください。

以下のような状況では、スポーツハンドリングモードに設定するか、ESP®を解除した方が走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを使用しているとき
- 深い雪で
- 砂地または砂利道で
- 車両のオーバーステアやアンダーステア特性が求められる特別に設計された道路で


スポーツハンドリングモードでの、またはESP®なしでの走行は、非常に熟練した、経験豊富な運転者を必要とします。


i 上記に記載されている状況でなくなったら、ただちにESP®を設定してください。さもないと、車両が横滑りしたり車輪が空転し始めたときに、ESP®が車両を安定させることができません。

ESP®の解除/設定





- ▶ **スポーツハンドリングモードに設定する**：スイッチ ① を軽く押します。メーターパネルのハンドリングモード警告灯 **SPORT** が点灯します。マルチファンクションディスプレイに **SPORT handling mode** というメッセージが表示されます。
- ▶ **スポーツハンドリングモードを解除する**：スイッチ ① を軽く押します。メーターパネルのハンドリングモード警告灯 **SPORT** が消灯します。


▶ **ESP®を解除する**：メーターパネルのESP®解除警告灯  が点灯するまで、スイッチ ① を押します。

マルチファンクションディスプレイに  **OFF** というメッセージが表示されます。

▶ **ESP®を設定する**：スイッチ ① を軽く押します。

メーターパネルのESP®解除警告灯  が消灯します。マルチファンクションディスプレイに  **ESP®ON** というメッセージが表示されます。

スポーツハンドリングモードに設定しているときの特性

スポーツハンドリングモードに設定していて、1本以上の車輪が空転し始めた場合は、メーターパネルのESP®警告灯  が点滅します。ESP®は限られた程度までのみ車両を安定させます。


スポーツハンドリングモードに設定しているとき：

- ESP®は限られた程度までのみ走行安定性を向上させます。
- トラクションコントロールは引き続き作動します。
- 限られた程度までエンジントルクが制限され、駆動輪が空転することがあります。

やわらかい路面では、掘る動作につながる車輪の空転により、駆動力が向上します。

- ブレーキを効かせたときは、ESP®は引き続き支援を行ないません。

ESP®が解除されているときの特性

ESP®が解除されていて、1本以上の車輪が空転し始めた場合は、メーターパネルのESP®警告灯  は点滅しません。このような状況では、ESP®は車両を安定させません。

ESP®を解除した場合は：

- ESP®は走行安全性を向上させなくなります。
- エンジントルクは制限されなくなり、駆動輪が空転することがあります。やわらかい路面では、掘る動作につながる車輪の空転により、駆動力が向上します。
- トラクションコントロールは引き続き作動します。
- PRE-SAFE®は作動しなくなり、ブレーキを強く効かせ、ESP®が作動した場合でも作動しません。
- CPA（衝突警告システム）は使用できなくなります。ブレーキを強く効かせ、ESP®が作動した場合でも作動しません。
- ブレーキを効かせたときは、ESP®は引き続き支援を行いません。

オフロード ESP®

オフロードプログラム を作動させると、オフロード地形に特に適した ESP®システムが自動的に作動します(▷ 210 ページ)。

オーバーステアリングまたはアンダーステアリングがある場合は、オフロード ESP® は遅れて作動し、これにより駆動力が高まります。

EBD（エレクトロニック・ブレーキパワーディストリビューション）

全体的な注意事項

EBD は、後輪のブレーキ圧をモニターしてコントロールを行ない、ブレーキ時の走行安全性を高めます。

重要な安全上の注意事項

i 走行安全装備の"重要な安全上の注意"を遵守してください(▷ 72 ページ)。

⚠ 警告

EBD が故障した場合には、急ブレーキ時には後輪がロックすることがあります。これにより、横滑りして事故が起きる危険性が高くなります。

操縦性の変化に応じて慎重に運転してください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのブレーキシステムの点検を受けてください。

表示および警告灯(▷ 291 ページ) およびディスプレイメッセージ(▷ 257 ページ)に関する情報を遵守してください。

アダプティブブレーキ

アダプティブブレーキは、ブレーキ時の安全性を高めるとともに、さらに快適なブレーキ操作をもたらします。ブレーキ機能に加えて、アダプティブブレーキはホールド機能(▷ 205 ページ)およびヒルスタートアシスト機能(▷ 162 ページ)も備えています。詳しくは、運転のヒントをお読みください(▷ 185 ページ)。

ステアコントロール

全体的な注意事項

ステアコントロールは、車両を安定させるために必要な向きの操舵力をステアリングに伝達することにより運転者を支援します。

操舵支援は、特に以下で行なわれます。

- ブレーキ時に、両方の右側車輪または両方の左側車輪が濡れた、または滑りやすい路面にある。
- 車が横滑りを始めた。

重要な安全上の注意事項

以下の場合、ステアコントロールからのステアリング支援はありません：

- ESP®が故障している
- ステアリングが故障している

ただし、パワーステアリングは作動し続けます。

盗難防止警報システム

イモビライザー

イモビライザーは、正規のキー以外ではエンジンを始動させない盗難防止装置です。

- ▶ **作動させる**： エンジンスイッチからキーを取り外します。
- ▶ **解除する**： エンジンをかけます。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。有効なキーが車内に残されていると、誰かがエンジンを始動するおそれがあります。

i イモビライザーは、エンジンを始動すると解除されます。

ATA（盗難防止警報システム）





▶ **待機状態にする**： キーで車両を施錠します。
表示灯 ① が点滅します。約 15 秒後に、警報システムが待機状態になります。

- ▶ **解除する**： キーで車両を解錠します。または
- ▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

システムが待機状態で以下を開いた場合は、視覚的および聴覚的な警報音が発せられます。

- エマージェンシーキーでの車両の解錠
- ドア
- テールゲート
- ボンネット

▶ **警報を停止させる**： エンジンスイッチにキーを差し込みます。
警報が停止します。

- または
- ▶ キーの  または  スイッチを押します。
警報が停止します。

たとえば、警告を作動させた開いたドアを閉じて、警報は停止しません。

けん引防止機能

機能

けん引防止機能が待機状態のときに車両の傾きが変化した場合は、聴覚的および視覚的な警報が発せられます。例えば、ジャッキアップなどにより車両の片側が持ち上げられたときに警報が作動します。

設定する

- ▶ 以下のことを確認してください。

- ・ドアが閉じている
 - ・テールゲートが閉じている
- この後のみ、けん引防止機能が待機状態になります。

- ▶ キーで車両を施錠します。
約 60 秒後に、けん引防止機能は待機状態になります。

解除する

- ▶ キーで車両を解錠します。
または
- ▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。
けん引防止機能は自動的に解除されます。

解除する



- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が短時間点灯します。
- ▶ キーで車両を施錠します。
けん引防止機能が解除されます。

けん引防止機能は、以下のときまで解除されたままになります。

- ・車両を再度解錠する
- ・ドアを開いて、再度閉じる
- ・車両を再度施錠する

誤った警告を防止するため、以下のような状況で車両を施錠する場合は、けん引防止機能を解除してください。

- ・けん引される
- ・カーフェリーまたは車両運搬車などに積載する
- ・立体駐車場などの可動面に駐車する

室内センサー

機能

室内センサーが待機状態のときに車内で動きが検知された場合は、視覚的および聴覚的な警報が発せられます。誰かが車内に手を伸ばした場合などに起こり得ます。

設定する

- ▶ 以下のことを確認してください。
 - ・サイドウィンドウが閉じている
 - ・パノラミックスライディングルーフが閉じている
 - ・ルームミラーやルーフトリムのグリップハンドルにマスコットなどの物が掛かっていない
 このことは、警報の誤作動を防ぎます。
- ▶ 以下のことを確認してください。
 - ・ドアが閉じている
 - ・パノラミックスライディングルーフが閉じている
 - ・テールゲートが閉じている
 この場合にも、室内センサーは待機状態になります。
- ▶ キーで車両を施錠します。
約 30 秒後に、室内センサーが待機状態になります。

解除する

- ▶ キーで車両を解錠します。
- または
- ▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。
室内センサーが自動的に解除されます。

解除する



- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が素早く続けて数回点滅します。
- ▶ キーで車両を施錠します。
室内センサーが解除されます。

室内センサーは以下のときまで解除され
たままになります。

- 車両を再度解錠する
- ドアを開いて、再度閉じる
- 車両を再度施錠する

誤った警報を防止するため、以下のよう
な状況で車両を施錠する場合は、室内セ
ンサーを解除してください。

- 車内に人や動物が残ったままである
- パノラミックスライディングルーフが
開いたままである
- サイドウィンドウが開いたままである

役に立つ情報	88
キー	88
ドア	93
ラゲッジルーム	96
サイドウインドウ	100
パノラミックスライディングルー フ	103

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご覧ください。(▷ 25 ページ)

キー

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

子供だけを車内に残した場合、下記のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行い、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さないでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ 警告

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に

子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

⚠ 警告

キーに、重い物や大きなアクセサリ等を付けていると、エンジンスイッチのキーが不意にまわるおそれがあります。そのため、エンジンが停止するおそれがあります。事故の危険性があります。

キーには重い物や大きなアクセサリ等を付けないでください。操作の邪魔になるアクセサリ等は、エンジンスイッチにキーを差し込む前に取り外してください。

! 強い磁場を発生する物の近くにキーを保管しないでください。磁場の影響で、リモコン機能が正常に機能しなくなるおそれがあります。

強い磁場は、強力な電気設備の近くで発生します。

以下にはキーを近づけないでください。

- 携帯電話や他のキーなどの電子機器
- 硬貨や金属片などの金属物
- 金属ケースなどの金属物の内部

キーの機能



- ① 車両を施錠する
- ② テールゲートを開く
- ③ 車両を解錠する

▶ **集中解錠する**：スイッチ ③ を押し
ます。

解錠して約 40 秒 以内に車両を開かない
場合は：

- 車両を再度施錠する
- 盗難防止警報システムが再び待機状態
になります

▶ **集中施錠する**：スイッチ ① を押し
ます。

キーにより、以下が集中施錠/解錠されま
す：

- ドア
- テールゲート
- 燃料給油口フラップ

解錠したときは、方向指示灯が 1 回点滅
します。施錠したときは、3 回点滅しま
す。



① マルチファンクションディスプレイ
で設定してある場合は、周囲が暗いとき
にロケイターライティングが点灯します
(▶ 245 ページ)。



② 車両が施錠されたことを確認できる、
確認音を設定することもできます。確認
音は、マルチファンクションディスプレ
イを使用して、設定および解除するこ
とができます (▶ 247 ページ)。

▶ **テールゲートを自動的に開く**：テール
ゲートが開くまで、スイッチ ② を押し
ます (▶ 97 ページ)。

ロックシステムの設定変更

ロックシステムの設定を変更することが
できます。車両を解錠すると運転席のド
アと燃料給油口のみが解錠されます。運
転者 1 人で乗ることが多い場合は、この
設定が便利です。


▶ **設定を変更する**： および  ス
イッチを電池表示灯 (▶ 91 ページ)
が 2 回点滅するまで押して保持します。


③ 車両の信号範囲内でロックシステ
ムの設定を変更したときは、 または
 スイッチを押すと、以下になりま
す。



- 車の施錠
- 車の解錠

キーは以下のように作動します。

▶ **運転席ドアを解錠する**： ボタンを
1 回押します。

▶ **すべてを解錠する**： ボタンを 2 回
押します。

▶ **すべてを施錠する**： ボタンを押し
ます。

▶ **工場出荷時の設定に戻す**：バッテリー
チェックランプが 2 回点滅するまで、
 および  スイッチを約 6 秒間
同時に押して保持します (▶ 91 ペ
ージ)。

エマージェンシーキー

全体的な注意事項

キーで車両を解錠できなくなった場合は、
エマージェンシーキーを使用してくださ
い。

エマージェンシーキーで運転席ドアを解
錠して開くと、盗難防止警報システムが
作動します (▶ 83 ページ)。

警報を停止するためには、いくつかの方法があります。

▶ キーの  または  スイッチを押します。

または

▶ エンジンスイッチにキーを差し込みます。

エマージェンシーキーで車両を解錠しても、燃料給油口フラップは自動的に解錠されません。

▶ **燃料給油口フラップを解錠する**： エンジンスイッチにキーを差し込みます。

エマージェンシーキーの取り外し



▶ ロック解除スイッチ①を矢印の方向に押し、同時にエマージェンシーキー②をキーから取り外します。

詳細情報は、以下をご覧ください。

- 運転席ドアの解錠 (▷ 95 ページ)
- ラゲッジルームの解錠 (▷ 99 ページ)
- 車両の施錠 (▷ 95 ページ)

エマージェンシーキーの挿入

▶ ロックされ、ロック解除スイッチ①が元の位置に戻るまで、エマージェンシーキー②をキーに完全に押し込みます。

キーの電池

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。電池を飲み込んでしまうと、深刻な健康上の問題を引き起こすことがあります。致命的なけがをするおそれがあります。

電池は子供の手の届かないところに置いてください。電池を飲み込んでしまった場合は、ただちに医師の診察を受けてください。

♻ 環境保護に関する注意



電池には環境汚染物質が含まれています。電池を家庭用ゴミとして廃棄することは法律で禁じられています。使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。



電池は環境に配慮した方法で廃棄してください。使用済みの電池は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお持ちいただくか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

電池の交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことを、メルセデス・ベンツは推奨します。

電池の点検



- ▶ または スイッチを押します。バッテリーチェックランプ ① が短時間点灯した場合は、電池は正常に作動しています。

バッテリーチェックランプ ① が短時間点灯しない場合は、電池が放電しています。

- ▶ 電池を交換してください (▶ 91 ページ)。

i または スイッチを押して、車両の信号受信範囲内でキーの電池を点検した場合は、以下になります：

- 施錠されます、または
- 車両が解錠されます

i 電池はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で入手することができます。

電池の交換

CR 2025 3V の電池が必要です。

- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▶ 89 ページ)。



- ▶ エマージェンシーキー ② をキーの開口部に差し込み、電池トレイのカバー ① が開くまで矢印の方向に押します。そうしている間は、カバー ① を抑えないようにしてください。

- ▶ 電池トレイのカバー ① を取り外します。



- ▶ 電池 ③ が落ちるまで、手のひらでキーを繰り返したたきます。

- ▶ プラス面が上を向くようにして、新しい電池を差し込みます。このときは、毛羽立ちのない布を使用してください。





- ▶ 電池の表面に糸くず、脂分、他の汚れがないことを確認してください。

- ▶ 最初に電池トレイカバー ① 前部の凸部を本体に差し込み、押しつけて閉じます。

- ▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます (▶ 89 ページ)。

- ▶ 車両で、キーのすべてのスイッチの機能を確認します。

キーのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
キーで車を施錠 / 解錠できない。	<p>キーの電池が消耗している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ キーのリモコン機能を使用して再度車両の施錠 / 解錠を行なってください。キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から  /  スイッチを押します。 <p>それでも施錠 / 解錠できないとき</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください。(▶ 91 ページ) ▶ エマージェンシーキーで車を施錠 (▶ 95 ページ) または解錠 (▶ 95 ページ) してください。 <p>強い電波などの干渉を受けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ キーのリモコン機能を使用して再度車両の施錠 / 解錠を行なってください。キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から  /  スイッチを押します。 <p>キーが故障している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ エマージェンシーキーで車を施錠 (▶ 95 ページ) または解錠 (▶ 95 ページ) してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーを紛失した。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、紛失したキーを無効にしてください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であれば、キーシリンダーも交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であれば、キーシリンダーも交換してください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
キーによるエンジン始動ができない。	<p>バッテリーの電圧が低下している</p> <p>▶ シートヒーター、ルームライトなどの必ず必要としない電気装備を停止してから、再度エンジン始動操作を行なってください。</p> <p>それでも施錠 / 解錠できないとき</p> <p>▶ スターターバッテリーを点検し、必要であれば交換してください。(▶ 345 ページ)</p> <p>または</p> <p>▶ ジャンプスタートを行なってください。(▶ 349 ページ)</p> <p>または</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。</p>
キーによるエンジン始動ができない。	<p>ステアリングロックが機械的にかかっている。</p> <p>▶ エンジンスイッチからキーを抜き、再度差し込んでください。このとき、ステアリングを左右に回してください。</p>

ドア

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

子供だけを車内に残した場合、下記のおそれがあります。

- ドアを開くことにより他人や、他の道路使用者を危険にさらす。
- 車両から出て他の走行車両にぶつかる。
- 車両の装備を操作するなどして、挟まれる。

また、以下のような操作を行い、車両を動かす場合もあります。

- パーキングブレーキの解除
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンの始動

事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供や動物を車内に残さな

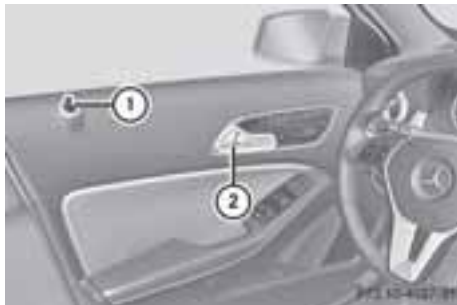
いでください。キーは子供の手の届かないところに保管してください。

⚠ 警告

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

荷物や貨物は、なるべくラゲッジルームに収納してください。荷物の積み方(▶ 304 ページ)をお守りください。

車内からドアを解錠して開く



- ▶ ドアハンドル ② を引きます。
ドアが施錠されている場合は、ロックノブ ① が上がります。ドアが解錠され開きます。

施錠されている場合でも、車内からドアを開くことができます。

すでにキーで車両が施錠されている場合は、車内からドアを開くと盗難防止警報システムが作動します。警報を停止してください (▶ 83 ページ)。

チャイルドブルーロックによりロックされていない場合に、車内からリアドアを開くことができます (▶ 71 ページ)。

車内からの車両の集中施錠および解錠

車内から車両を集中施錠または解錠できます。これは、発進前に車両を施錠したい場合などに便利です。



- ▶ 解錠する：スイッチ ① を押します。
- ▶ 施錠する：スイッチ ② を押します。
すべてのドアおよびテールゲートが閉じている場合は、車両が施錠されます。

燃料給油口フラップは施錠または解錠されません。

キーで車両が施錠されている場合は、車内から車両を集中解錠することはできません。

施錠されている場合でも、車内からドアを開くことができます。

すでにキーで車両が施錠されている場合は、車内からドアを開くと盗難防止警報システムが作動します。警報を停止してください (▶ 83 ページ)。

チャイルドブルーロックによりロックされていない場合にのみ、車内からリアドアを開くことができます (▶ 71 ページ)。

ロックされているドアが車内から開けられた場合、それまでの解除処理は車両が以下のとき遵守されます。

- セントラルロックのロックスイッチを使用して車両が施錠がされている、または
- 自動的に施錠されている

あらかじめ完全に解錠されていた場合は、車両は完全に解錠されます。あらかじめ運転席ドアのみが解錠されていた場合は、車内から開いたドアのみが解錠されます。

車速感応ドアロック



- ▶ **解除する**：確認音が鳴るまで、スイッチ ① を約 5 秒間押し続けて保持します。
- ▶ **設定する**：確認音が鳴るまで、スイッチ ② を約 5 秒間押し続けて保持します。

i 2つのスイッチのうちのいずれかを押し続けて確認音が聞こえない場合は、その設定がすでに選択されています。

イグニッションがオンで車輪が回転したときは、車両は自動的に施錠されます。そのため、以下の場合は閉め出されるおそれがあります。

- 車両が押される
- 車両がけん引される
- ダイナモメーターで車両をテストする

車速感応ドアロックは、マルチファンクションディスプレイを使用して、設定/解除することもできます (▶ 246 ページ)。

運転席ドアの解錠 (エマージェンシーキー)

キーで車両を解錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用してください。

エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します (▶ 83 ページ)。

- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▶ 89 ページ)。
- ▶ 運転席ドアのキーシリンダーに、エマージェンシーキーをいっぱいまで差し込みます。



- ▶ エマージェンシーキーを反時計回りにまわして、**1** の位置にします。運転席ドアが解錠されます。

i 右ハンドル車両では、エマージェンシーキーを時計回りにまわします。

- ▶ エマージェンシーキーをまわして戻し、抜きます。
- ▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます (▶ 89 ページ)。

車両の施錠 (エマージェンシーキー)

キーで車両を施錠できなくなった場合は、エマージェンシーキーを使用します。

- ▶ 運転席ドアを開きます。
- ▶ 助手席ドア、リアドアおよびテールゲートを閉じます。
- ▶ ロックスイッチ (▶ 94 ページ) を押します。
- ▶ 助手席ドアとリアドアのロックノブがまだ見えているかどうかを確認します。必要な場合は、手でロックノブを押し下げます。
- ▶ 運転席ドアを閉じます。

- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 89 ページ)。
- ▶ 運転席ドアのキーシリンダーに、エマージェンシーキーをいっぱいまで差し込みます。



- ▶ ① の位置まで、エマージェンシーキーをいっぱいまで時計回りにまわします。
- ❶ 右ハンドル車両では、エマージェンシーキーを反時計回りにまわします。
- ▶ エマージェンシーキーをまわして戻し、抜きます。
- ▶ ドアとテールゲートが施錠されていることを確認します。
- ▶ エマージェンシーキーをキーに差し込みます (▷ 89 ページ)。

❶ 上記のように車両を施錠した場合は、燃料給油口フラップは施錠されません。盗難防止警報システムは待機状態になりません。

ラゲッジルーム

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

燃焼型エンジンは、一酸化炭素などの有毒な排気ガスを排出します。エンジン作動中、とくに走行中にテールゲートが開いていると、排気ガスが車内に入るおそれがあります。中毒を起こすおそれがあります。

テールゲートを開く前に、エンジンをオフにしてください。テールゲートを開いたまま走行しないでください。

⚠ 警告

人、特に子供が長時間極端な温度にさらされている場合は、重大な、または致命的なけがの危険性があります。人、特に子供を付き添うことなく車両に残さないでください。

❶ テールゲートは、上方や後方に大きく開きます。そのため、テールゲートを開くときは、上方や後方に十分なスペースがあることを確認してください。

❶ テールゲートを開いたときの寸法は、「車両データ」の項目にあります (▷ 386 ページ)。

荷物や貨物は、なるべくラゲッジルームに収納してください。荷物の積み方 (▷ 304 ページ) をお守りください。

ラゲッジルーム内にキーを残さないようにしてください。さもないと、閉め出されるおそれがあります。

テールゲートは以下のことができます。

- 車外から手で開閉する
- 車外から自動で開閉する
- 車内から自動で開閉する
- エマージェンシーキーで車内から解錠する

リバーズ機能付テールゲートの障害物検知


自動開閉テールゲート機能装備車両では、テールゲートにリバーズ機能付障害物自動検知が装備されています。自動開閉時にかたい障害物がテールゲートをブロックした、または妨げた場合は、この動作は停止します。閉じている動作中にテールゲートが停止した場合は、テールゲートは自動的に再度少し開きます。リバー

ス機能付障害物自動検知は単なる支援にすぎません。テールゲートを開閉するときの、お客様の注意の代わりになるものではありません。

⚠ 警告

リバース機能は以下では反応しません：

- 小さな指などの、やわらかく、軽く、薄いもの
- 閉じる動作の最後の 8 mm を過ぎてこれらの状況では、誰かが挟まれることをリバース機能が回避できないことを意味しています。けがの危険性があります。閉じているときは、閉じる範囲に身体の一部がないことを確認してください。誰かが挟まれたとき：

- キーの  スイッチを押す、または
- 運転席ドアのリモート操作スイッチを押す、または
- テールゲートのクロー징スイッチ/STOP スイッチを押す、または
- テールゲートのハンドルを引く

車外からの開閉

開く


- ▶ キーの  スイッチを押します。



- ▶ ハンドル ① を引きます。
- ▶ テールゲートを上げます

閉じる



- ▶ ハンドル ① を使用して、テールゲートを引き下げます。
- ▶ ロック部にテールゲートを下げます。
- ▶ 必要な場合は、キーの  スイッチで車両を施錠します。


車外からの自動開閉

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

テールゲートが自動で閉じている間に、身体の一部が挟まれるおそれがあります。さらに、閉じている作動中に、子供などが閉じる範囲に立っていたり、閉じる範囲に入ることがあります。けがの危険性があります。

閉じている作動中は、閉じる範囲の周辺に誰もいないことを確認してください。閉じている作動を停止するためには、以下のオプションのいずれかを使用してください：

- キーの  スイッチを押します。
- 運転席ドアのリモート操作スイッチを押します。
- テールゲートのクロー징スイッチまたは STOP スイッチを押します。
- テールゲートのハンドルを引きます。


! テールゲートは、上方や後方に大きく開きます。そのため、テールゲートを開

くときは、上方や後方に十分なスペースがあることを確認してください。

❶ テールゲートを開いたときの寸法は、「車両データ」の項目にあります(▷ 386 ページ)。

テールゲートを自動的に開く

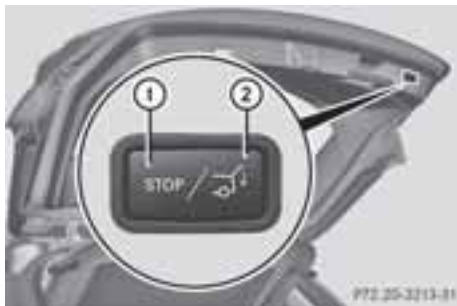
キーまたはテールゲートのハンドルで、テールゲートを自動的に開くことができます。

▶ テールゲートが開くまで、キーの  スイッチを押します。

または

▶ テールゲートが解錠されているときに、テールゲートのハンドルを引き、再度ただちに放します。

テールゲートを自動的に閉じる




▶ **閉じる**：テールゲートのクローザースイッチ ② を押します。

▶ **閉じる動作を中止する**：テールゲートの、ストップスイッチ ① を押します。

または

▶ テールゲートのハンドルを引きます。

または

▶ テールゲートが再度開くまで、キーの  スイッチを押します。

または

▶ 運転席ドアのトランクスイッチを押します。

車内からの自動開閉

全体的な注意事項

❶ テールゲートは、上方や後方に大きく開きます。そのため、テールゲートを開くときは、上方や後方に十分なスペースがあることを確認してください。

❶ テールゲートを開いたときの寸法は、「車両データ」の項目にあります(▷ 386 ページ)。

開閉



車両が停止していて解錠されているときに、運転席からテールゲートを開閉することができます。

▶ **開く**：テールゲートが開くまで、テールゲートのトランクスイッチ①を引きます。

▶ **閉じる**：エンジンスイッチのキーを 1 または 2 の位置にまわします。

▶ テールゲートが完全に閉じるまで、テールゲートのトランクスイッチ①を押します。

閉じている作動中は、警告音が聞こえます。

テールゲートの開口角度の設定

重要な安全上の注意事項

テールゲートの開口角度を制限することができます。開口範囲の上半分で可能です。

テールゲート上に十分なスペースがない場合などに役立ちます。

! 開度を設定するときは、テールゲートを全開するのに十分なスペースがあることを確認してください。テールゲートが損傷する原因になります。開度の設定は屋外で行なうことをお勧めします。

設定する

- ▶ **テールゲートを開く**：テールゲートのハンドルを引きます。
- ▶ **開く動作を希望の位置で停止する**：テールゲート内のクロー징スイッチ (▷ 97 ページ) を押すか、テールゲート外側のハンドルを再度引きます。
- ▶ **位置を記憶させる**：短い確認音が聞こえるまで、テールゲート内のクロー징スイッチを押して保持します。開口角度制限が設定されます。開いたときは、テールゲートは記憶させた位置で停止します。

i テールゲートを完全に開くためには、自動的に停止した後で、テールゲート外側のハンドルを再度引きます。これによって、記憶させた位置が削除されることはありません。

解除する

- ▶ 短い確認音が 2 回聞こえるまで、テールゲート内のクローザースイッチ (▷ 97 ページ) を押して保持します。

テールゲートの非常時の解錠

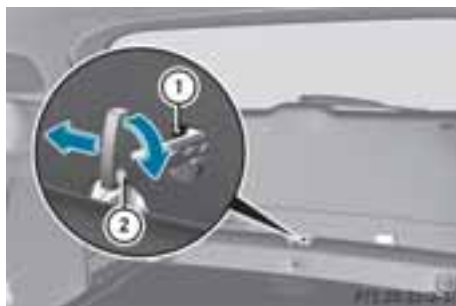
車外からテールゲートを開くことができなくなった場合は、テールゲート内側の非常時の解錠を使用してください。

! テールゲートは、上方や後方に大きく開きます。そのため、テールゲートを開くときは、上方や後方に十分なスペースがあることを確認してください。

i テールゲートを開いたときの寸法は、「車両データ」の項目にあります (▷ 386 ページ)。

ラゲッジルームを通して、非常時の解錠に手を伸ばすことができます。リアのバックレストを前方に倒します (▷ 308 ページ)。

- ▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します (▷ 89 ページ)。



- ▶ エマージェンシーキー ② をトリム ① の開口部にいっぱいまで差し込みます。
- ▶ エマージェンシーキー ② を時計回りに 90° まわします。
- ▶ エマージェンシーキー ② を矢印の方向に押し、テールゲートを開きます。

i 車両を施錠したときは (▷ 95 ページ)、ラゲッジルームも施錠されます。

サイドウィンドウ

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

閉じる部分に身体を近づけていると、サイドウィンドウを閉じる際に挟まれるおそれがあります。けがをする危険があります。

閉じる手順の間は、閉じる部分に身体を近づけないようにしてください。誰かが挟まれたら、スイッチを放すか、あるいはスイッチを押してサイドウィンドウをもう一度開きます。

⚠ 警告

とくに保護者のいない状態で子供を車内に残すと、サイドウィンドウを操作して挟まれるおそれがあります。けがをするおそれがあります。

リアサイドウィンドウのチャイルドブルーロックを作動させます。車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

サイドウィンドウのリバース機能

サイドウィンドウには自動リバース機能が装備されています。自動で閉じている動作中に、かたい障害物がサイドウィンドウが上方に動くことをブロックした、または妨げた場合は、サイドウィンドウは自動的に再度開きます。手で閉じている動作中は、対応するスイッチを放した後にのみ、サイドウィンドウは自動的に再度開きます。オートリバース機能は単なる補助にすぎず、サイドウィンドウを閉じるときの注意の代わるものではありません。

⚠ 警告

リバース機能は以下では反応しません：

- 小さな指などの、やわらかく、軽く、薄いもの
- リセットの間

これらの状況では、誰かが挟まれることをリバース機能が回避できないことを意味しています。けがの危険性があります。閉じているときは、閉じている範囲に身体の一部がないことを確認してください。誰かが挟まれた場合は、スイッチを押して、サイドウィンドウを再度開いてください。

サイドウィンドウの開閉

運転席ドアには、すべてのサイドウィンドウのスイッチがあります。各ドアにも対応するサイドウィンドウのスイッチがあります。

運転席ドアのスイッチが優先されます。



- ① 左フロント
- ② 右フロント
- ③ 右リア
- ④ 左リア

i サイドウィンドウのチャイルドブルーロックが作動しているときは、リアからはサイドウィンドウを操作することはできません (▷ 71 ページ)。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします。
- ▶ **手動で開く**： 対応するスイッチを押して保持します。
- ▶ **完全に開く**： 手応えがあるところを越えるまでスイッチを押し、放します。自動操作が開始します。
- ▶ **手動で閉じる**： 対応するスイッチを引いて保持します。
- ▶ **完全に閉じる**： 手応えがあるところを越えるまでスイッチを引き、放します。自動操作が開始します。
- ▶ **自動開閉を中断する**： 該当するスイッチを再度押すか引きます。

i 手応えがあるところを越えるまでスイッチを押すか引いた場合は、対応する方向で自動操作が開始されます。再びを押すまたは引くことにより、自動操作を停止できます。

i エンジンを停止するか、キーを抜いた後は、サイドウィンドウを操作し続けることができます。5 分間、運転席や助手席ドアを開くまで、この機能は作動したままになります。


コンビニエンスオープニング機能

走行を開始する前に、車両を換気することができます。このときは、キーを使用して以下の機能が同時に行なわれます。


- 車両を解錠する
- サイドウィンドウを開く
- パノラミックスライディンググループと電動ブラインドを開く


i コンビニエンスオープニング機能は、キーでのみ操作することができます。キーは運転席ドアハンドルの近くにしなければなりません。

- ▶ サイドウィンドウおよびパノラミックスライディンググループが希望の位置に

なるまで、 スイッチを押して保持します。

パノラミックスライディンググループの電動ブラインドが閉じている場合は、最初に電動ブラインドが開きます。

- ▶ パノラミックスライディンググループが希望の位置になるまで、再度  スイッチを押して保持します。

- ▶ **コンビニエンスオープニングを中断する**：  スイッチを放します。

コンビニエンススクローリング機能

警告

コンビニエンススクローリング機能が作動している場合、身体の一部がサイドウィンドウおよびスライディンググループの閉じる部分に挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

コンビニエンススクローリング機能进行操作しているときは、最後まで閉じる動作に注意してください。閉じている間は、閉じる部分に身体を近づけないようにしてください。


車両を施錠するときに、同時に以下を行なうことができます。

- サイドウィンドウを閉じる
- パノラミックスライディンググループを閉じる

パノラミックスライディンググループ装備車両では、その後に電動ブラインドを閉じることができます。



i キーは運転席ドアハンドルの近くになければなりません。

- ▶ キーの先端部を運転席ドアハンドルに向けます。
- ▶ サイドウィンドウおよびパノラミックスライディンググループが完全に閉じる

まで、 スイッチを押して保持します。

- ▶ すべてのサイドウインドウおよびパノラミックスライディンググループが閉じていることを確認してください。

パノラミックスライディンググループ装備車両

- ▶ パノラミックスライディンググループの電動ブラインドが閉じるまで、 スイッチを再度押して保持します。
- ▶ **コンビニエンスクロージングを中断する**： スイッチを放します。

サイドウインドウのリセット

以下の場合には各サイドウインドウをリセットしなければなりません。

- 完全に閉じた後にサイドウインドウが再度少し開いた場合
- サイドウインドウを完全に開く、または閉じることができない場合
- ▶ すべてのドアを閉じます。
- ▶ イグニッション位置を **1** または **2** にします。
- ▶ サイドウインドウが完全に閉じるまで、ドア操作パネルの対応するスイッチを引きます(▶ 100 ページ)。
- ▶ さらに数秒間スイッチを引いたまま保持します。

サイドウインドウが再度少し下降したら、以下の操作を行ってください。

- ▶ サイドウインドウが完全に閉じるまで、ただちにドア操作パネルの対応するスイッチを引きます(▶ 100 ページ)。
- ▶ さらに数秒間スイッチを引いたまま保持します。
- ▶ スイッチを放した後サイドウインドウが閉じたままになれば、サイドウインドウのリセットが正しく行なわれている。

ます。そうでない場合は、再度リセット操作を行なってください。

サイドウィンドウのトラブル

⚠ 警告

サイドウィンドウをブロックされたまたはリセットされた後すぐに再度閉じる場合、サイドウィンドウはより大きなまたは最大の力で閉じます。リバー機能は作動しません。この手順のとき、身体の一部を閉じる部分に挟み込まれるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

閉じている間は、身体の一部を閉じる部分に近づけないようにしてください。閉動作を止めるには、スイッチを放すか、サイドウィンドウを再度開くためにスイッチをもう一度押します。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ウィンドウガイドの落ち葉などの障害物によりブロックされているため、サイドウィンドウを閉じることができない。	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 障害物を取り除いてください。 ▶ サイドウィンドウを閉じてください。
サイドウィンドウを閉じることができず、原因がわからない。	<p>閉じている間にサイドウィンドウが妨げられ、再度少し開く場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ウィンドウがブロックされたらただちに、サイドウィンドウが閉じるまで対応するスイッチを再度引きます。強い力でサイドウィンドウが閉じます。 <p>閉じている間にサイドウィンドウが再度妨げられ、再度少し開く場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ウィンドウがブロックされたらただちに、サイドウィンドウが閉じるまで対応するスイッチを再度引きます。挟み込み防止機能なしで、サイドウィンドウが閉じます。

パノラミックスライディンググループ

重要な安全上の注意事項

以下の項目では、「スライディンググループ」という言葉はパノラミックスライディンググループに該当します。

⚠ 警告

スライディンググループを開閉するときに、ルーフの移動範囲に身体を近づけると、はさまれるおそれがあります。けがをすおそれがあります。

開閉操作中は身体を近づけすぎないようにしてください。

はさまれた場合：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動操作中に、どの方向でもスイッチを短時間押します。

開閉手順が中断されます。

⚠ 警告

とくに保護者のいない状態で子供を車内に残すと、スライディンググループを操作

して挟まれるおそれがあります。けがをするおそれがあります。

車両から離れるときは、必ずキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

⚠ 警告

速度が早いとき、上がっているスライディンググループは自動的に後部が下がります。ご自身または乗員を挟み込む可能性があります。けがの危険性があります。車両が走行している間は、スライディンググループの動いている範囲内に誰も近づいていないことを確認してください。

誰かが挟まれた場合は、すぐにスライディンググループスイッチを引いて戻します。開いている動作の間にスライディンググループが上がります。

! パノラミックスライディンググループに雪や氷が付着した状態で操作しないでください。スライディンググループが故障する原因になります。

スライディンググループの開口部から物を出さないようにしてください。スライディンググループのシール部が損傷するおそれがあります。

i スライディンググループが開いているときは、通常の風切り音に加えて共振音のノイズが発生するおそれがあります。これらは、車内の微細な圧力変動によるものです。これらのノイズを低減または除去するためには、スライディンググループの位置を変更するか、サイドウィンドウを少し開いてください。

スライディンググループのリバース機能

スライディンググループには自動リバース機能が装備されています。閉じている動作中に障害物がスライディンググループをブロックした、または妨げた場合は、スライディンググループは自動的に再度開き

ます。オートリバース機能は単なる補助にすぎず、スライディンググループを閉じるときの注意に代わるものではありません。

⚠ 警告

以下のとき、リバース機能は反応しません：

- 小さな指などの、やわらかく、軽く、薄いもの
- 閉じるまで残り 4 mm 以下となったとき
- リセット中
- リバース機能作動のすぐあとに再度手動でスライディンググループを閉じるとき

リバース機能は、これらの状況で挟み込まれることを回避することはできません。けがの危険性があります。

閉動作の間は、閉じる部分に身体を近づけないようにしてください。

挟み込まれたとき：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動閉動作中に、どの方向でもスイッチを押します。

閉動作が停止します。

スライディングルーフの操作

開閉



① チルトアップ

② 開く

③ 閉じる/チルトダウン

▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします。

▶ スイッチを対応する方向へ押すか、または引きます。

i 手ごたえがあるところを越えるまで スイッチを押すか引いた場合は、対応する方向で自動操作が開始されます。再び押す、または引くことにより、自動操作を停止できます。

i スライディングルーフを開いた後、フロントの電動ブラインドが自動的に少し閉じます。これにより、車内への風が減少します。

i スライディングルーフの後部が上がっている場合は、より高い速度になると自動的に少し下がります。結果として、車内の騒音レベルが減少します。

低速で、自動的に再度上がります。

i エンジンを停止するか、キーを抜いた後は、スライディングルーフの操作を続けることができます。この機能は 5 分間、またはフロントドアを開くまで作動したままになります。

i ルーフラックが取り付けられている場合は、スライディングルーフを開くことはできません。車内を換気するために、スライディングルーフをチルトアップすることができます。

メルセデス・ベンツにより承認されたルーフラックに接触した場合は、スライディングルーフは少し下がり、後部が上がったままになります。

エンジンが停止しているときのレインクローズ機能

レインクローズ機能は、レインセンサー装備車両でのみ作動します。

エンジンスイッチのキーが **0** の位置にあるか、または取り外されている場合は、以下のときにスライディングルーフが自動で閉じます。

- 雨が降り始めた場合
- 極端な外気温度の場合
- 6 時間経過後の場合
- 電力供給に故障がある場合

車内を換気するために、スライディングルーフの後部が上がったままになります。

i レインクローズ機能により閉じられたときにスライディングルーフが妨げられた場合は、再び少し開きます。そして、レインクローズ機能が解除されます。

以下の場合、スライディングルーフは閉じません。

- 後部がチルトアップしている
- ブロックされた
- 車両が橋の下などにあるために、レインセンサーによってモニターされているフロントウインドウの範囲に雨が落ちない

走行時のレインクローズ機能

走行時に雨が降り始めた場合は、チルトアップしていたスライディングルーフの後部が自動的に下がります。スライディングルーフは以下に応じて下がります。

- 走行速度および
- 雨滴量

自動的に閉じる動作を手動で中止することができます。[≡] スイッチをいずれかの方向に押すか、または引きます。

スライディングルーフを再度チルトアップするためには、[≡] スイッチを①の方向に押します。レインクローズ機能は作動したままになります。

スライディングルーフの電動ブラインドの操作

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

電動ブラインドの開閉時、身体の一部が電動ブラインドとフレームまたはスライディングルーフ間に挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。開閉動作の間は、身体を電動ブラインドの動いている部分に近づけないようにしてください。

挟み込まれたとき：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動開閉動作中に、どの方向でもスイッチを押します。

開閉動作が停止します。

電動ブラインドは日射しから車内を守ります。スライディングルーフが閉じているときにのみ、2つの電動ブラインドを同時に開閉することができます。

電動ブラインドのリバース機能

電動ブラインドには、自動リバース機能が装備されています。閉じている作動中

に、かたい障害物が電動ブラインドをブロックした、または妨げた場合は、電動ブラインドは自動的に再度開きます。ただし、自動リバース機能は単なる補助にすぎず、電動ブラインドを閉じるときのお客様の注意の代わりになるものではありません。

⚠ 警告

特に、リバース機能は小さな指のように柔らかい、軽いおよび薄いものには反応しません。リバース機能は、これらの状況で挟み込まれることを回避することはできません。けがの危険性があります。閉じている間は、身体の一部を電動ブラインドの動いている範囲内に近づけないようにしてください。

挟み込まれたとき：

- ただちにスイッチを放すか、あるいは
- 自動閉動作中に、どの方向でもスイッチを押します。

閉動作が停止します。


開閉



ルーフオペレーティングユニット





- ① 開く
- ② 開く
- ③ 閉じる

- ▶ エンジンスイッチのキーを 1 または 2 の位置にまわします。
- ▶ [≡] スイッチを対応する方向へ押すか、または引きます。

i 手応えがあるところを越えるまで  スイッチを押すか引いた場合は、対応する方向で自動操作が開始されます。再びを押すまたは引くことにより、自動操作を停止できます。

スライディンググループと電動ブラインドのリセット



スライディンググループや電動ブラインドがスムーズに作動しない場合は、スライディンググループや電動ブラインドをリセットしてください。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします。
- ▶ スライディンググループが完全に閉じるまで、 スイッチを矢印 **③** の方向に手応えがあるところまで繰り返し引きます。
- ▶ 数秒間、 スイッチを引いたまま保持します。
- ▶ 電動ブラインドが完全に閉じるまで、 スイッチを矢印 **③** の方向に手応えがあるところまで繰り返し引きます。
- ▶ 数秒間、 スイッチを引いたまま保持します。
- ▶ スライディンググループ (▶ 105 ページ) および電動ブラインド (▶ 106 ページ) が再度完全に開閉することを確認します。
- ▶ そうでない場合は、上の手順を再度繰り返ししてください。

スライディンググループのトラブル

⚠ 警告

故障または電力供給が遮断された後に電動ブラインドのリセットを行なわない場合、その後リバース機能が不具合をおこしたり、作動しないことがあります。電動ブラインドは、より強い力で閉じます。この手順のとき、閉じる範囲内で身体の一部を挟み込まれるおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。このような場合や似たような状況では、閉じている間は、決して閉じる範囲に身体の一部を近づけないようにしてください。不具合または電圧供給の遮断後は、必ず電動ブラインドをリセットしてください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
スライディンググループを閉じることができず、原因が分からない。	<p>閉じている間にスライディンググループが障害物を検知し、再度少し開いた場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ スライディンググループがブロックされたらただちに、スライディンググループが閉じるまで、手応えがあるところまでオーバーヘッドコントロールパネルの  スイッチを引き下げます。 スライディンググループは、強い力で閉じます。 <p>閉じている間にスライディンググループが再度障害物を検知し、再度少し開いた場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ スライディンググループがブロックされたらただちに、スライディンググループが閉じるまで、手応えがあるところまでオーバーヘッドコントロールパネルの  スイッチを引き下げます。 挟み込み防止機能なしで、スライディンググループが閉じます。

役に立つ情報	110
運転席の適切なシートポジション	110
シート	111
ステアリング	117
ミラー	118
メモリー機能	121

役に立つ情報

❶ この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

❷ メルセデス・ベンツ指定サービス工場
で情報をご覧ください。(▷ 25 ページ)

運転席の適切なシートポジション

⚠ 警告

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを装着する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。



シート調整に関する安全上の注意事項を守ってください(▷ 111 ページ)。

▶ シート ③ が正しく調整されていることを確認してください。

手動シートの調整 (▷ 112 ページ)

パワーシートの調整 (▷ 113 ページ)

シートを調整するときは、以下を確認してください：

- 運転席エアバッグからできるだけ離れている。
- 通常の起こした位置で着座している。
- シートベルトを正しく着用できる。
- ほぼ垂直の位置になるようにバックレストを調整している。
- 大腿部が軽く支えられるようにシートの角度を調整している。
- ペダルを正しく踏むことができる。

▶ ヘッドレストが適切に調整されていることを確認してください (▷ 113 ページ)。

そのときは、ヘッドレストの中央部によって、後頭部が目の高さで支えられていることを確認してください。

ステアリング調整に関する安全上の注意事項を守ってください(▷ 117 ページ)。

▶ ステアリング ① が正しく調整されていることを確認してください。

ステアリングの調整 (▷ 117 ページ)

ステアリングを調整するときは、以下を確認してください。

- 腕に適度な余裕があるまま、ステアリングを握ることができる。
- 足を自由に動かすことができる。
- メーターパネル内のすべての表示が確認できる。

シートベルトに関する安全上のガイドラインを守ってください(▷ 42 ページ)。

▶ シートベルト ② を正しく着用しているかどうかを確認します(▷ 44 ページ)。

シートベルトは、以下のように着用してください。

- 身体に密着させる。
 - 肩の中央をにかかると通っている。
 - 骨盤部分の腰にかかると通っている。
- ▶ 走行する前に、ルームミラーとドアミラー (▶ 118 ページ) を道路と交通状況がよく見える角度に調整してください。
- ▶ **メモリー機能付パワーシート装備車**：シート、ドアミラーの設定 (▶ 121 ページ) を記憶させてください。

シート

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

保護者のいない状態で、お子様がシートを調整すると、挟み込まれる可能性があります。けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない子供を車内に残さないでください。

⚠ 警告

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを装着する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。

⚠ 警告

シートの高さは慎重に調整しないと、挟み込まれて負傷するおそれがあります。とくに子供は、電動シート調整スイッチ

を誤って押ししまい、挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

シートが動いている間は、シート調整システムのレバー部品の下に手や身体などを入れないでください。

⚠ 警告

シートを調整するとき、シートガイドレールなどに挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

シートを調整する場合、身体がシートの動いている部分に触れていないということを確認してください。

⚠ 警告

バックレストをほぼ垂直の位置に動かししていない場合は、シートベルトは意図された保護レベルを発揮しません。ブレーキ時または事故の場合に、シートベルトの下側にもぐり込み、腹部または頸部などがけがを負うおそれがあります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

走行を開始する前に、シートを正しい位置に調整してください。バックレストがほぼ垂直の位置にあり、シートベルトのショルダー部分が肩の中央にかかっていることを常に確認してください。

⚠ 警告

ヘッドレストが合っておらず、正しく調整されていない場合、本来の機能を果たすことができなくなります。これにより、事故またはブレーキ作動時に頭部および首周りにけがをする危険性が高まります。必ずヘッドレストを取り付けた状態で走行してください。走行を開始する前に、ヘッドレストの中央が乗員の目の高さにあることを確認してください。

! シートとシートヒーターの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- シートに液体をこぼさないでください。シートに液体をこぼしたときは、すみやかに乾燥させてください。
- シートカバーが濡れたときは、シートヒーターを使用しないでください。シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- シートカバーを清掃してください。"日常の手入れ"をご覧ください。
- シートの上に重い物を載せないでください。また、シートクッションの上にナイフやくぎ、工具などの鋭利な物を置かないでください。シートはできるだけ人を乗せるためだけに使用してください。
- シートヒーターの使用中は、ブランケットやコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシート、補助シートなどにより、シートを覆わないでください。

! シートの前後位置を調整するときは、足元やシートの下または後方に物が無いことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

i その他の関連事項：

- ラゲッジルームの拡大 (リアシートを倒す) (▶ 308 ページ)

シートの手動調整



シートの前後位置

- ▶ ハンドル ① を持ち上げて、シートを前方または後方にスライドさせます。
- ▶ レバー ① を再度放します。正しい位置でシートが固定された音を確認します。

バックレストの角度

- ▶ バックレストにかかる力を和らげます。
- ▶ ダイヤル ④ を前後にまわします。

シートの高さ

- ▶ ハンドル ③ を希望する高さになるまで繰り返し持ち上げるか、押し下げます。

シートクッションの角度

大腿部が軽く支えられるように、角度を調整します。

- ▶ ダイヤル ② を前後にまわします。

パワーシートの調整



- ① ヘッドレストの高さ 4
 - ② シートクッションの角度
 - ③ シートの高さ
 - ④ シートの前後位置
 - ⑤ バックレストの角度
- ❶ シート位置はメモリー機能 (▶ 121 ページ) で記憶させることができます。

ヘッドレストの調整

⚠ 警告

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを装着する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。

⚠ 警告

ヘッドレストが合っておらず、正しく調整されていない場合、本来の機能を果たすことができなくなります。これにより、事故またはブレーキ作動時に頭部および首周りにけがをする危険性が高まります。

必ずヘッドレストを取り付けた状態で走行してください。走行を開始する前に、ヘッドレストの中央が乗員の目の高さにあることを確認してください。

全体的な注意事項

スポーツシート装備車では、フロントヘッドレストまたは外側リアヘッドレストの調整をすることはできません。

ヘッドレストの手動調整

ヘッドレストの高さ調整



- ▶ **高くする**：ヘッドレストを好みの高さにまで引き上げます。
- ▶ **低くする**：ロック解除スイッチ ① を矢印方向に押し、ヘッドレストを好みの位置に押し下げます。

ヘッドレストの前後位置の調整



この機能を使用して、ヘッドレストと後頭部との間の距離を調整できます。

- ▶ **前方に動かす**：ヘッドレストをかみ合うまで前方に矢印方向に引きます。調節がいくつかあります。
- ▶ **後方に動かす**：ロック解除スイッチ ① を押したままヘッドレストを後方に押しします。
- ▶ ヘッドレストが好みの位置にきたら、スイッチを放し、ヘッドレストが正しくかみ合っていることを確認します。

電動式ヘッドレストの調整

- ▶ **ヘッドレストの高さを調整する**：ヘッドレスト調整用スイッチ (▶ 113 ページ) を矢印の方向に上または下にスライドします。

リアシートのヘッドレスト

リアシートのヘッドレストの高さの調整



- ▶ **高くする**：好みの高さになるまで、ヘッドレストを引き上げます。
- ▶ **低くする**：ロック解除スイッチ ① を押し、好みの位置になるまでヘッドレストを押し下げます。

リアシートのヘッドレストの脱着

⚠ 警告

ヘッドレストが合っておらず、正しく調整されていない場合、本来の機能を果たすことができなくなります。これにより、

事故またはブレーキ作動時に頭部および首周りにけがをする危険性が高まります。必ずヘッドレストを取り付けた状態で走行してください。走行を開始する前に、ヘッドレストの中央が乗員の目の高さにあることを確認してください。

外側リアシートのヘッドレストは取外しおよび取付けができます。スポーツシート装備車では、リアヘッドレストの取外し、取付けをすることはできません。電動ヘッドレストは、取り外せません。電動ヘッドレストの取外しに関する詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。



- ▶ ヘッドレストを取り外すために、シートバックレストを少し前方に倒してください (▶ 308 ページ)。
- ▶ **取り外し**：止まるまでヘッドレストを引き上げます。
- ▶ ロック解除スイッチ ① を押しながら、ヘッドレストを取り付け穴から引き抜きます。
- ▶ **取り付け**：進行方向に見て、支柱の切り欠きが左側になるようにして、ヘッドレストを差し込みます。
- ▶ 所定の位置にロックされる音が聞こえるまで、ヘッドレストを押し下げます。

4方向ランバーサポートの調整

背中を最適にサポートできるように、フロントシートのバックレスト形状を調整できます。



- ① バックレストのサポート位置を上げる
- ② バックレストのサポートを弱くする
- ③ バックレストのサポート位置を下げる
- ④ バックレストのサポートを強くする

AMG パフォーマンスシート

シートの形状を調整し、サイドサポートを改善するために、フロントシートを個別に調整することができます。⁵ 電動調整可能シートのみ可能です。



シートクッションのサイドサポートの調整

- ▶ シートクッションのサイドサポートを狭く設定する：スイッチ ① を押します。
- ▶ シートクッションのサイドサポートを広く設定する：スイッチ ② を押します。

シートバックレストのサイドサポートの調整

- ▶ シートバックレストのサイドサポートを狭く設定する：スイッチ ③ を押します。
- ▶ シートバックレストのサイドサポートを広く設定する：スイッチ ④ を押します。

シートヒーターの作動/停止

作動 / 停止

⚠ 警告

シートヒーターを連続して使用すると、シートクッションおよびバックレストが異常に過熱する原因となります。高温により、温度変化を感知できにくい乗員や、異常な高温に対処できない乗員の健康に悪影響を与えたり、低温火傷を起こすおそれがあります。けがの危険性があります。

したがって、シートヒーターを連続して使用しないでください。



スイッチの3つの赤い表示灯は、選択したレベルを表します。

約8分後に、レベル**3** (強) からレベル**2** (中) へ、システムが自動的に切り替わります。

約10分後に、レベル**2** (中) からレベル**1** (弱) へ、システムが自動的に切り替わります。

レベル**1** に設定した約20分後に、システムが自動的に停止します。

- ▶ エンジンスイッチのキーを**1** または**2** の位置にまわします (▶ 161 ページ)。
- ▶ **作動**：希望のヒーターレベルが設定されるまで、スイッチ①を繰り返し押します。
- ▶ **停止**：すべての表示灯が消灯するまで、スイッチ①を繰り返し押します。

i バッテリー電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。

シートヒーターが作動しないとき

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
シートヒーターが短時間で停止したり、作動しない。	多くの電気装備が作動しているため、バッテリー電圧が非常に低下している。 ▶ リアデフォグガーやルームライトのような、必要のない電気装備を停止してください。 バッテリーが十分に充電されれば、シートヒーターは自動的に作動します。

ステアリング

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

運転中に以下を行うと、車のコントロールを失うおそれがあります：

- 運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングまたはミラーを調整する
- シートベルトを装着する

事故の危険性があります。

エンジンを始動する前に、運転席シート、ヘッドレスト、ステアリングおよびミラーを調整し、シートベルトを装着してください。

⚠ 警告

子供がステアリングを調整するとステアリングに挟まれる可能性があります。けがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

ステアリングの調整

⚠ 警告

車が動いている状態で、ステアリングのロックが解除されている場合、不意に位置が変わるおそれがあります。車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

走行を開始する前に、ステアリングがロックされていることを確認してください。走行中は、決してステアリングのロックを解除しないでください。



- ① ロック解除レバー
- ② ステアリングの上下位置の調整
- ③ ステアリングの前後位置の調整

- ▶ ロック解除レバー①を下方へ完全に押し下げます。
ステアリングコラムのロックが解除されます。
- ▶ ステアリングを好みの位置に調整します。
- ▶ ロック解除レバー①を上方へ完全に押し上げます。
ステアリングコラムがロックされます。
- ▶ ステアリングコラムがロックされていることを確認してください。そのときは、ステアリングを上下方向に押ししてみるか、前後方向に動かしてみます。

ミラー

ルームミラー



- ▶ **防眩モード**：防眩モード切り替えスイッチ ① を前方または後方に操作します。

ドアミラー

ドアミラーの調整

⚠ 警告

ドアミラーに写る像は実際よりも小さく見えます。実際には、ドアミラーで見るよりも近くにありますが、これは、車線を変更する際など、後続の道路使用者との距離感を見誤る可能性があるということです。事故の危険性があります。

そのため、肩越しに直接斜め後方を見て、実際の距離を確認してください。



- ▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします (p. 161 ページ)。
- ▶ 左側ドアミラースイッチ ① または右側ドアミラースイッチ ② を押します。対応するスイッチの表示灯が赤色に点灯します。
しばらくすると、表示灯は再度消灯します。表示灯が点灯している間は、調整スイッチ ③ を使用して、選択したドアミラーを調整できます。
- ▶ ドアミラーが正しい位置に調整されるまで、調整スイッチ ③ を上下または左右に押します。交通状況が良く視認できなければなりません。

凸面のドアミラーにより、より広い視界を確保しています。

エンジンを始動した後に、外気温度が低いときは、ドアミラーが自動的に温められます。最大 10 分温められます。

- ❗ リアデフォグガーを作動させることにより、手動でドアミラーを温めることもできます。

ドアミラーを電動で格納/展開する



- ▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします (p. 161 ページ)。
- ▶ スイッチ ① を軽く押します。左右のドアミラーが格納または展開します。

❶ 走行中は常に、ドアミラーが完全に展開していることを確認してください。さもないと、振動するおそれがあります。

❷ 47 km/h より速く走行している場合は、ドアミラーを格納することはできなくなります。

ドアミラーのリセット

バッテリーの接続が外されたり、完全に放電した場合は、ドアミラーをリセットする必要があります。さもないと、マルチファンクションディスプレイで"施錠時のドアミラー格納"機能が選択されていても、ドアミラーは格納されません(▷ 247 ページ)。

- ▶ エンジンスイッチのキーを 1 の位置にまわします(▷ 161 ページ)。
- ▶ スイッチ ① を軽く押します。

ドアミラーを自動で格納 / 展開する

マルチファンクションディスプレイで"施錠時のドアミラー格納"機能が設定されている場合(▷ 247 ページ)：

- 車外から車両を施錠するとすぐに、ドアミラーは自動的に格納されます。
- 車両を解錠し、運転席ドアまたは助手席ドアを開くと、ドアミラーは自動的に展開します。

❶ 手でドアミラーを格納した場合は、展開しません。

ドアミラーが所定の位置から押し出されたとき

ドアミラーが所定の位置から押し出された場合(前方または後方)は、以下のように進めてください。

- ▶ **電動格納式ドアミラー非装備車**：手で正しい位置にドアミラーを動かします。
- ▶ **電動格納式ドアミラー装備車**：噛み合う音が聞こえ、ミラーが正しい位置に固定されるまでドアミラー格納 / 展開スイッチ(▷ 118 ページ)を押したままにします。
ミラーハウジングは再度固定され、通常通りドアミラーを調整できます(▷ 118 ページ)。

自動防眩ミラー

"自動防眩ミラー"機能は、車両が"ミラーパッケージ"を装備している場合のみ使用できます。

以下の場合、ルームミラーと運転席側ドアミラーの自動防眩機能が作動します。

- エンジンスイッチがオン
- 後続車のライトがルームミラーのセンサーに当たる

シフトポジションがリバースのとき、またはルームライトが点灯しているときは、自動防眩機能は解除されます。

パーキングポジション機能付ドアミラー (助手席側)

全体的な注意事項

"リバースポジション機能付ドアミラー(助手席側)"機能は、車両が"メモリパッケージ"を装備している車両のみが使用できます。

駐車位置の設定と記憶

リバースギアを使用して

リバースギアに入れたときに、後輪が見えるように助手席側ドアミラーを設定できます。その位置を記憶させることができます。



- ▶ 車両が停止していることを確認してください。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▶ 161 ページ)。
- ▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ **②** を押します。
- ▶ リバースギアに入れます。
助手席側ドアミラーの角度が、あらかじめ記憶させていた角度になります。
- ▶ ドアミラーを調整するため、調整スイッチ **③** を使用してください。ドアミラーからリアホイールと歩道が見えている必要があります。
駐車位置が記憶されます。

i トランスミッションを他の位置にシフトした場合は、助手席側ドアミラーは走行時の角度に戻ります。

メモリースイッチを使用して

リバースギアに入れたときに、後輪が見えるように助手席側ドアミラーを設定できます。この設定は、メモリースイッチ **M ④** を使用して保存することができます。

- ▶ 車両が停止していることを確認してください。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▶ 161 ページ)。
- ▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ **②** を押します。
- ▶ ドアミラーを調整するため、調整スイッチ **③** を使用してください。ドアミラーからリアホイールと歩道が見えている必要があります。
- ▶ メモリースイッチ **M ④** を押し、約 3 秒以内にドアミラー調整スイッチ **③** をいずれかの方向に押します。
助手席側ドアミラーが動かない場合は、駐車位置が記憶されています。
- ▶ 助手席側ドアミラーが動いたときは最初からやり直してください。

記憶させた駐車位置の設定の呼び出し

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▶ 161 ページ)。
- ▶ ドアミラー調整スイッチ (▶ 118 ページ) で、助手席側ドアミラーの角度を調整します。
- ▶ リバースギアに入れます。
助手席側ドアミラーが記憶された駐車位置になります。

次のときに、助手席側ドアミラーは元の角度に戻ります。

- 速度が 15 km/h を超えるとすぐに
- シフトポジションをリバースから他の位置にして約 10 秒以上経過したとき
- 運転席側ドアミラーのスイッチ **①** を押したとき

メモリー機能

メモリーの設定

⚠ 警告

走行中に運転席側のメモリー機能を使用すると、調整をした結果として、車両のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

車両が停車しているときにのみ運転席側のメモリー機能を使用してください。

⚠ 警告

メモリー機能がシートを調整するとき、ご自身だけでなく、他の乗員、特にお子様が挟み込まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

メモリー機能が調整を行っている間、シートの動いている箇所にだれも近づかないように注意してください。挟み込まれた場合、すぐにメモリー機能ポジションスイッチを放してください。調整プロセスが停止します。

⚠ 警告

保護者のいない状態で、子供がメモリー機能を作動させると、挟み込まれる可能性があります。けがの危険性があります。車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

メモリー機能で、例えば 3 人の方のために、3 つまでの異なる設定を記憶させることができます。

以下の項目がひとつの設定として記憶されます。

- シート、バックレストおよびヘッドレストの位置
- 運転席側：運転席および助手席側のドアミラーの角度



- ▶ シートを調整します (▷ 113 ページ)。
- ▶ 運転席側ドアミラー (▷ 118 ページ) を調整します。
- ▶ メモリースイッチ **M** を押し、それから 3 秒以内にポジションスイッチ **1**、**2**、**3** のいずれかを押します。選択したポジションスイッチにそのときの位置が記憶されます。メモリーの設定が完了すると確認音が鳴ります。

記憶された位置を呼び出す

- ▶ 記憶したシート位置とドアミラーの角度になるまで、呼び出したいポジションスイッチ **1**、**2**、**3** のいずれかを押し続けます。

i ポジションスイッチから指を放すと、記憶位置の呼び出しは停止します。

役に立つ情報	124
車外ライト	124
ルームライト	131
電球の交換	132
ワイパー	137

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて情報をご覧ください。(p. 25 ページ)

車外ライト

全体的な注意事項

安全のため、昼間でもライトを点灯して運転することをお勧めします。国によっては、ヘッドライト操作は法律による規定であったり、または各自の義務によるものなど様々です。

車外ライトの設定

設定方法

車外ライトを以下で設定できます。

- ライトスイッチを使用して
- ヘッドライト光軸調整 (ハロゲンヘッドランプ装備車両のみ) を使用して (p. 126 ページ)
- コンビネーションスイッチを使用して (p. 127 ページ)
- マルチファンクションディスプレイを使用して (p. 244 ページ)

ライトスイッチ

操作



- 1 **←P** 左側ランプ
- 2 **P→** 右側ランプ
- 3 **☰** 車幅灯、ライセンスプレートおよびメーターパネル照明
- 4 **AUTO** ヘッドライトのオートモード、ライトセンサーによる制御
- 5 **☰** ロービーム/ハイビームヘッドライト
- 6 **☼** リアフォグランプ
- 7 **☼** フォグランプ (フロントフォグランプ装備車両のみ)

車両から離れるときに警告音が鳴る場合は、ライトが点灯していることがあります。

▶ ライトスイッチを **AUTO** にまわします。


車外ライト (車幅灯/パーキングランプを除く) は、以下の操作を行なうと自動的に消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜いたとき
- キーが **0** の位置のときに運転席のドアを開く

ヘッドライトのオートモード

⚠ 警告


ライトスイッチを **AUTO** に設定しているときは、霧、雪、または霧雨のような天候状態のために視界を悪くする他の原因が

ある場合は、ロービームヘッドライトが自動的にオンにならないことがあります。事故の危険性があります。このような状況のときは、ライトスイッチを  にまわします。


ライトのオートモード機能は単なる支援に過ぎません。車両の照明に関する責任は、常に運転者にあります。



通常は、ライトスイッチを **AUTO** に設定することをお勧めします。ライト設定は、周囲の明るさに応じて以下のように自動的に選択されます(例外：霧、雪、霧雨などの天候による視界不良の場合)。

- エンジンスイッチのキーが **1** の位置のとき：周囲の明るさに応じて車幅灯が自動的に点灯または消灯します。
 - エンジンがかかっているとき：マルチファンクションディスプレイでデイトタイムドライビングライト機能を設定している場合は、デイトタイムドライビングライトまたは車幅灯およびロービームヘッドライトが周囲の明るさの明るさ度合いによって自動的に点灯または消灯します。
- ▶ **ヘッドライトのオートモードをオンにする**：ライトスイッチを **AUTO** にまわします。

ロービームヘッドライトがオンのときは、メーターパネルの緑色の表示灯  が点灯します。






ロービームヘッドライト

イグニッションがオンで、ライトスイッチが  の位置にあるときは、周囲の明るさの状況が暗いことをライトセンサーが検知していなくても、車幅灯とロービームヘッドライトが点灯します。これは、霧や雨のときに便利です。

- ▶ **ロービームヘッドライトを点灯する**：エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわすか、エンジンを始動します。
- ▶ ライトスイッチを  にまわします。メーターパネルの緑色の表示灯  が点灯します。

フォグランプ

霧、雪または雨のために視認性が悪い状況では、フォグランプは視認性を向上させるとともに、他の道路使用者のお客様への見やすさを容易にします。それらは車幅灯と一緒に、または車幅灯およびロービームヘッドライトと一緒に作動することができます。

- ▶ **フォグランプを点灯する**：エンジンスイッチのキーを **2** の位置にするか、エンジンを始動します。
- ▶ ライトスイッチを  または **AUTO** にまわします。
- ▶  スイッチを押します。メーターパネルの緑色の表示灯  が点灯します。
- ▶ **フロントフォグランプを消灯する**： スイッチを押します。メーターパネルの緑色の表示灯  が消灯します。

"フォグランプ"機能はフロントフォグランプ装備車両にのみ装備されています。インテリジェントライトシステム装備車両のフォグランプの操作方法 (▶ 129 ページ)。

リアフォグランプ

リアフォグランプは、濃霧の交通でのお客様の車両の被視認性を改善します。リアフォグランプの使用に関する、国ごとに規定された法律に従ってください。

- ▶ **リアフォグランプを点灯する：** エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわすか、エンジンを始動します。
- ▶ ライトスイッチを **[D]** または **AUTO** にまわします。
- ▶ **[0]** スイッチを押します。
メーターパネルの黄色の表示灯 **[0]** が点灯します。
- ▶ **リアフォグランプを消灯する：** **[0]** スイッチを押します。
メーターパネルの黄色の表示灯 **[0]** が消灯します。

車幅灯

! バッテリーが過放電すると、次回のエンジン始動を可能にするために、車幅灯またはパーキングランプが自動的に消灯します。法的基準にしたがって車両を安全で十分な明るさのところに常に駐車してください。車幅灯 **[P<->]** を何時間も連続してご使用にならないでください。可能であれば、**[P<->]** 右側または **[<-P]** 左側パーキングランプを点灯してください。

- ▶ **点灯する：** ライトスイッチを **[>P]** にまわします。
メーターパネルの緑色の表示灯 **[>P]** が点灯します。

車幅灯

車幅灯を点灯すると、車両の対応する側が点灯します。

- ▶ **車幅灯を点灯する：** キーがエンジンスイッチにないか、または **0** の位置になっています。
- ▶ ライトスイッチを **[<-P]** (車両の左側) または **[P<->]** (車両の右側) にまわします。

ヘッドライトの照射範囲の調整 (ハロゲンヘッドランプ)

ヘッドライト光軸調整により、車両の積載量に合わせたヘッドライトの配光を調整します。

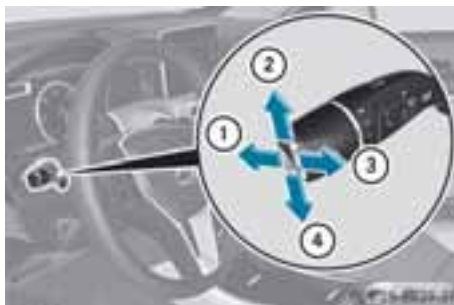


ヘッドライト光軸調整

- 0** 運転席シートおよび助手席シートに乗員
 - 1** 運転席シート、助手席シートおよびリアシートに乗員
 - 2** 運転席シート、助手席シートおよびリアシートに乗員、ラゲッジルームに積荷
 - 3** 運転席、助手席シートに乗員、最大許容リアアクスル軸荷重を利用
- ▶ エンジンを始動します。
 - ▶ 該当する車両荷重の位置にヘッドライト光軸調整をまわします。

コンビネーションスイッチ

方向指示灯



- ① ハイビームヘッドライト
- ② 方向指示灯、右
- ③ パッシングライト
- ④ 方向指示灯、左

- ▶ **短時間点滅させる**：コンビネーションスイッチを矢印②または④の方向に軽く押します。
対応する方向指示灯が3回点滅します。
- ▶ **点滅させる**：コンビネーションスイッチを矢印の方向②または④に押します。

ハイビームヘッドライト

- ▶ **ハイビームヘッドライトを点灯する**：エンジンスイッチを2の位置にするか、エンジンを始動します。
- ▶ ライトスイッチを [D] または [AUTO] にまわします。
- ▶ コンビネーションスイッチを手応えのあるところを越えて矢印①の方向に押します。
[AUTO] の位置のとき、ハイビームヘッドライトは、周囲が暗くエンジンがかかっているときにのみ点灯します。

ハイビームヘッドライトを点灯させると、メーターパネルの青色の表示灯 [D] が点灯します。

- ▶ **ハイビームヘッドライトを消灯する**：コンビネーションスイッチを通常的位置に戻します。
メーターパネルの青色の表示灯 [D] が消灯します。

① アダプティブハイビームアシスト装備車：アダプティブハイビームアシストが作動しているとき、それがハイビームヘッドライトの作動をコントロールします。(▶ 129 ページ)

パッシングライト

- ▶ **作動させる**：エンジンスイッチを1または2の位置にするか、エンジンを始動します。
- ▶ コンビネーションスイッチを矢印③の方向に引きます。

非常点滅灯



非常点滅灯は、以下のときに自動的に作動します。

- エアバッグが作動した、または
- 車両が 70 km/h 以上の速度から急減速して停止した

▶ **非常点滅灯を作動させる**：スイッチ ① を押します。

すべての方向指示灯が点滅します。このときにコンビネーションスイッチを使用して方向指示灯を作動させた場合は、車両の対応する側の方向指示灯のみが点滅します。

▶ **非常点滅灯を解除する**：スイッチ ① を押します。

フルブレーキを効かせた後に車両が 10 km/h 以上の速度に再度達した場合は、非常点滅灯は自動的に解除されます。

❶ イグニッションをオフにした場合でも、非常点滅灯は作動し続けます。

ヘッドライトウォッシャー

ヘッドライトが点灯していてエンジンがかかっている間は、「フロントウインドウウォッシャー」機能を約 5 回操作すると、ヘッドライトが自動的に清掃されます (▶ 137 ページ)。イグニッションをオフにしたときは、自動ヘッドライトクリーニングシステムはリセットされ、回数は 0 から再開します。

インテリジェントライトシステム

全体的な注意事項

インテリジェントライトシステムは、実際の走行や天候状況に合わせてヘッドライトを自動的に調整するシステムです。車両速度や天候状況などに応じて路面の照射を向上させる先端機能を提供します。システムには、アクティブライトシステムやコーナリングライト、ハイウェイモード、フォグランプ強化機能が含まれます。システムは周囲が暗いときのみ作動します。

マルチファンクションディスプレイを使用して「インテリジェントライトシステ

ム」を作動させたり解除したりできます (▶ 244 ページ)。

アクティブライトシステム



アクティブライトシステムは、前輪の操舵角に応じてヘッドライトを動かすシステムです。そのため、走行中はステアリングを操作した方向が常に照射されます。このシステムにより、歩行者、自転車、動物などを容易に認識することができます。

作動：ライトが点灯しているとき

コーナリングライト



コーナリングライトは、コーナリング時に進行方向の路面を広く照射し、夜間の交差点などで運転者の視界を向上させます。コーナリングライトは、ヘッドライトがロービームで点灯しているときのみ作動します。

作動：

- 40 km/h 以下の速度で走行していて、方向指示灯を作動させた、またはステアリングを回した場合
- 40 km/h ~ 70 km/h の間の速度で走行していて、ステアリングを回した場合

非作動： 70 km/h 以上の速度で走行しているか、方向指示灯を解除した、またはステアリングを直進位置にまわした場合

コーナリングライトは短時間点灯し続けますが、約 3 分後に自動的に消灯します。

ハイウェイモード

ハイウェイモードでは、ヘッドライトの照射範囲が拡大されます。

作動：

- 110 km/h 以上の速度で走行していて、少なくとも 1000 m 大きなステアリングの動きが無い場合
- 130 km/h 以上の速度で走行している場合

上記はライトの機能の説明です。走行するときは必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

以下のときに解除されます： 作動後に、約 80 km/h 以下の速度で走行したとき

フォグランプ強化機能

フォグランプ強化機能は運転者の眩しさを軽減し、道路の端の照射を向上させます。

作動： 70 km/h 以下の速度で走行していて、リアフォグランプを点灯した場合

非作動： 作動後に 100 km/h 以上の速度で走行した場合、またはリアフォグランプを消灯した場合

オフロードライト

オフロードライトは、オフロード走行中にロービームヘッドライトから左右対称で、広い幅でさらに明るい光が照射されることにより被写体/障害物をすばやく認識する助けをします。

作動： 50 km/h 以下の速度で走行中に、オフロードプログラムを選択しているとき (p 210 ページ)。

非作動： 50 km/h 以上の速度で走行しているとき。

オフロードライトが点灯しているとき、アクティブライト機能は作動停止、ヘッドランプ光軸コントロールは静止モードにセットされています。

アダプティブハイビームアシスト**全体的な注意事項**

この機能を設定すると、ヘッドライトのハイビームとロービームを自動的に切り

替えることができます。ライトを点灯している対向車両または先行車両をシステムが検知した場合は、ヘッドライトをハイビームからロービームに切り替えます。このシステムは、他車との車間距離に応じてロービームヘッドライトの照射範囲を自動調整します。他車が検知されなくなると、システムは再びハイビームヘッドライトに切り替えます。

システムの照度センサーは、フロントウインドウ裏側のルーフオペレーティングユニット付近に装着されています。



重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

アダプティブハイビームアシストは、以下の道路利用者には反応しません。

- 歩行者などライトを持っていない
- 自転車にライトが装着されていても、ライトが暗い
- ガードレールの後ろにいるなど、道路使用者のライトが遮られている

また、アダプティブハイビームアシストはライトをもっている道路使用者をまったく検知しなかったり、検知が遅れ

たりします。このような場合は、ハイビームヘッドライトが自動で切り替わらなかったり、他の道路使用者がいるときに不意に切り替わる場合があります。事故の危険性があります。

道路や交通事情に常に注意して、適切なタイミングでハイビームヘッドライトをオフにしてください。


アダプティブハイビームアシストは、道路、天候または交通状況を考慮に入れることはできません。アダプティブハイビームアシストは単なる支援にすぎません。運転者には、そのときの明るさ、視界および交通状況に応じて、車両のライトを調整する責任があります。

特に以下の状況では、障害物の検知が困難になります。

- 霧や激しい雨、雪などで視界が悪い
- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている

アダプティブハイビームアシストの作動/停止の切り替え


- ▶ **作動させる**：ランプスイッチを **AUTO** にまわします。
- ▶ 手応えのあるところを越えるまで、コンビネーションスイッチを矢印の方向 ① に押します。

周囲が暗く、ライトセンサーがロービームヘッドライトを作動させたときは、マルチファンクションディスプレイの表示灯  が点灯します。



約 45 km/h 以上の速度で走行している場合


ヘッドライトの照射範囲は、他の車両や他の道路使用者との距離に応じて自動的に設定されます。

約 55 km/h 以上の速度で走行していて、他の道路使用者が検知されていない場合

自動的にハイビームヘッドライトが点灯します。メーターパネルの表示灯  も点灯します。

約 45 km/h 以下の速度で走行しているか、または他の道路使用者が検知されている、または道路が十分に照らされている場合

自動的にハイビームヘッドライトが消灯します。メーターパネルの表示灯  が消灯します。マルチファンクションディスプレイの表示灯  は点灯したままになります。

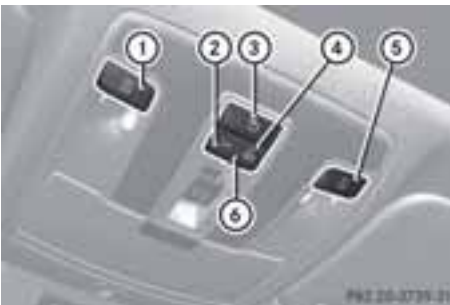
- ▶ **停止する：** コンビネーションスイッチを通常の位置に戻す、またはランプスイッチを他の位置に動かします。マルチファンクションディスプレイの表示灯  は消灯します。



ヘッドライト内側の曇り




特定の天候および物理的条件により、ヘッドライトが曇ることがあります。この曇りはヘッドライトの機能に影響を与えません。

ルームライト

ルームライトの概要



- 前席のルーフオペレーティングユニット
- ①  左側フロント読書灯点灯/消灯の切り替え
- ②  フロントルームライト点灯

- ③  リアルームライト点灯/消灯の切り替え
- ④  フロントルームライト消灯/ルームライトの自動点灯オフ
- ⑤  右側フロント読書灯点灯/消灯の切り替え
- ⑥ ルームライトの自動点灯のオン





後席ルーフオペレーティングユニット (パノラミックスライディングルーフ装備車両)

- ①  読書灯点灯/消灯の切り替え



後席ルーフオペレーティングユニット (パノラミックスライディングルーフ非装備車両)

- ①  左側読書灯点灯/消灯の切り替え
- ②  右側読書灯点灯/消灯の切り替え


ルームライトの操作

重要な注意事項

車両のバッテリーあがりを防止するため、エンジンスイッチのキーが 2 の位置以外の場合は、ルームライトの機能は一定時間後に自動的に解除されます。

アンビエントライトの明るさは、マルチファンクションディスプレイ (▶ 245 ページ) を使用して設定できます。

ルームライトの自動点灯





- ▶ **オンにする**：スイッチを中央位置 ⑥ に設定します。
- ▶ **消灯する**：スイッチを  の位置に設定します。

ルームライトは以下のときに自動的に点灯します。

- 車を解錠したとき
- ドアを開いたとき
- エンジンスイッチからキーを抜き取ったとき

エンジンスイッチからキーを抜くと、ルームライトが少しの間点灯します。この遅延消灯は、マルチファンクションディスプレイを使用して作動できます (▶ 246 ページ)。

ルームライトの手動点灯

- ▶ **フロントルームライトを点灯する**：スイッチを  の位置に設定します。
- ▶ **ルームライトを消灯する**：スイッチを  の位置に、またはドアが閉じている場合は中央位置に設定します。
- ▶ **リアルームライトを点灯 / 消灯する**： スイッチを押します。
- ▶ **読書灯を点灯 / 消灯する**： スイッチを押します。

緊急時点灯機能

車両が事故に巻き込まれたときに、ルームライトが自動的に点灯します。

- ▶ **緊急時点灯機能をオフにする**：非常点滅灯スイッチを押します。

または

- ▶ キーを使用して、車両を施錠してから解錠します。

電球の交換

重要な安全上の注意事項

キセノンライト

危険

キセノンバルブには高電圧が発生しています。キセノンバルブのカバーを取外し、電気端子に触れると、感電するおそれがあります。致命的なけがをするおそれがあります。

決して、キセノンバルブの構成部品や電気端子に触れないでください。キセノンバルブに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

キセノンライトが装備されている場合は、以下のように確認することができます。エンジンを始動したときに、キセノンライトからの光の軸が上から下に動き、元に戻ります。この動きを確認するためには、エンジンを始動する前にライトを点灯しなければなりません。

電球やライトは、車両安全性の重要な装備です。そのため、これらの機能が正常であることを常に確認してください。ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

その他の電球の取り扱い

警告

作動時、電球、ランプおよびコネクターは非常に熱くなります。電球を交換するとき、これらの構成部品に触れると火傷するおそれがあります。けがの危険性があります。

電球を交換する前に、これらの構成部品を冷ましてください。

落ちた、またはガラス管に引っかき傷がある電球は使用しないでください。

以下のとき、電球が破裂するおそれがあります。

- 触れたとき
- 温度が高いとき
- 落としたとき
- 引っかいたとき

この用途のために設計された放電管の電球のみを使用してください。同一種類で、指定された電圧の予備電球のみを取り付けてください。

ガラス管上に付いた痕は、電球の寿命を短くします。ガラス管を素手で触らないでください。必要に応じて、冷えているときにガラス管をアルコールで清掃し、毛羽立ちのない布でふき取ります。

点灯している間、電球を水分から保護してください。電球に液体が浸入しないようにしてください。

キセノン電球以外にもご自身で交換できない電球があります。挙げられてる電球のみを交換してください (▶ 133 ページ)。お客様自身で交換できない電球は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場へ交換してください。

電球交換に支援が必要な場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

新しい電球が点灯しない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご相談ください。

電球やライトは、車両安全性の重要な装備です。そのため、これらの機能が正常であることを常に確認してください。ヘッドライトの設定は、定期的に点検してください。

電球交換の概要 - 電球

以下の電球を交換できます。電球の種類の詳細は凡例をご覧ください。



ハロゲンヘッドライト装備車

- ① 方向指示灯：PY 21 W
- ② ハイビームヘッドライト/デイドライビングランプ：H 15 55 W/15 W
- ③ ロービームヘッドライト/車幅灯/パーキングランプ：H7 55 W



インテリジェントライトシステム装備車両

- ① コーナリングライト：H7 55 W



テールランプ (ハロゲンヘッドライト装備車)

- ① バックランプ : W 16 W
- ② リアフォグランプ : H 21 W
- ③ ブレーキランプ : W 16 W
- ④ 方向指示灯 : PY 21 W

フロントの電球交換

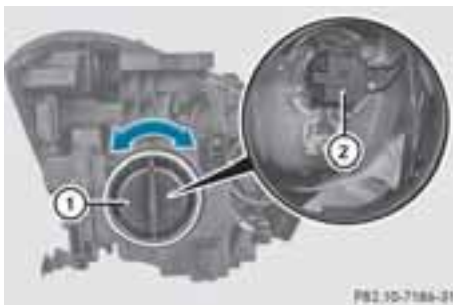
フロントホイールアーチのカバー取付け/取外し

フロントの電球を交換する前に、前輪のハウジングからカバーを取り外してください。



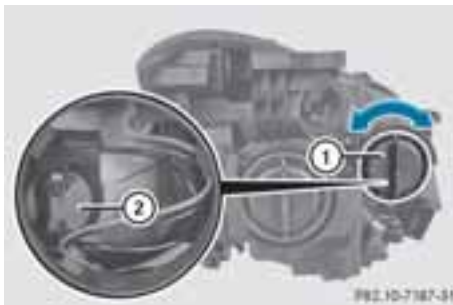
- ▶ **取り外す** : ライトスイッチをオフにします。
- ▶ 前輪を内側にまわします。
- ▶ カバー ① を上にずらし、取外します。
- ▶ **取り付ける** : カバー ① を再び差し込み、かみ合うまで下にずらします。

ロービームヘッドライト/車幅灯およびパーキングランプ (ハロゲンヘッドライト)



- ▶ フロントホイールアーチのカバーを取り外します (▷ 134 ページ)。
- ▶ ハウジングカバー ① を反時計回りにまわして引き出します。
- ▶ ソケット ② を反時計回りにまわして引き抜きます。
- ▶ ソケット ② から電球を抜き取ります。
- ▶ 新しい電球をソケット ② に差し込みます。
- ▶ ソケット ② をランプに差し込み、時計回りにまわします。
- ▶ ハウジングカバー ① の位置を合わせ、時計回りにまわしてロックさせます。
- ▶ フロントホイールアーチのカバーを再度取り付けます (▷ 134 ページ)。

ハイビームヘッドライト/LED ドライビングランプ (ハロゲンヘッドランプ)



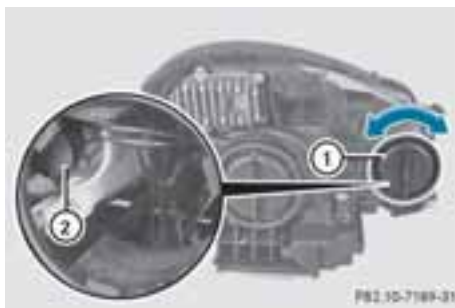
- ▶ ライトを消灯します。
- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ハウジングカバー ① を反時計回りにまわして引き出します。
- ▶ 電球 ② を反時計回りにまわして引き出します。
- ▶ 新品の電球を差し込み、止まるまではめます。
- ▶ハウジングカバー ① の位置を合わせ、時計回りにまわしてロックさせます。

方向指示灯 (ハロゲンヘッドライト)



- ▶ ライトを消灯します。
- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ ソケット ① を反時計回りにまわして引き抜きます。
- ▶ ソケット ① から電球を抜き取ります。
- ▶ 新しい電球をソケット ① に差し込みます。
- ▶ バルブホルダー ① を差し込み、固定されるまで時計回りにまわします。

コーナリングライト (インテリジェントライトシステム)

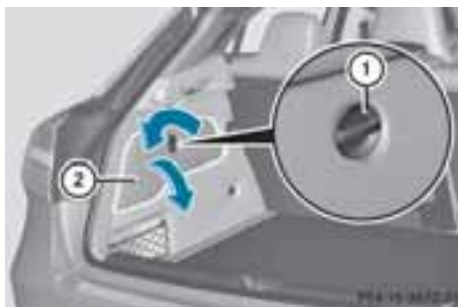


- ▶ ライトを消灯します。
- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ハウジングカバー ① を反時計回りにまわして引き出します。
- ▶ ソケット ② を反時計回りにまわして引き抜きます。
- ▶ ソケット ② から電球を抜き取ります。
- ▶ 新しい電球をソケット ② に差し込みます。
- ▶ ソケット ② をランプに差し込み、時計回りにまわします。
- ▶ハウジングカバー ① の位置を合わせ、時計回りにまわしてロックさせます。

リアの電球交換

サイドトリムパネルの開閉

テールランプの電球を交換する前に、ラゲッジルーム内のサイドトリムパネルを開く必要があります。



左側サイドトリムパネル

- ▶ **開く**：リリースノブ①を90° 矢印の方向にまわし、サイドトリムパネル②を取り外します。
- ▶ **閉じる**：サイドトリムパネル②をはめ込み、リリースノブ①を90° 矢印とは反対方向にまわします。



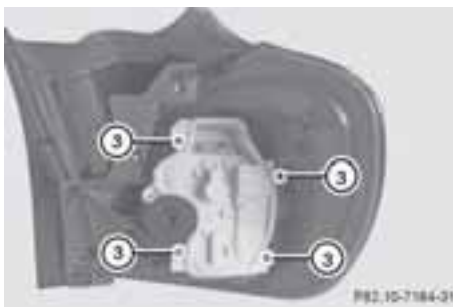
右側サイドトリムパネル

- ▶ **開く**：右サイドトリムパネル①を上端でゆるめ、矢印の方向に倒します。
- ▶ **閉じる**：サイドパネル①を差し込みます。

テールランプ



- ▶ コネクター②を解除し、外します。
- ▶ ウイングナット①を外し、ライトクラスターを取り外します。



ライトクラスター

- ▶ ドライバーを使用してボルト③を取り外します。
- ▶ ソケットをライトクラスターから取り外します。



ソケット

- ④ 方向指示灯
- ⑤ ブレーキランプ

- ▶ **方向指示灯**：電球をソケット内へ軽く押し、反時計回りにまわして、ソケットから取り外します。
- ▶ 新しい電球をソケットに差し込み、時計回りにまわします。
- ▶ **ブレーキランプ**：ソケットから対応する電球を取り外します。
- ▶ 新しい電球をソケットに差し込みます。
- ▶ ソケットをライトクラスターに差し込み、ボルト③を使用して所定の位置にしっかりと取り付けます。
- ▶ 車両にライトクラスターを差し込みます
- ▶ ウィングナット②を締めつけ、コネクタ①と再度接続を確立します。
- ▶ サイドトリムパネルを閉じます (▷ 135 ページ)。

バックランプ/リアフォグランプ

その位置のため、バックランプ およびテールゲート(ハロゲンランプ装備車両)のリアフォグランプの電球はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

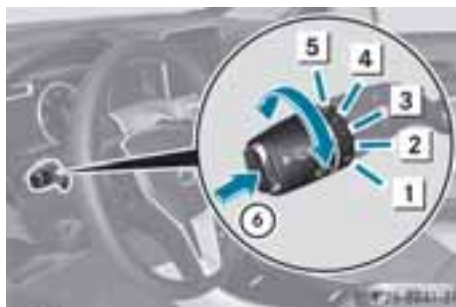
ワイパー

ワイパーの作動/停止の切り替え

❗ ウィンドウが乾いているときは、ワイパーを使用しないでください。ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。また、ウィンドウに付着したほこりなどでウィンドウの表面に傷が付くおそれがあります。

乾燥した気候条件でフロントワイパーをオンにする必要がある場合は、必ずウォッシャー液を噴射しながら操作してください。

❗ 車両を自動洗車機で洗車した後にワイパーを使用しても油膜が残るときは、ウィンドウに付着したワックスや洗浄液などが原因と考えられます。ウィンドウをウォッシャー液で洗浄してください。







コンビネーションスイッチ

- 1 0 ワイパーの停止
- 2 ... 間欠拭き取り、低速 (レインセンサーは低感度に設定)
- 3 間欠拭き取り、高速 (レインセンサーは高感度に設定)
- 4 — 連続拭き取り、低速
- 5 == 連続拭き取り、高速
- 6 1 回の拭き取り / ウォッシャー液を使用してのフロントウィンドウの拭き取り

- ▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします (▶ 161 ページ)。
- ▶ コンビネーションスイッチを対応する位置にまわします。

! レインセンサー装備車：乾燥した気候条件でフロントウィンドウが汚れた場合、フロントワイパーが不意に作動するおそれがあります。ワイパーブレードを損傷したり、ウィンドウに傷が付くおそれがあります。

このため、雨が降っていないときは必ずワイパースイッチを停止の位置にしてください。




レインセンサー装備車：  または  の位置では、雨滴量に応じてワイパーの作動が自動的に調整されます。
 の位置では、レインセンサーは  の位置よりも高感度となり、ワイパーはより短い間隔で作動します。


ワイパーブレードが摩耗した場合は、フロントウィンドウは十分に拭き取られなくなります。交通状況への注意を妨げるおそれがあります。

リアワイパーの作動/停止の切り替え



コンビネーションスイッチ

- ①  スイッチ
- ②  ウォッシャー液噴射の位置
- ③  1 間欠ワイパー作動の位置

- ④ **0** 間欠ワイパー停止の位置
- ⑤  ウォッシャー液噴射の位置

- ▶ エンジンスイッチのキーを **1** または **2** の位置にまわします (▶ 161 ページ)。
- ▶ コンビネーションスイッチのスイッチ **①** を対応する位置にまわします。リアワイパーが作動し、メーターパネル内にアイコンが表示されます。

ワイパーブレードの交換

重要な安全上の注意事項

警告

ワイパーブレードを交換中にワイパーが動き出した場合、ワイパーアームに挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。

ワイパーブレードを交換する前に、ワイパーおよびイグニッションのスイッチを必ずオフにしてください。

! ワイパーブレードの損傷を避けるため、ワイパーアーム以外には触れないようにしてください。

! ワイパーアームがフロントウィンドウ/リアウィンドウから離れて倒れている場合は、ボンネット/テールゲートを決して開かないでください。

ワイパーブレードのないワイパーアームをフロントウィンドウまたはリアウィンドウの元の位置に決して戻さないでください。

ワイパーブレードを交換するときは、フロントウィンドウのワイパーアームを確実に持ってください。ワイパーブレードのないワイパーアームを放し、フロントウィンドウ/リアウィンドウの上に落ちた場合は、フロントウィンドウ/リアウィンドウが衝撃の力で損傷するおそれがあります。

メルセデス・ベンツはワイパーブレードの交換をメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

フロントウインドウのワイパーブレードの交換

ワイパーブレードを取り外す

- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ ワイパーアームをフロントウインドウから起こします。



- ▶ 両方の解除クリップ ② を押します。
- ▶ ワイパーブレード ① を矢印の方向 ③ にワイパーアーム ④ から起こします。
- ▶ ワイパーブレード ① を矢印の方向 ⑤ に取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける



- ▶ 新しいワイパーブレード ① の凹部 ⑥ をラグ ⑤ に合わせます。
- ▶ 固定クリップ ② がブラケット ④ にロックされるまで、ワイパーブレード

① を矢印の方向 ③ にワイパーアームに倒します。

- ▶ ワイパーブレード ① が正しく位置していることを確認します。
- ▶ ワイパーアームをフロントウインドウに倒して戻します。

リアワイパーブレードの交換

ワイパーブレードを取り外す



- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ ワイパーアーム ④ をリアウインドウから起こします。
- ▶ 両方のロック解除クリップ ② を押します。
- ▶ 矢印の方向 ③ に、ワイパーブレード ① をワイパーアーム ④ から起こします。
- ▶ 矢印の方向 ⑤ に、ワイパーブレード ① を取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける



- ▶ 新しいワイパーブレード ① のラグ ⑤ の凹部 ⑥ に合わせます。
- ▶ 固定クリップ ② がブラケット ④ にロックされるまで、ワイパーブレード ① を矢印の方向 ③ にワイパーアームに倒します。
- ▶ ワイパーブレード ① が正しく位置していることを確認します。
- ▶ ワイパーアーム をリアウインドウに倒します。

ワイパーのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ワイパーに引っかかりがある。	葉や雪などにより、フロントウインドウワイパーの作動が妨げられていることがある。ワイパーモーターが解除されている。 ▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 妨げの原因を取り除いてください。 ▶ 再度、フロントウインドウワイパーを作動させてください。
フロントウインドウワイパーが全く作動しない。	フロントウインドウワイパーの駆動系統が故障している。 ▶ コンビネーションスイッチでワイパーの他の作動を選択してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でもフロントウインドウワイパーの点検を受けてください。
ウォッシャー液がウインドウの中央に噴射されない。	噴射ノズルの角度がずれている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でも噴射ノズルを調整してください。

役に立つ情報	144
エアコンディショナーシステムの 概要	144
エアコンディショナーシステムの 操作	148
送風口の調整	156

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 25 ページ)

エアコンディショナーシステムの概要

重要な安全上の注意事項

以下のページで推奨されている設定に従ってください。さもないとウィンドウが曇るおそれがあります。

ウィンドウを曇りから防ぐために、以下のことを行なってください：

- 短時間だけエアコンディショナーを停止する
- 短時間だけ内気循環モードを作動させる
- AC モードを作動させる
- 必要に応じて、"フロントウィンドウデフロスター"機能を短時間作動させる

エアコンディショナーシステム/クライメートコントロール（左右独立調整）は車内の温度と湿度を調整し、空気中の好ましくない物質をろ過します。

エンジンがかかっているときにのみ、エアコンディショナーシステム/クライメートコントロール（左右独立調整）を操作できます。サイドウィンドウおよびスライディングルーフを閉じている場合にのみ、最適な作動が得られます。

余熱ヒーター機能は、エンジン停止中のみ作動または停止することができます (▷ 155 ページ)。

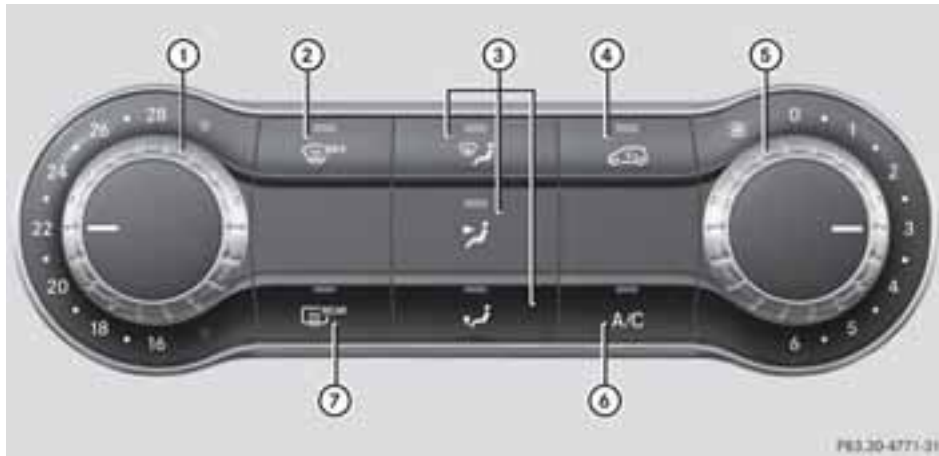
サイドトリムパネルの後ろにあるベンチレーションフラップを常に清潔にしてください(▷ 135 ページ)。さもないと、車内が正しく換気されません。

i 暖かい気候の間は、例えば、コンビニエンスオープニング機能を使用して少しの間車両を換気します(▷ 101 ページ)。これにより、冷却処理が速くなり、より速く希望の車内温度に達します。

i 内蔵フィルターによりほこりや煤煙の大部分の粒子や花粉の大部分をろ過することができます。クライメートコントロール（左右独立調整）で、ガスによる汚染物質および臭いも減少します。詰まったフィルターは車内に供給される空気の量を減らします。このため、整備手帳で規定されているフィルターの交換間隔に必ず従ってください。重度の大気汚染などの環境状況に左右されるため、間隔は整備手帳に記載されているものより短くなることがあります。

i オートエアコンを乾燥させるために、キーを抜いてから 1 時間は、余熱ヒーター機能が自動的に作動する可能性があります。車両は約 30 分間換気を行います。

クライメートコントロールの操作パネル



PE3.30-4771-31

- ① 温度の設定 (▷ 150 ページ)
- ② デフロスターモード (▷ 152 ページ)
- ③ 送風口の選択 (▷ 151 ページ)
- ④ 内気循環モードの設定/解除 (▷ 154 ページ)
- ⑤ 送風の設定 (▷ 151 ページ)
- ⑥ AC モードのオン/オフ (▷ 148 ページ)
- ⑦ リアデフォグラーの作動と停止の切り替え (▷ 153 ページ)

クライメートコントロールの使用に関する注意事項

エアコンディショナーシステム

以下に、エアコンディショナーシステムを最適に使用するための注意事項や推奨事項が記載されています。

- コントロールノブ ⑤ を希望する位置まで時計回りにまわして (0 位置以外)、エアコンディショナーシステムのスイッチをオンにします。
- 温度を 22 °C に設定します。
- 低外気温時および降雨時にフロントウィンドウが曇ることを防ぐための推奨事項： A/C AC モード機能を作動させます (▷ 148 ページ)。



送風口を に設定し、可能であれば および を停止します (▷ 151 ページ)。

内気循環モード (▷ 154 ページ) を解除します。



送風量調整ダイヤル ⑤ を 3 ~ 6 (▷ 151 ページ) の間に設定します。

- 車内を急速に冷やすまたは温める際の推奨事項： 送風量調整ダイヤル ⑤ を短時間 3 ~ 6 (▷ 151 ページ) の間に設定します。
- 車内の一定温度に関する推奨事項： 送風量調整ダイヤル ⑤ を 1 ~ 3 (▷ 151 ページ) の間に設定します。

・寒冷時の送風口に関する推奨事項：

 と  を選択します (▶ 151 ページ)。

夏季の送風口に関する推奨事項： 

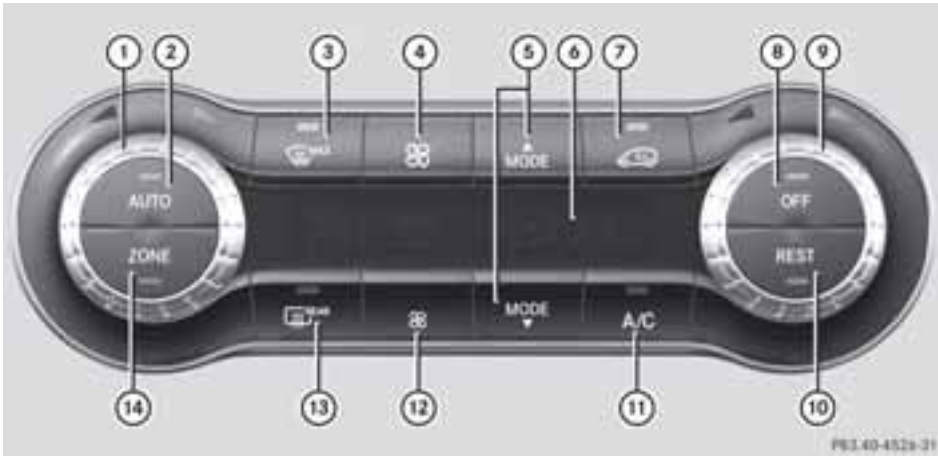
または  および  を選択します (▶ 151 ページ)。

- ・"フロントウインドウデフロスター"機能は、フロントウインドウが再度曇りが取れるまでの短時間のみ使用してください。
- ・内気循環モードは、不快な外気の臭いがある場合やトンネル内のときなどの短時間のみ使用してください。さもないと、内気循環モードでは車内に外気が取り込まれないので、ウインドウが曇るおそれがあります。
- ・COMAND システム装備車： エアコンディショナーシステムの設定を変更した場合は、エアコンディショナーの状況表示が COMAND ディスプレイの表示下部に約 3 秒間表示されます。別冊の COMAND 取扱説明書もご覧ください。エアコンディショナーのさまざまな機能のそのときの設定が表示されます。

ECO スタートストップ機能

自動エンジン停止中は、エアコンディショナーは限られた出力でのみ作動します。エアコンディショナーの最大出力が必要な場合は、ECO スイッチを押すことにより、ECO スタートストップ機能を解除することができます (▶ 165 ページ)。

クライメートコントロール（左右独立調整）の操作パネル



- ① 温度の設定、左 (▷ 150 ページ)
- ② エアコンディショナーを AUTO モードに設定 (▷ 150 ページ)
- ③ フロントウインドウの曇り取り (▷ 152 ページ)
- ④ 送風量を上げる (▷ 151 ページ)
- ⑤ 送風口の設定 (▷ 151 ページ)
- ⑥ ディスプレイ
- ⑦ 内気循環モードの設定/解除 (▷ 154 ページ)
- ⑧ エアコンディショナーの作動/停止の切り替え (▷ 148 ページ)
- ⑨ 温度の設定、右 (▷ 150 ページ)
- ⑩ 余熱ヒーター機能の設定/解除 (▷ 155 ページ)
- ⑪ AC モードの設定/解除 (▷ 148 ページ)
- ⑫ 送風量を下げる (▷ 151 ページ)
- ⑬ リアデフォグガーのオン/オフの切り替え (▷ 153 ページ)
- ⑭ 独立温度設定機能のオン/オフの切り替え (▷ 151 ページ)

クライメートコントロール（左右独立調整）の使用に関する情報

エアコンディショナー

以下には、クライメートコントロール（左右独立調整）を最大限利用するための指示や推奨事項が記載されています。

- **AUTO** および **A/C** スイッチを押して、エアコンディショナーを作動させます。

AUTO および **A/C** スイッチの表示灯が点灯します。

- 温度を 22 °C に設定してください。
- "フロントウインドウデフロスター"機能は、フロントウインドウが再度曇りが取れるまでの短時間のみ使用してください。
- 内気循環モードは、不快な外気の臭いがある場合やトンネル内のときなどの

短時間のみ使用してください。さもないと、内気循環モードでは車内に外気が取り込まれないので、ウィンドウが曇るおそれがあります。

- ゾーン機能を使用して、助手席側の設定温度を個別に調整したり、運転席側の設定温度に連動させることができます。 ZONE スイッチの表示灯が消灯します。
- イグニッションをオフにした後に車内を暖房または換気したいときは、余熱ヒーター機能を使用してください。余熱ヒーター機能は、イグニッションがオフのときにのみ、作動または停止することができます。
- **COMAND システム装備車**：エアコンディショナーシステムの設定を変更した場合は、エアコンディショナーの状況表示が COMAND ディスプレイの表示下部に約 3 秒間表示されます。別冊の COMAND 取扱説明書もご覧ください。エアコンディショナーのさまざまな機能のそのときの設定が表示されます。

ECO スタートストップ機能

自動エンジン停止中は、エアコンディショナーは限られた出力でのみ作動します。エアコンディショナーの最大出力が必要な場合は、ECO スイッチを押すことにより、ECO スタートストップ機能を解除することができます (p. 165 ページ)。

エアコンディショナーシステムの操作

エアコンディショナーシステムの作動/停止の切り替え

全体的な注意事項

エアコンディショナーを停止したときは、送風および内気循環も停止します。ウィンドウが曇るおそれがあります。そのた

め、エアコンディショナーの停止は短時間のみにしてください。

エアコンディショナーシステム

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (p. 161 ページ)。
- ▶ **作動する**：コントロール ⑤ を希望の位置まで時計回りにまわします (**0** 位置以外) (p. 145 ページ)。
- ▶ **停止する**：コントロール ⑤ を **0** 位置まで反時計回りにまわします (p. 145 ページ)。

クライメートコントロール (左右独立調整)

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (p. 161 ページ)。
- ▶ **作動する**： AUTO スイッチを押します。 AUTO スイッチの表示灯が点灯します。送風量と送風配分が AUTO モードに設定されます。

または

- ▶ OFF スイッチを押します。 OFF スイッチの表示灯が消灯します。以前の設定が再度作動します。
- ▶ **解除する**： OFF スイッチを押します。 OFF スイッチの表示灯が点灯します。

i クライメートコントロール (左右独立調整) 通常は、 AUTO スイッチを押して、エアコンディショナーを作動させます。

AC モードの設定/解除

全体的な注意事項

"AC モード"を解除した場合は、車内の空気が冷却されません。そして、車内の空気が除湿もされません。ウィンドウはより早く曇ることがあります。そのため、

"AC モード"機能の解除は短時間のみにしてください。

"AC モード"は、エンジンがかかっているときにのみ使用できます。車内の空気は、選択された温度に応じて冷却・除湿されます。

AC モードが作動しているときは、車両の下から凝結水が落ちることがあります。これは正常なことで、誤作動の兆候ではありません。

作動/停止

- ▶ **オンにする**： A/C スイッチを押します。
 A/C スイッチの表示灯が点灯します。
- ▶ **解除する**：再度、 A/C スイッチを押します。
 A/C スイッチの表示灯が消灯します。” AC モード”には、停止遅延機能があります。

” AC モード” のトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">A/C</div> スイッチの表示灯が 3 回点滅するか、消灯する。AC モードシステムをオンにできない。	故障のため AC モードが解除されている。 ▶メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。

エアコンディショナーシステムを AUTO モードに設定する

全体的な注意事項

クライメートコントロール（左右独立調整）にのみ、AUTO モードがあります。AUTO モードでは、自動的に一定の設定温度に保たれます。送風温度、送風量、送風配分の選択が自動的に制御されます。AUTO モード機能は、“AC モード”機能が作動しているときに最適に作動します。お好みで AC モードを解除することもできます。

“AC モード”を解除した場合は、車内の空気は冷却されません。そして、車内の空気は除湿もされません。ウィンドウはより早く曇ることがあります。そのため、“AC モード”機能の解除は短時間のみにしてください。

エアコンディショナーを AUTO モードに設定する

- ▶ エンジンスイッチの位置を **2** にします (▷ 161 ページ)。
- ▶ 希望温度に設定します。
- ▶ **オンにする**：

AUTO

 スイッチを押します。

AUTO

 スイッチの表示灯が点灯します。自動的な送風配分と送風量が作動します。

- ▶ **マニュアルモードへの切り換え**：

MODE

 または

MODE

 スイッチを押します。

または

- ▶

⊗

 または

⊗

 ボタンを押します。

AUTO

 スイッチの表示灯が消灯します。自動的な送風配分と送風量が解除されます。

温度の設定

エアコンディショナーシステム

車両全体の温度を設定することができます。設定温度は自動的に一定の温度に保たれます。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▷ 161 ページ)。
- ▶ **上げる/下げる**：コントロール ① を時計回りまたは反時計回りにまわします (▷ 145 ページ)。少しずつ温度設定を変更してください。22 °C で開始してください。

クライメートコントロール（左右独立調整）




運転席側と助手席側で、独立して設定温度を調整できます。設定温度は自動的に一定の温度に保たれます。

- ▶ イグニッションロックの位置を **2** の位置にします (▷ 161 ページ)。
- ▶ **上げる/下げる**：コントロール ① または ② を時計回りまたは反時計回りにまわします (▷ 147 ページ)。少しずつ温度設定を変更してください。22℃で開始してください。

送風配分の設定




エアコンディショナーシステム

送風配分を設定する

-  曇り取り送風口からの送風にする
-  中央およびサイド送風口からの送風にする
-  足元送風口からの送風にする



i 送風設定を複数同時にオンにすることも可能です。このためには、複数の送風口スイッチを押します。異なる送風口から風が出ます。




送風配分の設定

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▷ 161 ページ)。
- ▶ , ,  スwitchを1つまたは複数を押します。該当する表示灯が点灯します。

クライメートコントロール（左右独立調整）

送風配分を設定する

-  曇り取り送風口からの送風にする
-  中央およびサイド送風口からの送風にする

-  足元送風口からの送風にする
-  中央、サイドの送風口から上半身に送風、ウインドウの曇り取り
-  足元および曇り取り送風口からの送風にする

i 選択された送風口に関係なく、サイド送風口からは常に送風が行なわれます。サイド送風口が閉じるまでアジャスターを時計回りにまわすと、閉じることができます。

送風配分の設定



- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▷ 161 ページ)。
- ▶ ディスプレイに希望するマークが表示されるまで、**MODE** または **MODE** スwitchを繰り返し押します。

送風量の設定

エアコンディショナーシステム





- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▷ 161 ページ)。
- ▶ **上げる/下げる**：コントロール ⑤ を時計回りまたは反時計回りにまわします (▷ 145 ページ)。

クライメートコントロール（左右独立調整）

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▷ 161 ページ)。
- ▶ **上げる/下げる**： または  スwitchを押します。



ゾーン機能の作動/停止の切り替え

この機能は、クライメートコントロール（左右独立調整）にのみ装備されています。

- ▶ **作動する**：  スイッチを押します。
 スイッチの表示灯が点灯します。
運転席側の温度設定は、助手席側には適用されません。
- ▶ **解除する**：  スイッチを押します。
 スイッチの表示灯が消灯します。
運転席側の温度設定が、助手席側に適用されます。





フロントウインドウの曇り取り

フロントウインドウに付着した霜や、フロントウインドウまたはサイドウインドウの内側の曇りを取る機能です。


- ❶ ウインドウの曇りが取れるまで、"フロントウインドウデフロスター"機能のみを選択してください。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▶ 161 ページ)。
- ▶ **作動させる**：  スイッチを押します。
 スイッチの表示灯が点灯します。
エアコンディショナーシステムが以下のように作動します。

- 多い送風量
- 高い温度
- フロントウインドウおよびフロントサイドウインドウへの送風口
- 内気循環モードの解除
- ❶ "フロントウインドウデフロスター"機能は自動的に送風出力を最適な曇り取り効果に設定します。そのため、スイッチを押した後に送風量が自動で増減することがあります。
- ❶ "フロントウインドウデフロスター"機能を作動させている間、送風出力を手動で調整することができます。
- エアコンディショナーシステム：送風量調整ダイヤル ⑤ を時計回り、または

反時計回りにまわします (▶ 145 ページ)。

- クライメートコントロール (左右独立調整)：  または  スイッチを押します。
- ▶ **停止する**：再度、 スイッチを押します。
 スイッチの表示灯が消灯します。
以前の設定が再度作動します。内気循環モードは解除されたままになります。

または

- ▶ クライメートコントロール (左右独立調整)： **AUTO** スイッチを押します。
 スイッチの表示灯が消灯します。
送風量と送風配分が AUTO モードに設定されます。



または

- ▶ エアコンディショナー：温度ダイヤル ① を時計回り、または反時計回りにまわします (▶ 145 ページ)。
クライメートコントロール (左右独立調整)：温度コントローラー ① または ② を時計回り、または反時計回りにまわします (▶ 147 ページ)。

ウインドウの曇り取り




フロントウインドウの内側が曇るとき

エアコンディショナーシステム

- ▶  スイッチを押して、AC モード ("冷房・除湿") に設定します。
- ▶ ウインドウが曇り続ける場合は、 "フロントウインドウデフロスター"機能を作動させます。



❶ この設定は、フロントウインドウが再度曇りが取れるまでのみ選択してください。

クライメートコントロール（左右独立調整）

- ▶  スイッチを押して、AC モード（"冷房・除湿"）に設定します。
- ▶ AUTO モード  を作動させます。
- ▶ ウィンドウが曇り続ける場合は、 "フロントウィンドウデフロスター"機能を作動させます。

i この設定は、フロントウィンドウが再度曇りが取れるまでのみ選択してください。

フロントウィンドウの外側が曇るとき

- ▶ ワイパーを作動させます。
- ▶ 送風口を  または  に設定します。

i この設定は、フロントウィンドウが再度曇りが取れるまでのみ選択してください。



リアデフォッガー

全体的な注意事項

リアデフォッガーは大きな電力を消費します。したがって、ウィンドウの曇りが取れたら、すぐに停止してください。または、数分後に自動的に停止します。

バッテリーの電圧が低すぎると、リアデフォッガーが停止する場合があります。

作動/停止

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▷ 161 ページ)。
- ▶  スイッチを押す。
 スイッチの表示灯が点灯または消灯します。

リアデフォグガーのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
リアデフォグガーが短時間で停止したり、または作動させることができない。	<p>バッテリーが十分に充電されていない。</p> <p>▶ 読書灯、ルームライト、シートヒーターなど、必要のない電気装備を停止してください。</p> <p>バッテリーが十分に充電されたときは、リアデフォグガーを再び作動させることができます。</p>

内気循環モードの設定/解除

全体的な注意事項



不快なおいが外から車両に入ってくる場合は、外気の送風を解除することができます。そして、すでに車内にある空気が循環されます。


内気循環モードを作動させた場合は、特に温度が低いときにウインドウがより早く曇ることがあります。ウインドウの曇りを防ぐため、短時間のみ内気循環モードを使用してください。



内気循環モードの操作は、すべてのコントロールパネルで共通です。

作動 / 解除

▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▶ 161 ページ)。

▶ **作動する**：  スイッチを押します。
 スイッチの表示灯が点灯します。

① 外気温度が高いときは、内気循環モードが自動的に作動します。内気循環モードが自動的に作動した場合は、 スイッチの表示灯は点灯しません。約 30 分後に外気が追加されます。

▶ **解除する**：  スイッチを押します。
 スイッチの表示灯が消灯します。

① 以下のときは、内気循環モードが自動的に解除されます：

- 外気温度が約 5℃ 以下のときは約 5 分後
- "AC モード"が解除されている場合は約 5 分後
- "AC モード"が作動している場合で、約 5℃ 以上の外気温度では約 30 分後

内気循環スイッチを使用時のコンビニエンスオープニング/クロー징

 警告



コンビニエンスクロージング機能が作動している場合、身体の一部がサイドウインドウおよびスライディングルーフの閉じる部分に挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。



コンビニエンスクロージング機能进行操作しているときは、最後まで閉じる動作に注意してください。閉じている間は、閉じる部分に身体を近づけないようにしてください。

 警告



コンビニエンスオープニングを操作中は、身体の一部が巻き込まれたり、サイドウインドウとウインドウフレームの間に挟みこまれる恐れがあります。けがの危険性があります。

開けている最中は、誰もサイドウインドウに触れないようにしてください。誰かが挟まれた場合、ドアにあるサイドウイ




ンドウ開閉用の  スイッチを押してください。サイドウィンドウが停止します。サイドウィンドウを閉じる動作を継続するには、 スイッチを引きます。

- ▶ **コンビニエンススクローリング機能**：サイドウィンドウおよびパノラミックスライディンググループが閉じるまで、 スイッチを押して保持します。
 スイッチの表示灯が点灯します。内気循環モードが作動します。


コンビニエンススクローリング機能が作動中に、身体の一部が閉じる部分があるとき、以下の手順を行ってください：

- ▶ サイドウィンドウを開閉する： スイッチを押します。サイドウィンドウが止まります。
- ▶ サイドウィンドウを開く： スイッチを再度押します。


または

- ▶ 少なくとも約 2 秒  スイッチを再度押して保持します。サイドウィンドウが逆の方向に動きません。
- ▶ パノラミックスライディンググループを開閉するには、 スイッチを押します。パノラミックスライディンググループが停止します。
- ▶ パノラミックスライディンググループを開くためには、 スイッチを引き戻します。

i オートリバース機能に関する注意事項は以下をご覧ください：

- サイドウィンドウ (▶ 100 ページ)
- パノラミックスライディンググループ (▶ 104 ページ)
- ▶ **コンビニエンスオープニング機能**：サイドウィンドウおよびパノラミックスライディンググループが開くまで、 スイッチを押して保持します。サイド

ウィンドウおよびパノラミックスライディンググループが元の位置まで動いて戻ります。

 スイッチの表示灯が消灯します。内気循環モードが解除されます。

- i** コンビニエンススクローリング機能で閉じた後にサイドウィンドウまたはパノラミックスライディンググループを手動で開くと、コンビニエンスオープニング機能を使用して開いたときは、それらはこの位置のままになります。

余熱ヒーター機能の作動/停止

全体的な注意事項

余熱ヒーター機能は、クライメートコントロール（左右独立調整）のみに装備されています。

エンジンを停止した後約 30 分間エンジンの余熱を利用して停止した車両を暖め続けることができます。暖房可能な時間は、設定された車内温度によって変化します。

i 設定された送風量に関係なく、一定の少ない送風量に保たれます。

i 外気温度が高いときに余熱ヒーター機能を作動させると、換気のみが行なわれます。このときは、中程度の送風量になります。

i ベンチレーターを使用して、車内を外気温度よりも低い温度に冷やすことはできません。

作動/停止

- ▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわすか、または抜きます (▶ 161 ページ)。
- ▶ **作動する**： **REST** スイッチを押します。
REST スイッチの表示灯が点灯します。
- ▶ **解除する**： **REST** スイッチを押します。
REST スイッチの表示灯が消灯します。

i 余熱ヒーターは、以下のときに自動的に停止します。

- 約 30 分後
- イグニッションをオンにしたとき
- バッテリー電圧が低下した場合

送風口の調整

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

送風口から熱風や冷風が吹き出されることがあります。そのため、送風口に身体を近づけたままにしていると、火傷やしもやけなどを起こすおそれがあります。けがの危険性があります。

すべての乗員が送風口と十分な距離を確保していることを確認してください。必要に応じて、送風の向きを車内の他のエリアに変えます。

送風口から外気を直接車内に取り入れるため、以下の注意事項を守ってください。

- フロントウィンドウとボンネットの間にある吸気口に氷、雪または葉などの妨害物がないようにしてください。
- 送風口や車内の吸排気口をふさがないように注意してください。

i 送風の方向を設定するために、送風口のアジャスターを垂直または水平に動かすことができます。

i 送風口を完全に開いて、アジャスターを真ん中のポジションにすると、最

適なエアコンディショナー機能が得られません。

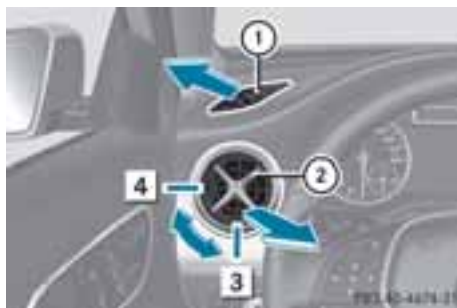
中央送風口の調整



▶ **中央送風口を開く**：中央送風口 ① が ② の位置になるまでアジャスターを時計回りに回します。

▶ **中央送風口を閉じる**：中央送風口 ① が ③ の位置になるまでアジャスターを時計回りにいっぱいまで回します。

サイド送風口の調整



① サイドウィンドウの曇り取り送風口

② サイド送風口

③ サイド送風口を開く

④ サイド送風口を閉じる

- ▶ **サイド送風口を開く**：サイド送風口 ② のアジャスターを反時計回り ③ に回します。
- ▶ **サイド送風口を閉じる**：サイド送風口 ② が ④ の位置になるまでアジャスターを時計回りにいっぱいまで回します。

リア送風口の調整



- ① リア中央送風口（左）
 - ② リア中央送風口（右）
 - ③ リア中央送風口のダイヤル
- ▶ **開閉する**：ダイヤル ③ を上または下にまわします。
- i** 正面のコントロールパネルのスイッチをオフにした場合、リア送風口から送風はされません。

役に立つ情報	160
慣らし運転の注意事項	160
走行	160
オートマチックトランスミッション	167
給油	177
駐車	180
運転のヒント	184
走行装備	191

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場
で情報をご覧ください。(p. 25 ページ)

慣らし運転の注意事項

重要な安全上の注意事項

一部のドライブシステムおよび走行安全装備では、車両が納車された後、あるいは修理後に一定距離を走行する間に、センサーシステムが自動的に調整されます。この認識手順が終了するまでは、完全なシステムの効果には達しません。

新しい、もしくは交換されたブレーキパッド / ライニングおよびディスクは、数百キロメートルの走行後にのみ最適な制動効果を発揮します。ブレーキペダルにより大きな力をかけることにより、減少した制動効果を補ってください。

最初の 1,500 km

最初から十分な注意を払ってエンジンを取り扱った場合は、エンジンの寿命まで最大限の性能を得ることができます。

- 最初の 1,500 km は、さまざまな車両速度およびエンジン回転数で走行してください。
- フルスロットルで走行するなど、この期間は車両への大きな負担は避けてください。

- エンジン回転数がタコメーターのレッドゾーン（許容限度）の $\frac{2}{3}$ を超えないように、適切にギアシフト操作しながら運転してください。
- ブレーキを効かせるために、手動でギアをシフトダウンしないでください。
- 踏み応えがあるところを越えるまでアクセルペダルを踏む（キックダウン）ことは避けるようにしてください。

1500 km 後は、車両を徐々に最大負荷およびエンジン回転数にすることができません。

AMG 車両の慣らし運転に関する追加の注意事項

- 最初の 1,500 km は、140 km/h 以上の速度で走行しないでください。
- 短時間のみ、エンジンを最高エンジン回転数 4,500 rpm にしてください。

i 車両のエンジンおよび駆動系部品の交換を行なった場合も、慣らし運転に関するこれらの注意事項に従ってください。

走行

重要な安全上の注意事項

警告

運転席の足元の荷物は、ペダルの自由な動きを妨げたり、または踏んだペダルを妨害することがあります。これは車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。

運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。フロアマットは指示にしたがって必ず確実に固定し、ペダル操作の妨げにならないようにペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。緩んだフロアマットを使用したり、フロアマットを重ねて置かないでください。

⚠ 警告

以下のような適していない履物は、ペダルの正しい作動を妨げることがあります。

- 薄いソールの靴
- 高いヒールの靴
- スリッパ

事故の危険性があります。

適した履物を着用し、ペダルの正しい作動を確保します。

⚠ 警告

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

⚠ 警告

走行時にパーキングブレーキが完全に解除されていない場合は、パーキングブレーキは以下になることがあります。

- オーバーヒートおよび火災の原因
- 車両にブレーキを効かせられなくなる火災と事故の危険性があります。発進する前に、パーキングブレーキを完全に解除してください。

! 素早く暖機運転します。エンジンが暖まっていないときは、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

オートマチック車のシフト操作は、完全に停車して行なってください。

滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪を空転させないように穏やかにアクセルペダルを操作してください。駆動系部品が損傷するおそれがあります。

! **AMG車**： エンジンが冷えているときは、全負荷運転およびエンジン回転数が 5000 rpm を超えることをさけてください。これにより、エンジンを保護し、快適ではない走行をさけることができます。

キーの位置

- 0 キーを抜く
- 1 ワイパーのような電気装備への電力供給
- 2 イグニッション（すべての電気装備への電力供給）および走行位置
- 3 エンジンを始動する

i キーがその車両のものでもなくとも、エンジンスイッチでまわすことができます。ただし、イグニッションはオンになりません。エンジンの始動はできません。

エンジンの始動**重要な安全上の注意事項****⚠ 警告**

エンジンの燃焼は、一酸化炭素のような有毒な排気ガスを排出します。これらの排気ガスを吸い込むと中毒につながります。致命的なけがの危険性があります。従って、十分な換気がない閉じた空間でエンジンを作動させたままにしないでください。

⚠ 警告

動物または環境の影響によってもたらされた可燃物が熱くなっているエンジンの部品または排気システムに接触すると、発火するおそれがあります。火災のおそれがあります。

定期的な点検を行ない、エンジンルーム、または排気システムに可燃性の異物が無いことを確認してください。

! エンジンを始動するときは、アクセルを踏まないでください。

i 触媒コンバーターが作動温度により早く到達できるようにするために、冷間始動の間はエンジンはより高いエンジン回転数で作動します。その結果、エンジンの音が変わることがあります。

オートマチックトランスミッション

▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。

マルチファンクションディスプレイにシフトポジション **P** が表示されます。

i シフトポジションが **N** のときも、ブレーキペダルを踏んで、エンジンを始動することができます。

エンジンの始動

▶ エンジンスイッチのキーを **3** の位置にまわして (▶ 161 ページ)、エンジンが始動したらすぐに放します。

発進**オートマチックトランスミッション**

i ブレーキペダルを踏んでいる場合のみ、トランスミッションをポジション **P** から希望のポジションにシフトすることができます。そのあとでのみ、パーキングロックを解除することができます。ブレーキペダルが踏まれていない場合は、

ダイレクトセレクトレバーはまだ動かすことができますが、パーキングロックはロックされたままになります。

i エンジンが始動して、トランスミッションオイル温度が -20°C 以下のときにのみ、ポジション **P** から他のシフトポジションに変えることができます。


▶ ブレーキペダルを踏み、踏んだままにします。

▶ トランスミッションをポジション **D** または **R** にシフトします。

▶ ブレーキペダルを放します。

▶ 注意しながらアクセルペダルを踏みます。

電気式パーキングブレーキは自動的に解除されます。(▶ 182 ページ)

メーターパネルの赤い表示灯  が消灯します。

i 発進すると、自動的に車両が施錠されます。ドアのロックノブが下がります。ドアは車内からいつでもロックを解除して開くことができます。

また、車速感応ドアロックを解除することもできます (▶ 246 ページ)。

i エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正な作動温度に達します。

ヒルスタートアシスト

ヒルスタートアシストは、坂道発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、運転者の発進操作を補助します。ブレーキペダルから足を放した後に、短時間車両を停止したままにします。これにより、車が動き出す前に、ブレーキペダルからアクセルペダルへ余裕を持って踏みかえることができます。

⚠ 警告

しばらくすると、ヒルスタートアシストは車両にブレーキを効かせなくなり、動き出すおそれがあります。事故やけがの危険性があります。

従って、すばやくブレーキペダルからアクセルペダルに足を動かします。ヒルスタートアシストで車が停止しているときは、絶対に車から離れないでください。

- ▶ ブレーキペダルから足を放します。車両はその後、約 1 秒間停止します。
- ▶ 発進してください。

ヒルスタートアシストは以下のような状況では作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進する
- トランスミッションがポジションが **N** にある
- 電気式パーキングブレーキが効いているとき
- ESP®が故障している

上り坂勾配での停車に関する詳細は (▶ 171 ページ) をご覧ください。

ECO スタートストップ機能**はじめに**

特定の条件下で車両が停止した場合は、ECO スタートストップ機能はエンジンを自動的に停止します。

再度発進するときは、エンジンは自動的に始動します。それにより、ECO スタートストップ機能は、燃料消費と排出ガスを低減させる支援を行ないます。

重要な安全上の注意事項**⚠ 警告**

エンジンが自動的にオフになり、車両から出ると、エンジンは自動的に再始動し

ます。車両が動き始めることがあります。事故やけがの危険性があります。

車両から出たい場合は、必ずイグニッションをオフにし、動き出さないように車両を固定します。

全体的な注意事項**① ECO スタートストップ機能表示**

マルチファンクションディスプレイに **ECO** マークが緑で表示される場合は、車両が停止したときに ECO スタートストップ機能がエンジンを自動的にオフにします。

ECO スタートストップ機能は、イグニッションキーでエンジンを始動するたびに自動的に起動します。

ECO スタートストップ機能が手動で解除された(▶ 165 ページ)、または故障が原因でシステムが解除された場合は、**ECO** マークは表示されません。

AMG 車両 : ECO スタートストップ機能は、走行モード **C** でのみ使用できます。

自動エンジン停止**全体的な注意事項**

以下のときは、ECO スタートストップ機能が作動可能で、**ECO** マークがマルチファンクションディスプレイに緑で表示されます。

- ECO スイッチの表示灯が緑色に点灯している
- オフロードプログラムが起動していない

- ・外気温度がシステムに適した範囲にある
- ・エンジンが正常な作動温度である
- ・車内の設定温度に到達している
- ・バッテリーが十分に充電されている
- ・エアコンディショナーシステムが作動しているときに、フロントウィンドウが曇っていないことをシステムが検知している
- ・ボンネットが閉じている
- ・運転席ドアが閉じていて、運転席シートベルトが着用されている

自動エンジン停止のすべての条件が満たされていない場合は、**ECO** マークが黄色で表示されます。

i エンジンが自動的に停止しているときは、車両のすべてのシステムは作動したままになります。

i エンジンは最大で連続して 4 回自動的に停止させることができます（最初の停止と、それに続く 3 回の停止）。**ECO** マークは、4 回目にエンジンが自動的に始動した後は、マルチファンクションディスプレイに黄色で表示されます。マルチファンクションディスプレイに **ECO** マークが緑色で表示されると、自動エンジン停止は再度可能です。

オートマチックトランスミッション装備車

D または **N** で停止するまで車両にブレーキを効かせた場合は、ECO スタートストップ機能がエンジンを自動的に停止します。

i エンジンが自動停止した場合は、ホールド機能を作動させることができます。その場合は、自動停止状態の間はブレーキを効かせ続ける必要はありません。アクセルペダルを踏んだときはエンジンが自動的に始動し、ホールド機能のブレーキ作用は解除されます。

自動エンジンスタート

全体的な注意事項

以下の場合に、エンジンは自動的に始動します：

- ・ECO スイッチを押すことにより、ECO スタートストップ機能を解除した
- ・リバースギア **R** に入れた
- ・運転席シートベルトを外したか、または運転席ドアを開いた
- ・車両が動き出した
- ・ブレーキシステムが要求した
- ・車内の温度が設定範囲から外れた
- ・エアコンディショナーシステムが作動しているときに、フロントウィンドウの曇りをシステムが検知した
- ・バッテリーの充電状態が低すぎる

オートマチックトランスミッション装備車

以下を行なった場合は、エンジンは自動的に始動します：

- ・ホールド機能が作動していなく、トランスミッションが **D** または **N** のときに、ブレーキペダルを放した
- ・アクセルペダルを踏んだ
- ・トランスミッションをポジション **P** から動かした
- ・オフロードプログラムを作動させます。

i トランスミッションをポジション **P** にシフトしても、エンジンは始動しません。

i トランスミッションを **R** から **D** へシフトすると、ECO スタートストップ機能は再び使用可能になり、**ECO** マークがマルチファンクションディスプレイに緑色で表示されます。

ECO スタートストップ機能の解除/設定



▶ **解除する**： ECO スイッチ ① を押します。
表示灯 ② と、マルチファンクションディスプレイの **ECO** マークが消えます。

▶ **設定する**： ECO スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が点灯します。

自動エンジン停止(▶ 163 ページ)のすべての条件が満たされている場合は、マルチファンクションディスプレイに **ECO** マークが緑色で表示されます。

自動エンジン停止(▶ 163 ページ)のすべての条件が満たされていない場合は、マルチファンクションディスプレイに **ECO** マークが黄色で表示されます。この場合は、ECO スタートストップ機能は作動しません。

i 表示灯 ② が消えている場合は、ECO スタートストップ機能は手動または誤作動により、作動解除されています。そのときは、車両が停止したときにエンジンは自動的に停止しません。

エンジンのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンが始動しない。	<p>ホールド機能またはディストロニック・プラスが作動している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ホールド機能 (▷ 205 ページ) またはディストロニック・プラス (▷ 196 ページ) を解除します。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。
エンジンが始動しない。スターターモーターの音がする。	<ul style="list-style-type: none"> • エンジンの電子制御部品に異常がある。 • 燃料供給に異常がある。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 再びエンジンを始動させる前に、キーをまわしてエンジンスイッチのポジション 0 に戻します。 ▶ 再度、エンジンの始動を試みてください (▷ 161 ページ)。バッテリーが放電するので、極端に長く、頻繁なエンジン始動の試みは避けてください。 <p>数回の試みの後にエンジンが始動しない場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
エンジンが始動しない。スターターモーターの音がする。燃料残量警告灯が点灯していて、燃料計の指針が 0 を示している。	<p>燃料タンクが空になっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 車両に給油してください。
エンジンが始動しない。スターターモーターの音がしない。	<p>バッテリーが非常に弱っているか、放電しているため、バッテリーの電圧が低くなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 車両をジャンプスタートしてください (▷ 349 ページ)。 <p>ジャンプスタートを試みても、エンジンが始動しないとき：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 <p>非常に高熱の負荷にスターターモーターがさらされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ スターターモーターが冷えるまで約 2 分間待ってください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 <p>それでもエンジンが始動しない場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
エンジンがスムーズに作動しなく、ミスファイアも起きている。	<p>エンジンの電子制御部品またはエンジン制御システムの機械部品に異常がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 少しだけアクセルペダルを踏んでください。さもないと、未燃焼燃料が触媒に入り、損傷することがあります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因を調べてください。
冷却水温度の表示が120℃以上を示している。冷却水警告灯も点灯し、警告音が鳴ることがある。	<p>冷却水レベルが低すぎる。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されなくなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ すみやかに停車し、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ 冷却水レベルを点検してください (▶ 324 ページ)。必要であれば、そうするときの警告事項に従って冷却水を補給してください。 <p>冷却水レベルが正常な場合は、ラジエターのラジエーターファンが故障していることがある。冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されなくなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 冷却水温度が120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行することができます。 ▶ そのときは、山道の走行や発進 / 停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷は避けてください。

オートマチックトランスミッション

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

エンジン回転数がアイドリング回転数以上で、トランスミッションをポジション **D** または **R** に入れると、車両は突然発進することがあります。事故の危険性があります。

トランスミッションをポジション **D** または **R** に入れるときは、常にブレーキペダルをしっかりと踏み、同時に加速しないでください。

⚠ 警告

エンジンをオフにすると、オートマチックトランスミッションはニュートラルポジション **N** に切り替わります。車両が動き出すおそれがあります。事故の危険性があります。

エンジンをオフにした後は、必ずパーキングポジション **P** に切り替えてください。パーキングブレーキを効かせて、駐車した車両が動き出すのを防いでください。

i エンジンを停止しているときは、エンジンとトランスミッションの間の動力伝達が遮断されていることに留意してください。

車両が動き出さないように、以下を行ってください：

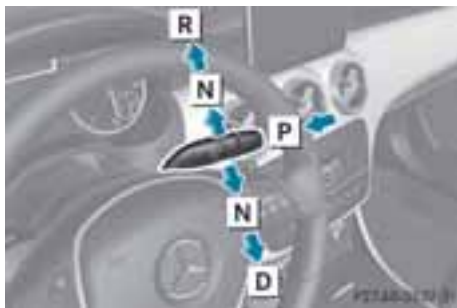
- エンジンが停止して車両が停止しているときは、オートマチックトランスミッションをパーキングポジション P にシフトしてください。
- 電気式パーキングブレーキをかけてください。

DIRECT SELECT レバー

シフトポジションの概要

全車両 (AMG 車を除く) : DIRECT SELECT レバーは、ステアリングの右側にあります。

AMG 車のセレクトラーレバーに関する情報は (▶ 169 ページ) をご覧ください。



- P** パーキングロック付きパーキングポジション
- R** リバースギア
- N** ニュートラル
- D** ドライブ

i DIRECT SELECT レバーは常に元の位置に戻ります。そのときのシフトポジション P、R、N または D は、マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示 (▶ 168 ページ) に表示されます。

シフトポジションおよび走行モード表示

そのときのシフトポジションと走行モードがマルチファンクションディスプレイに表示されます。



- ① シフトポジション表示
- ② 走行モード表示

i シフトポジション表示の矢印は、DIRECT SELECT レバーを使用して選択できるシフトポジションとその方向を示しています。

! マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示が作動していない場合は、希望のシフトポジションに入っているかどうかを点検するために慎重に発進してください。理想的には、シフトポジション D および走行モード E または S を選択してください。

パーキングポジション P に入れる

▶ DIRECT SELECT レバーを矢印 P の方向に押しします。
マルチファンクションディスプレイにシフトポジション P が表示されます。

i パーキングポジション P にしたとき、マルチファンクションディスプレイのシフトポジション表示が P を表示していることを確認してください。

i 車両が停車しているときにのみ、パーキングポジション P にすることができます。

i オートマチックトランスミッションは、以下の場合にパーキングポジション **P** に自動的にシフトします。

- 車両がシフトポジション **D** または **R** で停車している間に、運転席ドアを開いた場合
- シフトポジション **D** または **R** でごく低速で走行している間に、ドアを開いた場合

さらに、警告音が鳴り、ディスプレイメッセージが表示されます。

i ブレーキを踏んで、DIRECT SELECT レバーを上または下に押しと、パーキングロックが解除されます。トランスミッションは、ニュートラル **N** に入っています。

トランスミッションオイル温度が -20°C 以下の場合、エンジンが始動しているときのみ、パーキングポジション **P** から他のシフトポジションに変えることができます。

パーキングポジション **P** から **R** または **D** に直接シフトするためには：

- ブレーキペダルを踏み、そして
- 最初に手応えがあるところを越えるまで、DIRECT SELECT レバーを上または下に押しします。

! エンジン回転数が高すぎるときや走行中は、**D** から **R**、**R** から **D** または直接 **P** にシフトしないでください。オートマチックトランスミッションが損傷する原因になります。

リバースギア **R** に入れる

! 必ず停車してから、シフトポジションを **R** にしてください。

i リバースギアに入っているときは、ECO スタートストップ機能は作動しません。

ECO スタートストップ機能についてのさらなる情報は、(▶ 163 ページ) をご覧ください。

- ▶ 車両が停車している間にブレーキペダルを踏みます。
- ▶ 最初に手応えがあるところを越えるまで、DIRECT SELECT レバーを上を押します。

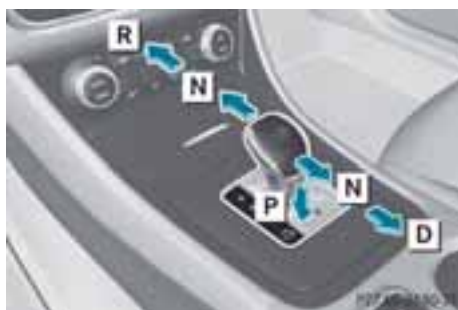
ニュートラル **N** にシフトする

- ▶ 最初に手応えがあるところまで、DIRECT SELECT レバーを上または下に押しします。

ドライブポジション **D** に入れる

- ▶ 車両が停車している間にブレーキペダルを踏みます。
- ▶ 最初に手応えがあるところを越えるまで、DIRECT SELECT レバーを下に押しします。

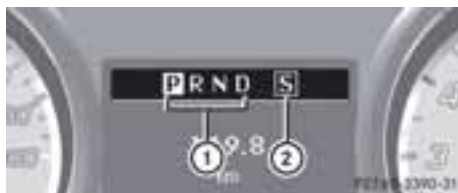
セレクターレバー



AMG 車両の P スイッチ付きセレクターレバー

- P** パーキングロック付きパーキングポジション
- R** リバースギア
- N** ニュートラル
- D** ドライブ

シフトポジションおよび走行モード表示



例

- ① シフトポジション表示
- ② 走行モード表示

そのときのシフトポジションと走行モードがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

パーキングポジションPに入れる



- ▶ 車両が停止しているときに、Pスイッチ ① を押します。

シフトポジション

- P** **パーキングポジション**
停止中に車両が動き出すことを防止します。車両が停止していない場合は、トランスミッションをポジション **P** (▶ 180 ページ) にシフトしないでください。
- R** **リバースギア**
車両が停止しているときのみ、トランスミッションを **R** にシフトしてください。
- N** **ニュートラル**
エンジンから駆動輪に動力が伝達されません。
ブレーキを解除することにより、押したりけん引してもらうことで車両を自由に移動できます。
ESP®が解除されていたり、故障している場合：凍結路などで横滑りして車両が危険な場合にのみ、トランスミッションを **N** にシフトしてください。
エンジンを停止すると、オートマチックトランスミッションが自動的にニュートラルポジション **N** にシフトします。
- D** **ドライブ**
オートマチックトランスミッションは自動的に変速します。すべての前進ギアを使用できます。

運転のヒント

ギアシフト操作

シフトポジションが **D** のときに、オートマチックトランスミッションは自動的にそれぞれのギアへシフトします。ギアシフトは以下によって決定されます。

- 選択されている走行モード (▶ 171 ページ)
- アクセルペダルの位置 (▶ 171 ページ)
- 走行速度

アクセルペダルの位置

お客様の運転スタイルはオートマチックトランスミッションのギアシフトに以下のような影響を与えます：

- 軽い踏み込み: 早めのシフトアップ
- 深い踏み込み: 遅めのシフトアップ

上り坂勾配で車両を停車したままにする

⚠ 警告

クラッチが過熱すると、エレクトロニックマネジメントシステムは自動的に解除されます。動力伝達を遮断します。車両が上り坂で後退するなどのおそれがあります。事故の危険性があります。

決して、アクセルを踏むことにより、上り坂勾配で車両を停車させないでください。

アクセルを踏んで、上り坂勾配で車両を停車させると、クラッチが過熱する可能性があります。クラッチが過熱すると、警告音が鳴ります。

全車両 (AMG 車を除く) マルチファンクションディスプレイに **エンジン** は止めずに **停車して P にシフトして下さい** というメッセージが表示されます。クラッチの温度が下がり、マルチファンクションディスプレイからディスプレイメッセー

ジが消えたら、引き続き走行することができます。

AMG 車： マルチファンクションディスプレイに **トランスミッション オバーセート 注意して走行** というディスプレイメッセージが表示されます。

アクセルを踏んで、上り坂勾配で車両を決して停車させないでください。その代り、以下のときにのみ上り坂勾配に車両を停車することができます：

- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- ホールド機能を作動させたとき
- 電気式パーキングブレーキをかけたとき

キックダウン

AMG 車： 一時的にマニュアル走行モード **M** でキックダウンを使用する場合のみ可能です。マニュアル走行モード **M** に関する詳細は (▶ 173 ページ) をご覧ください。

キックダウンは、最大限の加速のために使用してください。

- ▶ 踏み応えがあるところを越えるまで、アクセルペダルを踏みます。エンジン回転数に応じて、トランスミッションは低いギアにシフトします。
- ▶ 希望の速度に達したら、アクセルペダルを緩めます。オートマチックトランスミッションがシフトアップして戻ります。

走行モード選択スイッチ

全体的な注意事項

走行モード選択スイッチを操作して、路面状況に適した走行モードを選択できます。



例：走行モード選択スイッチ

E エコノミー	快適で経済的な走行
S スポーツ	スポーティな走行
M マニュアル	マニュアルギアシフト

▶ 走行モード選択スイッチ ① を押しながら、マルチファンクションディスプレイに希望の走行モードを表示させます。

① エンジンを始動したときは常に、オートマチックトランスミッションはオートマチック走行モード **E** モードに切り替わります。

① オートマチック走行モードについてのさらなる情報は、(▶ 173 ページ) をご覧ください。

AMG 車両



C 効率的な制御	快適で経済的な走行
S スポーツ	スポーティな走行
M マニュアル	マニュアルギアシフト

▶ 走行モード選択スイッチ ① を押しながら、マルチファンクションディスプレイに希望の走行モードを表示させます。

① エンジンが始動されるたびに、オートマチックトランスミッションはオートマチック走行モード **C** に切り替わります。

① オートマチック走行モードについてのさらなる情報は、(▶ 173 ページ) をご覧ください。

パドルシフト



- ① 左側のパドルシフト (シフトダウン)
- ② 右側のパドルシフト (シフトアップ)

走行モード **M** では、パドルシフトを操作してギアを変更できます。

オートマチック走行モードが **E** (AMG 車両では走行モード **C**) または **S** のとき、左または右のパドルシフトを引くと、限られた時間でオートマチックトランスミッションが走行モード **M** にシフトします。どちらのギアシフトパドルを引くかにより、オートマチックトランスミッ

ションがただちに次のシフトを下げるか、上げるかします。

AMG 車：パドルシフトを使用して、走行モード **M** レーススタート(▷ 207 ページ) を作動させることができます。

i シフトポジションが **D** のときのみ、パドルシフトでギアシフトが可能となります。

i マニュアル走行モードに関する詳細は、(▷ 173 ページ) をご覧ください。

オートマチック走行モード

走行モード **E** (AMG 車両では走行モード **C**) では、以下の特性になります。

- 快適性に適応したエンジン設定。
- オートマチックトランスミッションのより早めのシフトアップによる理想的な燃料消費。
- アクセルペダルをいっぱいまで踏み込まないときの、前進 / 後退ギアでのより穏やかな車両の発進。
- 感度の向上。これにより、滑りやすい路面などでの走行安定性が向上します。
- オートマチックトランスミッションのより早めのシフトアップ。その結果、車両は低いエンジン回転数で走行し、スピンの可能性が低下します。

走行モード **S** では、以下の特性になります。

- スポーティなエンジン設定。
- より遅めのオートマチックトランスミッションのシフトアップ。
- オートマチックトランスミッションのシフトポイントがより遅めになる結果、燃料消費が増加する可能性があります。

マニュアル走行モード

はじめに

マニュアル走行モード **M** では、パドルシフトを使用して、ギアをご自身で変更することができます。そのためには、セレクターレバーが **D** に入っている必要があります。そのとき選択され、入っているギアがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

マニュアル走行モード **M** は、シフトチェンジの自発性、応答性および滑らかさの点で、走行モード **E** (AMG 車両では走行モード **C**) および **S** と異なります。

ギア	走行状況
3	エンジンブレーキを使用するため
2	下り坂や以下を走行しているときに、エンジンブレーキが必要なときに使用します。 <ul style="list-style-type: none"> • 急峻な山道 • 山間路で • 過酷な状況
1	非常に急な下り坂や長い下り坂などでエンジンのブレーキ効果を使用します。

マニュアル走行モードの作動

常時作動

▶ マルチファンクションディスプレイに **M** が表示されるまで、走行モード選択スイッチ(▷ 171 ページ) を繰り返し押します。

走行モード **E** (AMG 車の場合、走行モード **C**) または **S** を選択するまで、マニュアル走行モード **M** が作動したままになります。

一時的な作動

- ▶ 左または右側のパドルシフト (▶ 172 ページ) を引きます。

マルチファンクションディスプレイに **M** が表示されます。マニュアル走行モード **M** が一時的に作動しています。どちらのギアシフトパドルを引くかにより、オートマチックトランスミッションがただちに次のシフトを下げるか、上げるかします。

- i** パドルシフトからマニュアル走行モード **M** を作動したとき、一時的に作動したマニュアル走行モード **M** は、運転状況が可能な場合、限られた時間の後で自動的に解除されます。オートマチックトランスミッションは、以前作動していた走行モード **E** (AMG 車両では走行モード **C**) または **S** に切り替わります。下り坂勾配を走行したとき、一時的に作動したマニュアル走行モード **M** は、車両が下り坂を走行しているときにアクセルペダルを踏んだときのみ、解除されます。

シフトアップ

- ▶ 右側パドルシフトを引きます (▶ 172 ページ)。

オートマチックトランスミッションが次のギアにシフトアップします。

- i** **全車両 (AMG 車を除く)** : エンジン損傷を防ぐために、以下のときオートマチックトランスミッションは自動的にシフトアップします :

- 現在締結しているギアでエンジン最高回転数にたっしたとき
- アクセルペダルを踏んだ。

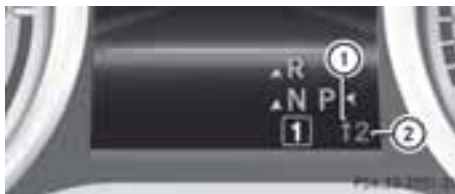
AMG 車両 :

- i** マニュアルギアシフト **M** では、現在のギアでのエンジン許容回転数に達しても、自動的にシフトアップしません。エンジンの許容回転数に達すると、エンジ

ンの過回転を防ぎエンジンを保護するため、燃料供給が停止します。エンジン回転数が許容回転数を超過して、タコメーターのレッドゾーンに入らないように注意してください。エンジンが損傷するおそれがあります。

推奨ギアシフト

経済的な運転スタイルをとることができるよう、推奨ギアシフトは運転者を支援します。推奨ギアがマルチファンクションディスプレイに表示されます。



- ▶ メーターパネルのマルチファンクションディスプレイに表示されたときは、推奨ギアシフト ① に従って推奨ギア ② にシフトします。

AMG 車両

- i** マニュアルギアシフト **M** では、現在のギアでのエンジン許容回転数に達しても、自動的にシフトアップしません。エンジンの許容回転数に達すると、エンジンの過回転を防ぎエンジンを保護するため、燃料供給が停止します。エンジン回転数が許容回転数を超過して、タコメーターのレッドゾーンに入らないように注意してください。エンジンが損傷するおそれがあります。



- ① シフトインジケーター
- ② シフトアップインジケーター

エンジン回転数がレッドゾーンに達する前に、シフトアップインジケーターがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

- ▶ スピードメーターのマルチファンクションディスプレイの色が赤色に変わり、ディスプレイメッセージ **UP** が表示される場合は、ギアをシフトアップします。

シフトダウン

- ▶ 左側パドルシフトを引きます (▶ 172 ページ)。
オートマチックトランスミッションが次のギアにシフトダウンします。

i シフトダウンしないで減速または停止した場合は、オートマチックトランスミッションは自動的にシフトダウンしません。

i 最大限の加速のためには、トランスミッションがそのときの速度に最適なギアを選択するまで、左側のパドルシフトを引きます。

i シフトダウンしたときにエンジン最高回転数を超えそうな場合は、オートマチックトランスミッションはエンジンの損傷を防ぐため、シフトダウンを行いません。

キックダウン

AMG 車：キックダウンの使用は一時的なマニュアル走行モード **M** でのみ可能です。

マニュアル走行モード **M** では、最大限の加速のためにキックダウンを使用することができます。

- ▶ 踏み応えがあるところを越えるまで、アクセルペダルを踏みます。
エンジン回転数に応じて、トランスミッションは低いギアにシフトします。
- ▶ 希望の速度に達すると、シフトアップして戻ります。

i キックダウンの間は、パドルシフトを使用してギアをシフトすることはできません。

i フルスロットルを加え、エンジン最高回転数に達するとオートマチックトランスミッションは次のギアにシフトアップします。これによりエンジンを過回転から防ぎます。

マニュアル走行モードの解除

- ▶ マルチファンクションディスプレイに **E** (AMG 車では走行モード **C**) または **S** が表示されるまで、走行モード選択スイッチ (▶ 171 ページ) を繰り返し押しします。

マニュアル走行モードの一時解除

- ▶ オートマチックトランスミッションが最後に作動したオートマチック走行モード **E** (AMG 車両では走行モード **C**) または **S** にシフトするまで、右側のパドルシフトを引いたまま保持してください。

i マニュアル走行モード **M** が解除された場合、オートマチック走行モード **E** (AMG 車両では走行モード **C**) または **S** のオートマチックトランスミッションが現在のギアから高いまたは低いギアにシ

フトすることがあります。これは、アクセルペダルの位置、走行速度や積載量に左右されます。

トランスミッションのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でのトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションがすべてのギアに入らない。 リバースギヤを入れることができない。	トランスミッションに異常があり、エマージェンシーモードになっている。 ▶ 停車してください。 ▶ シフトポジションを P にしてください。 ▶ エンジンを停止します。 ▶ 約 10 秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶ トランスミッションをポジション D にシフトします。 ▶ すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でのトランスミッションの点検を受けてください。

給油

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

燃料は可燃性の高いものです。燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。

火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジンを、当てはまる場合は補助ヒーターを停止します。

⚠ 警告

燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。

燃料は決して飲まないこと、また目や衣服に付着させないでください。燃料の気体を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。

お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹸および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医師の診察を受けてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。無理に吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

⚠ 警告

静電気の蓄積により、火花が発生したり、燃料の気体に引火するおそれがあります。火災および爆発の危険性があります。燃料給油口を開いたり、給油ノズルに触れる前に、必ず車体に触ってください。蓄積されている可能性がある静電気を放電します。

❗ ガソリンエンジン車両に給油するために軽油を使用しないでください。誤って異なる燃料を給油した場合は、イグニッ

ションをオンにしないでください。さもないと、燃料が燃料システムに入るおそれがあります。少量の誤った燃料でも、燃料システムやエンジンの損傷につながるおそれがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して、燃料タンクや燃料系統から完全に抜き取ってください。

❗ 給油ノズルの自動停止後は、それ以上補給しないでください。燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。

❗ 給油中に燃料を塗装面にこぼさないよう注意してください。塗装面が損傷するおそれがあります。

❗ 燃料携行缶から燃料を補給するときは、フィルターを使用してください。燃料携行缶に付着した微粒子によって、フューエルラインや燃料噴射システムの部品が詰まるおそれがあります。

給油作業中は車内に戻らないでください。さもないと、再度帯電することがあります。

燃料タンクに補充しすぎた場合は、燃料ポンプのノズルを外すときに燃料が飛散することがあります。

燃料および燃料品質に関するさらなる情報は (▷ 382 ページ) をご覧ください。

セルフサービスのガソリンスタンド

給油に関する注意事項を遵守してください。(▷ 177 ページ)

セルフ式のガソリンスタンドで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- 給油前に必ずエンジンを停止して、ドアやサイドウィンドウなどを閉じてください。
- 燃料給油フラップを開くときから、一連の給油作業を必ずひとりで行なってください。


給油作業を行なう人以外は燃料給油フラップに近づかないでください。

- キャップの開閉は確実に行ってください。火気を近づけないようにしてください。
- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料があふれるおそれがあります。
- 給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

給油

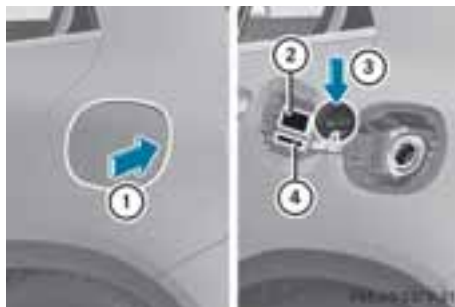
全体的な注意事項

キーで車両を開閉したときは、燃料給油口フラップも自動的に解錠または施錠されます。

燃料給油口キャップの位置はメーターパネルに表示されています 。給油ポンプ横の矢印は、車両の側面を示していません。

燃料給油口フラップは車両の左側後方にあります。

燃料給油口フラップを開く



- ① 燃料給油口フラップを開く
- ② タイヤ空気圧表
- ③ 燃料給油口キャップを差し込む
- ④ 使用燃料表示

- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ 燃料給油口フラップの矢印 ① の位置を押します。
燃料給油口フラップが開きます。
- ▶ 燃料給油口キャップを反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ 燃料給油口キャップを燃料給油口フラップ ③ の裏側にあるホルダーブラケットに差し込みます。
- ▶ タンクの給油口に燃料ポンプノズルを完全に差し込み、所定の位置に掛けて、給油します。
- ▶ ポンプノズルが停止するまでのみ、タンクに給油します。

i 最初にポンプが給油を停止した後は、それ以上燃料を追加しないでください。さもないと、燃料が漏れることがあります。

燃料給油口フラップを閉じる

- ▶ キャップを給油口に合わせ、音がしてロックされるまで時計回りにまわします。
- ▶ 燃料給油口フラップを閉じます。

i 車両を施錠する前に燃料給油口フラップを閉じてください。

燃料および燃料タンクのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
燃料が漏れている。	<p>燃料供給システムまたは燃料タンクに問題がある。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>火災または爆発の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ただちにエンジンスイッチのキーを 0 の位置にまわして、エンジンスイッチからキーを抜いてください (▶ 161 ページ)。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
燃料給油口フラップが開かない。	<p>燃料給油口フラップが解錠されていない。</p> <p>または</p> <p>キーの電池が消耗している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 車両を解錠してください (▶ 88 ページ)。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ エマージェンシーキーを使用して車両を解錠してください (▶ 89 ページ)。 <p>燃料給油口フラップは解錠されているが、開閉機構に異常がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

駐車

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

葉、草または小枝のような可燃性の素材は、排気システムの高温度部または排気ガスの排気に長時間触れると発火することがあります。火災の危険性があります。可燃性の素材が車両の熱い部品に触れないように車両を駐車してください。特に、乾燥した草原、または収穫した穀物畑に駐車しないでください。

⚠ 警告

保護者のいない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキを解除したとき
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンを始動する

加えて、車両装備を操作し、挟み込まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

! 車両が動き出さないように、必ず適切な方法で固定してください。車体または駆動系を損傷するおそれがあります。

車両が不意に動き出さないためには、以下のようにしてください。

- 電気式パーキングブレーキを効かせている
- シフトポジションが **P** にあり、マルチファンクションディスプレイのシフトポジションが **P** を表示していること
- エンジンスイッチからキーが取り外されていること
- 上り坂または下り坂の勾配では、前輪を縁石方向に向けなければなりません

エンジンの停止

重要な安全上の注意事項

警告

エンジンをオフにすると、オートマチックトランスミッションはニュートラルポジション **N** に切り替わります。車両が動き出すおそれがあります。事故の危険性があります。

エンジンをオフにした後は、必ずパーキングポジション **P** に切り替えてください。パーキングブレーキを効かせて、駐車した車両が動き出すのを防いでください。

オートマチックトランスミッション装備車

全車両（AMG 車両を除く）

- ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。
- ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。



AMG 車両：

- ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。
- ▶ スイッチ ① を押します。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **O** の位置にまわして、抜きます。
イモビライザーが作動します。

i シフトポジション **R** または **D** でエンジンを停止した場合は、オートマチックトランスミッションは自動的に **N** にシフトします。

その後フロントドアのいずれかを開くか、またはエンジンスイッチからキーを抜いた場合は、オートマチックトランスミッションは **P** にシフトします。

エンジンを停止する前にオートマチックトランスミッションを **N** にシフトした場合は、ドアを開いてもオートマチックトランスミッションは **N** のままになります。

電気式パーキングブレーキ

全体的な注意事項

⚠ 警告

保護者のいない状態で子供を車内に残すと、たとえば以下のようにして車両を動かすように設定できることがあります。

- パーキングブレーキを解除したとき
- オートマチックトランスミッションをパーキングポジション **P** からシフトする
- エンジンを始動する

加えて、車両装備を操作し、挟み込まれる場合があります。事故やけがの危険性があります。

車両から離れるときは、常にキーを携帯して車両を施錠してください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

電気式パーキングブレーキの機能は、バッテリー電圧の影響を受けます。バッテリーの電圧が低い、またはシステムに不具合がある場合は、解除してあるパーキングブレーキを効かせることができません。

- ▶ このような場合は、水平な場所にのみ車両を駐車して、動き出さないように固定してください。
- ▶ オートマチックトランスミッションをポジション **P** にシフトします。

バッテリーの電圧が低い、またはシステムに不具合がある場合は、効かせてあるパーキングブレーキを解除することができません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

i エンジンが停止しているときに、電気式パーキングブレーキは定期的に機能チェックを行ないます。発生する音は問題ありません。



手動での作動 / 解除

作動

- ▶ ハンドル **①** を押します。
電気式パーキングブレーキを効かせているときは、メーターパネルの赤い表示灯 **Ⓢ** が点灯します。

i 電気式パーキングブレーキは、キーを抜いているときも効かせることができません。

解除

- ▶ ハンドル **①** を引きます。
メーターパネルの赤い表示灯 **Ⓢ** が消灯します。

i エンジンスイッチのキーが **1** または **2** の位置にあるときのみ、電気式パーキングブレーキを解除することができます。


自動的な作動

以下のときに、電気式パーキングブレーキは自動的に効きます。

- ディストロニック・プラスにより車両が停止したとき
- ホールド機能が車両を停止したまま保持している場合、または
- アクティブパーキングアシストが車両を停止した状態で保っている場合

さらに、以下の条件のうちの少なくとも1つが満たされている必要があります。

- エンジンが停止している
- 運転席ドアが開いていて、シートベルトが着用されていない
- システムに故障がある
- 電力供給が不十分である
- 車両が長時間停車している

メーターパネルの赤い表示灯  が点灯します。

i ECO スタートストップ機能によりエンジンが停止した場合は、電気式パーキングブレーキは自動的に効きません。

自動解除

電気式パーキングブレーキは、以下の条件がすべて満たされると自動解除されます。

- エンジンがかかっている。
- シフトポジション **D** または **R** にある。
- シートベルトを着用している。
- アクセルペダルを踏んだ。

シフトポジションが **R** のとき、トランクリッドは閉じている必要があります。


シートベルトが着用されていない場合は、電気式パーキングブレーキを自動的に解除するためには以下の条件が満たされている必要があります。



- 運転席ドアが閉じている。
- トランスミッションをポジション **P** からシフトした、または以前に 3 km/h 以上で走行した

i 意図せずにアクセルペダルを踏まないようにしてください。さもないと、パーキングブレーキが解除され、車両が動き始めます。


緊急ブレーキ操作

電気式パーキングブレーキを使用して、緊急時に車両にブレーキを効かせることもできます。

- ▶ 走行している間に、電気式パーキングブレーキのハンドル  を押します (▶ 182 ページ)。

i 電気式パーキングブレーキのハンドル  を押し続けている限りは、車両にはブレーキが効いています。電気式パーキングブレーキのハンドル  が押されている時間が長いほど、ブレーキの力も大きくなります。

ブレーキが効いている間は以下のようになります。

- 警告音が鳴ります。
- **パーキングブレーキ 解除してください** というメッセージが表示される
- メーターパネルの赤い表示灯  が点滅する

車両にブレーキがかかって停車したら、電気式パーキングブレーキが作動します。

長期間の車両の駐車

車を 4 週間以上使用しないと、バッテリーが完全にあがって、損傷するおそれがあります。

車を 6 週間以上使用しないと、車両に不具合が生じるおそれがあります。

- ▶ 対応については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i 充電器についてはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

運転のヒント

全体的な注意事項

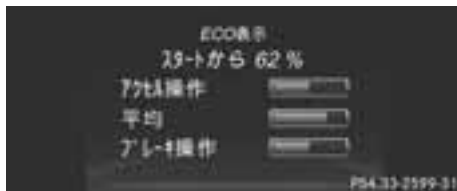
⚠ 警告

走行中にイグニッションをオフにすると、安全性に関連した機能が制限付きでしか使用できない、または全くできません。これにより、例えばパワーステアリングやブレーキの倍力装置に影響を与えることがあります。ステアリングやブレーキに非常に大きな力が必要になります。事故の危険性があります。

走行中はイグニッションをオフにしないでください。

ECO 表示

ECO 表示は、お客様の運転特性がどのくらい経済的であるかの評価を行ないます。ECO 表示は、選択されている設定および現在の状況で最も経済的な運転スタイルを達成するための支援を行ないます。燃費は運転スタイルによって著しく影響されることがあります。



例：ECO 表示

ECO 表示は以下の 3 本のバーで構成されています：

- アクセル操作
- 平均
- ブレーキ操作

パーセンテージ数は、3 本のバーの数値の平均値です。3 本のバーおよび平均値は 50 % の数値から開始します。高いパーセンテージ数はより経済的な運転スタイルを示しています。

ECO 表示は、実際の燃料消費を示していません。ECO 表示の特定のパーセンテージ数は、特定の燃費を示してはなりません。

運転スタイルに加えて、燃費は以下のような他の多くの要因に影響されます：

- 積載量
- タイヤ空気圧
- 冷間始動
- ルートの選択
- 電気装備の使用

これらの要因は ECO 表示には含まれていません。

運転スタイルの評価には、以下の 3 つのカテゴリーが考慮されます：

- **アクセル操作**（すべての加速行為の評価）
 - バーが埋められているとき：特に高い速度での適度な加速
 - バーが空欄のとき：スポーティな加速
- **平均**（運転操作の常時評価）
 - バーが埋められているとき：一定の速度、および不必要な加速および減速の回避
 - バーが空欄のとき：速度に変動がある
- **ブレーキ操作**（すべての減速過程の評価）
 - バーが埋められているとき：距離を保ちながらの予期走行およびアクセルの早期開放。車両はブレーキを使用することなく惰性走行しています。
 - バーが空欄のとき：頻繁なブレーキ操作

i 経済的な運転スタイルは適度なエンジン回転数での走行と関係しています。

アクセル操作および**平均**のカテゴリーで、より高い数値を達成するためには：

- 推奨ギアシフトに従ってください。
- 走行モード **E** で車両を走行してください。

① 高速道路のような一定速度での長距離走行では、平均のバーのみが変化します。

② ECO 表示は、走行開始から完了までの走行特性を要約したものです。そのため、走行開始時点ではバーに活発な変化があります。長い運転時間の間では、これらの変化は小さくなります。より活発な変化のためには、手動でのリセットを行なってください。

ECO 表示に関するさらなる情報は、(▷ 234 ページ) をご覧ください。

ブレーキ

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

エンジンのブレーキ効果を増やすために滑りやすい路面でシフトダウンすると、駆動輪がグリップを失うことがあります。これにより、横滑りや事故が起きる危険性が高くなります。

滑りやすい道路では、シフトダウンによるエンジンブレーキを効かせないでください。

下り坂勾配

長い下り坂や急な下り坂の勾配では、適切なタイミングで低いギアに変速してください。積載した車両を運転するときには、このことに特に留意してください。このため、マニュアル走行モード **M** (▷ 173 ページ) を選択する必要があります。

① これは、クルーズコントロール、可変スピードリミッターまたはディストロニック・プラスを作動させている場合も該当します。

これによりエンジンのブレーキ効果を利用し、車両の速度を維持するために必要なブレーキ操作が少なくなります。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽

減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。

② マニュアル走行モード **M** が一時的に作動したとき、下り坂の勾配でアクセルペダルを軽く踏み込む：オートマチックトランスミッションは最後に作動していたオートマチック走行モード **E** または **S** に切り替わることがあります。オートマチックトランスミッションはより高いギアにシフトすることがあります。これは、エンジンのブレーキ作用を低減させます。

高い、および低い負荷

⚠ 警告

走行中にブレーキペダルの上に足を置くと、ブレーキシステムがオーバーヒートすることがあります。これにより制動距離が増加して、ブレーキシステムが故障する原因になるおそれもあります。事故の危険性があります。

ブレーキペダルをフットレストとして使用しないでください。ブレーキペダルとアクセルペダルを同時に踏まないでください。

❗ ブレーキペダルを常時踏むと、ブレーキパッドが極端に早く磨耗する結果になります。

大きな負担がブレーキにかかった場合は、すぐに車両を駐車しないでください。しばらくの間走行してください。これにより送風され、ブレーキをより早く冷却します。

長時間、ブレーキをほぼ使用せずに走行した場合は、時々ブレーキの効きをテストしてください。これを行なうには、道路状況に注意を払って、高速の状態から強めにブレーキを踏み込みます。これにより、ブレーキの制動力が向上します。

濡れた路面

激しい雨の中で、ブレーキを効かせずに長時間走行した後、初めてブレーキを効かせたときにブレーキの反応が遅れることがあります。これは、洗車後または深い水の中の走行後にも起こることがあります。

滑りやすい路面では、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。前車との距離を十分に保ってください。

滑りやすい路面の走行後や洗車直後は、周囲の道路状況に注意しながら強めにブレーキを踏み込んでください。この操作によりブレーキディスクを加熱して、より早く乾燥させ、腐食を防止することができます。

塩分処理された路面でのブレーキ性能の制約

塩分処理した道路を走行している場合は、塩分の層がブレーキディスクやパッドにできることがあります。これにより制動距離が著しく増加することがあります。

- 塩分が蓄積するのを避けるために時々ブレーキを効かせます。そうしているときは、他の道路利用者を危険にさらしていないことを確認してください。
- 走行の終了時と次の走行を開始するときはブレーキペダルを慎重に踏んでください。
- 先行車との、十分な距離を保ってください。

新品のブレーキパッド/ライニング

新しい、または交換されたブレーキパッド/ライニングおよびディスクは、数百km走行後にのみ最適なブレーキ効果に到達します。ブレーキペダルにより大きな力をかけることにより、減少したブレーキ効果を補ってください。

安全を確保するため、必ず純正のブレーキパッド/ライニング、または同等の品

質基準を満たしたものをご使用ください。メルセデス・ベンツ車のために承認されていないブレーキパッド/ライニングまたは同等の品質でないものは、車両の操作安全性に影響を与えることがあります。

濡れた路面の走行

ハイドロブレーニング現象

一定の深さまで路面に水がたまると、以下の状況でもハイドロブレーニング現象を起こしやすくなります：

- 低速で走行している
- タイヤの溝が十分にある

そのため、豪雨またはハイドロブレーニング現象が起こりそうな状況では、以下のように走行してください：

- 速度を落とす
- わだちを避ける
- 急なステアリングの動きは避ける
- ブレーキ操作を慎重に行なう

冠水路の走行

■ 先行車や対向車も波を発生させていることに注意してください。車が通ることにより、許容最大水深を超える可能性があります。

これらの注意事項は、どのような状況でも守ってください。そうしないと、エンジン、電気装備およびトランスミッションを損傷するおそれがあります。

水のたまった道路を走行しなければならないときは、歩く速度以下の速度で走行してください。

河川などを渡る場合は、必ず最大水深値をお守りください (p. 387 ページ)。

寒冷時の走行

⚠ 警告

エンジンのブレーキ効果を増やすために滑りやすい路面でシフトダウンすると、駆動輪がグリップを失うことがあります。これにより、横滑りや事故が起きる危険性が高くなります。

滑りやすい道路では、シフトダウンによるエンジンブレーキを効かせないでください。

⚠ 危険

マフラーが遮られ、適切な換気が可能でない場合は、一酸化炭素 (CO) のような有毒ガスが車内に入り込んでくる場合があります。車両が雪にはまった場合などがあてはまります。致命的なけがの危険性があります。

エンジンまたは補助ヒーターを作動させたままにする場合は、マフラーや車両周辺に雪がないことを確認してください。新鮮な空気の適切な供給を確保するために、風のほうを向いていない車両側のウインドウを開きます。

冬季の始まりには、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で車両の冬季対策を行なってください。

滑りやすい路面では、特に慎重に走行してください。急な加速、ステアリング、ブレーキ操作は避けてください。クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスを使用しないでください。

車両がスリップしそうなとき、または低速走行中に停止できない場合は、以下のようしてください。

- ▶ トランスミッションをポジション **N** に動かしします。
- ▶ ステアリング操作の修正により、車両を制御できるよう試してください。

外気温度表示は凍結警告機器として使用するためには設計されていないため、こ

の目的には合っていません。外気温度の変化は、少し遅れて表示されます。

氷点すぐ上の表示温度は、路面に氷がないことを保証しているものではありません。特に森林地域や橋の上では、路面が凍結していることがあります。

気温が氷点前後のときは、路面状況に特に注意してください。

スノーチェーン装着時の走行について、詳しくは (▶ 364 ページ) をご覧ください。

サマータイヤでの走行に関するさらなる情報は、(▶ 363 ページ) をご覧ください。

"冬季の使用" の項目の注意事項に従ってください (▶ 363 ページ)。

オフロード走行

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

急な斜面で斜めに走行している、または斜面で走行しているときに曲がる場合は、車両が横に滑り、傾き、横転することがあります。事故の危険性があります。

急な斜面では常に落下線 (直進での登りまたは下り) 内を走行し、車両を旋回させないでください。

この車両は、比較的走行しやすいオフロード地形および劣悪な路面の走行用により設計されています。

オフロード走行時は、砂、泥および水、またはオイルが混ざった水のような物質がブレーキに入り込むことがあります。磨耗が増加する結果として、ブレーキ性能の低下またはブレーキ全体の故障につながる場合があります。ブレーキに入り込んだ物質によって、ブレーキ特性が変化します。オフロード走行後は、ブレーキを清掃してください。擦れる音、またはブレーキ性能の低下に気付いた場合は、

ただちにブレーキシステムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。運転スタイルを変化したブレーキ特性に合わせてください。

オフロード走行は車両への損傷の可能性を増やし、部品やシステムの故障の原因になることがあります。運転スタイルを地形の状態に合わせてください。注意して運転してください。車両の損傷は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐに修理してください。

オフロードを走行するときは、トランスミッションをポジション **N** にシフトしないでください。サービスブレーキを使用して車両にブレーキを効かせようとすると、車両のコントロールを失うことがあります。車両にとって勾配が非常に急な場合には、リバースギアで後退してください。

全体的な注意事項

📍 環境に関する注意

環境保護は最も重要です。敬意を持って自然を扱ってください。禁止しているすべてのサインを遵守してください。

オフロードで車両を運転する前にこのセクションをお読みください。

オフロードパッケージでのみオフロード走行が可能です (▶ 210 ページ)。

以下の走行装備は、比較的走行しやすいオフロードの地形の走行に特に適しています。

- オフロードプログラム (▶ 210 ページ)
- オフロード ABS (▶ 73 ページ)
- オフロード 4ETS (▶ 78 ページ)
- オフロード ESP® (▶ 82 ページ)
- DSR (ダウンヒル・スピード・レギュレーション) (▶ 208 ページ)

以下の注意事項に従ってください。

- オフロードを走行する前に車両を停止してください。必要に応じて、オフロードプログラムを作動させます (▶ 210 ページ)。
- 車両の損傷を防ぐために、常に地面との間隔が十分であることを確認してください。
- 荷物や積載物が安全に収納され、確実に固定されていることを確認してください (▶ 310 ページ)。
- 下り坂勾配を走行するときは、エンジンをかけたままにしてギアを入れてください。DSR (▶ 208 ページ) を作動させてください。
- ゆっくりと一定に、必要に応じて歩くペースで走行してください。
- 常に車輪が地面に接していることを確認してください。
- 視界が悪い未知のオフロードのルートでは特に気をつけて走行してください。安全上の理由で、まず車両から降り、オフロードのルートを調べてください。
- 河川などを渡る前には水深を確認してください。
- 障害物に注意してください。
- 上り坂または下り坂勾配で曲がる時、または勾配を横切って走行するときは注意してください。さもないと、車両が横転することがあります。
- 走行中は、サイドウインドウおよびパノラミックスライディングルーフを常に閉じてください。
- マークされたルートから外れないようにしてください。

i オフロード走行時や急勾配の道路、滑りやすい路面などグリップが低い状況では、ホールド機能を使用しないでください。このような路面では、ホールド機能で停車した状態を維持できません。

オフロード走行前のチェックリスト

- ▶ **エンジンオイルレベル**： エンジンオイルを点検し、必要であれば補充します。急な勾配を走行するときは、車両に適切にオイルを供給するようにオイルレベルが十分に高くなければなりません。
- ▶ **ホイールおよびタイヤ**： タイヤトレッドの深さおよびタイヤ空気圧を点検してください。
- ▶ 損傷を点検し、小さな石のような異物をホイール/タイヤから取り除きます。
- ▶ 紛失しているバルブキャップを装着します。
- ▶ へこんだ、または損傷したホイールを取り替えます。
- ▶ **ホイール**： へこんだ、または曲がったホイールは、タイヤ空気圧の損失につながり、タイヤビードが損傷するおそれがあります。オフロード走行前に、ホイールを点検し、必要であればホイールを交換して下さい。

オフロード走行後のチェックリスト

- オフロード走行後に車両の損傷を検知した場合は、車両をすぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検してください。
- ▶ オフロードプログラムを作動解除してください (▶ 210 ページ)。
- ▶ DSR を解除します (▶ 208 ページ)。
- ▶ ヘッドライトおよびリアライトを清掃し、損傷を点検します。
- ▶ フロントとリアのライセンスプレートを清掃します。
- ▶ 流水でホイール/タイヤを清掃し、異物を取り除きます。
- ▶ 流水でホイール、ホイールアーチ、および車両の下側を清掃し、異物や損傷を点検します。

- ▶ 小枝や植物の一部が挟まっていないか点検してください。これらにより火災の危険性が増加し、燃料パイプ、ブレーキホース、またはアクスルジョイントおよびプロペラシャフトのラバーベローズが損傷するおそれがあります。
- ▶ 走行後は必ず、車台全体、ホイール、タイヤ、ブレーキ、車体構造、ステアリング、シャーシ、および排気システムの損傷を点検してください。
- ▶ 砂地、泥地、砂利道、冠水路、もしくは同様の悪路を走行した後は、以下を点検清掃してください。
 - ・ブレーキディスク
 - ・ホイール
 - ・ブレーキパッド
 - ・アクスルジョイント
- ▶ オフロード走行後に強い振動を検知した場合は、車輪や駆動系部品の異物を点検し、必要に応じてそれらを取り除いてください。異物は、バランスを妨げ、振動の原因になることがあります。

劣悪な路面の走行は、通常の道路を走行するよりも車両に大きな負担を与えます。オフロード走行後は、車両を点検してください。これにより、損傷をすぐに検知し、お客様や他の道路使用者の事故の危険性を減らすことができます。

砂地の走行

砂地を走行するときは、以下のルールを遵守してください。

- ・オフロードプログラムを選択してください (▶ 210 ページ)。
- ・高いエンジン回転数を避けず。
- ・左側のパドルシフトを使って地形に適した低いギアにシフトしてください。
- ・転がり抵抗を乗り越えるためには、すばやく走行します。さもないと、車両

が砂の中を掘ってはまることがあります。

- 可能であれば、他の車両の軌跡を走行します。以下のことを確認してください。
 - タイヤのわだちがあまり深くない
 - 砂が十分にかたい
 - 車両に十分な地上との間隔がある

わだちや砂利道

■ 轍があまり深くなく、車両に十分な間隔があることを点検してください。さもないければ、車両を損傷し、または底がつき、はまってしまうおそれがあります。オフロードの地形、またはやわらかい砂利道のわだちに沿って走行するときは、以下の方法を遵守してください。

- オフロードプログラムを作動させます (▷ 210 ページ)。
- 高いエンジン回転数を避けます。
- 左側のパドルシフトを使用して低いギアにシフトダウンします。
- ゆっくり走行します。
- わだちがとても深いところでは、可能であれば片側の車輪を道路の中央部分に乗せて走行します。

上り坂の走行

アプローチ/デパーチャーアングル

警告

急な斜面で斜めに走行している、または斜面で走行しているときに曲がる場合は、車両が横に滑り、傾き、横転することがあります。事故の危険性があります。

急な斜面では常に落下線（直進での登りまたは下り）内を走行し、車両を旋回させないでください。

- オフロード走行の警告に従ってください (▷ 187 ページ)。
- 坂道や急な斜面を走行しているときは落下線に従ってください。
- 極端な上り坂や下り坂の勾配を走行する前に、オフロードプログラム (▷ 210 ページ) を選択してください。
- ゆっくり走行します。
- ゆるやかに加速し、車輪がグリップしていることを確認してください。
- 大きな走行抵抗がある砂や泥道を走行しているとき以外は、高いエンジン回転数は避けてください。
- 左側のパドルシフトを使って勾配に適した低いギアにシフトしてください。
- 長い急な下り坂の勾配では、左パドルシフトを使用して、低いギアにシフトしてください。

i ヒルスタートアシストは、坂で発進するときに運転者を支援します。

ヒルスタートアシストについて詳しくは、(▷ 162 ページ) をご覧ください。

オフロードを走行するときは、トランスミッションをポジション **N** にシフトしないでください。サービスブレーキを使用して車両にブレーキを効かせようとすると、車両のコントロールを失うことがあります。車両にとって勾配が非常に急な場合には、リバースギアで後退してください。

常にアプローチ/デパーチャーアングル値に注意してください (▷ 388 ページ)。

最大登坂能力

必ず登坂能力の数値をお守りください (▷ 388 ページ)。

丘の頂上

上り坂の勾配を走行しているときは、坂の頂上に到達する少し前にアクセルにか

かる圧力を少し減らします。車両自体の勢いを使用して、頂上を越えて走行します。

この運転スタイルは以下のことを防ぎます。

- 車両が坂の頂上で地面から上がることを
- 車両が逆側で急に下って走行することを

下り坂の走行

- ゆっくり走行します。
 - 急な斜面を斜めに下って走行しないでください。落下線内で操舵し、前輪が直進の状態で行ってください。さもないければ、車両は横に滑り、傾き、横転することがあります。
 - 長い急な下り坂の勾配に立ち向かう前に、左パドルシフトを使用して、低いギアにシフトしてください。
 - DSR を作動させてください。これが十分でない場合は、ゆるやかにブレーキを効かせます。そうするときは、車両が落下線の方向を向いていることを確認してください。
 - 長い下り坂が続いた後はブレーキが通常通り作動していることを点検してください。
- i** オフロードプログラムを選択している場合、オフロード ABS が作動します。30 km/h 以下の速度では、ブレーキ中は前輪が周期的にロックします。作動中には行なわれる握る効果により、オフロード走行時は制動距離を減少させます。車輪がロックすると、車両の操舵性能は著しく低下します。

走行装備

クルーズコントロール

全体的な注意事項

クルーズコントロールは一定の走行速度を維持します。設定速度を超えないようにするために自動的にブレーキを効かせます。長い急な下り坂勾配で、特に車両に荷物を積載しているときは、適時低いギアを選択してください。このため、マニュアルギアシフト **M** (p. 173 ページ) に必ずシフトしてください。そうすることにより、エンジンのブレーキ効果を利用します。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。

道路や交通状況が長時間の一定速度の維持に適している場合にのみ、クルーズコントロールを使用してください。30 km/h 以上の走行速度を記憶させることができます。

重要な安全上の注意事項

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、クルーズコントロールは事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて運転を支援することはできません。クルーズコントロールは道路、天気、交通事情を考慮することはできません。クルーズコントロールは補助装置です。運転者には車間距離を確保し、速度を調整し、適時にブレーキをかけ、車線を維持する責任があります。

次のような場合にはクルーズコントロールを使用しないでください。

- 一定の速度を維持できないような道路や交通状況のとき（例、混雑しての交通やカーブしている道路）。
- 滑りやすい路面。ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が滑るおそれがあります。
- 霧や激しい雨、雪のときなど、視界が不十分なとき。

運転者を交代する場合は、交代する運転者に記憶されている制限速度を伝えてください。

クルーズコントロールレバー

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーのLIM表示灯は、選択したシステムを表しています。

- **LIM表示灯が消灯**：クルーズコントロールが選択されています。
- **LIM表示灯が点灯**：可変スピードリミッターが選択されています。



- ① 速度を設定する/上げる
- ② LIM表示灯
- ③ 現在の速度/最後に記憶させた速度に設定する
- ④ 速度を設定する/下げる

⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える

⑥ クルーズコントロールの解除

クルーズコントロールを作動させると、記憶された速度がマルチファンクションディスプレイに5秒間表示されます。

作動条件

クルーズコントロールを作動させるには、以下の条件をすべて満たしている必要があります。

- 電気式パーキングブレーキが解除されている。
- 30 km/h より速く走行している。
- ESP[®] が設定されているが、介入していない。
- オートマチック車でセレクトレバーがDのポジションにあること
- クルーズコントロールが選択されていること

▶ **クルーズコントロールの選択**：LIM表示灯②がオンまたはオフかどうか確認します。

消灯しているときは、クルーズコントロールが選択されています。

▶ そうでないときは、クルーズコントロールレバーを矢印の方向⑤に押しします。

クルーズコントロールレバーのLIM表示灯②が消灯します。クルーズコントロールが選択されます。

速度の記憶、維持、呼び出し

現在の速度の記憶および維持

30 km/h より速く走行している場合は、現在の速度を保存できます。

- ▶ 希望の速度まで車両を加速させます。
- ▶ クルーズコントロールレバーを上①または下④に軽く操作します。
- ▶ アクセルペダルから足を放してください。
クルーズコントロールが作動します。
車両は自動的に速度を維持します。

i 上り坂では、クルーズコントロールは記憶させた速度を維持できないことがあります。勾配がなくなると、再び記憶させた速度になります。下り坂では、クルーズコントロールは自動的に車両にブレーキを効かせることにより、記憶させた速度を維持します。

現在の速度の記憶および最後に記憶させた速度の呼び出し

⚠ 警告

設定速度を呼び出し、それが現在の速度と異なるときは、車両が加速または減速します。設定速度を覚えていないと、車両が不意に加速したりブレーキがかかることがあります。事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

- ▶ クルーズコントロールレバーを手前に軽く引きます③。
- ▶ アクセルペダルから足を放してください。
初めてクルーズコントロールを作動させたときは、現在の速度が記憶されるか、または以前に記憶させた速度に車両速度を制御します。

速度の設定

車両が設定速度まで加速または減速するまでには少し時間がかかることに注意してください。

- ▶ 高い速度には上①に、低い速度には下④にクルーズコントロールレバーを押します。
- ▶ 希望する速度に到達するまで、クルーズコントロールレバーを押して保持します。
- ▶ クルーズコントロールレバーを放します。
新しい速度が記憶されます。
- ▶ **設定速度を 1 km/h 単位で調整する：**
手応えがあるところまで、クルーズコントロールレバーを上①または下④に軽く押します。
最後に記憶された速度が 1 km/h 単位で上昇または下降します。
- ▶ **設定速度を 10 km/h 単位で調整する：**
手応えがあるところを越えるまで、クルーズコントロールレバーを上①または下④に少し押します。
最後に記憶された速度が 10 km/h 単位で上昇または下降します。

i クルーズコントロールは、アクセルペダルを踏んだ場合でも解除されません。例えば、追い越しのために一時的に加速した場合は、追い越しが終了した後に、クルーズコントロールは最後に記憶させた速度に車両の速度を調整します。

クルーズコントロールの解除

クルーズコントロールを解除するにはいくつかの方法があります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを前方⑥に軽く押します。
または
- ▶ ブレーキを効かせます。

または

- ▶ クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑤ に軽く押します。可変スピードリミッターが選択されます。クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。

以下の場合にはクルーズコントロールが自動的に解除されます：

- 電気式パーキングブレーキで車両を停止しているとき
- 30 km/h 以下で走行した
- ESP®が介入したり、ESP®を解除した
- 走行している間にトランスミッションをポジション N にシフトした

クルーズコントロールが解除された場合は、警告音が鳴ります。マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロール 解除 というメッセージが約 5 秒間表示されます。

① エンジン停止したときは、記憶されている速度は消去されます。

可変スピードリミッター

全体的な注意事項

設定された速度を超えないように可変スピードリミッターは自動的にブレーキを効かせます。長い急な下り坂勾配で、特に車両に荷物を積載しているときは、適時低いギアを選択してください。このため、マニュアルギアシフト M (▷ 173 ページ) に必ずシフトしてください。そうすることにより、エンジンのブレーキ作用を利用します。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。さらにブレーキが必要な場合は、継続的ではなく、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。

可変スピードリミッターまたはウィンタータイヤスピードリミッターを設定することができます。

- **可変スピードリミッター**は市街地などでの速度制限のためのものです。
- **ウィンタータイヤスピードリミッター**は、ウィンタータイヤを装着して走行するときなど、長時間の速度制限のためのものです(▷ 196 ページ)。

① スピードメーターに表示された速度は記憶させた制限速度と若干異なる場合があります。

重要な安全上の注意事項

運転スタイルを合わせていない場合は、可変スピードリミッターは事故の危険性を低減させることも、物理的法則を乗り超えることもできません。可変スピードリミッターは道路、天候および交通状況を考慮することはできません。可変スピードリミッターは単なる支援にすぎません。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、および車線を維持する責任があります。

運転者を交代する場合は、次の運転者に記憶されている制限速度を伝えてください。

可変スピードリミッター

全体的な注意事項

クルーズコントロールレバーでクルーズコントロールまたはディストロニック・プラスおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯は、選択したシステムを表しています。

- **LIM 表示灯 が消灯**：クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスが選択されています。
- **LIM 表示灯が点灯**：可変スピードリミッターが選択されています。

エンジンがかかっている間に、クルーズコントロールレバーを使用して、30 km/h と技術的に許容される車両の最高速度の間で速度を制限することができます。ウインタータイヤスピードリミッターの設定値がこの値より低い場合は、(▶ 196 ページ)が適用されます。



- ① 現在の走行速度、またはより高い速度を記憶させる
- ② LIM 表示灯
- ③ 現在の走行速度を記憶させる、または記憶されている速度を呼び出す
- ④ 現在の走行速度、またはより低い速度を記憶させる
- ⑤ クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
- ⑥ 可変スピードリミッターを解除する

可変スピードリミッターの選択

- ▶ LIM 表示灯 ② が点灯しているか確認してください。

点灯しているときは、可変スピードリミッターはすでに選択されています。消灯していないときは、クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑤ に押します。

クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。可変スピードリミッターが選択されます。

現在の速度の記憶

エンジンがかかっている間に、クルーズコントロールレバーを使用して、約 30 km/h 以上のいかなる速度に速度を制限することができます。

- ▶ クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ④ に軽く操作します。

現在の速度が記憶されます。5 秒間、マルチファンクションディスプレイに **スピードトニック 制限速度 100 km/h** のように記憶した速度が表示されます。

現在の速度の記憶および最後に記憶させた速度の呼び出し

⚠ 警告

設定速度を呼び出し、それが現在の速度より低いときは、車両が減速します。設定速度を覚えていないと、車両が不意に減速することがあります。事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

- ▶ クルーズコントロールレバーを手前 ③ に軽く引きます。

- ▶ **設定した速度を 1 km/h 単位で調整する**：高い速度には上方へ ①、低い速度に下方へ ④、クルーズコントロールレバーを手応えのあるところまで軽く押します。

または

- ▶ 希望する速度に設定されるまで、手応えのあるところまでクルーズコントロールレバーを押して保持します。より高い速度には上 ① へ、より低い速度には下 ④ へ、クルーズコントロールレバーを押します。

- ▶ **設定した速度を 10 km/h 単位で調整する**：高い速度には上方へ ①、低い速度には下方へ ④、クルーズコントロー

ルレバーを手応えのあるところを越えて軽く押します。

または

- ▶ 希望する速度に設定されるまで、手応えがあるところを越えるまでクルーズコントロールレバーを押して保持します。より高い速度には上①へ、より低い速度には下④へ、クルーズコントロールレバーを押します。

可変スピードリミッターを待機状態に切り替える

踏み応えがあるところを越えるまでアクセルペダルを踏んだ場合は（キックダウン）、可変スピードリミッターは待機モードに切り替わります。マルチファンクションディスプレイに以下のメッセージが表示されます。可変スピードリミッター 制御待機中。

この後は、記憶させている速度を超えることができます。可変スピードリミッターは、以下のときに再度作動します。

- キックダウンをせずに、記憶させている速度以下で走行した
- 新たに速度を設定した、または
- 最後に保存された速度を再度呼び出した

マルチファンクションディスプレイのメッセージ **可変スピードリミッター制御待機中** が消えます。

可変スピードリミッターの解除

ブレーキ操作で可変スピードリミッターを解除することはできません。

可変スピードリミッターを解除するためにはいくつかの方法があります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを前方⑥に軽く押します。

または

- ▶ クルーズコントロールレバーを矢印の方向⑤に軽く押します。

クルーズコントロールレバーのLIM表示灯②が消灯します。可変スピードリミッターは解除されます。

クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスが選択されます。

i エンジンを停止したときは、記憶されている速度は消去されます。

スノータイヤスピードリミッター

マルチファンクションディスプレイを使用して、160 km/h（例えばウインタータイヤで走行するとき）から最高速度までの間の値に、常に速度を制限できます（▶ 246 ページ）。

記憶させた速度に到達する少し前に、マルチファンクションディスプレイに速度が表示されます。

可変スピードリミッターを解除した場合でも、スノータイヤスピードリミッターは作動したままになります。

踏み応えがあるところを越えるまでアクセルペダルを踏んだ場合でも（キックダウン）、記憶させた制限速度を超えることはできません。

ディストロニック・プラス

全体的な注意事項

ディストロニック・プラスは速度を制御し、前方に検知された車両との距離を自動的に維持する支援を行いません。車両はレーダーセンサーシステムの支援で検知されます。ディストロニック・プラス

は設定された速度を超えないように自動的にブレーキを効かせます。

長い下り坂や急な下り坂の勾配では、適切なタイミングで低いギアに変速してください。荷物搭載時に車両を運転するときは、このことに特に留意してください。そうすることにより、エンジンのブレーキ効果を利用します。これにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキを過熱や早期の摩耗から防ぎます。ディストロニック・プラスが衝突の危険があることを検知した場合は、視覚的および聴覚的に警告を行いません。運転者の操作なしでは、ディストロニック・プラスは衝突を回避することはできません。断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの距離警告灯が点灯します。安全な場合にのみ、ただちにブレーキを効かせて先行車両との距離を広げ、危険回避の操作を行なってください。

ディストロニックプラスは 0 km/h ~ 200 km/h の間の速度で作動します。急な坂道を走行しているときは、ディストロニック・プラスを使用しないでください。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

ディストロニック・プラスは以下のものには反応しません。

- 歩行者や動物
- 駐停車している車両など、道路上の静止している障害物
- 対向車や横切る車両

この場合、ディストロニック・プラスは警告も介入も行いません。事故の危険性があります。

常に周囲の交通状況に注意して運転し、ブレーキをかける準備をしてください。

⚠ 警告

ディストロニック・プラスは、他の道路使用者や複雑な交通状況を常に明確に認識できるとは限りません。

その場合、ディストロニック・プラスは以下のように作動することがあります。

- 不必要な警告を行ない、車両にブレーキをかける
- 警告を行なわなくなる、または作動しなくなる
- 不意に加速する

事故の危険性があります。

特に、ディストロニック・プラスから警告が送られた場合は、慎重に運転しブレーキをかける用意をしてください。

⚠ 警告

ディストロニック・プラスは最大可能減速の 50% まで車両にブレーキを効かせます。減速が十分でない場合は、ディストロニック・プラスは視覚的および聴覚的警告で運転者に警告します。事故の危険性があります。

これらの状況では自分でブレーキを効かせ、回避行動を取るよう試みてください。

❗ ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能を解除してください：

- けん引されるとき
- 洗車時

運転スタイルを合わせていない場合は、ディストロニック・プラスは事故の危険性を低減することもできなければ、物理的限界を超えることもできません。ディストロニック・プラスは路面、天候および交通状況を考慮することはできません。ディストロニック・プラスは単なる支援に過ぎません。運転者には、先行車両と

の距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、車線の維持に関する責任があります。以下のときは、ディストロニック・プラスを使用しないでください：

- 一定の速度を維持できないような道路および交通状況（例：混雑している交通状況、または曲がりくねっている道路）
- 滑りやすい路面 ブレーキや加速により駆動輪が駆動力を失い、車両が滑るおそれがあります。
- 霧、激しい雨または雪などのために視界が悪いとき

ディストロニック・プラスは、オートバイなど前方を走行している幅の狭い車両、または異なる車線を走行している車両を検知しないことがあります。

特に以下のときは、障害物の検知が困難になります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 雪または激しい雨が降っている
- 他のレーダー発生源による干渉がある
- 立体駐車場などで、強いレーダー反射の可能性ある

ディストロニック・プラスが先行車両を検知なくなると、予期せず、設定速度まで加速することがあります。

速度は以下になるおそれがあります：

- 変更される車線や滑りやすい道路で非常に高くなりすぎる
- 左側通行で右車線のとき
- 右側通行で左車線のとき

運転者を交代する場合は、次の運転者に記憶されている制限速度を伝えてください。

クルーズコントロールレバー

クルーズコントロールレバーでディストロニック・プラスおよび可変スピードリミッターを操作できます。

クルーズコントロールレバーのLIM表示灯は、選択したシステムを表しています。

- LIM表示灯が消灯：ディストロニック・プラスが選択されています。
- LIM表示灯が点灯：可変スピードリミッターが選択されています。



- ① 現在の走行速度、またはより高い速度を記憶させる
- ② 規定の最短距離を設定する
- ③ LIM表示灯
- ④ 現在の速度を記憶させる、および最後に記憶させた速度を呼び出す
- ⑤ 現在の走行速度、またはより低い速度を記憶させる
- ⑥ ディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
- ⑦ ディストロニック・プラスを解除する

ディストロニック・プラスの選択

- ▶ LIM表示灯③が消灯しているか確認してください。

消灯しているときは、ディストロニック・プラスがすでに選択されています。

- ▶ 消灯していないときは、クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ⑥ に押しします。
クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ③ が消灯します。ディストロニック・プラスが選択されます。

ディストロニック・プラスの作動

作動条件

ディストロニック・プラスを作動させるには、以下の条件をすべて満たさなければなりません。

- エンジンがかかっている。ディストロニック・プラスが使用する準備ができるまで、少なくとも 2 分間走行していなければなりません。
- 電気式パーキングブレーキが解除されている。
- ESP®が設定されているが、介入していない。
- アクティブパーキングアシストが作動していない。
- DSR が解除されていること。
- トランスミッションがポジション **D** である。
- **P** から **D** にシフトするときに運転席ドアが閉じている、または運転者のシートベルトが着用されている。
- 助手席ドアとリアドアが閉じている。
- クルーズコントロールレバーでディストロニック・プラスの機能が選択されている (p. 198 ページ)。

設定する

- ▶ クルーズコントロールレバーを軽く手前に引くか ④、上 ① または下 ⑤ に操作します。
ディストロニック・プラスが作動します。
- ▶ 希望の速度が設定されるまでクルーズコントロールレバーを押し上げたままにするか ① 下げたままにします ⑤。
- ▶ アクセルペダルから足を放してください。
希望の記憶させた速度までのみ、先行車両の速度に自車の速度が合わせられます。

i アクセルペダルから完全に足を放していない場合は、マルチファンクションディスプレイに**ディストロニックプラス 制御待機中**というメッセージが表示されます。このときは、ゆっくり走行している先行車両との設定距離は維持されません。アクセルペダルの位置に応じた速度で走行します。

停止しているときもディストロニック・プラスを作動させることができます。設定できる最低速度は 30 km/h です。

- ▶ クルーズコントロールレバーを軽く手前に引くか ④、上 ① または下 ⑤ に操作します。
ディストロニック・プラスが作動します。

現在の速度/最後に記憶させた速度で作動させる

⚠ 警告

設定速度を呼び出し、それが現在の速度と異なるときは、車両が加速または減速します。設定速度を覚えていないと、車両が不意に加速したりブレーキがかかることがあります。事故の危険性があります。

設定速度を呼び出す前に、路面および交通状況に注意してください。設定速度を

覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

- ▶ クルーズコントロールレバーを(▷ 198 ページ) 手前に軽く引きます ④。
- ▶ アクセルペダルから足を放してください。
ディストロニック・プラスが作動します。初めて作動させたときは、そのときの速度が記憶されます。それ以外の場合は、車両の巡航速度を以前に記憶させた数値に設定します。

ディストロニック・プラスでの運転

発進と走行

i 未確認の障害物に面しているとき、または他車と異なるラインを走行するときにも、車両は発進できます。その後、車両は自動的にブレーキを効かせます。事故の危険性があります。いつでもブレーキを効かせる準備をしてください。

ブレーキを踏んだとき、車両が停止していない場合はディストロニック・プラスは解除されます。

- ▶ **ディストロニック・プラスで発進したい場合**：ブレーキペダルから足を放します。
- ▶ クルーズコントロールレバー (▷ 198 ページ) を手前 ④ に軽く引きます。

または

- ▶ 軽くアクセルペダルを踏みます。
車両が発進して、走行速度を先行車両の速度に合わせます。
前方に車両を検知していない場合は、車両は設定した速度まで加速します。

先行車両がない場合は、ディストロニック・プラスはクルーズコントロールと同じように作動します。

先行車両が減速したことをディストロニック・プラスが検知すると、車両にブ

レーキを効かせます。このようにして選択された距離が維持されます。

前方でより速く走行している車両をディストロニック・プラスが検知すると、走行速度が上がります。記憶した速度まで車両は加速します。

走行モードの選択

走行モード S または M を選択したときは、ディストロニック・プラスはスポーティな走行スタイルをサポートします (▷ 171 ページ)。先行車両の後方まで、または設定した速度まで非常にダイナミックに加速します。走行モード E を選択した場合は、車両は緩やかに加速します。この設定は交通渋滞で推奨されます。

車線変更

以下のときに追い越し車線に移る場合はディストロニック・プラスが運転者を支援します。

- 70 km/h 以上で走行しているとき
- ディストロニック・プラスが先行車両との距離を維持しているとき
- 対応する方向指示灯を作動させているとき
- ディストロニック・プラスが衝突の危険を検知していないとき

これらの条件を満たしたとき、車両は加速します。車線変更に時間がかかりすぎたり、車両と先行車両との距離が短すぎる場合は、加速は中断されます。

停止

⚠ 警告

車から離れるときは、ディストロニック・プラスによりブレーキがかかっているにもかかわらず以下の場合には車両が動き出すことがあります。

- システムまたは電源供給に異常があるとき
- 乗員または車外の誰かがクルーズコントロールレバーを操作して、ディストロニック・プラスが解除されたとき
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき
- バッテリーの接続を外したとき
- 同乗者などがアクセルペダルを踏んだとき

事故の危険性があります。

車から離れるときは、必ずディストロニック・プラスをオフにして車両が動き出さないように固定します。

ディストロニック・プラスの解除についてのさらなる情報は(▶ 202 ページ)をご覧ください。

先行車両が停止したことをディストロニック・プラスが検知した場合は、車両が停止するまでブレーキを効かせます。一度車両が停止すると、停車したままになり、ブレーキを踏む必要はありません。

i その後すぐに、電気式パーキングブレーキにより車両が動かなくなり、サービブレーキの負担が軽減されます。

i 指定最短距離によっては、車両は先行車両後方の十分な距離があるところで停止することがあります。指定最短距離はクルーズコントロールレバーを使用して設定します。

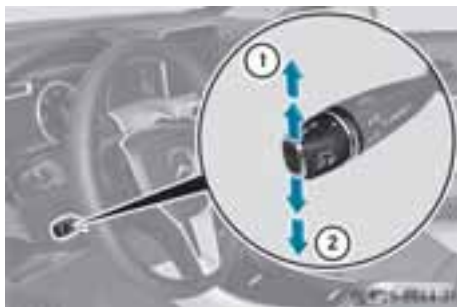
ディストロニック・プラスが作動状態ではない場合には、自動的に電気式パーキングブレーキによって車両が動かなくなります。

- シートベルトが着用されておらず、運転席ドアを開いた
- エンジンを ECO スタートストップ機能による自動停止以外の方法で停止した
- システムに異常が発生した
- 電力供給が不十分である

誤作動が発生した場合は、トランスミッションが自動的にポジション **P** にシフトすることがあります。

速度の設定

車両が設定速度まで加速または減速するまでには少し時間がかかることに注意してください。



① 現在の走行速度、またはより高い速度を記憶させる

② 現在の走行速度、またはより低い速度を記憶させる

▶ 設定速度を上げるにはクルーズコントロールレバーを上 ① に、設定速度を下げるには下 ② に操作します。

▶ 希望する速度に到達するまで、クルーズコントロールレバーを押して保持します。

- ▶ クルーズコントロールレバーを放します。

新しい速度が記憶されます。ディストロニック・プラスが作動し、新しく記憶させた速度に車両速度を調整します。

- ▶ **設定速度を 1 km/h 単位で調整する：** 手応えがあるところまで、クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ② に軽く押します。

最後に記憶された速度が 1 km/h 単位で上昇または下降します。

- ▶ **設定速度を 10 km/h 単位で調整する：** 手応えがあるところを越えるまで、クルーズコントロールレバーを上 ① または下 ② に少し押します。

最後に記憶された速度が 10 km/h 単位で上昇または下降します。

① アクセルペダルを踏んだ場合でも、ディストロニック・プラスは解除されません。追い越すために加速した場合は、追い越しを終了した後に、ディストロニック・プラスは最後に記憶された速度に車両の速度を調整します。

指定最短距離の設定

時間間隔を 1 秒から 2 秒の間で変えることにより、ディストロニック・プラスの設定最短距離を設定することができます。この機能により、車両速度に応じてディストロニック・プラスが維持する、先行車両との最短距離を設定することができます。マルチファンクションディスプレイでこの距離を表示することができます(▶ 203 ページ)。

① 法令に要求されているような先行車両との最短距離を維持していることを確認してください。必要であれば、先行車両との距離を調整してください。



- ▶ **長くする：** コントローラー ③ を ② の方向にまわします。

ディストロニック・プラスは自車と先行車両との距離をより長く維持します。

- ▶ **短くする：** コントローラー ③ を ① の方向にまわします。

ディストロニック・プラスは自車と先行車両との距離をより短く維持します。

ディストロニック・プラスの解除



ディストロニック・プラスを解除するためにはいくつかの方法があります。

- ▶ クルーズコントロールレバーを前方 ① に軽く押します。

または

- ▶ 車両が停止していないときにブレーキを効かせます。

または

- ▶ クルーズコントロールレバーを矢印の方向 ③ に軽く押します。可変スピードリミッターが選択されます。クルーズコントロールレバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。

ディストロニック・プラスを解除すると、マルチファンクションディスプレイに **ディストロニックプラス オフ** というメッセージが約 5 秒間表示されます。

① エンジンを停止するまでは、最後に記憶された速度が記憶されたままになります。アクセルペダルを踏んだ場合でも、ディストロニック・プラスは解除されません。

以下の場合、ディストロニック・プラスが自動的に解除されます。

- 電気式パーキングブレーキを効かせた、または車両が自動的に電気式パーキングブレーキで固定された
- ESP®が介入した、または ESP®を解除した
- トランスミッションが **P**、**R**、または **N** ポジションにある
- 発進するためにクルーズコントロールレバーを前方に引いたが、助手席ドアまたはいずれかのリアドアが開いている
- 車が横滑りしている
- DSR を作動させた
- アクティブパーキングアシストを作動させた

ディストロニック・プラスが解除された場合は、警告音が鳴ります。マルチファンクションディスプレイに **ディストロニックプラス オフ** というメッセージが約 5 秒間表示されます。

メーターパネルのディストロニック・プラス表示

スピードメーターの表示



例：スピードメーターのディストロニック・プラスの表示

ディストロニック・プラスが作動しているとき、設定した速度範囲の 1 個または 2 個のセグメント ② が点灯します。

ディストロニック・プラスが先行車を検知すると、先行車の速度 ③ と設定した速度 ① の間のセグメント ② が点灯します。

① 設計上の理由により、スピードメーターに表示された速度はディストロニック・プラスで設定された速度と多少異なることがあります。

ディストロニック・プラスが非作動のときの表示



- ① 検知された先行車両
- ② 距離インジケータ：先行車両までの現在の距離

- ③ 先行車両までの指定最短距離（調整可能）
- ④ 車両

マルチファンクションディスプレイのアシストメニュー（▶ 240 ページ）でアシスト表示を選択できます。

- ▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、**車間ディスプレイ** 機能を選択します（▶ 240 ページ）。

ディストロニック・プラスが作動しているときの表示



- ① 検知された先行車両
- ② 先行車両までの指定最短距離（調整可能）
- ③ 車両
- ④ ディストロニック・プラス作動（文字はクルーズコントロールレバーが動かされた場合のみ表示されます）

- ▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、**車間ディスプレイ** 機能を選択します（▶ 240 ページ）。

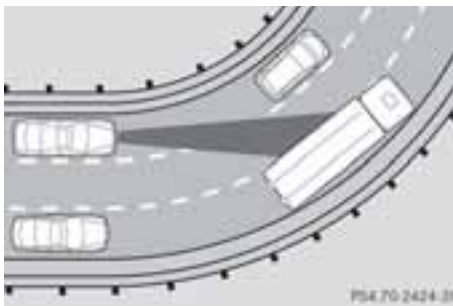
ディストロニック・プラスを作動させると、最初に設定した速度が約 5 秒間表示されます。

ディストロニック・プラスでの運転のヒント

全体的な注意事項

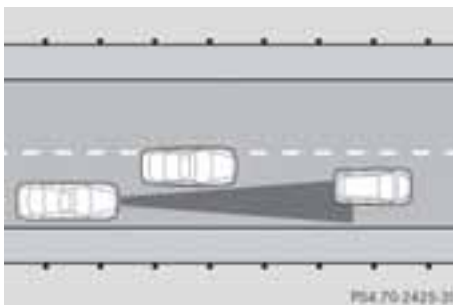
以下には、特に注意すべき道路や交通状況の記載が含まれています。そのような状況では必要であればブレーキを効かせてください。ディストロニック・プラスは解除されます。

カーブでの走行、カーブに入るときやカーブを抜けるとき



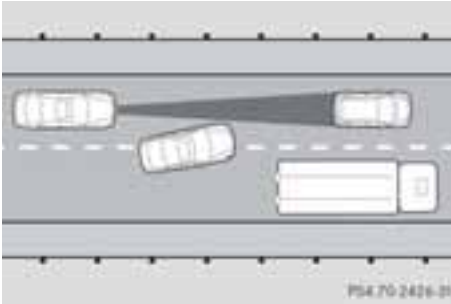
カーブではディストロニック・プラスの車両を検知する能力には限界があります。予期せずまたは遅くブレーキを効かせることがあります。

車線の中央を走行していない車両



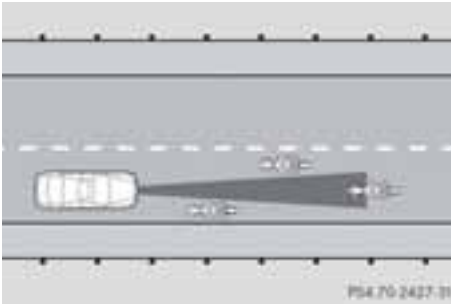
ディストロニック・プラスは車線の中央を走行していない車両を認識することができません。先行車との距離は非常に短くなる場合があります。

車線変更する他の車両があるとき



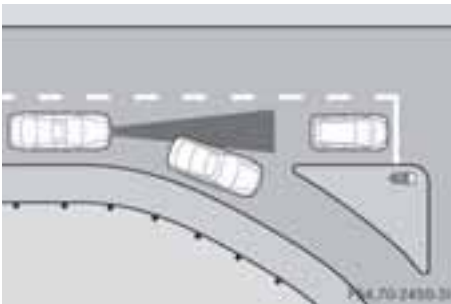
ディストロニック・プラスは割り込んでくる車両を検知しません。この車両との距離は非常に短くなる場合があります。

幅の狭い車両があるとき



ディストロニック・プラスは道路の端の幅の狭い車両を検知しない場合があります。先行車との距離は非常に短くなる場合があります。

障害物や停止車両



ディストロニック・プラスは障害物や停止車両に対してブレーキを効かせないこ

とがあります。例えば、検知していた車両がカーブを曲がり、障害物や停止車両が現れたときは、ディストロニック・プラスはこれらに対してブレーキを効かせないことがあります。

横切る車両があるとき



ディストロニック・プラスは車線を横切る車両を誤って検知することがあります。交差点の信号でディストロニック・プラスを作動させると、例えば不意に車両が発進することがあります。

ホールド機能

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

車両を離れるときは、ホールド機能によりブレーキを効かせているにも関わらず、以下のときに発進するおそれがあります。

- システムまたは電圧の供給に不具合がある
- 例えば車両乗員によってアクセルペダルが踏まれることによりホールド機能が解除される
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造される
- バッテリーの接続が外された事故の危険性があります。

車両を離れる前には常にホールド機能を解除し、発進しないように車両を固定してください。

■ ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能を解除してください：

- けん引される時
- 洗車時

ホールド機能 (▷ 206 ページ) を解除してください。

全体的な注意事項

ホールド機能は以下のようなときに運転者を支援します。

- 特に急な坂道で発進するとき
- 急な坂道で車を動かすとき
- 発進待ちをしているとき

運転者がブレーキペダルを踏まなくても、車両が停止した状態を保ちます。

発進するためにアクセルペダルを踏んだときは、ブレーキ効果が解除されホールド機能は解除されます。

作動条件

ホールド機能は以下のときに作動させることができます。

- 車両が停止しているとき
- エンジンがかかっているとき、またはエンジンを ECO スタートストップ機能によって自動的に停止しているとき
- 運転席ドアを閉じているとき、または運転者がシートベルトを着用しているとき
- 電気式パーキングブレーキが解除されているとき
- オートマチックトランスミッション装備車で **D**、**R**、**N** のポジションにトランスミッションがあるとき
- ディストロニック・プラスが解除されているとき

ホールド機能を作動させる



例：カラーファンクションディスプレイ装備車

- ▶ 作動条件が合っていることを確認します。
- ▶ ブレーキペダルを踏みます。
- ▶ マルチファンクションディスプレイに ① が表示されるまでブレーキペダルを素早く深く踏み込みます。ホールド機能が作動します。ブレーキペダルから足を放すことができます。

❶ 最初にブレーキペダルを踏んだときにホールド機能が作動しない場合には、少し待った後に再度試してください。

ホールド機能を解除する

ホールド機能は以下のときに自動的に解除されます。

- 加速したとき。オートマチックトランスミッション装備車：トランスミッションがシフトポジション **D** または **R** のときのみ
- オートマチックトランスミッション装備車で、シフトポジションが **P** のとき
- マルチファンクションディスプレイの ① が消えるまでブレーキペダルを再度深く踏んだとき
- 電気式パーキングブレーキを使用して車両を動かさないようにしたとき
- ディストロニック・プラスを作動させたとき

❶ その後すぐに、電気式パーキングブレーキにより車両が動かなくなり、サービスブレーキの負担が軽減されます。

ホールド機能が作動して以下の場合に、自動的に電気式パーキングブレーキによって車両が動かなくなります。

- 運転席ドアが開いていて、運転席のシートベルトが着用されていない
- エンジンをECO スタートストップ機能による自動停止以外の方法で停止した
- システムに異常が発生した
- 電力供給が十分でない

急な登り坂または下り坂勾配、または誤作動が発生したときは、トランスミッションが自動的にポジション P にシフトされることがあります。

レーススタート

重要な安全上の注意事項

レーススタートは停車状態からの最適な加速を可能にします。このためには、作動に適した高いグリップの路面であることが前提条件になります。

レーススタートはサーキットでのみ使用してください。

i レーススタートは、AMG 車両でのみ作動させることができます。

作動条件

以下のときにレーススタートを作動させることができます。

- ドア、ボンネットおよびテールゲートが閉じているとき
- エンジンが作動状態で、トランスミッション、トラクションコントロールおよびエンジンが作動温度に達しているとき
- スポーツハンドリングモードが作動しているとき(▷ 80 ページ)
- ステアリングが直進位置にあるとき

- 車両が停止していて、ブレーキペダルが踏まれているとき(左足)
- トランスミッションがポジション D にあるとき
- 走行モード M が選択されているとき(▷ 171 ページ)

レーススタートの作動

- ▶ ブレーキペダルを左足で踏み、そのまま保持します。
- ▶ 両方のパドルシフトを引いて、保持します。
- ▶ マルチファンクションディスプレイに RACE START 確認:右側パドル 中断:左側パドルというメッセージが表示されます。
- ▶ 両方のパドルシフトを放します。

i 作動条件が満たされない場合は、レーススタートは中断されます。マルチファンクションディスプレイに RACE START 使用できません 取扱説明書を参照というメッセージが表示されます。

- ▶ **中断する**：ステアリング左側のシフトパドルを引きます(▷ 172 ページ)。

または

- ▶ **確認する**：ステアリング右側のシフトパドルを引きます(▷ 172 ページ)。
マルチファンクションディスプレイに RACE START 使用できます アクセルを踏んで下さい というメッセージが表示されます。

i 数秒以内にアクセルペダルを踏まない場合は、レーススタートは中断されません。マルチファンクションディスプレイに RACE START 中断されましたというメッセージが表示されます。

- ▶ アクセルペダルをいっぱいまで踏みます。
エンジン回転数が上昇します。
マルチファンクションディスプレイに RACE START スタートするには **ブ**

ブレーキを離して下さい」というメッセージが表示されます。

❶ しばらくした後にブレーキペダルが解除されていない場合、レーススタートは中断されます。マルチファンクションディスプレイに **RACE START 中断されました** というメッセージが表示されます。

▶ ブレーキペダルから足を放し、アクセルペダルを踏んだままにしてください。最大の加速で車両が発進します。

マルチファンクションディスプレイに **RACE START オン** というメッセージが表示されます。

車両が約 50 km/h の速度に達したときに、レーススタートは解除されます。走行モード **S** が設定されます。スポーツハンドリングモードはそのままになります。レーススタートの間にアクセルペダルを放したり、作動条件を満たさなくなった場合は、レーススタートはただちに解除されます。マルチファンクションディスプレイに **RACE START 使用できません** または **RACE START 中断されました** というメッセージが表示されます。

❶ 短時間で連続して数回使用した後は、レーススタートは一定の距離を走行するまで利用できなくなります。

4MATIC

4 MATIC は 4 輪全てが常に駆動しています。不十分な接地力により駆動輪が空転したときはいつでも、ESP® とともに車両の駆動力を向上させます。

運転スタイルを合わせられない場合は、4 MATIC は事故の危険性を軽減できないだけでなく、物理的法則を乗り越えることもできません。4 MATIC は路面、天候および交通状況を考慮することはできません。4 MATIC はあくまでも運転を支援するシステムです。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切な

ブレーキ操作、および車線を維持する責任があります。

不十分なグリップのため駆動輪が空転する場合

- 発進するときは、アクセルペダルを必要な分だけ踏んでください。
- 走行中はアクセルペダルを緩めてください。

❶ 片方のアクスルを持ち上げた状態で車両をけん引しないでください。トランスファーケースを損傷するおそれがあります。このような損傷はメルセデス・ベンツの一般保証では保証されません。全ての車輪が接地しているか、完全に持ち上がっていないかなりません。車輪全てが完全に接地している状態で車両をけん引するときは、取扱説明書に従ってください。

❶ 冬に走行するときは、ウィンタータイヤ (M+S タイヤ) や必要であればスノーチェーンを装着すると 4 MATIC の効果が最大限に発揮されます。

DSR

重要な安全上の注意事項

❶ DSR (ダウンヒル・スピード・レギュレーション) はオフロードエンジンアリングパッケージ装備車にのみ適用されます。

DSR は下り走行時に運転者を支援する補助装置です。このシステムを使用して、マルチファンクションディスプレイで選択した速度を保つことができます。下り坂が急勾配になるほど DSR のブレーキ作用が増大します。平坦な道路や上り坂を走行するときは、DSR のブレーキ作用は最小限になるか、まったく効かなくなります。

DSR は、作動可能な状態でトランスミッションのシフトポジションが **D**、**R** また

は **N** のときに設定速度を制御します。アクセルペダルまたはブレーキペダルを操作すれば、マルチファンクションディスプレイで設定した速度よりも高い / 低い速度で走行することができます。

運転者が周囲の状況に合わせて慎重に運転しなければ、DSR は事故被害を軽減したり、物理的限界を超えて安全を確保することはできません。DSR は路面、天候および交通状況を考慮することはできません。DSR は補助装置です。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、および車線を維持する責任があります。

下り走行時の危険回避や安全確保については、常に運転者に全責任があります。路面やタイヤの状態によって DSR は設定された速度を維持できない場合があります。路面や交通状況に合わせて設定速度を選択し、必要であればブレーキペダルを踏んでください。

⚠ 警告

走行している速度と設定している速度が異なり、滑りやすい路面で DSR を作動させているとき、ホイールはトラクションを失う可能性があります。これにより、横滑りや事故が起きる危険性が高くなります。

DSR を作動する前に、路面の状況および走行速度と設定速度の差を考慮してください。

オフロード走行に関する情報は、(▷ 187 ページ) をご覧ください。

DSR の作動/解除

⚠ 警告

設定した速度よりも高い速度で走行し、DSR を作動させた場合、車両は急な下り坂で減速します。設定速度を覚えていないと、車両が不意に減速することがあります。事故の危険性があります。

DSR が作動する前に、設定速度に減速してください。設定速度を覚えていない場合は、希望の速度を再設定してください。

設定する

DSR は 30 km/h 以下の速度で走行しているときにのみ作動させることができます。



- ▶ スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が点灯します。

マルチファンクションディスプレイのステータスインジケーターには、例えば **DSR 6 km/h** と表示されます。

現在の速度が速すぎる場合、マルチファンクションディスプレイに DSR マークが表示されます。**最高速度 30 km/h** というメッセージも表示されます。

アクティブパーキングアシストを使用して駐車スペースへ入るまたは出るときにスイッチ ① を押した場合、表示灯 ② が転倒します。この場合、DSR は作動できません。

解除する

- ▶ スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が消灯します。

オフ というメッセージとともにマルチファンクションディスプレイに DSR マークが表示されます。

35 km/h より速く走行する場合は、DSR は自動的にオフになります。**オフ** というメッセージとともにマルチファン

クションディスプレイに DSR マークが表示されます。警告音も鳴ります。

アシスト一覧の表示



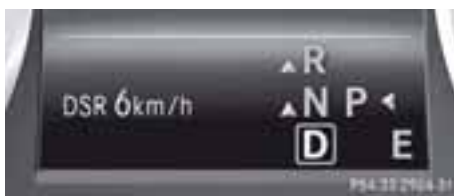
- ▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、**アシスト一覧** 機能を選択します (▶ 240 ページ)。
DSR が作動しているとき、マーク ① が、アシスト一覧表示に表示されます。

走行中の設定速度変更

DSR が作動しているときは、4 km/h ~ 18 km/h の間の値に設定速度を変更することができます。



- ▶ **設定した速度を 1 km/h 単位で調整する**：高い速度には上方へ ①、低い速度には下方へ ②、クルーズコントロールレバーを手応えのあるところまで軽く押します。
設定された値は、マルチファンクションディスプレイのステータスインジケータに表示されます。



オフロードプログラム

全体的な注意事項

- ① オフロード走行モードは、オフロードエンジニアリングパッケージ装備車にのみ装備されています。

オフロードプログラムは、オフロード走行時に運転者を支援します。エンジンの性能特性やオートマチックトランスミッションの変速特性がオフロードの走行状況に合わせて調整されます。オフロード走行に最適化された ABS、ESP® および ETS のプログラムも起動します。

積雪路や凍結路の走行時またはスノーチェーンを装着しているときはオフロードプログラムを使用しないでください。オフロード走行については、(▶ 187 ページ) をご覧ください。

オフロードプログラムのオンまたはオフ



- ▶ **オンにする**：スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が点灯します。

- ▶ **オフにする**：スイッチ ① を押します。
表示灯 ② が消灯します。

アシスト一覧の表示



- ▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、**距離ディスプレイ表示** 機能を選択します(▶ 240 ページ)。
オフロードプログラムが作動しているとき、マーク ① がアシスト一覧表示に表示されます。

パークトロンニック

重要な安全上の注意事項

パークトロンニックは超音波センサーによる、電子的なパーキングサポートです。フロントバンパーの6個のセンサーとリアバンパーの6個のセンサーを使用して、車両周辺のエリアをモニターします。パークトロンニックは、車両と物体との距離を視覚的、聴覚的に示します。

パークトロンニックは単なる支援に過ぎません。すぐ近くに対する運転者の注意の代わりになるものではありません。運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。ステアリング操作や駐車を行なっている間は、周囲に人や動物、障害物がないことを確認してください。

❗ 駐車するときは、鉢植えやトレーラーけん引部などセンサーの上下にあるもの

に十分注意をしてください。パークトロンニックはこれらが車両の至近距離にあるときは感知できません。車両や物を損傷するおそれがあります。

センサーは雪やその他の超音波を吸収しやすいものを感知しないことがあります。自動洗車機やトラックの圧縮空気ブレーキ、空気ドリルなどが発生する超音波によりパークトロンニックが機能しないことがあります。

不整地などではパークトロンニックが正しく作動しないことがあります。

パークトロンニックは以下のときに自動的に作動します：

- イグニッションをオンにした
 - トランスミッションをポジション **D**、**R** または **N** にシフトした
 - 電気式パーキングブレーキを解除した
- パークトロンニックは、18 km/h 以上の速度で解除されます。それより低い速度で再作動します。

センサーの範囲

全体的な注意事項

以下のときは、パークトロンニックは障害物を考慮しません。

- 人や動物、障害物などが検知範囲の下にある
- 突き出た荷物、車両後部、または積載用スロープなどが検知範囲の上にある



① 例：左側フロントバンパーのセンサー



側面図



上面図

センサーに汚れ、氷および泥がないようにしてください。適切に機能しないことがあります。傷つけたり、損傷させないように注意して、センサーを定期的に清掃してください(▷ 333 ページ)。

フロントセンサー

センター部	100 cm
コーナー部	60 cm

リアセンサー

センター部	120 cm
コーナー部	80 cm

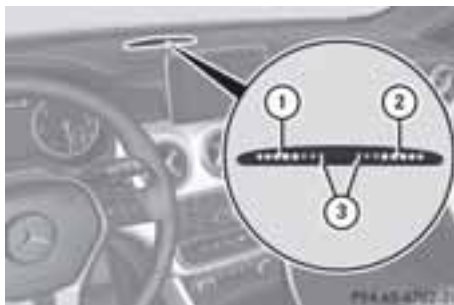
最短距離

センター部	20 cm
コーナー部	20 cm

この範囲内に障害物がある場合は、対応する警告表示が点灯して警告音が鳴ります。距離が最短以下になった場合は、距離が表示されなくなることがあります。

警告表示

警告表示はセンサーと障害物との距離を示します。前方エリアの警告表示は、中央送風口上部のダッシュボードにあります。後方エリアの警告表示は後席のルーフィニング部分にあります。



前方エリアの警告表示

- ① 車両左側のセグメント
- ② 車両右側のセグメント
- ③ 作動準備ができていることを示すセグメント

車両の各側の警告表示は、5 個の黄色の、および 2 個の赤色のセグメントに分けられます。作動準備ができていることを示す黄色いセグメント ③ が点灯している場合は、パークトロニックは作動が可能です。

エンジンがかかっているときに、ギアレバーポジションまたはオートマチックトランスミッションのトランスミッションポジションと車両の進行方向によって、どの警告表示が作動するかが決定されません。

オートマチックトランスミッション：

シフトポジション	警告表示
D	前方エリアが作動します。
R、N または車両が後退しているとき	前方および後方エリアが作動します。
P	どのエリアも作動しません。

車両が障害物に近づくにつれ、障害物からの車両の距離に応じて 1 個またはそれ以上のセグメントが点灯します。

以下のように警告が行なわれます。

- 6 個目のセグメントを超えると、断続的な警告音が約 2 秒間聞こえます。
- 7 個目のセグメントを超えると、警告音が約 2 秒間聞こえます。これは、最短距離に達していることを示しています。

パークトロニックの解除/作動



- ① 表示灯
- ② パークトロニックの解除/作動

表示灯 ① が点灯しているときは、パークトロニックは解除されています。

i エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわしたときは、パークトロニックは自動的に作動します。

パークトロニックのトラブル

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
パークトロニック警告表示の赤色のセグメントだけが点灯している。警告音が約2秒間聞こえる。パークトロニックがその後解除され、パークトロニックスイッチの表示灯が点灯する。	パークトロニックが故障して、解除された。 ▶ 問題が続く場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にてパークトロニックを点検してください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯している。パークトロニックがその後解除される。	パークトロニックセンサーが汚れているか、干渉がある。 ▶ パークトロニックセンサーを掃除してください (▶ 333 ページ)。 ▶ エンジンスイッチを2の位置にしてください。 電波や超音波の外部要因が問題の原因になっている。 ▶ 他の場所で、パークトロニックが作動するかを確認してください。

アクティブパーキングアシスト

全体的な注意事項

アクティブパーキングアシストは超音波により駐車を支援するシステムです。車両の両側の道路を測定します。駐車マークは、適切な駐車スペースを示します。駐車している間、または駐車スペースから出るとき、ステアリング操作への介入およびブレーキの適用が運転者を補助します。パークトロニックも利用できます (▶ 211 ページ)。

重要な安全上の注意事項

アクティブパーキングアシストは単なる支援にすぎません。周辺に対する運転者の注意の代わりになるものではありません。運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。操作

範囲に人や動物や物がないことを確認してください。

パークトロニックが解除されているときは、アクティブパーキングアシストも使用できません。

⚠ 警告

駐車するときや駐車スペースから出るとき、車両がはみ出し、対向車線に入ることがあります。他の道路使用者とぶつかる可能性があります。事故の危険性があります。

他の道路利用者に注意してください。必要な場合は停車して、アクティブパーキングアシストの作動を解除してください。

❗ 避けられないときは、ゆっくりと鋭角でない角度で縁石などの障害物を乗り越えてください。ホイールやタイヤを損傷するおそれがあります。

アクティブパーキングアシストは、以下のような駐車するのに適さないスペースを表示することがあります。

- 駐車または停車が禁止されている
- 私道の手前または建物の出入り口
- 路面が駐車するのに適していない場所

駐車のコントラクト：

- 狭い道路では、できるだけ駐車スペースの近くを通過して走行してください。
- ゴミが散らかっていたり、草が茂っている駐車スペースは、確認や測定が不正確になることがあります。
- トレーラーけん引部が駐車スペースを一部を占有している場合は、それを識別できなかったり、測定が不正確になることがあります。
- 雪や激しい雨により、不正確に計測された駐車スペースに誘導されることがあります。
- 駐車操作を行なっている間は、パークトニック (p 212 ページ) の警告メッセージに注意してください。
- 運転者はいつでもステアリング操作に介入して修正できます。その場合はアクティブパーキングアシストが解除されます。
- 車両からはみ出している荷物を運んでいるときは、アクティブパーキングアシストを使用しないでください。
- スノーチェーンを装着しているときは、アクティブパーキングアシストを絶対に使用しないでください。
- タイヤ空気圧が常に適正であることを確認してください。これは車両の駐車特性に直接影響を与えます。

アクティブパーキングアシストは以下のような駐車スペースで使用してください。

- 走行方向と平行または直角である
- カーブしていない直線道路
- 歩道などでなく、道路と同じ高さにある

駐車スペースの検知

駐車スペースが計測される時、アクティブパーキングアシストの検知範囲より上にある障害物は検知されません。例えば、車両から突き出た荷物や車両後部、積載用スロープなどは、駐車スペースを計測するときに考慮されません。

▲ 警告

検知範囲上に障害物があると、アクティブパーキングアシストが早すぎるステアリング操作をすることがあります。衝突のおそれがあります。事故の危険性があります。

アクティブパーキングアシストの検知範囲上に障害物があると、車両が停止し、アクティブパーキングアシストが解除されます。

検知範囲に関して詳しくは (p 211 ページ) をご覧ください。

アクティブパーキングアシストは、以下の場合には進行方向と直角なスペースでの駐車を支援しません。

- 2つの駐車スペースが直接隣り合って位置している
- 駐車スペースが低い縁石のような低い障害物のすぐ隣にある
- 前進して駐車する

アクティブパーキングアシストは、以下の場合には進行方向と平行または直角なスペースでの駐車を支援しません。

- 駐車スペースが縁石の上にある
- 駐車スペースが、葉または草の舗装ブロックなどによって遮られているように見えるとき
- 稼動範囲が小さすぎるとき
- 駐車スペースが、木やトレーラーなどの明確に認識されない障害物に隣接しているとき



- ① 左側に検知された駐車スペース
- ② 駐車マーク
- ③ 右側に検知された駐車スペース

前方に走行しているときは、アクティブパーキングアシストが自動的に作動します。約 35 km/h 以下の速度でシステムは作動します。作動している間は、車両両側の駐車スペースを独自に見つけて、測定します。

アクティブパーキングアシストは以下のときにのみ、駐車スペースを検出します。

- 進行方向と平行または直角である
- 進行方向と平行で、1.5 m 以上の幅があるとき
- 進行方向と平行で、車両よりも 1.0 m 以上の長さがあるとき
- 進行方向と直角で、車両より 1.0 m 以上の幅がある

i 駐車スペースが進行方向と直角である場合は、駐車スペースが車両を入れるのに十分な長さであることを確認してください。

30 km/h 以下で走行しているときは、メーターパネルにステータスインジケータとして駐車マーク ② が表示されます。駐車スペースが検出されると、右または左向きの矢印も表示されます。標準では、アクティブパーキングアシストは助手席側の駐車スペースのみを表示します。運転席側の方向指示灯を作動させるとすぐに、運転席側の駐車スペースが表示されます。運転席側に駐車するときは、マルチファンクションステアリングの [OK] スイッチを押してアクティブパーキングアシストの使用を確認するまで、作動させたままにしなければなりません。システムは、駐車スペースが進行方向に平行か、または直角かどうかを自動で測定します。

駐車スペースは、駐車スペースを過ぎてから約 15 m 離れるまで表示されます。

駐車

⚠ 警告



車両を離れるときに、アクティブパーキングアシストのみで停車すると、以下のときに動き出すおそれがあります。

- システムまたは電源供給に異常があるとき
- エンジンルームの電気装備や、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき
- バッテリーの接続を外したとき
- 同乗者などにより、車両のアクセルペダルが踏まれたとき


事故の危険性があります。

車両を離れる前に、必ず動き出さないようにしてください。

i オートマチックトランスミッション装備車: パークトロニックが障害物を検知すると、アクティブパーキングアシストは駐車操作を行なっている間に自動的にブレーキ操作を行ないません。運転者には、適切なブレーキ操作を行なう責任があります。

- ▶ メーターパネルに希望の駐車スペースを示すマークが表示されたら、停車します。
- ▶ トランスミッションをポジション R にシフトします。
マルチファンクションディスプレイに「パーキングアシストオン Yes: OK No: 」というメッセージが表示されます。
- ▶ **操作を中止する**：マルチファンクションステアリングの  スイッチを押すか、発進します。

または

- ▶ **アクティブパーキングアシストを使用して駐車する**：マルチファンクションステアリングの  スイッチを押します。
マルチファンクションディスプレイに「パーキングアシスト作動中 アクセルとブレーキを操作 周囲を確認」というメッセージが表示されます。

- ▶ マルチファンクションステアリングを放します。
- ▶ いつでもブレーキをかけられるようにして、車両を後退させます。後退するときは、7 km/h 以下の速度で走行してください。この速度を超えると、アクティブパーキングアシストが解除されます。
車両が駐車スペースの後端に近づいたとき、アクティブパーキングアシストは車両が停止するまでブレーキ操作をします。

狭い駐車スペースではさらに操作が必要となる場合があります。

マルチファンクションディスプレイに「パーキングアシスト作動中 D にシフト周囲を確認」というメッセージが表示されます。

- ▶ 停車中にシフトポジションを D にします。
アクティブパーキングアシストはただちに逆方向にステアリング操作を行ないます。

マルチファンクションディスプレイに「パーキングアシスト作動中 アクセルとブレーキを操作」というメッセージが表示されます。

- ❶ 発進する前にステアリング操作の完了を待つことにより、最適な結果が得られます。

- ▶ 前進して、いつでもブレーキをかけられるようにします。
アクティブパーキングアシストは車両が停止するまでブレーキ操作を行ないます。

マルチファンクションディスプレイに「パーキングアシスト作動中 R にシフト 周囲を確認」というメッセージが表示されます。

駐車手順が完了するとすぐに、「パーキングアシスト終了」というメッセージが表示され、警告音が鳴ります。ここで車両が駐車されました。運転者がブレーキペダルを踏まなくても、車両が停止した状態を保ちます。アクセルペダルを踏むと、ブレーキ効果が解除されます。

ステアリング介入およびブレーキ操作を行なうと、アクティブパークアシストは支援を行なわなくなります。アクティブパーキングアシストが終了したときは、ご自身で再度ステアリング操作とブレーキ操作を行なってください。パークトロニックは引き続き使用できます。

- ▶ 必要であれば車両を移動してください。
- ▶ パークトロニックにより表示される警告メッセージを常に注意してください（▶ 212 ページ）。

駐車のヒント：

- 駐車後の駐車スペースでの車両の位置決めは、様々な要因に左右されます。これには、前後に停車している車両の

位置や形、スペースの状態が含まれます。そのため、アクティブパーキングアシストは駐車スペース内の最適な位置よりも奥または手前の位置に誘導することがあります。また縁石をまたいだり、縁石に乗り上げることもあります。必要であれば、アクティブパーキングアシストの機能を解除してください。

- すぐに前進ギアに入れることもできます。車両の向きが変わり、駐車スペースの奥の方まで移動しなくなります。ギアチェンジを行なうタイミングが早すぎると、駐車操作が解除されます。この位置からは適切な位置に駐車することができなくなります。

駐車スペースからの退出

駐車スペースから出るときに、アクティブパーキングアシストが支援できるように以下を確認してください。



- 駐車スペースの境界が十分に高い。例えば、縁石が小さすぎる。
- 車両を駐車スペースに入れるときにスタートポジションに対して車両の位置は 45° の角度を超えてはいけないので、駐車スペースの境界は幅が広すぎない。
- 転回距離は 1.0 m 以上でなければならない。

i オートマチックトランスミッション装備車の場合


車両が駐車スペースから出ている間にパークトロニックが障害物を検知した場合は、アクティブパーキングアシストは自動的にブレーキを効かせます。運転者には、適切なブレーキ操作を行なう責任があります。

アクティブパーキングアシストは、走行方向と平行に車両を駐車した場合に限り、

駐車スペースを出るときも運転者を支援することができます。

- ▶ エンジンを始動します。
- ▶ 出る方向の方向指示灯を作動させます。
- ▶ トランスミッションをポジション **D** または **R** にシフトします。
マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシストオン Yes: OK No:**  というメッセージが表示されません。
- ▶ **操作を中止する**：マルチファンクションステアリングの  スイッチを押すか、発進します。

または

- ▶ **アクティブパーキングアシストを使用して駐車スペースから出る**：マルチファンクションステアリングの  スイッチを押します。
マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト作動中 アクセルとブレーキを操作 周囲を確認** というメッセージが表示されます。
- ▶ マルチファンクションステアリングを放します。
- ▶ いつでもブレーキをかけられるようにして、車両を後退または前進させます。駐車スペースから出るときは、最高速度が 10 km/h を超えないようにしてください。この速度を超えると、アクティブパーキングアシストが解除されます。
- ▶ 停車しているときに、必要であればシフトポジションを **D** または **R** にシフトします。
アクティブパーキングアシストはただちに逆方向にステアリング操作を行ないます。マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト作動中 アクセルとブレーキを操作 周囲を確認** というメッセージが表示されます。

① 発進する前にステアリング操作の完了を待つことにより、最適な結果が得られます。

作動後に後退する場合は、ステアリングを直進位置に動かします。

▶ 必要に応じて数回、パークトロニックの警告表示による指示に従い、前進および後退します。

駐車スペースから完全に出たら、ステアリングを直進位置に動かします。音が聞こえ、マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト 終了** というメッセージが表示されます。ご自身でステアリング操作を行ない、交通に合流する必要があります。パークトロニックは引き続き使用できます。車両が駐車スペースから完全に出る前に、ステアリング操作を引継ぐことができます。これは、すでに駐車スペースから出たと思われる場合などに役立ちます。

アクティブパーキングアシストの中止

アクティブパーキングアシストはいつでも中止することができます。

▶ マルチファンクションステアリングの動きを止めるか、またはご自身でステアリング操作を行ないます。


アクティブパーキングアシストはすぐに中止されます。マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト 中止** というメッセージが表示されます。

または

▶ センターコンソールにあるパークトロニックスイッチを押します (p. 213 ページ)。

パークトロニックが停止し、アクティブパーキングアシストがただちに中止されます。マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト 中止** というメッセージが表示されます。

アクティブパーキングアシストは以下のときに自動的に中止されます。

- 電気式パーキングブレーキを効かせた
- トランスミッションポジション **P** が選択された
- アクティブパーキングアシストを使用して駐車することができなくなった
- 7 km/h より速く走行している
- 車輪が空転して ESP® が作動したか、故障したメーターパネルの警告灯  が点灯します。

警告音が鳴ります。駐車マークが消え、マルチファンクションディスプレイに **パーキングアシスト 中止** というメッセージが表示されます。

アクティブパーキングアシストが中止されたときは、ご自身で再度ステアリング操作を行なってください。

システムに誤作動が起きた場合、車両は停止するまでブレーキを効かせます。走行するには、再度アクセルペダルを踏んでください。

リアビューカメラ

全体的な注意事項



リアビューカメラ ① は、テールゲートのハンドルに装着されています。

リアビューカメラは映像により駐車およびステアリング操作を補助するシステムです。オーディオ/COMAND ディスプ

レイに車両後方エリアの映像をガイドラインを使用して表示します。

車両後方エリアは、ルームミラーに映るように鏡像で表示されます。

リアビューカメラは、フラップによって雨やほこりから保護されています。リアビューカメラが作動しているときは、このフラップが開きます。操作手順が終了して、リアビューカメラがオフになったときのみフラップが再度閉じます。技術的な理由のため、リアビューカメラが停止した後にフラップが短時間開いたままになることがあります。エンジンをオフにすると、フラップも閉じます。

i COMAND ディスプレイに表示されるメッセージの文字は、言語設定により異なります。以下はリアビューカメラのCOMAND ディスプレイのメッセージの例です。

清掃に関する注意事項を遵守してください (p. 333 ページ)。

重要な安全上の注意事項

リアビューカメラは単なる支援にすぎません。周囲に対する運転者の注意の代わりになるものではありません。運転者には、安全にステアリングを操作し、駐車する責任があります。ステアリング操作や駐車をこなしている間は、周囲に人や動物、障害物がないことを確認してください。

以下のような環境下ではリアビューカメラが機能しなかったり、制限された方法で機能します。

- テールゲートが開いているとき
- 激しい雨、雪または霧
- 夜や非常に暗い場所
- カメラが非常に明るい光に照らされている

- 周囲が蛍光灯の光、または LED の光で照らされている(ディスプレイがちらつくことがあります)

- 冬に暖かい車庫に入るなど、急激な温度変化があった場合

- カメラのレンズが汚れていたり、遮られている

- 車両の後部が損傷している。このような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ではカメラの位置および設定を点検してください。

車両後部の追加のアクセサリ(ライセンスプレートホルダー、自転車ラックなど)により、リアビューカメラの視界および他の機能が制限される可能性があります。

リアビューカメラの作動/停止

▶ **作動させる:** エンジンスイッチのキーが **2** の位置にあることを確認します。

▶ オーディオシステムで"リバース連動"機能が選択されていることを確認します(別冊の取扱説明書をご覧ください)。

▶ リバースギアに入れます。
オーディオ/COMAND ディスプレイに車両後方エリアの映像をガイドラインを使用して表示します。

解除する: オートマチック車でトランスミッションを **P** にシフトした場合、または短距離を前進した後に、リアビューカメラは解除されます。

オーディオ/COMAND ディスプレイの表示

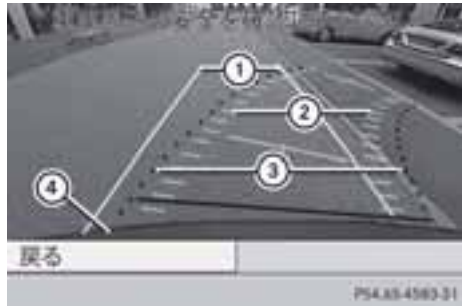
リアビューカメラは、障害物の歪んだ画像を表示したり、それらを正しく、またはまったく表示しないことがあります。以下の場所にある障害物はリアビューカメラで表示されません。

- リアバンパーの近接部
- リアバンパーの下
- テールゲートハンドルの上のエリア

! 以下のような路面に接していない障害物は、実際よりも遠くに見えることがあります。

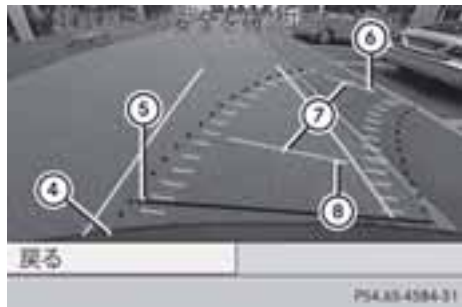
- 駐車車両のバンパー
- トレーラーのトーイングバー
- トレーラーけん引ヒッチのボールヘッドカップリング
- 大型車のリア部
- 傾いた柱

ガイドラインはあくまでも目安として利用してください。障害物に近づくときは、障害物が一番下のガイドラインを越えないように注意してください。



ガイドライン

- ① ステアリングをまわしていないときの、ドアミラーを含む車幅を示す白色のガイドライン(固定)
- ② 黄色のレーン：そのときのステアリング角度で進むときにタイヤが描く予想進路およびホイールの外側端を含む車幅(動的)
- ③ 赤色のガイドライン：そのときのステアリング角度で後退するときの、ドアミラーを含む車幅延長線(動的)
- ④ バンパー



ガイドライン

- ④ バンパー
- ⑤ 車両後部から約 0.25 m 先を示す赤色のガイドライン
- ⑥ 車両後部から約 4.0 m の距離の黄色ガイドライン
- ⑦ 車両中央軸(補助マーカー)
- ⑧ 車両後部から約 1.0 m の距離の黄色ガイドライン

リバースギアにすると、車線とガイドラインのみが表示されます。

規定の距離は、地面の高さにある障害物にのみ適用されます。



パークトロンクおよび COMAND システム装備車の追加表示

- ① フロントの警告表示
- ② パークトロンク補助計測の作動準備インジケータ
- ③ リアの警告表示

パークトロンクおよび COMAND システム装備車：パークトロンクが作動している場合(▷ 211 ページ)、追加の作動待機インジケータ②が COMAND ディスプレイに表示されます。パークトロンク警告表示が作動または点灯している場合は、それに応じて警告表示①および③も COMAND ディスプレイ内で作動または点灯します。

"後退駐車"機能

- ▶ リアビューカメラが作動し、“後退駐車”機能が選択されていることを確認してください。別冊のオーディオシステム/COMAND システム取扱説明書をご覧ください。車線およびガイドラインが表示されず。

ステアリングをまわさないで、まっすぐ後退駐車する



- ① ステアリングを直進にした状態での車両の進路を示す白色のレーン
 - ② 車両後部から約 1.0 m の距離の黄色ガイドライン
 - ③ 車両後部から約 0.25 m 先を示す赤色のガイドライン
- ▶ 白色レーン①の補助により、車両が駐車スペースに合うかどうかを確認します。
 - ▶ 白色レーンをガイドとして使用して、終了位置に達するまで注意しながら後退します。赤色のガイドライン③が駐車スペースの停止位置にきます。車両は駐車スペースとほぼ平行になります。

ステアリングをまわして直角に後退駐車する

- ▶ 駐車スペースを通過して、車両を停止します。



ステアリングをまわす

- ① 現在のステアリング位置で車両が通る進路を示す赤色レーン
- ② 駐車スペースのマーキング
- ▶ 車両が停止している間に、赤色レーンが駐車スペースマーク ② に達するまで、駐車スペースの方向にステアリングをまわします。
- ▶ ステアリングをその位置で保持し、注意しながら後退します。



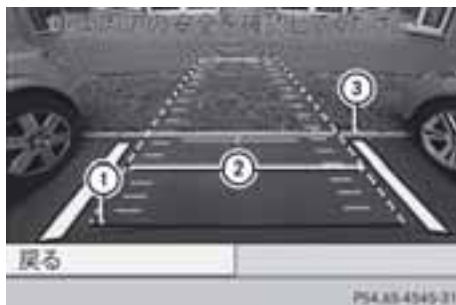
ステアリングをまわしながら後退する

- ① 現在のステアリング位置で車両が通る進路を示す赤色レーン
- ▶ 駐車スペースのほぼ正面の位置で停車します。白色のレーンが駐車スペースのマーキングとできるだけ平行になるようにします。



終了位置まで走行する

- ① 現在のステアリング位置で車両が通る進路を示す白色レーン
- ② 駐車スペースのマーキング
- ▶ 車両が停止している間に、ステアリングを直進位置に戻します。



- ① 車両後部から約 0.25 m 先を示す赤色のガイドライン
- ② ステアリングを直進にした状態での車両の進路を示す白色のレーン
- ③ 駐車スペースの後端
- ▶ 後端位置に達するまで、注意しながら後退します。赤色のガイドライン①が駐車スペース③の停止位置にきます。車両は駐車スペースとほぼ平行になります。

アテンションアシスト

全体的な注意事項

アテンションアシストは高速道路や幹線道路のような道路で、長時間の変化の少ない走行をするときに運転者を支援します。80 km/h から 180 km/h の範囲で作動します。

運転者の疲労や集中力欠如の増加の典型的な兆候を検知した場合は、アテンションアシストは休憩を促します。

重要な安全上の注意事項

アテンションアシストは単なる支援にすぎません。疲労や集中力欠如を検出するのが遅すぎたり、まったくしないことがあります。十分な休憩を取り、集中力がある運転者の代わりになるものではありません。

アテンションアシストは以下のような基準を考慮して、運転者の疲労や集中力欠如の度合いを判断します。

- ステアリング操作などのお客様の運転スタイル
- 時間や走行の長さなどの走行に関する要因

以下のときは、アテンションアシストの機能が制限されたり、警告が遅れる、またはまったく行なわれないことがあります。


- 路面が平坦でなかったり、穴があるなど、道路の状態が悪い場合
- 横風が強い場合
- 高いスピードでカーブを曲がっているときや急加速をしているときなど、スポーティな運転を行なっている場合
- 主に 80 km/h より遅く、または 180 km/h より速く走行しているとき
- COMAND システムを使用しているときや COMAND システムで電話を発信しているとき

- 時刻が正しく設定されていない場合
- 車線を変更したり走行速度を変えるなどの活発な運転状況の場合

マルチファンクションディスプレイの警告とディスプレイメッセージ

- ▶ マルチファンクションディスプレイを使用してアテンションアシストを作動させます(▶ 242 ページ)。


アテンションアシストが作動しているときは、警告は走行を開始して約 20 分 が経過してから行なわれます。断続的な警告音が 2 回聞こえ、マルチファンクションディスプレイに**アテンションアシスト 休憩しませんか?** と表示されます。

- ▶ 必要な場合は、休憩を取ってください。
- ▶ **OK** または  スイッチを押して、メッセージを確認します。

長時間の運転では、適切な休憩をするために、適切な時間に定期的に休憩を取るようにしてください。休憩を取らない場合は、約 15 分 後に再度警告が行なわれます。これは、アテンションアシストが疲労または集中力低下の増加の兆候を検知した場合にのみ実行されます。

走行を継続するときは、以下のときにアテンションアシストはリセットされ、運転者の疲労の評価を開始します。

- エンジンを停止した
- 運転者を交代したり、休憩を取るために、運転者がシートベルトを外して運転席のドアを開いた

アテンションアシストが解除されているときは、 マークがマルチファンクションディスプレイのアシスト一覧に表示されます。

レーントラッキングパッケージ

全体的な注意事項

レーントラッキングパッケージはブラインドスポットアシスト (p. 225 ページ) とレーンキーピングアシスト (p. 227 ページ) で構成されます。

ブラインドスポットアシスト

全体的な注意事項

ブラインドスポットアシストは、レーダーセンサーシステムを使用して車両の両側のエリアをモニターします。30 km/h からの速度で運転者を支援します。ドアミラーの警告表示によって、モニターしている範囲で検知された車両に運転者の注意が向けられます。そのときに車線変更する側の方向指示灯を作動させた場合は、視覚的および聴覚的な衝突警告が行なわれます。そのために、ブラインドスポットアシストはリアバンパーに装着されたレーダーセンサーを使用します。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

ブラインドスポットアシストは以下の場合は車両に反応しません。

- 自車が追い越そうとしている隣接車線の車両が接近し過ぎ、死角エリアに入ったとき
- 接近と追い越しの速度差が非常に大きいとき

このような状況では、ブラインドスポットアシストは運転者に警告を発することができません。事故の危険性があります。常に交通状況に十分注意を払い、車両の両側と安全な車間距離を維持してください。

ブラインドスポットアシストは単なる支援にすぎません。車両を検知できないこ

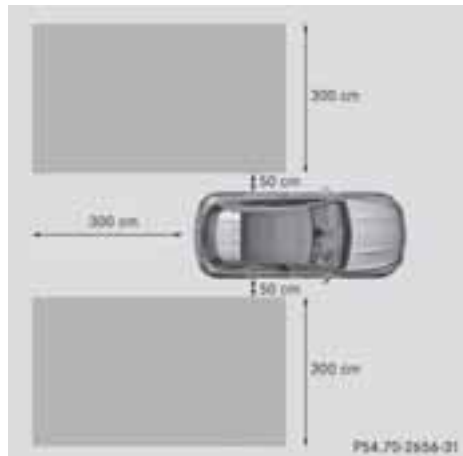
とがあり、注意した運転の代わりになるものではありません。

センサーの検知範囲

特に以下のときは、障害物の検知が困難になります。

- センサーが汚れている、またはセンサーが覆われている
- 霧や激しい雨、雪などで視界が悪い
- 先行車がオートバイのように車幅が狭い車両であるとき
- 非常に幅の広い車線である
- 幅の狭い車線である
- 車両が車線の中央を走行していない
- 隔壁その他の道路分離帯

このときは、モニター範囲にある車両は示されません。



ブラインドスポットアシストは、図に示すように約 3.0 m までの車両後方および車両のすぐ脇の範囲をモニターします。そのため、ブラインドスポットアシストはリアバンパーに装着されたレーダーセンサーを使用します。

車線の幅が狭い場合、2 車線横の車両が (中央を走行していない場合などに) 検知されることがあります。これは、車両が

車線の外端部を走行している場合などです。

以下は、システムの特性に起因するものです。

- ・ガードレール、または類似の高さのある車線境界の近くを走行しているときに、誤って警告が発せられることがあります。
- ・トラックなど特に長い車両が長い時間並走しているときに、警告が中断することがあります。

ブラインドスポットアシストの2個のレーダーセンサーは、リアバンパーの左右に内蔵されています。バンパーのセンサー付近に汚れ、氷や泥が付着していないことを確認してください。車両に装着された自転車のキャリアや垂れ下がった荷物などでセンサー付近が覆われないようにしてください。強い衝撃の後やバンパーが損傷したときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの機能を点検してください。さもないと、ブラインドスポットアシストが正常に作動しなくなることがあります。

表示灯と警告灯

ブラインドスポットアシストは、30 km/h 以下の速度では作動しません。このときは、モニター範囲にある車両は示されません。



① 黄色の表示灯/赤色の警告灯

ブラインドスポットアシストが作動している場合は、ドアミラーの表示灯①が約 30 km/h の速度まで黄に点灯します。約 30 km/h 以上の速度では、表示灯が消え、ブラインドスポットアシストが作動可能になります。

30 km/h 以上の速度でブラインドスポットアシストのモニター範囲内に車両が検知されると、対応する側の警告灯①が赤色で点灯します。この警告は、後方または側方から車両がブラインドスポットのモニター範囲に入ってきたときに常に行なわれます。車両を追い越すときは、速度差が 12 km/h 以下の場合にのみ警告が行なわれます。

リバースギアに入れた場合は、黄色の表示灯は消灯します。そして、ブラインドスポットアシストが解除されます。

表示灯/警告灯の明るさは周囲の明るさによって自動的に調整されます。

衝突警告

ブラインドスポットアシストのモニター範囲で車両が検知されていて、対応する方向指示灯を作動させた場合は、警告音が2回鳴ります。赤色の警告灯①が点滅します。方向指示灯をそのままにしている場合は、赤色の警告灯①の点滅により検知された車両が示されます。警告音はそれ以上鳴りません。

ブラインドスポットアシストの作動

- ▶ 死角アシストがマルチファンクションディスプレイで設定されていることを確認してください (▶ 242 ページ)。
- ▶ エンジンスイッチのキーを2の位置にまわします。
ドアミラーの警告灯①が約 1.5 秒間赤色で点灯した後、黄色に変わります。

レーンキーピングアシスト

全体的な注意事項



レーンキーピングアシストは、フロントウインドウ上部に装着されたカメラ①で車両前方をモニターします。レーンキーピングアシストは道路の車線ラインを検知し、不意に車線から離れる前に警告を発します。

この機能は、60 km/h～200 km/hの間の範囲で作動します。

前輪が車線マークを越えた場合は警告が行なわれます。警告はステアリングを1.5秒以内で継続的に振動させることにより行なわれます。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

レーンキーピングアシストは常に明確に車線ラインを検知することはできません。このような場合、レーンキーピングアシストは以下を行うことがあります

- 不必要な警告を発する
- 警告を発しない

事故の危険性があります。

特にレーンキーピングアシストが警告しているときは、必ず交通状況および車線内を保つように特に注意してください。

⚠ 警告

車両が元の車線に戻らないと、レーンキーピングアシストによって警告が発せられます。事故の危険性があります。

レーンキーピングアシストが警告しているときは、常に運転者自身で車両のステアリング操作やブレーキ操作または加速操作を行ってください。

運転スタイルを合わせていない場合は、レーンキーピングアシストは事故の危険性を軽減することも、物理的な法則を乗り越えることもできません。レーンキーピングアシストは、道路、天候、または交通状況を考慮することはできません。レーンキーピングアシストは単なる支援にすぎません。運転者には、先行車両との距離、車両の速度、適切なブレーキ操作、および車線を維持する責任があります。

レーンキーピングアシストは車両を車線内に維持することはできません。

以下のときは、システムの作動が損なわれたり、正しく機能しないことがあります。

- 道路に十分な照明がなかったり、雪や雨、霧や霧雨によるなど、視界が悪い
- 対向交通、太陽または他の車両からの反射などで眩惑がある（路面が濡れている場合など）
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っている、または、カメラ付近がステッカーなどで覆われている
- 工事エリアなどで1車線の車線マークがまったくないか、またはいくつかある、不明瞭である
- 車線マークが摩耗していたり黒ずんでいる、または汚れや雪などに覆われている
- 先行車両との車間距離が短くて車線マークが検知できない
- 車線の分岐や他との交差、合流などで車線マークが頻繁に変わる
- 道路が狭かったりカーブしている
- 道路に様々な状況の著しい日陰がある

レーンキーピングアシストの作動

▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、レーンキープアシストを設定します。そのためには、**標準**または**アダプティブ**(▷ 242 ページ)を選択します。

60 km/h 以上の速度で走行していて、車線ラインが検知された場合は、アシスト一覧表示に車線ラインが緑色に表示されます(▷ 240 ページ)。

標準を選択すると、以下のときは振動による警告が行なわれません。

- 方向指示灯を作動させた。このようなときは、警告が一定時間抑えられます。
- ABS や BAS、ESP[®] などの走行安全システムが介入した。

アダプティブを選択すると、以下のときは振動による警告が行なわれません。

- 方向指示灯を作動させた。このときは、警告が一定時間抑えられます。
- ABS や BAS、ESP[®] などの走行安全システムが介入した。
- キックダウンなどの急加速を行なった。
- 急ブレーキを効かせた。
- 障害物を避けるために急に進路変更をしたり、急に車線を変更するなど、活発なステアリング操作を行なった。
- きついカーブの内側をまたいだ。

車線マークを越える場合、必要な状況で適切なタイミングでのみ警告を行なうため、システムは特定の状況を認識し、それに応じて警告を行ないません。

以下のときは、早めに警告の振動が行なわれます。

- カーブの外側の車線マークに近づいた。
- 自動車道路など、道路の車線の幅が非常に広い。
- システムが実線の車線マークを検知した。

以下のときは、遅めに警告の振動が行なわれます。

- 道路の車線の幅が狭い。
- カーブの内側をまたいだ。

役に立つ情報	230
重要な安全上の注意事項	230
表示および操作	230
メニューおよびサブメニュー	233
ディスプレイメッセージ	252
メーターパネルの警告および表示 灯	289

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご覧ください。(▷ 25 ページ)

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイや COMAND システムの操作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

交通状況が安全な時にのみ、操作するようにしてください。安全が確保されない場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

⚠ 警告

メーターパネルに故障や異常がある場合は、安全性に関わる機能を認識することができません。走行安全性が損なわれる可能性があります。事故の危険性があります。

注意して運転してください。すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でご覧を受けてください。

マルチファンクションディスプレイを操作するときは、そのときに運転している国の法規則に従ってください。

マルチファンクションディスプレイは、特定のシステムからのメッセージや警告のみを表示します。そのため、常に安全

に走行してください。車両を安全に操作しないと、事故の原因になるおそれがあります。

メーターパネルの図は、(▷ 30 ページ)をご覧ください。

表示および操作

メーターパネル照明

メーターパネル、ディスプレイおよび車内のコントロールの照明は、照度調整ノブを使用して調整することができます。照度調整ノブはメーターパネルの左下にあります (▷ 30 ページ)。

▶ 照度調整ノブを時計回りまたは反時計回りにまわします。

ランプスイッチが **AUTO**、**OFF** または **ON** の位置に設定されていると、照度は周囲の明るさに応じて変わります。

i マルチファンクションディスプレイの照度は、メーターパネルのライトセンサーによって自動的にコントロールされます。

日中はメーターパネルのディスプレイは点灯しません。

冷却水温度計

⚠ 警告

エンジンがオーバーヒートしたときにボンネットを開いたり、エンジンルームに炎が発生した場合、高温のガスやその他のサービスプロダクトに触れるおそれがあります。けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。エンジンルームで火災が発生したときは、ボンネットを閉じたままにし、消防局に連絡してください。

エンジン冷却水温度計は、メーターパネルの右側にあります。

通常の使用条件下で指定の冷却水レベルでは、冷却水温度が 120 °C に上がることがあります。

高い外気温および上り坂を走行しているときは、冷却水温度が目盛りの上限に上がることがあります。

タコメーター

! エンジンを損傷する原因となりますので、レッドゾーンに入らないよう運転してください。

タコメーターのレッドゾーンは、エンジンの許容回転数を超えたオーバーレブリンジを示します。

エンジン回転数がレッドゾーンに達すると、エンジン保護のため、燃料供給が停止されます。

外気温度表示

気温が氷点前後のときは、路面状況に特に注意してください。

外気温度表示はマルチファンクションディスプレイ内にあります。

外気温度が変化すると、少し遅れて表示されます。

セグメント付きスピードメーター

ディストロニック・プラス装備車両では、スピードメーターはセグメントに分けられています。

以下のときに、スピードメーター内のセグメントは、どの速度域が作動しているかを示しています：

- クルーズコントロールが作動している (▷ 191 ページ)：

記憶された速度から最高速度までのセグメントが点灯します。

- 可変スピードリミッターが作動している (▷ 195 ページ)：
最初の目盛りから設定された制限速度までのセグメントが点灯します。
- ディストロニック・プラスが作動している (▷ 196 ページ)
設定速度域内の 1 つまたは 2 つのセグメントが点灯します。
- ディストロニック・プラスが先行車両を検知している：
先行車両の速度と記憶されている速度の間のセグメントが点灯します。

マルチファンクションディスプレイの操作

概要










- ① マルチファンクションディスプレイ
- ② 音声認識の作動：別冊の取扱説明書をご覧ください
- ③ 右側コントロールパネル
- ④ 左側コントロールパネル
- ⑤ リターンスイッチ






- ▶ **マルチファンクションディスプレイを
作動させる：** エンジンスイッチのキー
を 1 の位置にまわします。

マルチファンクションステアリングのスイッチを使用して、マルチファンクションディスプレイの表示と設定を操作することができます。



左側コントロールパネル

	• メニューやメニューバーの呼び出し
	
	軽く押す：
	<ul style="list-style-type: none"> • リストのスクロール • サブメニューや機能の選択 • オーディオ メニュー：記憶させた放送局、音楽トラックまたはビデオシーンの選択 • Tel (電話) メニュー：電話帳への切り替え、および名前や電話番号の選択
	押して保持する：
	<ul style="list-style-type: none"> • オーディオ メニュー：高速スクロールを使用しての、前/次の放送局または音楽トラック、またはビデオシーンの選択 • Tel (電話) メニュー：電話帳の高速スクロールの開始
	<ul style="list-style-type: none"> • 選択/ディスプレイメッセージの確定 • TEL (電話) メニュー：電話帳への切り替えと発信の開始 • オーディオ メニュー：希望の放送局での放送局サーチ機能の停止

右側コントロールパネル

	<ul style="list-style-type: none"> • 通話の拒否、または終了 • 電話帳/発信履歴の終了
	<ul style="list-style-type: none"> • 発信、または受話 • 発信履歴への切り替え
	• 音量の調整
	
	• ミュート

リターンスイッチ

	軽く押す：
	<ul style="list-style-type: none"> • 戻る • 音声認識の停止：別冊の取扱説明書をご覧ください • ディスプレイメッセージの消去 • 電話帳/発信履歴の終了
	押して保持する：
	<ul style="list-style-type: none"> • トリップ メニューの基本画面の呼び出し

マルチファンクションディスプレイ



- ① サブメーター：外気温度または速度 (▷ 244 ページ)
- ② 時間
- ③ 表示フィールド
- ④ メニューバー
- ⑤ 走行モード (▷ 168 ページ)
- ⑥ シフトポジション (▷ 168 ページ)

▶ **メニューバー④を表示する**：ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押します。

数秒後にメニューバー ④ が消えます。表示フィールド ③ には、ディスプレイメッセージとともに、選択したメニューまたはサブメニューが表示されます。

i COMAND システムを使用して、時刻を設定することができます。別冊の取扱説明書をご覧ください。

マルチファンクションディスプレイに以下のメッセージが表示されることがあります。

- ↑ 推奨ギアシフト (▷ 173 ページ)
- ◀P▶ アクティブパーキングアシスト (▷ 214 ページ)

- クルーズコントロール (▷ 191 ページ)
- 可変スピードリミッター (▷ 194 ページ)
- アダプティブハイビームアシスト (▷ 129 ページ)
- ECO スタートストップ機能 (▷ 163 ページ)
- ホールド機能 (▷ 205 ページ)

メニューおよびサブメニュー

メニュー概要

マルチファンクションディスプレイの操作 (▷ 231 ページ)


車両に装着されている装備に応じて、以下のメニューを呼び出すことができます。

- **トリップ** メニュー (▷ 233 ページ)
- **北** メニュー (ナビゲーション案内) (▷ 235 ページ)
- **オーディオ** メニュー (▷ 237 ページ)
- **Tel** メニュー (電話) (▷ 238 ページ)
- **アシスト** メニュー (支援機能) (▷ 240 ページ)
- **メンテナンス** メニュー (▷ 242 ページ)
- **設定** メニュー (▷ 243 ページ)
- **AMG** メニュー (AMG 車) (▷ 248 ページ)

トリップメニュー

基本画面





- ▶ **トリップ** メニューがオドメーター ① やトリップメーター ② とともに表示されるまで、ステアリングの  スイッチを押し続けます。

トリップコンピューター"スタート後"または"リセット後"



例："スタートから"のトリップコンピューター

- ① 距離
- ② 時間
- ③ 平均速度
- ④ 平均燃費

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**トリップ** メニューを選択します。

- ▶  または  スイッチを押して、**スタートから** または **リセット後** を選択します。

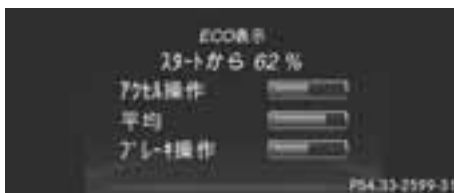
スタート後 サブメニューの数値は走行開始から算出され、**リセット後** サブメニューの数値はサブメニューが最後にリセットされたときから算出されます (p. 235 ページ)。

スタートから のトリップコンピューターは、以下のときに自動的にリセットされます。

- 4 時間以上イグニッションをオフにしている
- 999 時間を超えた
- 9,999 km を超えた



リセット後 のトリップコンピューターは、数値が 9,999 時間または 99,999 km を超えると、自動的にリセットされます。

ECO 表示



例：ECO 表示

ECO 表示は、AMG 車では使用できません。

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**トリップ** メニューを選択します。



- ▶  または  スイッチを押して、**ECO 表示** を選択します。



イグニッションが 4 時間以上オフのままの場合は、ECO 表示は自動的にリセットされます。

ECO 表示に関するさらなる情報は、(p. 184 ページ) をご覧ください。

走行可能距離と現在の燃料消費の表示



- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**トリップ** メニューを選択します。

- ▶  または  スイッチを押して、概算の走行可能距離および現在の燃料消費を選択します (AMG 車を除く)。

走行することのできる概算の走行可能距離は、そのときの運転スタイルとタンク内の燃料の量に応じて計算されています。燃料タンク内に残っている燃料が少量のみの場合は、走行可能距離の代わりに、





給油されている車両  がディスプレイに表示されます。

デジタルスピードメーター



- ① 推奨ギアシフト (▶ 173 ページ)
- ② デジタルスピードメーター

AMG 車両には、推奨ギアシフト ① はありません。

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**トリップ** メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、デジタルスピードメーターを選択します。






数値のリセット



例：“スタート後”のトリップコンピューターのリセット

以下の機能の数値をリセットできます。



- トリップメーター
- トリップコンピューター “スタートから”
- トリップコンピューター “リセット後”
- ECO 表示

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**トリップ** メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、リセットしたい機能を選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押します。
- ▶  スイッチを押して、**Yes** を選択し、**OK** スイッチを押して確定します。

① “ECO 表示”の数値をリセットした場合は、“スタートから”のトリップコンピューターの数値もリセットされます。“スタートから”トリップコンピューターの数値をリセットした場合は、“ECO 表示”の数値もリセットされます。

ナビゲーションメニュー

ナビゲーション案内の表示

- ▶ COMAND システムを作動させます。別冊の取扱説明書をご覧ください。
- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**ナビ** メニューを選択します。

ナビ メニューでは、マルチファンクションディスプレイにナビゲーション案内が表示されます。さらなる情報は、別冊の取扱説明書をご覧ください。

ルート案内が作動していない



- ① 進行方向

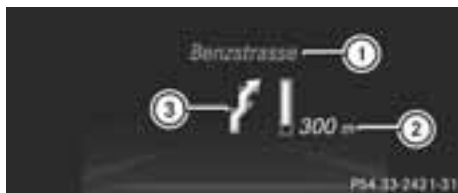
ルート案内の作動

進路変更の案内がない



- ① 目的地までの距離
- ② 次の進路変更までの距離
- ③ 現在の道路
- ④ "道路コースを進む"のマーク

推奨車線を含まない進路変更の案内



- ① 進路変更の目標
- ② 進路変更までの距離と視覚的な距離表示
- ③ 進路変更マーク

進路変更が案内されたときは、進路変更マーク③と距離表示②が表示されます。案内のあった進路変更地点に近づくにつれて、表示の上に向かって短くなります。

推奨車線を含む進路変更の案内



- ① 進路変更の目標
- ② 進路変更までの距離と視覚的な距離表示


- ③ 推奨車線および進路変更中の新しい車線
- ④ 推奨されない車線
- ⑤ 走行可能車線
- ⑥ 進路変更マーク

デジタル地図がデータをサポートしている場合は、複数車線の道路では、次の進路変更のための新しい推奨車線が表示されることがあります。進路変更中に、新しい車線が追加されることがあります。推奨車線③：この車線では、車線を変更することなく、次の2つの進路変更を完了することができます。

推奨されない車線④：この車線に留まる場合は、次の進路変更を完了することはできません。

走行可能車線⑤：この車線では、車線を変更することなく、次の進路変更のみを完了することができます。

ナビゲーションシステムの他のステータスインジケーター

- ：目的地または立ち寄り地点に到着した。
- **新ルート** または **ルート計算中**：新ルートを検索している。
- **案内ルート外**：車両の位置がデジタル地図の範囲外（地図外の位置）にあります。
- **ルートなし**：選択されている目的地へのルートを計算できませんでした。

オーディオメニュー

ラジオ放送局の選択



- ① 周波数バンドと放送局リスト番号
- ② メモリーポジションのある放送局周波数

保存されている場合にのみ、放送局 ② とともにメモリーポジションが表示されます。

- ▶ COMAND システムをオンにして、ラジオを選択します（別冊の取扱説明書をご覧ください）。
- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、オーディオメニューを選択します。
- ▶ 保存されている放送局を選択する： または スイッチを軽く押します。
- ▶ 放送局リストから放送局を選択する： または スイッチを押して、短時間保持します。

放送局リストが受信されない場合：

- ▶ 放送局サーチを使用して放送局を選択する： または スイッチを押して、短時間保持します

① 周波数バンドの変更と放送局の保存についての情報は、別冊の取扱説明書をご覧ください。

オーディオプレーヤーまたはオーディオメディアの操作



① 現在のトラック

車両に装着されている装備に応じて、さまざまなオーディオ機器やメディアからのオーディオデータを再生できます。

- ▶ COMAND システムをオンにして、音楽 CD、DVD オーディオまたは MP3 モードを選択します。別冊の取扱説明書をご覧ください。
- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、オーディオメニューを選択します。
- ▶ 次/前のトラックを選択する： または スイッチを軽く押します。
- ▶ トラックリストからトラックを選択する（高速スクロール）：希望のトラック ① が表示されるまで、 または スイッチを押し続けます。
 または スイッチを押して保持した場合は、高速スクロールの速度が上がります。すべてのオーディオ機器またはメディアがこの機能をサポートしているわけではありません。

オーディオプレーヤーまたはメディアにトラック情報が登録されている場合は、マルチファンクションディスプレイにトラックの番号とタイトルが表示されます。オーディオ AUX モード（外部オーディオモード：外部のオーディオソース接続）では、現在のトラックは表示されません。

ビデオ DVD の操作



- ▶ COMAND システムを作動させて、DVD ビデオを選択します。別冊の取扱説明書をご覧ください。
- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**オーディオ** メニューを選択します。
- ▶ **次/前のシーンを選択する**： ▲ または ▼ スイッチを軽く押します。
- ▶ **シーンリストからシーンを選択する (高速スクロール)**： 希望のシーン ① が表示されるまで ▲ または ▼ スイッチを押し続けます。

テレビの操作



- チャンネル ① が保存されているときにのみ、システムはプリセットを表示します。
- ▶ COMAND システムを作動させて、テレビを選択します。別冊取扱説明書をご覧ください。
 - ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**オーディオ** メニューを選択します。

- ▶ 保存されているチャンネルを選択する： ▲ または ▼ スイッチを軽く押します。
- ▶ チャンネルリストからチャンネルを選択する： ▲ または ▼ スイッチを軽く押して保持します。

① テレビチャンネルの保存：別冊の取扱説明書をご覧ください。

電話メニュー

はじめに

⚠ 警告

走行中に車両のマルチファンクションディスプレイや COMAND システムの操作を行なうと、交通状況に対する注意が払われなくなります。また車のコントロールを失うおそれがあります。事故の危険性があります。

交通状況が安全な時にのみ、操作するようにしてください。安全が確保されない場合は、必ず安全な場所に停車してから操作してください。

電話を使用するときは、必ずそのときに運転している国の法規則に従ってください。

- ▶ 携帯電話と COMAND システムをオンにします。別冊の取扱説明書をご覧ください。
- ▶ COMAND システムとの Bluetooth® 接続を確立します。別冊の取扱説明書をご覧ください。
- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**TEL** メニューを選択します。

マルチファンクションディスプレイに、以下のメッセージのいずれかが表示されます。

- **電話 待ち受け**またはネットワークプロバイダー名：携帯電話がネットワークをみつけ、受信可能な状態です。
- **圏外**：ネットワークに接続できない状態にあるか、携帯電話がネットワークを探索中の状態です。

通話を受ける



例：着信

- ▶ ステアリングの スイッチを押して、着信した電話を受けます。

TEL メニューのときに電話が着信すると、マルチファンクションディスプレイにディスプレイメッセージが表示されます。

TEL メニューを表示していないときも着信した電話を受けることができます。

通話の拒否または終了

- ▶ ステアリングの スイッチを押します。

TEL メニューでないときも、通話を終了または拒否できます。

電話帳から項目にダイヤルする

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**TEL** メニューを選択します。
- ▶ または スイッチを押して、電話帳に切り替えます。
- ▶ または スイッチを押して、希望の名称を選択します。高速スクロールを開始するためには、 または スイッチを 1 秒以上押して保持します。スイッチを放すか、リストの最後まで行くと、高速スクロールは停止します。
- ▶ **名前に 1 つだけ電話番号が保存されている場合**： または スイッチを押して、発信を開始します。

または

- ▶ **特定の名前に 1 つ以上の番号がある場合**： または スイッチを押して、電話番号を表示させます。
- ▶ または スイッチを押して、発信したい番号を選択します。
- ▶ または スイッチを押して、発信を開始します。


または

- ▶ **発信したくない場合**： または スイッチを押します。



リダイヤル

マルチファンクションディスプレイでは、最後に発信した名称と番号がリダイヤルメモリーに保存されています。

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**TEL** メニューを選択します。
- ▶ スイッチを押して、リダイヤルメモリーに切り替えます。
- ▶ または スイッチを押して、希望の名称または番号を選択します。

- ▶  または スイッチを押して、発信を開始します。

または

- ▶ 発信したくない場合： または  スイッチを押します。

アシストメニュー

はじめに







アシストメニューでは、以下の選択を行なうことができます。

- アシスト一覧の表示 (▶ 240 ページ)
- ESP®の作動/解除 (▶ 241 ページ)
- 車間距離警告機能の作動/解除 (▶ 241 ページ)
- CPA (衝突警告システム) プラスの作動/解除 (▶ 241 ページ)
- アテンションアシストの作動/解除 (▶ 242 ページ)
- ブラインドスポットアシストの作動/解除 (▶ 242 ページ)
- レーンキーピングアシストの作動/解除 (▶ 242 ページ)

アシスト一覧



- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、アシストメニューを選択します。
 - ▶  または  を押して、アシスト一覧を選択します。
 - ▶ スイッチを押します。
マルチファンクションディスプレイのアシスト一覧に、ディストロニック・プラスの距離ディスプレイが表示されます。
- アシスト一覧には、以下の走行装備または走行安全装備の状況または情報が表示されます。
- ディストロニック・プラス (▶ 203 ページ)
 - アテンションアシスト (▶ 224 ページ)
 - レーンキーピングアシスト (▶ 227 ページ)
 - CPA (衝突警告システム) の車間距離警告機能 (▶ 74 ページ)
 - CPA (衝突警告システム) プラス (▶ 76 ページ)
 - DSR (▶ 208 ページ)
 - オフロードプログラム (▶ 210 ページ)
 - リアワイパー (▶ 138 ページ)

ESP® の解除/設定

ESP®の記述がされているセクションにある"重要な安全上の注意事項"を遵守してください(▷ 78 ページ)。

⚠ 警告

ESP®を解除すると、ESP®は車両を安定させなくなります。横滑りや事故の危険が高まります。






以下に記載された状況でのみ ESP®を解除してください。



以下の状況では、ESP®を解除したほうが良い場合があります。

- スノーチェーンを使用しているとき
- 深い雪道
- 砂地または砂利道

AMG 車の ESP®の解除/作動 (▷ 80 ページ)。

ESP®に関するさらなる情報は、(▷ 77 ページ)をご覧ください。






- ▶ エンジンを始動します。
- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ESP**を選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押します。現在の選択が表示されます。
- ▶ **作動/解除する**：**OK** スイッチを再度押します。エンジンがかかっているときにメーターパネルの警告灯  が点灯している場合は、ESP®が解除されています。

警告灯  および警告灯  が点灯し続ける場合は、故障により ESP®は作動しません。

警告灯に関する情報に注意してください(▷ 293 ページ)。






ディスプレイメッセージに関する情報に注意してください(▷ 253 ページ)。

距離警告機能の設定/解除

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。
- ▶  または  を押して、**車間距離警告**を選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押します。現在の選択が表示されます。
- ▶ **設定/解除する**：**OK** スイッチを再度押します。距離警告機能が解除されているときは、マルチファンクションディスプレイのアシスト一覧表示に  マークが表示されます。






距離警告機能についてのさらなる情報は(▷ 74 ページ)をご覧ください。

CPA (衝突警告システム) プラスの設定/解除

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**コリジョンプリベンションアシスト**を選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押します。現在の選択が表示されます。
- ▶ **作動/解除する**：**OK** スイッチを再度押します。CPA (衝突警告システム) プラスが解除されているときは、マルチファンクションディスプレイのアシスト一覧表示に  マークが表示されます。





CPA (衝突警告システム) プラスについての詳細は(▷ 76 ページ)をご覧ください。

アテンションアシストの設定/解除

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**アテンションアシスト**を選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押します。
現在の選択が表示されます。
- ▶ **設定/解除する**：**OK** スイッチを再度押します。
アテンションアシストが解除されているときは、マルチファンクションディスプレイのアシスト一覧に  **OFF** マークが表示されます。

アテンションアシストについてのさらなる情報は (▶ 224 ページ) をご覧ください。

ブラインドスポットアシストの設定/解除







- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ブラインドスポットアシスト**を選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押します。
現在の選択が表示されます。
- ▶ **設定/解除する**：**OK** スイッチを再度押します。

ブラインドスポットアシストについてのさらなる情報は (▶ 225 ページ) をご覧ください。

ブラインドスポットアシスト: センサー 停止しました というメッセージが表示されている場合は、レーダーセンサーシステムが停止しています。

- ▶ レーダーセンサーシステムを設定してください (▶ 247 ページ)。

レーンキーピングアシストの設定/解除

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**アシスト**メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**レーンキーピングアシスト**を選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押します。
現在の選択が表示されます。
- ▶ **OK** を押して確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、**オフ**、**標準**または**アダプティブ**に設定します。
- ▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。
レーンキーピングアシストを設定しているときは、マルチファンクションディスプレイのアシスト一覧で車線マークが明るく表示されます。

レーンキーピングアシストについてのさらなる情報は (▶ 227 ページ) をご覧ください。

メンテナンスメニュー



メンテナンス メニューでは、以下を選択することができます。

- メッセージメモリーのディスプレイメッセージの呼び出し (▶ 252 ページ)
- タイヤ空気圧警告システムの再始動 (▶ 366 ページ)
- 点検整備予定時期の呼び出し (▶ 327 ページ)

設定メニュー

はじめに



設定メニューでは、以下のオプションを選択できます。

- メーター設定の変更
- ライト設定の変更
- 車両設定の変更
- コンフォート設定の変更
- 工場出荷時の設定に戻す

メーターパネル

距離単位の選択

マルチファンクションディスプレイのいくつかのメッセージを、マイルまたはキロのいずれかで表示させるかを決めることができます。

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶ または スイッチを押して、**メーター** サブメニューを選択します。
- ▶ を押して確定します。
- ▶ または スイッチを押して **表示単位 速度/距離**：機能を選択します。選択された設定が表示されます：**km** または **miles**
- ▶ スイッチを押して、設定を保存します。

選択された距離測定単位は、以下に適用されます。

- **トリップ** メニューのデジタルスピードメーター
- オドメーターおよびトリップメーター
- トリップコンピューター
- 現在の燃費と走行可能距離
- **ナビ** メニューのナビゲーション案内
- クルーズコントロール
- 可変スピードリミッター
- ディストロニック・プラス
- ASSYST PLUS メンテナンスインジケーター画面







補助スピードメーターの設定/解除の切り替え

速度表示 [mph] 機能により、外気温度の代わりに常に速度を **mph** で表示するかどうかを選択することができます。

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶ または スイッチを押して、**メーター** サブメニューを選択します。
- ▶ を押して確定します。
- ▶ または 押して **速度表示 [mph]** 機能を選択します。選択されている設定が表示されます：**オン** または **オフ**
- ▶ スイッチを押して、設定を保存します。

サブメーター機能の選択








マルチファンクションディスプレイに常時表示させる項目として、走行速度または外気温度を設定できます。

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**メーター** サブメニューを選択します。
- ▶ 押して **OK** 確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、**サブメーター** 機能を選択します。選択されている設定 **外気温度表示** または **速度表示 [mph]** が表示されます。
- ▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

ライト

LED ドライビングランプの設定/解除の切り替え

エンジンが停止しているときのみ、**デイトライト** 機能を設定することができます。








- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ライト** サブメニューを選択します。
- ▶ **OK** を押して、確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、**デイトライト** 機能を選択します。**デイトライト** 機能が設定されている場合は、マルチファンクションディスプレイのライトの円錐形と  マークがオレンジ色で表示されます。
- ▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

i **デイトライト** 機能が設定されているときは、昼間でもロービームヘッドライトが点灯します。その理由のため、

この機能を解除し、ライトスイッチでライトを手動で操作してください。

デイトタイムドライビングライトに関するさらなる情報 (p 124 ページ)

インテリジェントライトシステムの設定/解除の切り替え







- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ライト** サブメニューを選択します。
- ▶ 押して **OK** 確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、**インテリジェントライトシステム** 機能を選択します。**インテリジェントライトシステム** 機能が設定されている場合は、マルチファンクションディスプレイにライトの円錐形と  マークがオレンジ色で表示されます。
- ▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

インテリジェントライトシステム 機能を設定しているときは、以下の機能が作動します。

- ハイウェイモード
- アクティブライトシステム
- コーナリングライト
- フォグランプ強化機能

ロービームヘッドライトを右/左側走行用に設定している場合は、マルチファンクションディスプレイの **ライト** サブメニューに **インテリジェントライトシステム** 設定できません **左側通行設定では無効** または **インテリジェントライトシステム** 設定できません **右側通行設定では無効** というディスプレイメッセージが **インテリジェントライトシステム** 機能の代わりに表示されます (p 245 ページ)。インテリジェントライトシステムについてのさらなる情報 (p 128 ページ)。

ロービームヘッドライトの左側/右側通行の設定

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ライト** サブメニューを選択します。
- ▶ **OK** を押して確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ヘッドランプロービーム設定** 機能を選択します。選択されている設定が表示されます：**右側通行用** または **左側通行用**
- ▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。設定を変更した場合は、次に車両が停車するときまでは変更は実行されません。







この機能は、インテリジェントライトシステム装備車両でのみ作動します。




この機能を使用して、ロービームヘッドライトを左右対称または左右非対称に切り替えることができます。

ロービームヘッドライトを右側通行/左側通行用に設定しているときは、ハイウェイモードおよびフォグランプ強化機能が解除されます。

右側/左側通行用のロービームヘッドライトの設定は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でも行なうことができます。







アンビエントライトの明るさの設定

- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ライト** サブメニューを選択します。
- ▶ **OK** を押して確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、**アンビエントライト明るさ** 機能を選択します。選択されている設定が表示されます。
- ▶ **OK** で設定を変更します。

- ▶  または  スイッチを押して、**オフ** から **レベル5** (明るい) までのレベルに明るさを調整します。
- ▶ **OK** または  スイッチを押して、設定を保存します。

ロケイターライティングおよび車外ライト消灯遅延機能の設定/解除

ロケイターライティング 機能を設定し、ライトスイッチを **AUTO** の位置にした場合は、暗いときに以下の機能が作動します。

- **ロケイターライティング**：キーで車両を解錠した後に、車外ランプが40秒間点灯したままになります。エンジンを始動した場合は、ロケイターライティングが解除され、ヘッドライト自動点灯モードに設定されます。(▶ 124 ページ)
- **車外ランプ残照機能**：エンジンを停止した後に、車外ランプが60秒間点灯したままになります。すべてのドアとテールゲートを閉じた場合は、車外ランプは15秒後に消灯します。
- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ライト** サブメニューを選択します。
- ▶ **OK** を押して確定します。
- ▶  または  スイッチを押して、**ロケイターライティング** 機能を選択します。**ロケイターライティング** 機能が設定されているときは、マルチファンクションディスプレイのライトの円錐形と車両周辺部がオレンジ色で表示されます。
- ▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

車外ライト残照機能を一時的に解除する

- ▶ 車両から離れる前に、エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわします。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。
車外ライト残照機能が一時的に解除されます。

次にエンジンを始動すると、車外ライト残照機能が再度設定されます。

i 車両の装備に応じて、ロケイターライティングおよび車外ライト残照機能が作動したときは、以下のライトが点灯します。

- 車幅灯
- フォグランプ
- ロービームヘッドライト
- デイタイムドライビングライト
- ドアミラーのロケイターライティング

ルームライト消灯遅延機能の設定/解除

ルームランプ消灯遅延 機能を設定している場合は、エンジンスイッチからキーを抜いた後、ルームライトが 20 秒間点灯したままになります。

- ▶ ステアリングの **◀** または **▶** スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、**ルームランプ消灯遅延** サブメニューを選択します。
- ▶ **OK** を押して、確定します。
- ▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、**ルームランプ消灯遅延** 機能を選択します。**ルームランプ消灯遅延** 機能が設定されている場合は、マルチファンクションディスプレイの車内がオレンジ色で表示されます。
- ▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

車両

スノータイヤスピードリミッターの設定
速度制限 (冬タイヤ) 機能を使用して、**ウインタータイヤスピードリミッター**を設定できます。

- ▶ ステアリングの **◀** または **▶** スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、**車両** サブメニューを選択します。
- ▶ **OK** を押して、確定します。
- ▶ **▼** または **▲** を押して、**速度制限 (冬タイヤ)** 機能を選択します。
現在の設定が表示されます。
- ▶ **OK** を押して、確定します。
- ▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、10 (**240 km/h ~ 160 km/h**) 単位でスノータイヤスピードリミッターを調整します。**f7** 設定で、スノータイヤスピードリミッターは解除されます。
- ▶ **OK** スイッチを押して、入力を保存します。

スノータイヤスピードリミッターに関するさらなる情報 (▷ 196 ページ)

車速感応ドアロック機能の設定/解除の切り替え

- ▶ ステアリングの **◀** または **▶** スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、**車両** サブメニューを選択します。
- ▶ **OK** を押して確定します。
- ▶ **▼** または **▲** スイッチを押して、**車速感応ドアロック** 機能を選択します。**車速感応ドアロック** 機能が設定されているときは、マルチファンクション

ディスプレイの車両のドアがオレンジ色で表示されます。

- ▶ **[OK]** スイッチを押して、設定を保存します。

車速感応ドアロック 機能を設定している場合は、約 15 km/h 以上の速度で車両が集中施錠されます。

車速感応ドアロックについてのさらなる情報は (▶ 95 ページ) をご覧ください。

キーアンサーバック機能の設定/解除

キーアンサーバック 機能を設定している場合は、車両を施錠したときに確認音が鳴ります。

- ▶ ステアリングの **[◀]** または **[▶]** スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶ **[▼]** または **[▲]** スイッチを押して、**車両** サブメニューを選択します。
- ▶ 押して **[OK]** 確定します。
- ▶ **[▼]** または **[▲]** スイッチを押して、**キーアンサーバック** 機能を選択します。
キーアンサーバック 機能が設定されているときは、マルチファンクションディスプレイの **[🔒]** マークがオレンジ色に点灯します。
- ▶ **[OK]** スイッチを押して、設定を保存します。

レーダーセンサーシステムの設定/解除

- ▶ ステアリングの **[◀]** または **[▶]** スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶ **[▼]** または **[▲]** スイッチを押して、**車両** サブメニューを選択します。
- ▶ **[OK]** を押して確定します。

- ▶ **[▲]** または **[▼]** スイッチを押して、**レーダーセンサー** (取扱説明書を参照) を選択します。
選択されている設定が表示されます：
オン または **オフ**

- ▶ **[OK]** スイッチを押して、設定を保存します。

レーダーセンサーシステムが解除されている場合は、ブラインドスポットアシストも解除されます (▶ 225 ページ)。

コンフォート

ベルト調整の設定/解除の切り替え

- ▶ ステアリングの **[◀]** または **[▶]** スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶ **[▼]** または **[▲]** スイッチを押して、**コンフォート** サブメニューを選択します。
- ▶ **[OK]** を押して確定します。
- ▶ **[▼]** または **[▲]** スイッチを押して、**ベルト調整** 機能を選択します。
ベルト調整 機能を設定している場合は、マルチファンクションディスプレイの車両のシートベルトがオレンジ色で表示されます。
- ▶ **[OK]** スイッチを押して、設定を保存します。

ベルト調整についてのさらなる情報は (▶ 46 ページ) をご覧ください。

ロック時のドアミラー格納の設定/解除

この機能は、メモリー機能装備車両でのみ作動します (▶ 121 ページ)。

ロック時のミラー格納 機能を設定しているときは、車両を施錠したときにドアミラーが自動的に格納されます。

車両を解錠してドアを開いたときは、ドアミラーが再度展開します。

ロック時のミラー格納 機能を設定している場合、ドアのスイッチを使用してドアミラーを

格納した場合は (▷ 118 ページ)、自動的に展開しません。ドアのスイッチを使用したときにのみ、ドアミラーは展開します。

- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、**コンフォート** サブメニューを選択します。
- ▶ **OK** を押して、確定します。
- ▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、**ロック時のミラー格納** 機能を選択します。
ロック時のミラー格納機能が設定されている場合は、マルチファンクションディスプレイの車両のドアミラーがオレンジ色で表示されます。
- ▶ **OK** スイッチを押して、設定を保存します。

工場出荷時の設定への初期化

- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**設定** メニューを選択します。
- ▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、**設定初期化** サブメニューを選択します。
- ▶ **OK** を押して確定します。
全ての設定を初期化しますか? というメッセージが表示されます。
- ▶ ▼ または ▲ スイッチを押して、**いいえ** または **はい** を選択します。
- ▶ **OK** スイッチを押して、選択を確定します。
はい を選択した場合は、マルチファンクションディスプレイに確認メッセージが表示されます。

安全上の理由のため、全ての設定が初期化されるわけではありません。スノータイヤスピードリミッターの**制限速度 (冬タイヤ)** 機能は、**車両** サブメニューでの

み設定できます。**ライト** サブメニューの**デイトタイムライト**を初期化したい場合は、エンジンスイッチのキーを **1** の位置にまわさなければなりません。

AMG メニュー (AMG 車)

AMG ディスプレイ



- ① デジタルスピードメーター
- ② ギアインジケータ
- ③ シフトアップインジケータ
- ④ エンジンオイル温度
- ⑤ 冷却水温度
- ⑥ トランスミッションオイル温度

- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、**AMG** メニューを選択します。

シフトアップインジケータ **UP** ③ は、マニュアルギアシフトモードのときにエンジンが過回転域に達していることを示しています。シフトアップするまでは、シフトアップインジケータ **UP** ③ は他のメッセージを目立たなくさせます。

エンジンオイル温度が 80 °C 以下の場合、オイル温度 ④ が青色で表示されます。この間は、エンジンの最大出力は使用しないでください。

トランスミッションオイル温度が 50 °C 以下の場合、オイル温度 ⑥ が青色で表示されます。この間は、エンジンの最大出力は使用しないでください。

セットアップ



- ① 走行モード (C/S/M)
- ② ESP[®]モード (ON/OFF) またはスポーツハンドリングモード (SPORT)

セットアップ画面では、走行モードやESP[®] (エレクトロニック・スタビリティ・プログラム) のモード、スポーツハンドリングモードが表示されます。

- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、AMG メニューを選択します。
- ▶ セットアップ画面が表示されるまで、▲ スイッチを繰り返し押します。

レースタイマー

レースタイマーの表示と開始



- ① ラップ
- ② レースタイマー

クローズドレースサーキットでのみ、レースタイマー機能を使用してください。一般道路で使用しないでください。

レースタイマーは、エンジンがかかっているか、またはエンジンスイッチのキーが 2 の位置のときに開始できます。

- ▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、AMG メニューを選択します。
- ▶ レースタイマーが表示されるまで、▲ スイッチを繰り返し押します。
- ▶ **開始する:** OK スイッチを押して、レースタイマーを開始します。

スプリットタイムの表示



- ▶ ◀ または ▶ スイッチを押して、Interm. Time を選択します。
- ▶ OK を押して確定します。
5 秒間スプリットタイムが表示されます。

新しいラップの開始



- ① レースタイマー
 - ② 最速ラップタイム (ベストラップ)
 - ③ ラップ
- ▶ OK を押して New Lap を確定します。

① 最大で 16 ラップを保存できます。16 ラップ目は Finish Lap でのみ停止できます。

レースタイマーの停止



- ▶ ステアリングの スイッチを押します。
- ▶ "Yes"で確定します。

車両を停止して、エンジンスイッチのキーを **1** の位置にまわした場合は、レースタイマーの計測が中断されます。エンジンスイッチのキーを **2** または **3** の位置にまわし、それから を押して **Start** を確定した場合は、計測が再開します。

現在のラップのリセット

- ▶ レースタイマーを停止します。
- ▶ または を押して **Reset Lap** を選択します。
- ▶ を押して、ラップタイムを "0" にリセットします。

全ラップの削除



エンジンを停止した場合は、30 秒後にレースタイマーが "0" にリセットされます。全ラップが削除されます。

保存されたラップを個々に削除することはできません。16 ラップを停止している場合は、現在のラップをリセットする必要はありません。

- ▶ 現在のラップをリセットします。
- ▶ を押して、**Reset** を確定します。マルチファンクションディスプレイに **Reset Race Timer?** と表示されません。
- ▶ スイッチを押して、**Yes** を選択し、 スイッチを押して確定します。全ラップが削除されます。

全ラップの評価



- ① レースタイマー全体の計測結果
- ② 全走行時間
- ③ 平均速度
- ④ 走行距離
- ⑤ 最高速度

この機能は、少なくとも 1 ラップを保存していて、レースタイマーが停止しているときに表示されます。

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、**AMG** メニューを選択します。
- ▶ 全体の計測結果が表示されるまで、 スイッチを繰り返し押します。

ラップの評価



- ① ラップ
- ② ラップタイム
- ③ ラップでの平均速度
- ④ ラップの長さ
- ⑤ ラップでの最高速度

この機能は、少なくとも 2 ラップを保存して、レースタイマーを停止している場合に使用できます。

- ▶ ステアリングの または スイッチを押して、AMG メニューを選択します。
- ▶ ラップ計測結果が表示されるまで、 スイッチを繰り返し押します。サブメニューごとに、それぞれのラップが表示されます。最速ラップは、点滅しているマーク ① により表示されます。
- ▶ または スイッチを押して、他のラップ計測結果を選択します。

ディスプレイメッセージ

全体的な注意事項

ディスプレイメッセージはマルチファンクションディスプレイに表示されます。取扱説明書では記号マークを伴うディスプレイメッセージを簡略化しているため、マルチファンクションディスプレイのマークと異なる場合があります。

ディスプレイメッセージの指示に従って対応し、この取扱説明書の追加の注意事項に従ってください。

特定のディスプレイメッセージには、警告音、または連続音が伴います。

エンジンスイッチをオフにすると、重要度の高い一部のメッセージを除いて、メッセージがすべて削除されます。故障の原因が解決すると、重要度の高いメッセージも削除されます。

車両を駐停車するときは、ホールド機能 (▷ 205 ページ) および駐車 (▷ 180 ページ) に関する注意に従ってください。

ディスプレイメッセージを非表示にする

▶ ディスプレイメッセージを非表示にするには、ステアリングの または スイッチを押します。

ディスプレイメッセージが消えます。

マルチファンクションディスプレイには、重要度の高いメッセージが赤色で表示されます。一部の重要度の高いディスプレイメッセージは非表示にはできません。

これらのメッセージは、故障や異常の原因が解決するまでマルチファンクションディスプレイに常時表示されます。

メッセージメモリー

マルチファンクションディスプレイは **メッセージメモリー** 中の特定のディスプレイメッセージを保存します。以下のようにしてディスプレイメッセージを呼び出すことができます。

▶ ステアリングの または スイッチを押して、**メテナス** メニューを選択します。

ディスプレイメッセージがある場合は、例えばマルチファンクションディスプレイに **2 メッセージ** と表示されます。

▶ または スイッチを押して、例えば **2 メッセージ** を選択します。

▶ 押して 確定します。

▶ または スイッチを押して、ディスプレイメッセージをスクロールします。

安全システム

ディスプレイメッセージ


考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



現在 使用できません
取扱説明書を参照

ABS (アンチロック・ブレーキング・システム)、ESP® (エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)、BAS (ブレーキアシストシステム)、PRE-SAFE®, ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない。

アダプティブブレーキライトと CPA (衝突警告システム) / CPA (衝突警告システム) プラスも故障していることがある。

メーターパネルの 、、 警告灯も点灯している。

アテンションアシストが解除されている。

考えられる原因：

- 自己診断がまだ完了していない
- バッテリーの電圧が不十分なことがある

⚠ 警告

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがある。

ステアリング特性やブレーキ特性が著しく影響を受けることがある。緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができない。

横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。

- ▶ 約 20km/h 以上の速度で緩やかにステアリング操作しながら、適切な直線路で慎重に走行してください。
ディスプレイメッセージが消えた場合は、上記の機能が再度作動可能になります。





ディスプレイメッセージが表示され続ける場合：

- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。



作動できません 取扱
説明書を参照

故障のため、ABS、ESP®, BAS、PRE-SAFE®, ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	<p>アダプティブブレーキライトと CPA（衝突警告システム） / CPA（衝突警告システム） プラスも故障していることがある。</p> <p>さらに、メーターパネルの 、 、 、  警告灯も点灯している。</p> <p>アテンションアシストが解除されている。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがある。</p> <p>ステアリング特性やブレーキ特性が著しく影響を受けることがある。緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。ESP®が作動しない場合は、ESP®が車両を安定させることができない。</p> <p>横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 注意して運転してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



現在 使用できません
取扱説明書を参照

ESP[®]、BAS、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない。

アダプティブブレーキライトと CPA（衝突警告システム） / CPA（衝突警告システム）プラスも故障していることがある。

さらに、メーターパネルの  と  警告灯も点灯している。

アテンションアシストが解除されている。

例えば、自己診断がまだ完了していないことがある。

⚠ 警告

ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。

緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。

ESP[®]が作動しない場合は、ESP[®]が車両を安定させることができない。

横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。

- ▶ 約 20km/h 以上の速度で緩やかにステアリング操作しながら、適切な直線路で慎重に走行してください。
ディスプレイメッセージが消えた場合は、上記の機能が再度作動可能になります。

ディスプレイメッセージが表示され続ける場合：

- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



作動できません 取扱
説明書を参照

故障のため、ESP[®]、BAS、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない。

アダプティブブレーキライトとCPA（衝突警告システム）/ CPA（衝突警告システム）プラスも故障していることがある。

さらに、メーターパネルの  と  警告灯も点灯している。

アテンションアシストが解除されている。

 **警告**









ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。




緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。




ESP[®]が作動しない場合は、ESP[®]が車両を安定させることができない。





横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。






- ▶ 注意して運転してください。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。




ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<div data-bbox="120 212 288 256">  </div> <div data-bbox="120 263 202 308">  </div> <p data-bbox="115 316 352 375">作動できません 取扱説明書を参照</p>	<p data-bbox="370 209 1032 336">故障のため、EBD（エレクトロニック・ブレーキパワーディストリビューション）、ABS、ESP[®]、BAS、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない。</p> <p data-bbox="370 344 1032 437">アダプティブブレーキライトと CPA（衝突警告システム）/ CPA（衝突警告システム）プラスも故障していることがある。</p> <p data-bbox="370 446 1032 509">さらに、メーターパネルの  と 、 警告灯が点灯し、警告音が鳴った。</p> <p data-bbox="370 518 837 549">アテンションアシストが解除されている。</p> <p data-bbox="381 566 477 596">▲ 警告</p> <p data-bbox="370 608 1032 702">ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前後輪がロックするおそれがある。</p> <p data-bbox="370 710 1032 842">ステアリング特性やブレーキ特性が著しく影響を受けることがある。緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。ESP[®]が作動しない場合は、ESP[®]が車両を安定させることができない。</p> <p data-bbox="370 852 889 882">横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <ul data-bbox="370 893 1032 991" style="list-style-type: none"> ▶ 注意して運転してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
<div data-bbox="120 1026 202 1070">  </div> <p data-bbox="115 1078 352 1137">パーキング ブレーキ解除してください</p>	<p data-bbox="370 1023 1032 1117">赤色の  表示灯が点滅し、警告音も鳴った。電気式パーキングブレーキの自動解除の条件が満たされていない（▶ 182 ページ）。</p> <p data-bbox="370 1126 1032 1157">電気式パーキングブレーキを効かせた状態で走行している。</p> <ul data-bbox="370 1166 1014 1197" style="list-style-type: none"> ▶ 電気式パーキングブレーキを手動で解除してください。 <p data-bbox="370 1227 910 1257">赤色の  表示灯が点滅し、警告音も鳴った。</p> <p data-bbox="370 1267 1004 1329">電気式パーキングブレーキを使用して緊急停止している（▶ 182 ページ）。</p>

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<div data-bbox="87 209 169 252" style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">(P)</div> <p data-bbox="81 260 322 323">パーキング ブレーキ 取扱説明書参照</p>	<p data-bbox="339 204 835 276">黄色の  警告灯が点灯している。 電気式パーキングブレーキが故障している。</p> <p data-bbox="339 284 460 316">効かせる：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="339 328 731 360">▶ イグニッションをオフにします。 <li data-bbox="339 368 1000 432">▶ 電気式パーキングブレーキのハンドルを 10 秒以上押し続けてください。 <li data-bbox="339 440 1000 504">▶ トランスミッションのセレクターレバーを P に動かします。 <li data-bbox="339 512 1000 544">▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 <p data-bbox="339 560 1000 632">黄色の  警告灯と赤色の  表示灯が点灯している。 電気式パーキングブレーキが故障している。</p> <p data-bbox="339 639 460 671">解除する：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="339 684 1000 748">▶ イグニッションをオフにしてから、オンに戻してください。 <li data-bbox="339 756 983 788">▶ 電気式パーキングブレーキを手動で解除してください。 <p data-bbox="339 796 417 828">または</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="339 836 972 900">▶ 電気式パーキングブレーキを自動で解除してください (▶ 182 ページ)。 <p data-bbox="339 908 992 940">それでも電気式パーキングブレーキを解除できない場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="339 952 680 984">▶ 走行を続けしないでください。 <li data-bbox="339 992 1000 1024">▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	<p>赤色の  表示灯が点滅し、黄色の  警告灯が点灯している。</p> <p>電気式パーキングブレーキが故障している。</p> <p>解除する：</p> <ul style="list-style-type: none">▶ イグニッションをオフにしてから、オンに戻してください。▶ 電気式パーキングブレーキを手動で解除してください。 <p>効かせる：</p> <ul style="list-style-type: none">▶ イグニッションをオフにしてから、オンに戻してください。▶ 電気式パーキングブレーキを手動で効かせてください。 <p>赤色の  表示灯が点滅し続ける場合：</p> <ul style="list-style-type: none">▶ 走行を続けしないでください。▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 369 ページ)。▶ トランスミッションのセレクターレバーを P に動かします。▶ 前輪を縁石側に向けます。▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。







ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	<p>黄色の  警告灯が点灯している。電気式パーキングブレーキの作動/解除を行なった後、赤色の  警告灯が約10秒間点滅した。その後で、消灯するか、または点灯したままである。</p> <p>電気式パーキングブレーキが故障している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ イグニッションをオフにしてから、オンに戻してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 <p>電気式パーキングブレーキを効かせることができない場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ トランスミッションのセレクターレバーを P に動かします。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。 <p>電気式パーキングブレーキを解除できない場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 電気式パーキングブレーキを自動で解除してください (▶ 182 ページ)。 <p>それでも電気式パーキングブレーキを解除できない場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
	<p>黄色の  警告灯が点灯している。電気式パーキングブレーキの作動/解除を手動で行なった場合に、赤色の  警告灯が点滅した。</p> <p>電気式パーキングブレーキが故障している。手動で電気式パーキングブレーキを効かせることができない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ トランスミッションのセレクターレバーを P に動かします。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。



ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p data-bbox="120 212 199 252"></p> <p data-bbox="115 264 351 323">パーキングブレーキ作動できません</p>	<p data-bbox="370 209 1031 339">黄色の  警告灯が点灯している。電気式パーキングブレーキの作動/解除を行なった後、赤色の  警告灯が約10秒間点滅した。その後で、消灯するか、または点灯したままである。</p> <p data-bbox="370 347 1031 406">過電圧や電圧不足などが原因で、電気式パーキングブレーキが故障している。</p> <ul data-bbox="370 419 1031 547" style="list-style-type: none"> ▶ バッテリーの充電やエンジンの再始動などにより、過電圧または電圧不足の原因を解決してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせるか、または解除してください。 <p data-bbox="370 564 1031 624">電気式パーキングブレーキを効かせたり、または解除できない場合：</p> <ul data-bbox="370 639 1031 767" style="list-style-type: none"> ▶ イグニッションをオフにしてから、オンに戻してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせるか、または解除してください。 <p data-bbox="370 788 1023 815">それでも電気式パーキングブレーキを解除できない場合：</p> <ul data-bbox="370 831 1031 858" style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
<p data-bbox="120 1192 199 1232"></p> <p data-bbox="115 1244 351 1303">パーキングブレーキエンジンで解除できます</p>	<p data-bbox="370 1189 732 1216">赤色の  警告灯が点灯した。</p> <p data-bbox="370 1228 1031 1287">イグニッションがオフの間に、電気式パーキングブレーキを解除しようと試みた。</p> <ul data-bbox="370 1300 975 1327" style="list-style-type: none"> ▶ エンジンスイッチのキーを 1 の位置にまわします。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>ブレーキ液レベル点検してください</p>	<p>ブレーキ液リザーブタンクのブレーキ液が不十分である。さらに、メーターパネルの赤色の  表示灯も点灯し、警告音が鳴った。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>ブレーキ性能が損なわれることがあります。事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。状況を問わず、走行を続けないでください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 180 ページ)。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。これを行っても問題は解消しません。
 <p>ブレーキパッド磨耗点検してください</p>	<p>ブレーキパッド/ライニングの摩耗が限界に達している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p>コリジョンプリベンションアシストプラス</p> <p>現在 使用できません 取扱説明書を参照</p>	<p>CPA（衝突警告システム）プラスが一時的に作動しない。 考えられる原因：</p> <ul style="list-style-type: none"> • フロントバンパーが汚れている • 大雨や雪により機能が損なわれている • 周囲のテレビまたはラジオ放送局、または他の電磁波発生源から発生している電磁波により、レーダーセンサーシステムが一時的に作動しない • AMG 車：ESP®が解除されている • システムが作動温度範囲外にある • バッテリーの電圧が低すぎる <p>上記の原因が該当しなくなると、ディスプレイメッセージが消えます。</p> <p>CPA（衝突警告システム）プラスが再度作動可能になります。</p> <p>ディスプレイメッセージが消えない場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください（▶ 180 ページ）。 ▶ フロントバンパーを清掃してください（▶ 333 ページ）。 ▶ エンジンを再始動してください。 ▶ AMG 車：ESP®を再度設定します（▶ 80 ページ）。
<p>コリジョンプリベンションアシストプラス</p> <p>作動できません</p>	<p>CPA（衝突警告システム）プラスが故障している。車間距離警告信号も故障していることがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p>プレセーフ機能が現在 制限されています 取扱説明書を参照</p>	<p>アダプティブブレーキアシストが一時的に作動しない。考えられる原因：</p> <ul style="list-style-type: none"> • フロントバンパーが汚れている • 大雨や雪により機能が損なわれている • 周囲のテレビまたはラジオ放送局、または他の電磁波発生源から発生している電磁波により、レーダーセンサーシステムが一時的に作動しない • AMG 車：ESP[®]が解除されている • システムが作動温度範囲外にある • バッテリーの電圧が低すぎる <p>上記の原因が該当しなくなると、ディスプレイメッセージが消えます。</p> <p>アダプティブブレーキアシストは再度作動可能になります。</p> <p>ディスプレイメッセージが消えない場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 180 ページ)。 ▶ フロントバンパーを清掃してください (▶ 333 ページ)。 ▶ エンジンを再始動してください。 ▶ AMG 車：ESP[®]を再度設定します (▶ 80 ページ)。
<p>プレセーフ機能が現在 制限されています 取扱説明書を参照</p>	<p>アダプティブブレーキアシストが故障している。車間距離警告信号も故障していることがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
<p>プレセーフ作動できません 取扱説明書を参照</p>	<p>PRE-SAFE[®]の重要な機能が故障している。エアバッグなどの他の乗員安全システムはすべて機能したままである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>SRS システム 故障 工場で点検</p>	<p>SRS (乗員保護補助装置) が故障している。メーターパネルの  警告灯も点灯している。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなることがある。けがの危険性が高まります。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p> <p>乗員の安全性についての詳しい情報 (▶ 40 ページ)</p>
 <p>フロント左 SRS システム故障 工場で点検またはフロント右 SRS システム故障 工場で点検</p>	<p>フロント左側またはフロント右側の乗員保護補助装置に異常がある。メーターパネルの  警告灯も点灯している。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなることがある。けがの危険性が高まります。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>
 <p>リア左 SRS システム故障 工場で点検またはリア右 SRS システム故障 工場で点検</p>	<p>リア左側またはリア右側の乗員保護補助装置に異常がある。メーターパネルの  警告灯も点灯している。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなることがある。けがの危険性が高まります。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p>

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>左ウインドウバッグ故障 工場で点検または右ウインドウバッグ故障 工場で点検</p>	<p>左側および/または右側のウインドウバッグが故障している。メーターパネルの  警告灯も点灯している。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>左側または右側のウインドウバッグが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなることがある。けがの危険性が高まります。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>







ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p>助手席エアバッグ オフ 取扱説明書を参照</p>	<p>以下に関わらず、走行中に助手席エアバッグが無効になっている：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 大人 または • 一定の体重より重い乗員が助手席に乗車している <p>シートに余分な力がかかっている場合は、システムが検知する体重が低くなりすぎることがある。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>事故の際に助手席エアバッグが作動しない。けがの危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 180 ページ)。 ▶ イグニッションをオフにします。 ▶ 助手席シートの乗員を車両から降ろしてください。 ▶ 助手席シートに乗車していないことを確認し、助手席ドアを閉じてイグニッションをオンにしてください。 ▶ センターコンソールの助手席エアバッグ表示灯、およびマルチファンクションディスプレイに注意して、以下を確認してください。 <p>シートに乗車していなく、イグニッションがオンである：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 助手席エアバッグオフ表示灯および助手席エアバッグオン表示灯は同時に約 6 秒間点灯しなければなりません。 • そのときは、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、点灯したままにならなければなりません。表示灯が点灯している場合は、助手席エアバッグ自動解除システムは助手席フロントエアバッグを無効にします (▶ 50 ページ)。 • マルチファンクションディスプレイに 助手席エアバッグ オン 取扱説明書を参照 または 助手席エアバッグ オフ 取扱説明書を参照 というメッセージが表示されてはいけません。 ▶ 必要なシステムチェックが完了するまで、60 秒以上お待ちください。 ▶ マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されていないことを確認してください。







ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	<p>これらの条件が満たされた場合は、再度助手席シートに乗車することができます。助手席エアバッグオンまたはオフ表示灯が点灯したままになるか、または消灯するかどうかは、助手席フロントエアバッグ自動解除システムが乗員をどのように分類するかによって異なります。</p> <p>条件が満たされていない場合は、システムは正常に作動していません。</p> <p>▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。</p> <p>助手席エアバッグ自動解除機能に関するさらなる情報は、(▶ 50 ページ) をご覧ください。</p>
<p>助手席エアバッグオン取扱説明書を参照</p>	<p>以下に関わらず、走行中に助手席エアバッグが有効になっている：</p> <ul style="list-style-type: none"> • システムの重量規定値よりも軽い子供、小柄な大人、荷物が助手席にある または • 助手席シートに乗車していない <p>助手席エアバッグ自動解除システムは、障害物またはシートにかかる重量に追加される力を検知します。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>エアバッグが不意に作動することがある。けがの危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 180 ページ)。 ▶ イグニッションをオフにします。 ▶ 助手席ドアを開いてください。 ▶ 助手席シートから子供とチャイルドセーフティシートを降ろしてください。 ▶ シートに余分な力をかけている物がないことを確認してください。 <p>さもないと、余分にかかっている力をシステムが検知し、乗員の体重を実際よりも重く判断することがあります。</p>







ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 助手席シートに乗車していないことを確認し、助手席ドアを閉じてイグニッションをオンにしてください。 ▶ センターコンソールの助手席エアバッグ表示灯、およびマルチファンクションディスプレイに注意して、以下を確認してください。 <p>シートに乗車していません、イグニッションがオンである：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 助手席エアバッグオフ表示灯および助手席エアバッグオン表示灯は同時に約 6 秒間点灯しなければなりません。 • そのときは、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、点灯したままにならなければなりません。表示灯が点灯している場合は、助手席エアバッグ自動解除システムは助手席フロントエアバッグを無効にします(▷ 50 ページ)。 • マルチファンクションディスプレイに 助手席エアバッグ オン 取扱説明書を参照 または 助手席エアバッグ オフ 取扱説明書を参照 というメッセージが表示されてはいけません。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ 必要なシステムチェックが完了するまで、60 秒以上お待ちください。 ▶ マルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されていないことを確認してください。 <p>これらの条件が満たされた場合は、再度助手席シートに乗車することができます。助手席エアバッグオフまたはオン表示灯が点灯したままになるか、または消灯するかどうかは、助手席フロントエアバッグ自動解除システムが乗員をどのように分類するかによって異なります。</p> <p>条件が満たされていない場合は、システムは正常に作動していません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場点検を受けてください。 <p>助手席エアバッグ自動解除機能に関するさらなる情報は、(▷ 50 ページ) をご覧ください。</p>



ライト



- ❶ LED に関するディスプレイメッセージ：
すべての LED が故障した場合にのみ、ディスプレイメッセージが表示されます。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>左コーナリングライト または 右コーナリングライト</p>	<p>左または右側のコーナリングライトが故障している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自分自身での電球の交換が許可されているかを確認してください (p. 132 ページ)。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 <p>左ロービーム または 右ロービーム</p>	<p>左または右側のロービームヘッドライトが故障している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自分自身での電球の交換が許可されているかを確認してください (p. 132 ページ)。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 <p>左リアウインカー または 右リアウインカー</p>	<p>リア左側またはリア右側の方向指示灯が故障している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自分自身での電球の交換が許可されているかを確認してください (p. 132 ページ)。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 <p>左フロント・ウインカー または 右フロント・ウインカー</p>	<p>フロント左側またはフロント右側の方向指示灯が故障している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自分自身での電球の交換が許可されているかを確認してください (p. 132 ページ)。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 <p>左ドアミラーウインカー または 右ドアミラーウインカー</p>	<p>左側または右側のドアミラーの方向指示灯が故障している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 <p>ハイマウントブレーキランプ</p>	<p>ハイマウントストップランプが故障している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>左ブレーキランプまたは右ブレーキランプ</p>	<p>左または右側のブレーキランプが故障している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自分自身での電球の交換が許可されているかを確認してください (▶ 132 ページ)。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 <p>左テールランプ/ブレーキランプ または 右テールランプ/ブレーキランプ</p>	<p>左または右側のテールランプ/ブレーキランプが故障している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自分自身での電球の交換が許可されているかを確認してください (▶ 132 ページ)。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 <p>左ハイビームまたは右ハイビーム</p>	<p>左または右側のハイビームヘッドライトが故障している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自分自身での電球の交換が許可されているかを確認してください (▶ 132 ページ)。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 <p>ライセンスランプ</p>	<p>左または右側のライセンスランプが故障している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 <p>左フォグランプまたは右フォグランプ</p>	<p>左側または右側のフロントフォグランプが故障している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 <p>リアフォグランプ</p>	<p>リアフォグランプが故障している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 自分自身での電球の交換が許可されているかを確認してください (▶ 132 ページ)。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 左フロントパーキングランプまたは右フロントパーキングランプ	フロント左またはフロント右のパーキングライトが故障している。 ▶ 自分自身での電球の交換が許可されているかを確認してください (▶ 132 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 バックランプ	バックランプが故障している。 ▶ 自分自身での電球の交換が許可されているかを確認してください (▶ 132 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 左テールランプ または 右テールランプ	左または右側のテールランプが故障している。 ▶ 自分自身での電球の交換が許可されているかを確認してください (▶ 132 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 左デイタイム ドライビングランプ または 右デイタイム ドライビングランプ	左側または右側の LED ドライビングランプが故障している。 ▶ お客様自身で交換できる電球が確認してください (▶ 132 ページ)。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 インテリジェントライトシステム 作動できません	インテリジェントライトシステムが故障している。インテリジェントライトシステムを除き、ライトは作動したままになります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 故障 取扱説明書を参照	車外ライトが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 オートライト 故障	ライトセンサーが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 ライトを消してください	車両から離れるときに、ライトが点灯したままである。警告音も鳴った。 ▶ ライトスイッチを AUTO にまわします。
アダプティブハイビームアシスト 作動できません	アダプティブハイビームアシストが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
アダプティブハイビームアシスト 現在使用できません 取扱説明書を参照	アダプティブハイビームアシストが解除され、一時的に作動しない。考えられる原因： <ul style="list-style-type: none"> • フロントウインドウのカメラの視界部分が汚れている • 大雨や雪、霧などにより、視界が妨げられている ▶ フロントウインドウを清掃してください。 カメラが再度完全に作動可能であることをシステムが検知した場合は、"アダプティブハイビームアシスト 再び使用可能です" というメッセージが表示されます。 アダプティブハイビームアシストが再度作動可能になります。

エンジン	
ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>冷却水を点検してください 取扱説明書を参照</p>	<p>冷却水レベルが低すぎる。</p> <p>! エンジン冷却システムの冷却水がかなり不足している状態で長距離走行しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ そうするときの警告事項に従って、冷却水を補給してください (▶ 324 ページ)。 ▶ 通常より頻繁に冷却水を補給する必要がある場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのエンジン冷却システムの点検を受けてください。
	<p>ファンモーターが故障している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 冷却水温度が 120 °C 以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行することができます。 ▶ そのときは、山道の走行や発進 / 停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷は避けてください。

ディスプレイメッセージ

考えられる原因および影響 ▶ 解決方法



冷却水が減少 停車して エンジンを停止

冷却水が熱すぎる。
警告音も鳴った。

▲ 警告




オーバーヒートしているエンジンで絶対に走行しないでください。エンジンがオーバーヒートしているときに走行すると、エンジンルームにフルード類が漏れ、引火する原因になるおそれがあります。




さらに、ボンネットを開くことにより、オーバーヒートしたエンジンからの蒸気により重大な火傷の原因になるおそれがあります。

けがのおそれがあります。



- ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。
- ▶ 動き出さないように、車両を固定してください (▶ 180 ページ)。
- ▶ エンジンが冷えるまで待ってください。
- ▶ 凍った泥などにより、エンジンラジエターへの送風が遮られていないことを確認してください。
- ▶ ディスプレイメッセージが消え、冷却水温度が 120 °C 以下になるまでは、エンジンを再始動しないでください。さもないと、エンジンが損傷することがあります。
- ▶ 冷却水温度表示に注意してください。
- ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。



通常の作動状況下および指定の冷却水レベルでは、冷却水温度が 120 °C に上がることがあります。



ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>取扱説明書を参照</p>	<p>バッテリーが充電されていない。 警告音も鳴った。 考えられる原因：</p> <ul style="list-style-type: none"> • オルタネーターの故障 • Vベルトの切断 • 電気装備の故障 <p>▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。</p> <p>! 走行しないでください。エンジンがオーバーヒートするおそれがあります。</p> <p>▶ 動き出さないように、車両を固定してください (▶ 180ページ)。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。</p>
 <p>停車してください 取扱説明書参照</p>	<p>バッテリーが充電がされておらず、バッテリーの充電レベルが非常に低下している。 警告音も鳴った。</p> <p>▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。</p> <p>▶ 動き出さないように、車両を固定してください (▶ 180ページ)。</p> <p>▶ ディ스플레이メッセージ  取扱説明書参照 の指示に従ってください。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。</p>

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>給油の際 エンジンオイル量を点検してください</p>	<p>エンジンオイルレベルが最低レベルまで低下している。警告音も鳴った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 次回の給油時までには、オイルレベルを点検してください (▶ 322 ページ)。 ▶ 必要な場合は、エンジンオイルを補給してください (▶ 323 ページ)。 ▶ 通常より頻繁にエンジンオイルを補給する必要がある場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジンの点検を受けてください。 <p>! エンジンオイル量が不足している状態で長距離走行をしないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。指定のエンジンオイルに関する情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場、またはインターネット http://bevo.mercedes-benz.com で入手できます。</p>
 <p>給油してください</p>	<p>燃料レベルが予備範囲に下がっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	<p>燃料タンク内に非常に少ししか燃料がない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

走行装備

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>アテンションアシスト 休憩しませんか？</p>	<p>一定の基準に基づいて、アテンションアシストが運転者の疲労や注意力低下を検知した。警告音も鳴った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 必要に応じて、休憩を取ってください。 <p>長距離運転時には、適切な時期に定期的に休憩を取り、身体を十分に休ませてください。</p>
 <p>アテンションアシスト 作動できません</p>	<p>アテンションアシストが作動していない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>作動できません</p>	<p>故障のため、DSR（ダウンヒル・スピード・レギュレーション）が解除されている。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場 で DSR の点検を受けてください。</p>
 <p>オフ</p>	<p>ホールド機能が解除されます。車が横滑りしている。警告音も鳴った。</p> <p>▶ 後でホールド機能を再作動させてください (▶ 205 ページ)。</p> <p>ホールド機能が解除されます。ブレーキペダルを強く踏んだときに、作動条件が満たされていない。警告音も鳴った。</p> <p>▶ ホールド機能の作動条件を確認してください。(▶ 205 ページ)</p>
<p>レーダーセンサー 停止しました 取扱説明書を参照</p>	<p>レーダーセンサーシステムが解除されている。</p> <p>▶ レーダーセンサーシステムを設定してください (▶ 247 ページ)。</p>
<p>レーンキープ アシスト 現在 使用できません 取扱説明書を参照</p>	<p>以下の理由により、レーンキープアシストの機能が一時的に作動しない。考えられる原因：</p> <ul style="list-style-type: none"> • フロントウインドウのカメラの視界部分が汚れている • 大雨や雪、霧などにより、視界が妨げられている • 長時間車線ラインがない • 車線ラインが薄くなったり、黒ずんでいるか、または汚れや雪などに覆われている <p>上記の原因が該当しなくなると、ディスプレイメッセージが消えます。</p> <p>レーンキープアシストが再び作動する。</p> <p>ディスプレイメッセージが消えない場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 180 ページ)。 ▶ フロントウインドウを清掃してください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
レーンキープアシスト 作動できません	<p>レーンキープアシストが故障している。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。</p>
ブラインドスポットアシスト 現在 使用できません取扱説明書を参照	<p>ブラインドスポットアシストが一時的に作動しない。考えられる原因：</p> <ul style="list-style-type: none"> • センサーが汚れている • 大雨や雪により機能が損なわれている • レーダーセンサーシステムが作動温度範囲外にある • 周囲のテレビまたはラジオ放送局、または他の電磁波発生源から発生している電磁波により、レーダーセンサーシステムが一時的に作動しない <p>ドアミラーの黄色の  表示灯も点灯する。</p> <p>上記の原因が該当しなくなると、ディスプレイメッセージが消えます。</p> <p>ブラインドスポットアシストは再度作動可能になります。</p> <p>ディスプレイメッセージが消えない場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 180 ページ)。 ▶ センサーを清掃してください (▶ 333 ページ)。 ▶ エンジンを再始動してください。
ブラインドスポットアシスト 作動できません	<p>ブラインドスポットアシストが故障している。</p> <p>ドアミラーの黄色の  表示灯も点灯している。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。</p>
パーキングアシスト 中止	<p>運転席ドアが開き、運転席側シートベルトが着用されていない。</p> <p>▶ シートベルトを着用し運転席ドアを閉じた状態で、再度駐車操作を行なってください。</p>

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	<p>ステアリングの介入が作動しているときに、不意にマルチファンクションステアリングに触れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ステアリングの介入が作動している間は、マルチファンクションステアリングに触れていないことを確認してください。 <p>車両が横滑りし始め、ESP®が作動した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 後でアクティブパーキングアシストを再度使用してください (▶ 214 ページ)。
パーキングアシスト作動できません	<p>ステアリング操作や駐車操作を何度も行なった。約 10 分経過すると、アクティブパーキングアシストの機能が再び作動します (▶ 214 ページ)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ エンジンを停止し、再始動してください。 <p>ディスプレイメッセージが表示され続ける場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。 <p>パークトロニックが故障している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
ディストロニックプラス オフ	<p>ディストロニック・プラスが解除されている (▶ 196 ページ)。自動的に解除されたときは、警告音も鳴った。</p>
ディストロニックプラス 再び使用できません	<p>一時的に使用できなくなった後、ディストロニック・プラスが再度使用可能になった。ディストロニック・プラスを再度作動させることができます (▶ 196 ページ)。</p>

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p>ディストロニックプラス 現在 使用できません 取扱説明書を参照</p>	<p>ディストロニック・プラスが一時的に作動しない。考えられる原因：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 大雨や雪により機能が損なわれている • ラジエターグリルのセンサーが汚れている • 周囲のテレビまたはラジオ放送局、または他の電磁波発生源から発生している電磁波により、レーダーセンサーシステムが一時的に作動しない • システムが作動温度範囲外にある • バッテリーの電圧が低すぎる <p>警告音も鳴った。</p> <p>上記の原因が該当しなくなると、ディスプレイメッセージが消えます。</p> <p>ディストロニックは再度作動可能になります。</p> <p>ディスプレイメッセージが消えない場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 車両が動き出さないように固定してください (▶ 180 ページ)。 ▶ ラジエターグリルのセンサーを清掃してください (▶ 333 ページ)。 ▶ エンジンを再始動してください。
<p>ディストロニックプラス 作動できません</p>	<p>ディストロニック・プラスが故障している。アダプティブブレーキアシストも故障していることがある。</p> <p>警告音も鳴った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
<p>ディストロニックプラス 制御待機中</p>	<p>アクセルペダルを踏んでいる。ディストロニック・プラスが車両の速度を制御しなくなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ アクセルペダルから足を放してください。
<p>ディストロニックプラス --- km/h</p>	<p>ディストロニック・プラスの作動条件を満たしていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ディストロニック・プラスの作動条件を確認してください (▶ 199 ページ)。


ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
ディストロニック・プラスと可変スピードリミッター 作動できません	<p>ディストロニック・プラスと可変スピードリミッターが故障している。警告音も鳴った。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。</p>
クルーズコントロールと可変スピードリミッター 作動できません	<p>可変スピードリミッターとクルーズコントロールが故障している。警告音も鳴った。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。</p>
制限速度 --- km/h	<p>踏み応えがあるところを越えるまでアクセルペダルを踏んでいる（キックダウン）間は、可変スピードリミッターを作動させることができない。</p> <p>▶ 状況が許す場合は、30km/h 以上で走行し、速度を記憶させてください。</p>
クルーズコントロール --- km/h	<p>クルーズコントロールの作動条件を満たしていない。たとえば、30km/h 以下の速度を記憶させようとした。</p> <p>▶ 状況が許す場合は、30km/h 以上で走行し、クルーズコントロールを記憶させてください。</p> <p>▶ クルーズコントロールの作動条件を確認してください (▶ 192 ページ)。</p>




タイヤ	
ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
タイヤ空気圧 タイヤを点検してください	<p>タイヤ空気圧警告システムがタイヤからの急激な空気の漏れを検知した。 警告音も鳴った。 考えられる原因：</p> <ul style="list-style-type: none"> • ホイールおよびタイヤの位置を変更した、または新しいホイールおよびタイヤを取り付けた。 • 1本または複数のタイヤ空気圧が正しくない。 <p>⚠ 警告</p> <p>空気圧不足のタイヤは以下のような危険をもたらします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 負荷や車両の速度が高くなると特に、タイヤがバーストすることがある。 • タイヤが過度に、また不均一に摩耗し、それによってタイヤの駆動力が著しく損なわれることがある。 • 走行特性、およびステアリング操作やブレーキ操作が著しく損なわれることがある。 <p>事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。そのときは、交通状況に注意してください。 ▶ 動き出さないように、車両を固定してください (▶ 180 ページ)。 ▶ タイヤを点検し、必要な場合はタイヤがパンクしたときの指示に従ってください (▶ 340 ページ)。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要に応じてタイヤ空気圧を修正してください。 ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整した後に、タイヤ空気圧警告システムを再始動してください。 (▶ 366 ページ)
タイヤ空気圧 警告システム 警告システム再始動	<p>タイヤ空気圧警告システムがディスプレイメッセージを発し、再始動されていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 4 輪すべてで、適正なタイヤ空気圧に設定してください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再始動します (▶ 366 ページ)。
タイヤ空気圧警告システム 作動できません	<p>タイヤ空気圧警告システムに異常がある。</p>


ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

車両	
ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
バックアップバッテリー故障	<p>オートマチックトランスミッションの補助バッテリーが充電されていない。</p> <p>▶ すみやかに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p> <p>▶ それまでは、エンジンを停止する前にオートマチックトランスミッションをポジション P にしてください。</p> <p>▶ 車両から離れる前に、電気式パーキングブレーキを効かせてください。</p>
ブレーキを踏んでエンジンをかけて下さい	<p>トランスミッションがポジション N のときに、ブレーキペダルを踏まずにエンジンを始動しようとした。</p> <p>▶ ブレーキペダルを踏みます。</p>
P または N からシフトするには ブレーキを踏んでエンジンをかけて下さい	<p>エンジンを始動しないで、トランスミッションをポジション R または D にシフトしようとした。</p> <p>▶ エンジンを始動します。</p> <p>▶ ブレーキペダルを踏みます。</p> <p>i ブレーキペダルを踏んでいる場合にのみ、トランスミッションをポジション P から希望のポジションにシフトすることができます。そのあとでのみ、パーキングロックを解除することができます。ブレーキペダルが踏まれていない場合は、ダイレクトセレクトレバーはまだ動かすことができますが、パーキングロックはロックされたままになります。</p> <p>i トランスミッションオイル温度が -20°C 以下のときは、エンジンが作動しているときのみポジション P から他のシフトポジションにシフトすることができます。</p>
ブレーキを踏んでPレンジからシフト	<p>ブレーキペダルを踏まずに、トランスミッションのセレクトレバーをポジション N、R、D に動かそうとした。</p> <p>▶ ブレーキペダルを踏みます。</p>



ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
シフトポジションが P ではないため 車が動く恐れがあります	<p>トランスミッションがポジション R、N、または D のときに運転席ドアを開いた。 警告音も鳴った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ トランスミッションをポジション P にシフトします。 ▶ 動き出さないように、車両を固定してください (▶ 180 ページ)。
シフトチェンジせず 工場で点検	<p>故障のため、シフトポジションを変更することができない。 警告音も鳴った。</p> <p>シフトポジション D が選択されている場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ トランスミッションをポジション D から変速することなく、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 <p>シフトポジション R、N、または P が選択されている場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。
停車中のみ P レンジにシフト できます	<p>車両が動いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ トランスミッションをポジション P にシフトします。
後退できません 工場 で点検	<p>オートマチックトランスミッションが故障している。後退することができない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
トランスミッション 故障	<p>オートマチックトランスミッションが故障している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
トランスミッション 故障 停車 してください	<p>オートマチックトランスミッションが故障している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 動き出さないように、車両を固定してください (▶ 180 ページ)。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p>エンジンは止めずに 停車して P にシフトして下さい</p>	<p>オートマチックトランスミッションが過熱しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 注意して運転してください。 <p>ディスプレイメッセージが消えた場合は、オートマチックトランスミッションは再度作動します。</p> <p>ディスプレイメッセージが表示され続ける場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 動き出さないように、車両を固定してください (▶ 180 ページ)。 ▶ オートマチックトランスミッションが冷え、ディスプレイメッセージが消えるまでお待ちください。
<p>トランスミッションオイル オーバーヒート 注意して走行</p>	<p>AMG 車両：トランスミッションオイルが過熱している。マニュアル走行モード M および一時的に作動しているマニュアル走行モードが作動しなくなる。エンジン出力が低下している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 車両が冷却されるまで待ちます。
<p>4MATIC 現在使用できません</p>	<p>4MATIC (フルタイム 4 輪駆動システム) が過熱している。車両は前輪のみで駆動される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 走行を続けてください。 <p>送風により、4MATIC がより早く冷却されます。</p> <p>ディスプレイメッセージが消えたときは、4MATIC は再度作動可能になり、車両は 4 輪すべてで駆動されます。</p>
<p>4MATIC 作動できません</p>	<p>4MATIC が故障している。車両は前輪のみで駆動される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。
	<p>テールゲートが開いている。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>エンジンをかけているときにテールゲートが開いている場合は、排気ガスが車内に入るおそれがある。中毒の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ テールゲートを閉じてください。

ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	<p>ボンネットが開いている。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>車両が動いているときは、開いたボンネットで視界が遮られることがある。</p> <p>事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ボンネットを閉じてください。
アクティブフード 故障 取扱説明書を参照	<p>故障のため、またはすでに作動しているため、アクティブボンネット（歩行者保護装置）が作動しない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
	<p>ドアが 1 つ以上開いている。警告音も鳴った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ すべてのドアを閉じてください。
 <p>パワーステアリング故障 取扱説明書を参照</p>	<p>パワーステアリングのアシストが故障している。警告音も鳴った。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>ステアリング操作に大きな力が必要になる。</p> <p>事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 必要とされる大きな力を加えることができるかどうかを確認してください。 ▶ 安全にステアリング操作ができる場合：慎重にメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 ▶ 安全にステアリング操作ができない場合：走行を続けしないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
圏外	<p>車両がネットワークプロバイダーの送受信範囲外にある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ マルチファンクションディスプレイに携帯電話の作動マークが表示されるまで待ってください。



ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>ウォッシャー液を補充してください</p>	<p>ウォッシャー液リザーブタンクのウォッシャー液量が最低レベルまで下がっている。</p> <p>i 冬期は、ウォッシャー液に不凍液を加えない場合は、ウォッシャー液リザーブタンク内で凍結することがあります。その場合は、ウォッシャー液を補充してくださいというディスプレイメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。</p> <p>▶ ウォッシャー液を補給してください。(p 326 ページ)</p>
<p>ワイパー - 故障</p>	<p>ワイパーが故障している。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。</p>
<p>非常点滅灯 故障</p>	<p>非常点滅灯が故障している。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。</p>

キー





ディスプレイメッセージ	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>キーが違います</p>	<p>エンジンスイッチに他の車両のキーを差し込んでいる。</p> <p>▶ 正しいキーを使用してください。</p>
 <p>キーを交換してください</p>	<p>キーを交換する必要がある。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場をお訪ねください。</p>



メーターパネルの警告および表示灯



シートベルト



トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p> エンジンを始動した後、運転席ドアまたは助手席ドアを閉じるとすぐに、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。</p>	<p>運転者または助手席乗員がシートベルトを着用していない。</p> <p>▶ シートベルトを着用してください (p 42 ページ)。 警告灯が消灯します。</p> <p>助手席シートの上に荷物を置いている。</p> <p>▶ 助手席シートから物を取り除き、安全な場所に収納してください。 警告灯が消灯します。</p>
<p> 赤色のシートベルト警告灯が点滅し、断続的な警告音も鳴った。</p>	<p>運転席または助手席乗員がシートベルトを着用していない。同時に、25 km/h 以上の速度で走行しているか、または速度が一時的に 25 km/h を超えた。</p> <p>▶ シートベルトを着用してください (p 42 ページ)。 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。</p> <p>助手席シートの上に荷物を置いている。同時に、25 km/h 以上の速度で走行しているか、または速度が一時的に 25 km/h を超えた。</p> <p>▶ 助手席シートから物を取り除き、他の安全な場所に収納してください。 警告灯が消灯し、警告音も鳴り止みます。</p>



安全システム



トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p> エンジンがかかっている間に赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も鳴った。</p>	<p>ブレーキ液リザーブタンクのブレーキ液が不十分である。</p> <p> 警告</p> <p>ブレーキ性能が損なわれることがあります。事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に車両を移動して、停車してください。状況を問わず、走行を続けしないでください。 ▶ 動き出さないように、車両を固定してください (▶ 180 ページ)。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。補給しても問題は解消しません。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。
<p> エンジンがかかっている間に黄色の ABS 警告灯が点灯する。</p>	<p>故障のため、ABS (アンチロック・ブレーキング・システム) が解除されている。そのため、BAS (ブレーキアシスト)、CPA (衝突警告システム)、CPA (衝突警告システム) プラス、ESP[®] (エレクトロニック・スタビリティ・プログラム)、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトなども解除されている。アテンションアシストが解除されている。</p> <p> 警告</p> <p>ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには車輪がロックするおそれがある。</p> <p>ステアリング特性やブレーキ特性が著しく影響を受けることがある。緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。ESP[®]が作動しない場合は、ESP[®]が車両を安定させることができない。</p> <p>横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場点検を受けてください。


トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	ABS コントロールユニットが故障している場合は、ナビゲーションシステム、オートマチックトランスミッションのような、他のシステムも作動しなくなることがある。
 <p>エンジンがかかっている間に黄色の ABS 警告灯が点灯する。</p>	<p>ABS が一時的に作動しない。そのため、BAS、CPA（衝突警告システム）、CPA（衝突警告システム）プラス、ESP[®]、EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシストおよびアダプティブブレーキライトなども解除されている。</p> <p>考えられる原因：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自己診断がまだ完了していない。 • バッテリーの電圧が不十分なことがある <p>アテンションアシストが解除されている。</p> <p> 警告</p> <p>ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前後輪がロックするおそれがある。</p> <p>ステアリング特性やブレーキ特性が著しく影響を受けることがある。緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。ESP[®]が作動しない場合は、ESP[®]が車両を安定させることができない。</p> <p>事故の危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 約 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリングを動かしながら、適切な直線路を慎重に走行してください。警告灯が消灯したときは、上記の機能が再度作動します。 <p>警告灯が点灯したままの場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。




トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>エンジンがかかっている間に黄色の ABS 警告灯が点灯する。警告音も鳴った。</p>	<p>EBD が故障している。そのため、ABS、BAS、CPA（衝突警告システム）、CPA（衝突警告システム）プラス、ESP[®]、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトなども作動しない。アテンションアシストが解除されている。</p> <p> 警告</p> <p>ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前後輪がロックするおそれがある。</p> <p>ステアリング特性やブレーキ特性が著しく影響を受けることがある。緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。ESP[®]が作動しない場合は、ESP[®]が車両を安定させることができない。</p> <p>横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。




トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯、黄色の ESP[®] および ESP[®] 解除警告灯、黄色の ABS 警告灯が点灯する。</p>	<p>ABS および ESP[®] が故障している。そのため、BAS、CPA（衝突警告システム）、CPA（衝突警告システム）プラス、EBD、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトなども作動しない。アテンションアシストが解除されている。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>ブレーキは通常通り作動しますが、上記の機能は作動しません。そのため、ブレーキを強く効かせた場合などには前後輪がロックするおそれがある。</p> <p>ステアリング特性やブレーキ特性が著しく影響を受けることがある。緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。ESP[®]が作動しない場合は、ESP[®]が車両を安定させることができない。</p> <p>横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。
 <p>走行中に黄色の ESP[®]警告灯が点滅する。</p>	<p>車両が横滑りをする危険性があるか、少なくとも1つの車輪が空転し始めているため、ESP[®]やトラクションコントロールが作動している。</p> <p>クルーズコントロールやディストロニック・プラスは解除される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中は緩やかに加速してください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP[®]を解除しないでください。 <p>例外については、(▶ 78 ページ) をご覧ください。</p>



トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>エンジンがかかっている間に黄色のESP[®]解除警告灯が点灯する。</p>	<p>ESP[®]が解除されている。横滑りし始めた場合や車輪が空転し始めた場合に、ESP[®] が車両を安定させることができない。</p> <p>▲ 警告</p> <p>ESP[®]が解除されている場合は、ESP[®]が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ESP[®]を再度設定してください。 例外については、(▶ 78 ページ) をご覧ください。 ▶ 路面と天候の状態に合わせて運転してください。 <p>ESP[®]を設定することができない場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場 で ESP[®]の点検を受けてください。
 <p>AMG 車両のみ： エンジンがかかっている間に黄色のスポーツハンドリングモード警告灯が点灯する。</p>	<p>スポーツハンドリングモードに設定する。</p> <p>▲ 警告</p> <p>スポーツハンドリングモードを作動させているときは、ESP[®] が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 特定の状況でのみ、スポーツハンドリングモードに切り替えてください (▶ 80 ページ)。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
  エンジンがかかっているときに黄色のESP [®] および ESP [®] 解除警告灯が点灯する。	<p>故障のため、ESP[®]、BAS、CPA（衝突警告システム）、CPA（衝突警告システム）プラス、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキライトが作動しない。 アテンションアシストが解除されている。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>上記の機能を除き、ブレーキシステムは通常通り機能し続ける。 緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。 ESP[®]が作動しない場合は、ESP[®]が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。



トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>エンジンがかかっているときに黄色のESP[®] および ESP[®] 解除警告灯が点灯する。</p>	<p>ESP[®]、BAS、PRE-SAFE[®]、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない。 アダプティブブレーキライトと CPA（衝突警告システム）/ CPA（衝突警告システム）プラスも故障していることがある。 アテンションアシストが解除されている。 自己診断がまだ完了していない。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>上記の機能を除き、ブレーキシステムは通常通り機能し続ける。 緊急ブレーキ状態で制動距離が伸びることがある。 ESP[®]が作動しない場合は、ESP[®]が車両を安定させることができない。 横滑りの危険性や事故の危険性が高まります。</p> <p>▶ 約 20 km/h 以上の速度で緩やかにステアリングを動かしながら、適切な直線路を慎重に走行してください。 警告灯が消灯したときは、上記の機能が再度作動します。</p> <p>警告灯が点灯したままの場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 注意して運転してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にて点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
<p> 電気式パーキングブレーキの赤色の表示灯が点滅または点灯する、および/また、電気式パーキングブレーキの黄色の警告灯が点灯する。</p>	<p>▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。</p>
<p> エンジンがかかっている間に赤色の保護システム警告灯が点灯する。</p>	<p>保護システムが故障している。</p> <p> 警告</p> <p>エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しなくなることがある。けがの危険性が高まります。</p> <p>▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。</p> <p>▶ 注意して運転してください。</p> <p>▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で保護システムを点検してください。</p> <p>保護システムに関するさらなる情報は、(▷ 40 ページ) をご覧ください。</p>

エンジン	
トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>エンジンがかかっている間に黄色のエンジン診断警告灯が点灯する。</p>	<p>たとえば、以下が故障していることがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> • エンジン制御 • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム • 燃料供給システム <p>排出物制限値を超えた可能性があり、エンジンがエマージェンシーモードで作動していることがある。</p> <p>▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。</p>
 <p>エンジンがかかっている間に黄色の予備燃料警告灯が点灯する。</p>	<p>燃料レベルが予備範囲に下がっている。</p> <p>▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。</p>
 <p>エンジンがかかっている間に赤色の冷却水警告灯が点灯し、エンジン冷却水温度計が最初の目盛りにある。</p>	<p>冷却水温度計の温度センサーが故障している。冷却水温度をモニターすることができなくなっている。冷却水の温度が高すぎる場合は、エンジンが損傷する危険性がある。</p> <p>▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。状況を問わず、走行を続けしないでください。</p> <p>▶ 動き出さないように、車両を固定してください (▶ 180 ページ)。</p> <p>▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。</p>

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 <p>エンジンがかかっている間に赤色の冷却水警告灯が点灯する。</p>	<p>冷却水レベルが低すぎる。</p> <p>冷却水レベルが正常なときは、エンジンラジエターへの送風が遮られているか、エンジンラジエターの電動ファンが故障していることがある。</p> <p>冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されなくなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 動き出さないように、車両を固定してください (▶ 180 ページ)。 ▶ 車両から降り、エンジンが冷えるまで車両から安全な距離を確保してください。 ▶ 冷却水レベルを点検し、冷却水を補給してください (▶ 324 ページ)。そのときは、警告メッセージに従ってください。 ▶ 頻繁に冷却水を補給している場合は、エンジン冷却システムの点検を受けてください。 ▶ 凍った泥などにより、エンジンラジエターへの送風が遮られていないことを確認してください。 ▶ 冷却水温度が 120 °C 以下になるまで、エンジンを再度始動しないでください。さもないと、エンジンが損傷することがあります。 ▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 ▶ そのときは、山道の走行や発進/停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷は避けてください。
 <p>エンジンがかかっている間に赤色の冷却水警告灯が点灯する。警告音も鳴った。</p>	<p>冷却水温度が 120 °C を超えている。エンジンラジエターへの送風が遮られていることがあるか、冷却水レベルが低すぎる可能性がある。</p> <p>⚠ 警告</p> <p>エンジンが十分に冷却されないため、エンジンが損傷することがある。</p> <p>オーバーヒートしているエンジンで絶対に走行しないでください。エンジンがオーバーヒートしているときに走行すると、エンジンルームにフルード類が漏れ、引火する原因になるおそれがあります。</p>

トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
	<p>さらに、ボンネットを開くことにより、オーバーヒートしたエンジンからの蒸気により重大なやけどの原因になるおそれがあります。</p> <p>けがの危険性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ マルチファンクションディスプレイの追加のディスプレイメッセージに従ってください。 ▶ 道路や交通状況に注意しながらただちに停車し、エンジンを停止してください。 ▶ 動き出さないように、車両を固定してください (▶ 180 ページ)。 ▶ 車両から降り、エンジンが冷えるまで車両から安全な距離を確保してください。 ▶ 冷却水レベルを点検し、冷却水を補給してください (▶ 324 ページ)。そのときは、警告メッセージに従ってください。 ▶ 頻繁に冷却水を補給している場合は、エンジン冷却システムの点検を受けてください。 ▶ 凍った泥などにより、エンジンラジエターへの送風が遮られていないことを確認してください。 ▶ 冷却水温度が 120 °C 以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行することができます。 ▶ そのときは、山道の走行や発進/停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷は避けてください。

走行装備	
トラブル	考えられる原因および影響 ▶ 解決方法
 車両が動いているときに赤色の車間距離警告灯が点灯する。	選択された速度に対し、先行車両との車間距離が近すぎる。 ▶ 車間距離を広げてください。
 車両が動いている間に赤色の車間距離警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	進行方向にいる車両または静止している障害物に急速に接近している。 ▶ ただちにブレーキをかける準備をしてください。 ▶ 交通状況に注意して運転してください。ブレーキ操作や危険回避操作が必要となることがあります。 CPA（衝突警告システム）の距離警告機能に関するさらなる情報（▶ 74 ページ）。 CPA（衝突警告システム）プラスに関するさらなる情報（▶ 76 ページ）。

役に立つ情報	304
荷物の積み方	304
収納エリア	305
機能	312

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 25 ページ)

荷物の積み方

⚠ 警告

荷物や重い荷物が固定されていない、または十分に固定されていないと、すべったり、放り出されて乗員にぶつかるおそれがあります。特にブレーキ操作時や急な進路変更時にけがをする可能性があります。

荷物は放り出されないように、必ず収納してください。走行前に、荷物や積載物などがすべったりひっくり返ったりしないように固定されていることを確認してください。

⚠ 警告

燃焼型エンジンは、一酸化炭素などの有毒な排気ガスを排出します。エンジン作動中、とくに走行中にテールゲートが開いていると、排気ガスが車内に入るおそれがあります。中毒を起こすおそれがあります。

テールゲートを開く前に、エンジンをオフにしてください。テールゲートを開いたまま走行しないでください。

荷物の積み方は車両の走行安定性に大きく影響します。荷物を積むときは、以下の点に注意してください。

- 最高許容車両総重量および車両の許容軸重（乗員を含む）を超えないようにしてください。
- 荷物はラゲッジルームに積むことをお勧めします。
- 重い物はできるだけ前方、およびラゲッジルーム内のできるだけ低い位置に積んでください。
- 荷物がシートのバックレストの上端よりも高くないようにください。
- トランクに荷物を積むときは、必ずリアシートまたはフロントシートのバックレストに接するように積んでください。シートバックレストがしっかりと固定されていることを確認してください。
- 可能な場合は、乗車していないシートの後方に常に荷物を置いてください。
- 固定用リングおよびラゲッジネットを荷物や積載物を運搬するために使用してください。
- 荷物の大きさと重さに適した荷物固定用リングおよび固定具のみを使用してください。
- ラゲッジルームフロア下の収納スペースの最大積載許容量は 25 kg です。
- 強度のある耐摩耗性の荷物固定用ストラップなどを使用して、荷物を確実に固定してください。鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。

i 荷物固定用ストラップはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

! フロアボードの一部分に偏った積荷をしないでください。フロアボードの最大積載許容量は 100 kg です。フロアボードの損傷を防ぐため、荷重は均等に分散させてください。必要に応じて、荷物の

下に固い板をしいてください。荷物を留める場合、フロアボートの荷重が増える可能性があることにご留意ください。

収納エリア

収納スペース

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

収納物を車内に正しく収納しないと、滑ったり、飛び出したりして、乗員がけがをするおそれがあります。特にブレーキ操作や急な進路変更を行ったときは、けがをするおそれがあります。

- このようなときや似たような状況で収納物が飛び出さないように、常に収納する
- 収納物は必ず小物入れ、収納ネットまたはラゲッジネットからはみ出さないようする
- 走行中はロック可能な小物入れを閉じる
- 重い物、固い物、先の尖った物、鋭利な物、壊れやすいもの、大きな物はラゲッジルームに収納し、固定する

荷物の積み方 (▷ 304 ページ) をお守りください。

前席の小物入れ

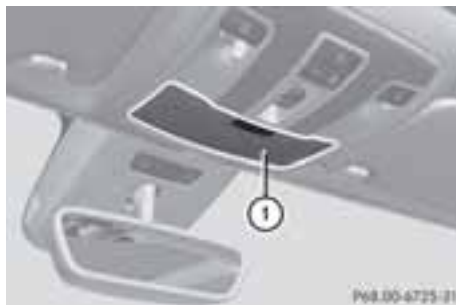
グローブボックス



- ▶ **開く**： ハンドル ① を引き、グローブボックスのカバー ② を開きます。
- ▶ **閉じる**： ロックされるまで、グローブボックスのカバー ② を起こします。

❗ グローブボックスのカバーにペンホルダーがあります。

メガネホルダー



- ▶ **開く**： マーク ① を押します。

車両が動いている間はサングラスケースが閉じていることを必ず確認してください。

センターコンソール内の小物入れ



DIRECT SELECT (ダイレクトセレクト) 装備車

- ▶ **開く**： カバーのマーク ① を押します。
- ❗ 車両装備により、センターコンソールには蓋の付いた小物入れや灰皿ではなく蓋の付いていない小物入れや灰皿が取り付けられています。

フロントアームレストの小物入れ（オートマチック車）



DIRECT SELECT レバー装備車

▶ **開く**：カバー ① のマークを押します。

i ノンスリップマットとインサートは、取り外して洗い流すことができます。インサートを取り外すときは、若干の抵抗があります。

アームレスト下の小物入れ



▶ **開く**：可動式アームレスト装備車では、アームレストが最も後方の位置にあることを確認してください。

▶ ボタン ① を押して、アームレストを持ち上げてください。

i 車両の装備に応じて、アームレストは軸方向の前後に動かすことができます。

i 車両装備により、小物入れには USB ポートまたはメディアインターフェースが装備されています。メディアインターフェースは、iPod®または MP3 プレー

ヤーなどの、ポータブルオーディオ機器のための汎用インターフェースです（別冊の Audio または COMAND システム取扱説明書をご覧ください）。

運転席および助手席シート下部の小物入れ

⚠ 警告

小物入れの最大荷重を超えると、カバーは物を抑制することができない可能性があります。物が小物入れから飛び出し、乗員にぶつかる可能性があります。特に急ブレーキや急な方向転換をすると、けがの恐れがあります。

小物入れの最大許容荷重を決して超えないようにしてください。重い荷物はラゲッジルームに固定して収納してください。

小物入れの最大許容荷重は 1.2 kg です。



▶ **開く**：ハンドル ① を引き上げ、カバー ② を前方に開きます。

i 消火器装備車両では、運転席下部には小物入れの代わりに消火器が取り付けられています。

後席の小物入れ

センターコンソール（後席）の小物入れ



▶ **開く**： ハンドルの端で小物入れ ① の上部を引き下ろします。

❶ 車両装備により、小物入れの上に蓋の付いていない収納用の空間があります。

ラゲッジネット

ラゲッジネットは以下にあります：

- 助手席足元
- 運転席・助手席の背面
- ラゲッジルームの左右

積載のガイドライン(▶ 304 ページ) および収納用スペースに関する安全上の注意事項(▶ 305 ページ)に従ってください。

助手席シートの折り畳み式バックレスト

⚠ 警告

助手席シートのバックレストが倒されていると、とくに事故、ブレーキあるいは急な進路変更の際に後席の乗員がシート調整メカニズムの部品とぶつかるおそれがあります。けがの危険性があります。車両に乗員を乗せて助手席シートのバックレストを倒した状態で走行する場合は、乗員は必ず運転者の後ろのリアシートに座るようにしてください。

助手席シートのバックレストは、ラゲッジルーム容量を増やすために、前に倒すことができます。



▶ **前に倒す**： バックレストを軽く後ろに押しします。

▶ **リリースハンドル ①** を引いて、バックレストがロックされるまで、シートクッションの上にバックレストを完全に倒します。

▶ **起こす**： バックレストを軽く下に押しして、リリースハンドル ① を引きます。

▶ シートバックレストを起こしてロックします。

後席のスルーローディング

荷物の積み方(▶ 304 ページ)をお守りください。



- ▶ **開く**：アームレスト ① を引き下ろします。
- ▶ そこに見えるカバーのグリップ部を持ってアームレスト ① の上に重なるまで手前に引きます。
- ▶ リアシートのセンターヘッドレストを最大位置に引き上げます。(▶ 113 ページ)



- ▶ ロックスイッチ ③ を矢印の方向にスライドさせます。
- ▶ フラップ ② を横に完全に回します。フラップ ② がマグネットで開いたまま保持されます。
- ▶ **閉じる**：ラゲッジルーム側のフラップ ② を固定するまで戻します。
- ▶ カバーをアームレスト ① にはまるまで前方に倒します。
- ▶ 必要に応じて、アームレスト ① を完全に引き上げます。

ラゲッジルームの拡大

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

リアベンチシート/後部座席と座席の背もたれが固定されていない場合、急なブレーキ操作や事故のときに、前に倒れる可能性があります。

- これにより、乗員は、リアベンチシート/後部座席または座席の背もたれに

よってシートベルトに押さえ込まれます。シートベルトは、十分な保護効果を発揮することができず、さらにけがをするおそれがあります。

- ラゲッジルームの荷物や重い荷物はシートバックレストで固定することはできません。

けがをするおそれが高まります。

走行前に、必ずシートバックレストおよびリアベンチシート/後部座席が固定されていることを確認してください。

! 後席のバックレストを前方に倒す前に、後席アームレストおよびカップホルダーが格納されていることを確認してください。損傷するおそれがあります。

荷物の積み方 (▶ 304 ページ) をお守りください。

リアシートバックレストを前方/後方に倒す

リアシートのバックレストを前方に倒すラゲッジルーム容量を拡大するため、左右リアシートバックレストは別々に倒すことができます。



- ▶ バックレストヘッドレストを完全に差し込みます (▶ 114 ページ)。
- ▶ 必要に応じて、運転席または助手席シートを前方に移動します。

- ▶ 左右いずれかのシートバックレストのリリースハンドル ② を手前に引きまします。
対応する側のシートバックレスト ① が解除されます。
- ▶ バックレスト ① を前に倒します。
- ▶ 必要に応じて、運転席または助手席側シートのバックレストを移動させます。



- ▶ シートベルトをシートベルトエクステンダー ① に差し込みます。

リアシートのバックレストを起こす

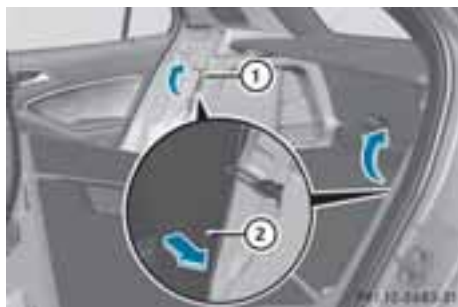


- ▶ 必要に応じて、運転席または助手席シートを前方に移動します。

! リアシートバックレストを起こすときは、シートベルトが挟まれていないことを確認してください。損傷するおそれがあります。

- ▶ シートバックレスト ① を起こしてロックします。
赤色のロックステータスインジケータ ② が見えないことを確認してください。
- ▶ 必要に応じて、ヘッドレストの高さを調整します (▷ 114 ページ)。
- ▶ 必要に応じて、運転席または助手席側シートのバックレストを移動させます。

リアシートバックレストの角度の調整 (カーゴポジション)



ラゲッジルームパッケージ装備車：ラゲッジルームを拡大するために、リアシートバックレストの傾斜を 15° 起こした角度に調整できます (カーゴポジション)。

- ▶ シートバックレストを前方に倒します (▷ 308 ページ)。
- ▶ レバー ① を矢印の方向に動かします。
- ▶ バックレスト ② が固定されるまで、レバー ① の位置までシートバックレストを押します。
これでシートバックレストがカーゴポジションになりました。

ラゲッジルームの使用に関する注意事項

ラゲッジルームを最大限に利用する：

- シート・バックレストをカーゴポジションに調整すると、積載許容量を増やせます (▷ 309 ページ)。
- 助手席シートの収納式バックレスト (▷ 307 ページ) とリアの同様のバックレストを前に倒すと、積載面を延長できます。

パーセルシェルフ



! パーセルシェルフに置くことができる最高荷重は約 1.5 kg です。

- ▶ **取り外す**：ストラップ①をテールゲートから外します。
- ▶ パーセルシェルフを下ろします。
- ▶ パーセルシェルフをリア②へ引き出します。
- ▶ **取り付け**：左右ガイドレールにパーセルシェルフを置きます。
- ▶ 両手で固定されるまで、パーセルシェルフを均等に押し付けます。
- ▶ パーセルシェルフを上げます。
- ▶ ストラップ①をテールゲートに取り付けます。

荷物の固定

荷物固定用リング

荷物の固定に関する、以下の点に注意してください。

- 荷物の積み方 (▷ 304 ページ) をお守りください。
- 荷物固定用リングを使用して、荷物を固定してください。
- 荷物固定用リングには均等に力がかかるようにしてください。
- 伸縮性のあるストラップまたはネットを使用して荷物を固定しないでください。これらは、軽い荷物のための滑り止め防止としてのみ意図されています。
- 固定用具が荷物のとがった部分や角に当たらないようにしてください。
- 鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。



① 荷物固定用リング

バッグフック

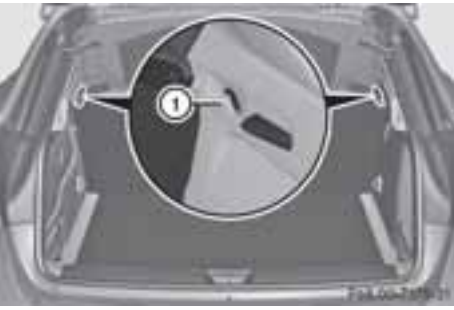
⚠ 警告

バッグフックは重い荷物やラゲッジルームの積載物を固定することはできません。荷物やラゲッジルームの積載物が飛び出す可能性があり、ブレーキ操作や急な進路変更で乗員にぶつかる可能性があります。けがの危険性があります。

バッグフックには軽い荷物のみを掛けてください。バッグフックに固いもの、鋭

利なもの、壊れやすい物をかけないで下さい。

! バッグフックには、約 3 kg 以上の荷物をかけないでください。バッグフックは、荷物を固定する目的で使用しないでください。



① バッグフック

ラゲッジルームフロア下の収納スペース

重要な安全上の注意事項

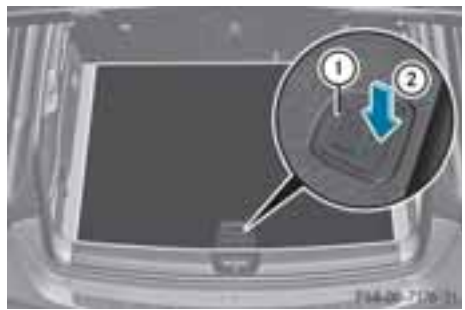
⚠ 警告

ラゲッジルームフロアを開いて走行すると、荷物が放り出され、乗員にぶつかるおそれがあります。特にブレーキ操作や急な進路変更を行ったときは、けがをすおそれがあります。
走行する前に、必ずラゲッジルームフロアを閉じてください。

! ラゲッジルームフロア下の収納スペースの最大積載許容量は 25 kg です。

ラゲッジルームフロアの開閉

ラゲッジルームのフロアの下には、タイヤフィット、車載ツール、折りたたみ式ボックスなどの保管スペースがあります。



- ▶ **開く**： テールゲートを開きます。
- ▶ フレーム ② を押さえながら、ハンドル ① を下方に押しします。ハンドル ① が浮き上がります。



- ▶ ハンドル ① を使って、ラゲッジルームのフロアをサイドフラップ ③ まで上に開いて、フラップ ③ の抵抗を越えませす。
- ▶ サイドフラップ ③ の上にラゲッジルームのフロアを置きます。
- ▶ **閉じる**: ラゲッジルームフロアをロックするまで押し込みます。

ルーフラック

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

ルーフに荷物を積むと、車両の重心位置が上がり、走行特性が変化します。ルーフの最大積載量を越える場合、走行特性や、ステアリング操作やブレーキ操作が

大幅に損なわれるおそれがあります。事故の危険性があります。

運転スタイルを調整し、ルーフの最大積載量を決して超えないでください。

❗ ルーフラックは、メルセデス・ベンツ用に認定された推奨品の使用をお勧めします。これにより、車両の損傷を防ぐ助けになります。

ルーフラックに荷物を積むときは、走行中に車両を損傷しないように確実に固定してください。

車両装備により、ルーフラックを装着するときはパノラミックスライディングルーフをチルトアップでき、テールゲートが全開になることを確認してください。

ルーフの最大重量に関する情報は「サービステータ」にあります(▷ 387 ページ)。

ルーフの最大重量に関する情報は「サービステータ」にあります(▷ 387 ページ)。

不適切に固定されたルーフラック、またはルーフ上の荷物は、車両から脱落することがあります。そのため、ルーフラックメーカーの装着方法に従ってください。

ルーフラックの取り付け



▶ ルーフラックをルーフレール①に固定します。その場合は、製品の装着指示に従ってください。

機能

カップホルダー

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

走行している間、カップホルダーは容器を完全に固定することはできません。走行している間、カップホルダーを使用する場合、容器が移動したり、中身がこぼれたりすることがあります。容器の中身が乗員にかかり、その中身が熱い場合やけどするおそれがあります。交通状況から注意がそれ、車両のコントロールを失うおそれがあります。事故やけがの危険性があります。

カップホルダーは、車両が停止しているときにのみ使用してください。カップホルダーに合った容器のみ使用してください。熱い飲み物のときは特に、必ず容器を閉じてください。

❗ カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器をお使いください。飲み物がこぼれるおそれがあります。

⚠ 警告

収納物を車内に正しく収納しないと、滑ったり、飛び出したりして、乗員がけがをするおそれがあります。特にブレーキ操作や急な進路変更を行ったときは、けがをするおそれがあります。

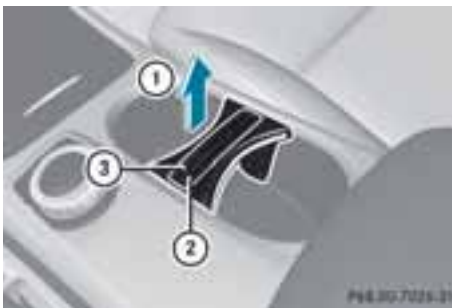
- このようなときや似たような状況で収納物が飛び出さないように、常に収納する
- 収納物は必ず小物入れ、収納ネットまたはラゲッジネットからはみ出さないようする
- 走行中はロック可能な小物入れを閉じる
- 重い物、固い物、先の尖った物、鋭利な物、壊れやすいもの、大きな物はラゲッジルームに収納し、固定する

積載のガイドライン(▷ 304 ページ)をお守りください。

ドアの小物入れには、以下のボトルを収容できます：

- 前席：容量 1.0 L まで
- 後席：容量 0.5 L まで

フロントセンターコンソール内のカップホルダー



2つのコインホルダー③およびカードホルダー②はカップホルダーにあります。カップホルダーおよび下のラバーマットは清掃時に外すことができます。きれいなぬるま湯でのみ、清掃してください。

- ▶ **取り外す：** カップホルダーを少し強く上に持ち上げて①外します。



- ▶ **取り付ける：** カップホルダー①を小物入れ側面の曲がった部分②に差し込みます。同時に、カップホルダーの上部のツメが前方を向くようにカップホルダーを差し込みます。
- ▶ カップホルダー①を左右がはまるまで、下方へ押しします。

リアシートのアームレスト内のカップホルダー

❗ リアアームレストを倒しているときに、アームレストに腰をかける、体重を支えるなど無理な力を加えないでください。アームレストが損傷する原因になります。

❗ リアシートのアームレストを格納する前にカップホルダーを閉じてください。さもないと、カップホルダーが損傷するおそれがあります。



- ▶ リアシートのアームレストを倒します。
- ▶ **開く：** カップホルダー①または②の前側を押しします。カップホルダー①または②が自動的に出てきます。
- ▶ **閉じる：** カップホルダー①または②をはまるまで押し戻します。

サンバイザー

概要



- ① ミラー照明
- ② 固定部
- ③ クリップ
- ④ バニティミラー
- ⑤ ミラーカバー

サンバイザーのバニティミラー

ミラー照明①は、サンバイザーがクリップ②で固定されている状態で、ミラーカバー⑤が開いているときにだけ点灯します。

横方向からの眩しさ

- ▶ サンバイザーを下げます。
- ▶ サンバイザーを固定部②から引き出します。
- ▶ サンバイザーを横にまわします。

灰皿

前席の灰皿

❗ 灰皿下の小物入れは耐熱性ではありません。火のついたタバコを灰皿に置くときは、灰皿が確実に固定されていることを確認してください。小物入れが損傷するおそれがあります。



例：小物入れカバー装備車

- ▶ **開く**：カバー①の下部を軽く押し下す。小物入れが開きます。
- ▶ **インサートを取り外す**：インサート③を引き上げ②外します。
- ▶ **インサートを取り付け**：ロックされるまで、インサート③をホルダーに押し込みます。

❗ 灰皿を取り外すと、そのスペースを小物入れとして使用できます。

後席の灰皿



- ▶ **開く**：上端でカバー③を引き出します。
- ▶ **取り外す**：凹部①を持ってインサート②を矢印の方向④にロックが解除される音聞こえるまで引きます。

- ▶ インサート ② を持ち上げて外します。
- ▶ **インサートを取り付ける**：ロックされるまで、インサート ② を上からホルダーに押し込みます。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします (▶ 161 ページ)。
- ▶ **開く**：カバー ① の下部を軽く押しします。
小物入れが開きます。
- ▶ ライター ② を押しします。
ヒーター部が赤く熱くなったときに、ライター ② は自動的にポップアウトします。

ライター

⚠ 警告

ライターのヒーター部や熱くなっているホルダー部を触ると、火傷をするおそれがあります。

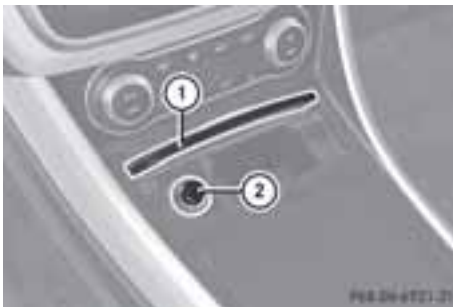
以下のとき、可燃性の素材が燃える可能性があります：

- 熱くなっているライターを落としたとき
- 子供などが熱くなっているライターを荷物の上に置いたとき

火災およびけがの危険性があります。

ライターは必ずノブの部分を持ってください。子供がライターを触らないように常に気をつけてください。保護者のいない状態で子供を車内に残さないでください。

常に交通状況に注意してください。道路および交通状況が許されているときのみ、ライターを使用してください。



例：小物入れカバー装備車

12V 電源ソケット

使用上の注意

- ▶ エンジンスイッチのキーを **1** の位置にまわします (▶ 161 ページ)。

電源ソケットは最大電力 180 W (15 A) のアクセサリに使用できます。アクセサリには、ライトまたは携帯電話用充電器のようなアイテムが含まれます。

エンジンが停止しているときに電源ソケットを長時間使用した場合は、バッテリーが放電することがあります。

- ❗ 緊急カットオフにより、バッテリーの電圧が過度に低下しないようにされます。バッテリーの電圧が過度に低い場合は、電源ソケットへの電力は自動的に停止します。これにより、エンジンを始動するために十分な電力が確保されます。

例：小物入れカバー装備車

フロントセンターコンソール内の電源ソケット



小物入れカバー装備車

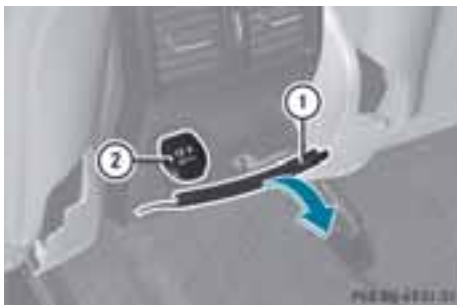
- ▶ **開く**：カバー ① の下部を軽く押し下す。
小物入れが開きます。
- ▶ 電源ソケットのカバー ② を開きます。



小物入れカバー非装備車

- ▶ 電源ソケットのカバー ① を開きます。

後席センターコンソール内の電源ソケット



- ▶ 上端でカバー ① を引き出します。
- ▶ 電源ソケットのカバー ② を開きます。

ラゲッジルーム内の電源ソケット



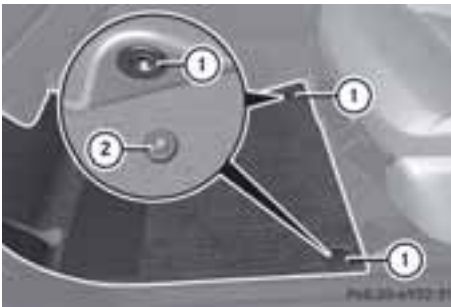
- ▶ 電源ソケットのカバー ① を開きます。

運転席側のフロアマット

⚠ 警告

運転席の足元の荷物は、ペダルの自由な動きを妨げたり、または踏んだペダルを妨害することがあります。これは車両の操作および走行安全性を脅かします。事故の危険性があります。

運転席の足元に入り込まないように、すべてのものを車内に確実にしっかりと収納してください。フロアマットは指示にしたがって必ず確実に固定し、ペダル操作の妨げにならないようにペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。緩んだフロアマットを使用したり、フロアマットを重ねて置かないでください。



- ▶ シートを後方にスライドします。
- ▶ **取り付ける**：フロアマットを足元に敷きます。
- ▶ 凸部 ② に固定用ノブ ① を押し込みます。
- ▶ **取り外す**：固定部 ② からフロアマットを引いて外します。
- ▶ フロアマットを取り外します。

後付けした防眩フィルム

ウインドウの内側に遮光フィルムなどを貼り付けると、携帯電話やラジオなどの電波受信に影響を与えるおそれがあります。導電性フィルムや金属コーティングが施されたフィルムを貼り付けた場合は、特に電波受信への影響が懸念されます。遮光フィルムについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

役に立つ情報	320
エンジンルーム	320
エンジンルームの概要	327
サービス	327
手入れ	329

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場
で情報をご覧ください。(p. 25 ページ)

エンジンルーム

ボンネット

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

解除すると、走行中にボンネットが開いて視界の妨げとなり危険です。事故の危険性があります。

走行中にボンネットを解除しないでください。

⚠ 警告

開閉中、ボンネットが急に下がる場合があります。ボンネットの動作範囲では、けがの危険性があります。

ボンネットの動作範囲に誰もいないことを確認して、ボンネットを開閉してください。

⚠ 警告

エンジンがオーバーヒートしたときにボンネットを開いたり、エンジンルームに炎が発生した場合、高温のガスやその他のサービスプロダクトに触れるおそれがあります。けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。エンジンルームで火災が発生したときは、ボンネットを閉じたままにし、消防局に連絡してください。

⚠ 警告

エンジンルームには可動部品があります。ラジエーターファンなどの特定の構成部品は、イグニッションをオフにした後も動き続けたり、再度突然動くことがあります。けがの危険性があります。

エンジンルームの作業を行わなければならない場合は：

- イグニッションをオフにしてください。
- ファンの回転範囲など、可動部品周囲の危険な範囲には決して触れないでください。
- 宝飾品や時計は外してください。
- 衣服や髪の毛などの物は、動いている部品から離してください。

⚠ 警告

イグニッションシステムおよび燃料噴射システムは高電圧下で作動しています。高電圧を含んだ構成部品に接触すると、感電するおそれがあります。けがの危険性があります。

イグニッションをオンにしたら、イグニッションシステムまたは燃料噴射システムの構成部品に決して触れないでください。

アクティブボンネット（歩行者保護）

作動原理

■ 一度作動したアクティブボンネットは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場
で修理してください。アクティブボンネット機能は再度作動可能になります。アクティブボンネットによる歩行者の付加保護は元に戻ります。

アクティブボンネットは特定の国でのみ
装備されます。

アクティブボンネットは、特定の状況下
で歩行者のけがの危険性を軽減させる
ことができます。アクティブボンネットが
上がることにより、エンジンなどの固い
構成部品との間隔が広がります。

アクティブボンネットが作動した場合は、ヒンジ周囲の後方エリアが約 60 mm 上がります。

ワークショップまで運転するためには、作動したアクティブボンネットをお客様ご自身でリセットしてください。アクティブボンネットが作動すると、歩行者保護が制限されます。

リセット

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。



- ▶ ヒンジ (矢印) の近くに手のひらを置いて、アクティブボンネット ① を固定されたと感じるまで押し下げます。

ヒンジの付近でアクティブボンネットを少し持ち上げることができるときは、確実に固定されていません。手順を繰り返してください。

ボンネットがまだ持ち上がる場合は、直接メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお越しください。100 km/h を超えないように走行してください。

ボンネットを開く

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ 警告

ボンネットを開いているとき、ワイパーを作動位置のままにしていると、ワイパーリンクージでけがをするおそれがあります。けがの危険性があります。

ボンネットを開く前に、必ずワイパーおよびエンジンスイッチをオフにしてください。

- ❗ ワイパーアームを起こしたままでボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが接触して、損傷するおそれがあります。



- ▶ フロントウインドウワイパーが停止していることを確認します。
- ▶ ボンネットロック解除レバー ① を引きます。ボンネットのロックが解除されます。



- ▶ ボンネットとラジエータートリム間の隙間に手を入れ、ボンネット固定レバー ② を左に押しします。
- ▶ ボンネットを持ち上げます。



- ▶ ボンネットダンパー ④ をホルダー ⑤ から取り出します。
- ▶ ボンネットダンパー ④ を持ち上げ、黄色いクリップ ③ に差し込みます。

ボンネットを閉じる

- ▶ ボンネットを少し持ち上げ、同時にボンネットダンパー ④ を黄色のクリップ ③ から外します。
- ▶ ボンネットダンパー ④ を下方に動かし、ホルダー ⑤ に固定するまで押しします。

- ▶ ボンネットを下げ、約 20 cm の高さから下ろします。
- ▶ ボンネットが確実に固定されていることを確認します。
ボンネットがわずかに上がる場合は、確実に固定されていません。閉じたボンネットを押ししないでください。ボンネットを再度開き、少し力を入れて閉じます。

エンジンオイル

全体的な注意事項

! エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

! エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的にエンジンオイル量を点検し、必要に応じて補給または交換してください。

運転スタイルによって、車両は 1,000 km 当たり最大 0.8 L のオイルを消費します。新車のときや頻繁にエンジン回転数を上げて走行する場合は、オイル消費量はこれより増加します。

エンジンによっては、オイルレベルゲージは異なる位置に装着されています。

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 車両を水平な場所に停車している。
- エンジンが通常の作動温度の場合は、エンジンを停止してから約 5 分経過している。
- エンジンを短時間のみ始動した場合など、エンジンが通常の作動温度にない場合は、計測を行なう前に約 30 分待ちます。

オイルレベルゲージを使用してオイル量を点検する

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。



例

- ▶ エンジンオイルレベルゲージ ① をオイルレベルゲージチューブから引き抜きます。
- ▶ エンジンオイルレベルゲージ ① を拭きます。
- ▶ エンジンオイルレベルゲージ ① をガイドチューブにいっぱいまでゆっくり差し込んで、再度引き抜きます。
量が MIN マーク ③ と MAX マーク ② の間にあるときは、オイル量は適正です。
- ▶ オイル量が MIN マーク ③ 以下まで下がってきた場合は、エンジンオイルを約 1.0 L 補充してください。

エンジンオイルの追加

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品

は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ 警告

エンジンオイルがエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。火災およびけがの危険性があります。

エンジンオイルが補給口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジンを冷やし、エンジンを始動する前に、エンジンオイルで汚れた構成部品を清掃してください。

Ⓢ 環境

エンジンオイルを補給するときは、こぼさないように注意してください。エンジンオイルが地面や排水溝に流れると、環境に悪影響を与えます。

! サービスシステム装備車両のために承認されているエンジンオイルとオイルフィルターのみを使用してください。サービスプロダクトに関するメルセデス・ベンツの仕様に適合するためにテストされ、承認されたエンジンオイルとオイルフィルターのリストはメルセデス・ベンツ指定サービス工場です。エンジンまたは排気システムの損傷は以下のことに起因します。

- サービスシステムで承認されていない仕様のエンジンオイルやオイルフィルターの使用
- サービスシステムで要求される交換期間を過ぎた後のエンジンオイルやオイルフィルターの交換
- エンジンオイル添加剤の使用

! オイルを過剰に補給しないでください。エンジンオイルを過剰に補給すると、エンジンまたは触媒が損傷する可能性があります

あります。余分なエンジンオイルを抜き取ってください。



例：エンジンオイルフィルターキャップ

- ▶ キャップ ① を反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ エンジンオイルを補給します。オイル量がオイルレベルゲージの MIN マーク、またはそれ以下の場合は、エンジンオイルを 1.0 L 補充してください。
- ▶ キャップ ① を補給口に合わせ、時計回りにまわします。キャップが元の場所に確実にロックされていることを確認します。
- ▶ オイルレベルゲージでオイル量を再度点検します (▷ 323 ページ)。

エンジンオイルについてのさらなる情報は、(▷ 384 ページ) をご覧ください。

冷却水

冷却水量の点検

⚠ 警告

エンジンが温まっている場合は特に、エンジン冷却システムに圧力がかかっています。キャップを開くとき、高温の冷却水が吹き出す可能性があります。けがの危険性があります。

キャップを開く前に、エンジンを冷ましてください。開くときは、手袋と保護メガネを着用してください。キャップを

ゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。

❗ 必ずエンジンが冷えているときにのみ冷却水量を点検し、調整してください (冷却水温度は約 40 °C 以下)。冷却水温度が約 40 °C 以上のときに冷却水温度を点検すると、エンジンまたはエンジン冷却システムが損傷するおそれがあります。



例

- ▶ 車両を水平な場所に停めます。車両が水平な場所にあり、エンジンが冷えている場合にのみ、冷却水レベルを点検してください。
- ▶ エンジンスイッチのキーを 2 の位置にまわします (▷ 161 ページ)。
- ▶ メーターパネルのエンジン冷却水温度表示を確認します。冷却水温度は 40 °C 以下でなければなりません。
- ▶ エンジンスイッチのキーを 0 の位置にまわします (▷ 161 ページ)。
- ▶ キャップ ① を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。
- ▶ キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。冷えているときに冷却水が補給口内のマーカーバー ③ のレベルにある場合

は、冷却水リザーブタンク ② 内に十分な冷却水があります。

- ▶ キャップ ① を取り付け、時計回りにいっぱいまでまわします。

冷却水についての詳しい情報は、(▷ 385 ページ)をご覧ください。

冷却水の補給

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

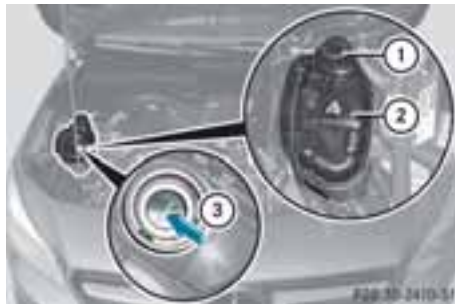
なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ 警告

不凍液がエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。火災およびけがの危険性があります。

不凍液を充填する前にエンジンを冷やしてください。不凍液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジンを始動する前に、不凍液で汚れた構成部品を清掃してください。

- ❗ 冷却水が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面が損傷するおそれがあります。



例

冷却水リザーブタンク ② 内の冷却水量が低すぎる場合は、水平な場所に停止し、エンジンが冷えているときに冷却水を補給してください。

- ▶ キャップ ① を反時計回りにゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。
- ▶ キャップ ① をさらに反時計回りにまわして取り外します。
- ▶ 冷却水をマーカバー ③ まで補給してください。使用状況 (▷ 385 ページ) に合わせた水道水と不凍 / 腐食剤の濃度で使います。
- ▶ キャップ ① を取り付け、時計回りにいっぱいまでまわします。
- ▶ エンジンを始動し、約 5 分後に再度停止して冷まします。
- ▶ 冷却水量 (▷ 324 ページ) を点検し、必要であれば補給します。

定期的な冷却水の交換

冷却水の品質は時間とともに劣化します。整備手帳の指示に従い、定期的に冷却水を交換してください。詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

エンジンのオーバーヒート

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ 警告

エンジンがオーバーヒートしたときにボンネットを開いたり、エンジンルームに

炎が発生した場合、高温のガスやその他のサービスプロダクトに触れるおそれがあります。けがの危険性があります。


ボンネットを開く前に、オーバーヒートしたエンジンを冷やしてください。エンジンルームで火災が発生したときは、ボンネットを閉じたままにし、消防局に連絡してください。

⚠ 警告

エンジンが温まっている場合は特に、エンジン冷却システムに圧力がかかっています。キャップを開くとき、高温の冷却水が吹き出す可能性があります。けがの危険性があります。

キャップを開く前に、エンジンを冷ましてください。開くときは、手袋と保護メガネを着用してください。キャップをゆっくり半回転まわして、余分な圧力を抜きます。

オーバーヒートしたときは：

- メーターパネルに約 120 °C 以上の冷却水温度が表示されている。
- マルチファンクションディスプレイに冷却水が減少 停車して エンジンを停止 というメッセージが表示されている。
- エンジンがかかっているときに、メーターパネルに赤色の  冷却水警告灯が表示される。
- エンジンルームから蒸気が出ている。

他のサービスプロダクトの点検および補給

ウインドウウォッシャーとヘッドライトウォッシャーの補給

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

⚠ 警告

ウインドウウォッシャー液の濃縮液は高い可燃性です。熱いエンジン部品または排気システムに触れると、発火することがあります。火災およびけがの危険性があります。

ウインドウウォッシャー液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。



例

- ▶ **開く**：タブを持ってキャップ ① を引き上げます。
- ▶ あらかじめ混合しておいたウォッシャー液を補給します。
- ▶ **閉じる**：固定されるまで、キャップ ① を補給口に押し付けます。

ウォッシャー液リザーブタンクは、フロントウインドウウォッシャーおよびヘッドライトウォッシャー両方に使用されません。

ウォッシャー液量が推奨される最低の 1 L を下回った場合は、ウォッシャー液を補充することを促すメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます (▷ 288 ページ)。

フロントウインドウウォッシャー液 / 不凍液についてのさらなる情報 (▷ 386 ページ)。

ブレーキ液量

⚠ 警告

エンジン、ラジエーター、排気システムなどのエンジンルームの特定の構成部品は、非常に高温になります。エンジンルームで作業を行う場合、けがの危険性があります。

なるべく、エンジンを冷やし、以下に記載する構成部品のみに触れるようにしてください。

! ブレーキ液リザーブタンクのブレーキ液レベルがMIN マークまたはそれ以下まで低下しているときは、ただちにブレーキシステムの漏れを点検してください。ブレーキパッド / ライニングの厚みも点検してください。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場での点検を受けてください。

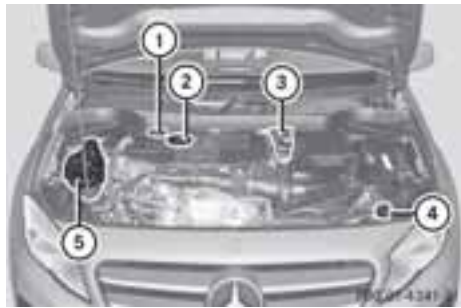
絶対にブレーキ液を補給しないでください。これを行っても問題は解消しません。



例

ブレーキ液量の点検は、必ず水平な場所に停車した状態で行なってください。ブレーキ液の液面がブレーキ液リザーブタンクのMIN マーク ② とMAX マーク ① の間にあれば適量です。

エンジンルームの概要



例

- ① オイルレベルゲージ
- ② エンジンオイルキャップ
- ③ ブレーキ液リザーブタンク
- ④ ウォッシャー液リザーブタンク
- ⑤ 冷却水リザーブタンク

サービス

ASSYST PLUS

点検メッセージ

定期点検には以下のものがあります。

- 日常点検 - 点検時に異常を発見した場合は、できるだけ早くメルセデス・ベンツ指定サービス工場での車両の点検を受けてください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場をご利用いただくことをお勧めします。日常点検に関する情報（別冊の整備手帳をご覧ください）。
- 1年ごとの法定点検
- 2年ごとの法定点検

法定点検の次回期日を記したステッカーは、フロントウィンドウに貼付してあります。

i ASSYST PLUS メンテナンスインジケーター画面には、法定点検の期日は考慮されません。

ASSYST PLUS メンテナンスインジケーター画面は、次回の点検予定期日をお知らせします。

点検の種類と点検時期に関する情報（別冊の整備手帳をご覧ください）

さらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

① ASSYST PLUS メンテナンスインジケーター画面は、エンジンオイル量に関するいかなる情報も表示しません。エンジンオイル量（▶ 322 ページ）に関する注意事項を遵守してください。

マルチファンクションディスプレイに以下のようなメンテナンスメッセージが数秒間表示されます。

- **メンテナンス A あと .. 日です**
- **メンテナンス A 期限が切れます**
- **メンテナンス A .. 日超過しました**

車両の使用条件により、点検整備時期より以前に残りの時間や距離が表示されます。

数字や他の文字を伴うことがある文字 **A** または **B** は、メンテナンスの種類を表しています。**A** は小規模なメンテナンス、**B** は大規模なメンテナンスを示しています。

詳細な情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ASSYST PLUS メンテナンスインジケーター画面は、バッテリーの接続を外している間の期間を考慮しません。

時期に応じた点検スケジュールは、以下のように管理してください。

- ▶ バッテリーの接続を外す前に、マルチファンクションディスプレイに表示される点検予定期日をメモしてください。

または

- ▶ バッテリーを再度接続した後に、ディスプレイに表示されている点検予定期

日からバッテリーの接続を外していた期間を引いてください。

点検メッセージの非表示

- ▶ ステアリングの または スイッチを押します。

点検メッセージを表示する

- ▶ イグニッションをオンにします。
- ▶ または スイッチを押して、**メンテナンス** メニューを選択します。
- ▶ または スイッチを押して、サブメニューの **メンテナンス** を選択し、 スイッチを押して確定します。
マルチファンクションディスプレイにメンテナンス予定期日が表示されます。

メンテナンスに関する情報

ASSYST PLUS メンテナンスインジケーター画面のリセット

■ 不注意でメンテナンスインジケーターをリセットしたときでも、この設定はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で修整することができます。

整備手帳に記載されているように点検作業を実施してください。さもなければ、主要部品や車両の摩耗が進んだり、損傷するおそれがあります。

点検作業の実施後、メルセデス・ベンツ指定サービス工場は ASSYST PLUS メンテナンスインジケーター画面のリセットを行ないます。点検作業などに関するさらなる情報も入手できます。

特別な点検が必要なとき

所定の点検整備間隔は、通常の車両の使用を元にしています。以下のような過酷な状況、または大きな負荷で車両が使用される場合は、より頻繁に点検整備作業を行なう必要があります。

- 頻繁に停止を繰り返す一般的な市街地走行
- 車両が主に短距離で使用される場合
- 山間地や路面の悪い道路での頻繁な使用
- エンジンを長い時間アイドリングさせることが多い場合

上記または類似の使用条件では、エアフィルター、エンジンオイルおよびオイルフィルターなどをより頻繁に交換してください。高い負荷で車両が使用されている場合は、より頻繁にタイヤを交換する必要があります。さらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で見ることができます。

手入れ

全体的な注意事項

🌀 環境

空の容器や使用済みのクリーニングクロスは、環境に配慮した方法で廃棄してください。

! お車の手入れをされる場合は、次のものは絶対に使用しないでください。

- 乾いた布や目の粗い布、硬めの布など
- 研磨剤を含む洗剤
- 溶剤
- 溶剤を含む洗剤

強く擦らないでください。

リングやスクレーパーなどのかたい物が、塗装面や保護膜に触れないようにしてください。塗装面や保護膜が損傷するおそれがあります。

! 特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は、清掃したままで車両を長い間駐車しないでください。ホイールクリーナーが、ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングの錆を増加させる原因になるおそれがあります。このため、清掃した後は数分間走行してください。ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングを、ブレーキ制動により加熱して乾燥させます。その後で駐車してください。

定期的な車の手入れにより、長い期間品質を保つことができます。

メルセデス・ベンツが推奨し、承認した手入れ用品およびクリーナーを使用してください。

外装の手入れ

自動洗車機

⚠️ 警告

自動洗車機で洗車した直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。事故の危険性があります。

車両を洗車した後は、完全にブレーキの性能が元に戻るまでは道路状況に注意して慎重にブレーキ操作を行ってください。

! ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではディストロニック・プラスおよびホールド機能を解除してください：

- けん引されるとき
- 洗車時

! けん引式の洗車機で洗車するときは、オートマチックトランスミッションが **N** の位置にあることを確認してください。トランスミッションが他の位置にあると、車両の損傷につながります。

■ 注意：

- サイドウィンドウとスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。
- ベンチレーション / ヒーターの送風が停止していること (OFF スイッチが押されている / 送風コントローラーが **0** の位置にある)。
- ワイパースイッチが **0** の位置になっていること

車両を損傷するおそれがあります。

最初から自動洗車機で洗車することができます。

ひどい汚れは、自動洗車機で洗車をする前に洗ってください。

自動洗車機を使用した後は、フロントウインドウやワイパーブレードのワックスを拭いてください。フロントウインドウの残留物に起因する汚れを防ぎ、ワイパーのノイズを低減します。

手洗い

国によっては、洗車は専用の洗車場でのみ許可されている場合があります。各国の法規を遵守してください。

- ▶ 熱いお湯は使用せず、直射日光の下で洗車しないでください。
- ▶ 柔らかいスポンジを使用して清掃してください。
- ▶ メルセデス・ベンツにより承認されたカーシャンプーなどの中性洗剤を使用してください。
- ▶ 低圧の水流で車両全体に水をかけてください。
- ▶ 外気取り入れ口には直接水をかけないでください。
- ▶ スポンジをこまめにすすぎながら、十分な量の水を使用します。

- ▶ 車両をきれいな水で洗い流した後、セーム皮で全体を拭きます。
- ▶ 塗装面で洗浄液を乾燥させないでください。

冬に車両を使用したときは、注意しながら道路の塩分堆積物のすべての跡をできるだけ早く除去してください。

高圧式スプレーガン**▲ 警告**

円形ジェットノズル (粉塵グラインダー) の水流は、タイヤまたはシャーシの部品に外見からは目に見えない損傷を引き起こすおそれがあります。このようにして損傷した部品は予期せず故障するおそれがあります。事故の危険性があります。車両の清掃をするときに円形ジェットノズル付きの高圧式スプレーガンを使用しないでください。損傷したタイヤまたはシャーシの部品はすぐに交換してください。

■ 車両と高圧式スプレーガンのノズルの間には、常に最低でも約 30 cm 以上の距離を空けてください。適正な距離については、製品のメーカーにご確認ください。

車両を清掃するときは、高圧式スプレーガンのノズルを円を描くように動かしてください。

以下のものには直接向けないでください。

- タイヤ
- ドアの間隙、ルーフの間隙、継ぎ目など
- 電気装備
- バッテリー
- コネクター
- ライト
- シール
- トリム部品
- 換気用の隙間

シールや電気装備が損傷して、水漏れや故障につながります。

! GLA 45 AMG 4MATIC Edition 1モデル：車両の部品はデコレーションフィルムで覆われています。車両のフィルム部品と高圧式スプレーガンのノズルの間には、少なくとも70 cmの距離を保ってください。

適正な距離については、製品のメーカーにご確認ください。

車両を清掃するときは、高圧式スプレーガンのノズルを円を描くように動かしてください。

車輪の清掃

! ホイールには酸性ホイールクリーナーを絶対に使用しないでください。ホイールボルトやブレーキ部品が損傷するおそれがあります。

! 特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は、清掃したままで車両を長い間駐車しないでください。ホイールクリーナーが、ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングの錆を増加させる原因になるおそれがあります。このため、清掃した後は数分間走行してください。ブレーキディスクやブレーキパッド/ライニングを、ブレーキ制動により加熱して乾燥させます。その後で駐車してください。

塗装面の清掃

! ボディの表面には、次のものを貼り付けしないでください。

- ステッカー
- フィルム
- マグネット

塗装面が損傷するおそれがあります。

▶ 可能であれば、不純物は強くこすらないようにしてただちに取り除いてください。

▶ 虫の死がいや、インセクトリムーバーをしみこませ、その後で手入れを行なった範囲を洗い流してください。

▶ 鳥のふんは、水をしみこませ、その後で手入れを行なった範囲を洗い流してください。

▶ 冷却水、ブレーキ液、樹液、オイル、燃料、グリースなどは、エーテルやライターオイルを染み込ませた布で軽く拭いて、取り除いてください。

▶ タールの汚れは、タール除去剤を使用して取り除いてください。

▶ ワックスは、シリコン除去剤を使用して取り除いてください。

以下のものは常に完全に補修ができるとはかぎりません。

- ひっかき傷
- 腐食堆積物
- 錆に侵された部分
- 適切でない手入れに起因する損傷

このような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

マットペイントの手入れと取り扱い

! 車両や軽合金ホイールを磨かないでください。磨くと光沢がある仕上がりの原因になります。

! 以下により塗装に艶が出て、マット効果が減少することがあります。

- 不適切な素材での力強い研磨
- 洗車機の頻繁な使用
- 直射日光の下での洗車

! 塗装クリーナーや研磨・艶出し用品、ワックスのような光沢復活剤を使用しないでください。これらの製品は、高い艶がある表面のみに適したものです。これ

らの製品をマット仕上げ車両に使用すると、表面の著しい損傷(光沢のあるシム部分)につながります。

塗装面の補修は、常にメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

! ホットワックス仕上げによる洗車サービスは絶対に利用しないでください。

車両がクリアマット仕上げの場合はこれらの注意に従ってください。適切でない取り扱いにより塗装に損傷を与えるのを防ぐのに役立ちます。

これらの注意はクリアマット仕上げの軽合金ホイールにも当てはまります。

i 車両は、柔らかいスポンジやカーシャンプー、たくさんの水を使用して手で洗うようにしてください。

i インセクトリムーバーおよびカーシャンプーは、メルセデス・ベンツが推奨し、承認した中からのみお選びください。

ウインドウの清掃

⚠ 警告

ワイパーを作動の位置のままにしていると、フロントウインドウまたはワイパーブレードの清掃中に、挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。フロントウインドウまたはワイパーブレードを清掃する前に、必ずワイパーおよびエンジンスイッチをオフにしてください。

! 垂直になっているときのみフロントガラスからフロントワイパーを起こしてください。ボンネットを損傷するおそれがあります。

! ウインドウの内側を清掃する場合は、乾いた布や、研磨剤、有機溶剤や有機溶剤を含むクリーナーを使用しないでください。アイススクレーパーや指輪などの硬質のものがウインドウの内側に触れな

いようにしてください。ウインドウを損傷する危険性があります。

! フロントウインドウおよびリアウインドウの排水口を定期的に清掃してください。特定の状況では、葉、花びら、花粉などの堆積物により排水されなくなり、腐食による損傷や電子部品の損傷につながるおそれがあります。

▶ 湿らせた布とメルセデス・ベンツが推奨し、承認したクリーナーでウインドウの内側と外側を清掃してください。

ワイパーブレードの清掃

⚠ 警告

ワイパーを作動の位置のままにしていると、フロントウインドウまたはワイパーブレードの清掃中に、挟まれるおそれがあります。けがの危険性があります。フロントウインドウまたはワイパーブレードを清掃する前に、必ずワイパーおよびエンジンスイッチをオフにしてください。

! 垂直になっているときのみフロントガラスからフロントワイパーを起こしてください。ボンネットを損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードを持って引っ張らないでください。ワイパーブレードが損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードを頻繁に清掃したり、強く擦ったりしないでください。グラファイトコーティングが損傷するおそれがあります。ワイパーからノイズが発生する原因になります。

▶ ワイパーアームをフロントウインドウから起こします。

▶ 湿らせた布を使用して、注意してワイパーブレードを清掃します。

▶ イグニッションをオンにする前に、ワイパーを再度元に戻します。

❗ ワイパーアームを確実に持ってから、元の位置に戻してください。ワイパーアームが不意に当たると、フロントウインドウに傷が付くおそれがあります。

車外ライトの清掃

❗ 必ずプラスチック製レンズに適した洗剤やクリーニングクロスのみを使用してください。適切でない洗剤やクリーニングクロスは、車外ライトのプラスチック製レンズを傷つけたり、損傷するおそれがあります。

- ▶ メルセデス・ベンツ純正シャンプーやクリーニングクロスなど、湿らせたスポンジと中性洗剤を使用して車外ライトのプラスチック製レンズを清掃してください。

ドアミラー方向指示灯の清掃

❗ 必ずプラスチック製レンズに適した洗剤やクリーニングクロスのみを使用してください。適切でない洗剤やクリーニングクロスは、ドアミラー方向指示灯のプラスチック製レンズを傷つけたり、損傷するおそれがあります。

- ▶ メルセデス・ベンツ純正シャンプーやクリーニングクロスなど、湿らせたスポンジと中性洗剤を使用してドアミラーユニットにあるドアミラー方向指示灯のプラスチック製レンズを清掃してください。

センサーの清掃

❗ 高圧式スプレーガンを使用してセンサーを清掃するときは、スプレーガンのノズルと車体の距離を約 30 cm 以上離してください。適正な距離については、製品のメーカーにご確認ください。







- ▶ 走行システムのセンサー ① は、カーシャンプーを混ぜた水で汚れを落とし、柔らかい布で拭き取ってください。

パーキングアシストリアビューカメラの清掃

❗ 高圧式スプレーガンを使用する場合は、カメラのレンズやパーキングアシストリアビューカメラの周囲を避けてください。



- ▶ 停車していること、およびエンジンスイッチのキーが 2 の位置にあることを確認します。
- ▶ パーキングアシストリアビューカメラのカバーを開く：オーディオシステム/COMAND システムを起動して、**[SYS]** スイッチを押します。

- ▶ オーディオシステム/COMAND コントローラーをまわして【◎】、**設定**を選択し、押して  確定します。
- ▶ **リアビューカメラ** を選択し、押して  確定します。
- ▶ **カメラのカバーを開けてください** を選択し、押して  確定します。
パーキングアシストリアビューカメラのカバーが開きます。
- ▶ **パーキングアシストリアビューカメラを清掃する**：清潔な水および柔らかい布を使用して、カメラレンズ  を清掃してください。

! エンジンスイッチのキーが **0** の位置にあるとき、カメラのカバーは自動的に閉じます。

マフラーの清掃

路面の小石や腐食性の環境物質などが混ざった不純物が、マフラーの表面に発生する錆の原因になることがあります。特に、冬の間や洗車後など、定期的に清掃することにより、マフラー本来の輝きを取り戻すことができます。

! ホイールクリーナーなど、酸性のクリーナーでマフラーを清掃しないでください。

▶ メルセデス・ベンツ純正の専用手入れ用品でマフラーを清掃してください。

! ブラックマフラーを装備した AMG 車：メッキ用研磨剤を使用して黒いクロームメッキ面を磨かないでください。滑らかな黒い光沢が失われるおそれがあります。洗車後は、毎回オイルを軽く含ませた布でマフラー表面を拭いてください。このオイルには、市販のエンジンオイルや、WD 40 または Ballistol が適しています。

車内の手入れ

ディスプレイの清掃

! ディスプレイの手入れには、以下のものは絶対に使用しないでください。

- アルコールやシンナー、ガソリン
- 研磨剤を含む洗剤
- 市販の家庭用洗剤

これらを使用すると、ディスプレイ表面のコーティングを傷付けるおそれがあります。ディスプレイ表面を強くこすらないでください。ディスプレイが損傷して修理できなくなるおそれがあります。

- ▶ ディスプレイを清掃する前に、オフになっていて、冷めていることを確認します。
- ▶ 市販のマイクロファイバークロスと TFT 液晶ディスプレイクリーナーを使用して、ディスプレイ表面を清掃します。
- ▶ 乾いたマイクロファイバークロスを使用してディスプレイ表面を拭きます。

プラスチックトリムの清掃

警告

手入れおよび清掃で、溶剤を含む洗剤を使用すると、ダッシュボードの表面がもろくなります。エアバッグが展開するときに、プラスチック部品が破損するおそれがあります。けがの危険性があります。ダッシュボードの手入れおよび清掃で、溶剤を含む洗剤を使用しないでください。

! プラスチックの表面には、以下のものを貼り付けしないでください。

- ステッカー
 - フィルム
 - 芳香ボトルや類似のもの
- プラスチックを損傷するおそれがあります。

❗ 化粧品、殺虫剤、日焼け止めなどが樹脂製トリムに付着しないようにしてください。表面の光沢や質感が損なわれるおそれがあります。

- ▶ 湿らせたマイクロファイバークロスなどの柔らかい布でプラスチックトリムを拭きます。
- ▶ **汚れがひどいとき**：メルセデス・ベンツにより推奨され、承認されたカーケア用品および清掃用品を使用してください。表面が一時的に変色することがあります。表面が再度乾くまでお待ちください。

ステアリングおよびギアまたはセレクターレバーの清掃

- ▶ 湿らせた布、またはメルセデスベンツによって推奨され承認された手入れ用品を使用して全体を拭いてください。

ウッドトリムおよびトリムエレメントの清掃

- ❗ タール除去剤、ホイールクリーナー、光沢剤、ワックスなどの有機溶剤を絶対に使用しないでください。トリム表面を傷つけるおそれがあります。
- ▶ ウッドトリムやトリム部品は、湿らせたマイクロファイバークロスなどの柔らかい布で拭いてください。
- ▶ **汚れがひどいとき**：メルセデス・ベンツにより推奨され、承認されたカーケア用品および清掃用品を使用してください。

シートカバーの清掃

全体的な注意事項

❗ 純正本革、人工皮革またはDINAMICAの表皮の清掃には、マイクロファイバークロスを使用しないでくだ

さい。頻繁に使用すると、表皮を損傷するおそれがあります。

i シートの外観と快適性をいつまでも保つためには、定期的な手入れが大切です。

本革シートカバー

革は天然素材です。

表面には次のように自然な特徴がありません。

- 組織の不均一
- 成長や傷に起因する痕
- 微妙な色の違い

これらは革の特徴であり、製品の欠陥ではありません。

❗ 革本来の特性を保つには、以下の日常の手入れを遵守してください。

- 純正本革の表皮は、湿らせた布で注意して清掃し、その後に乾いた布で表皮を拭きます。
- 革が濡れないように注意してください。硬化やひび割れにつながります。
- メルセデス・ベンツがテストし、承認したレザーケア用品のみを使用してください。詳細はメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

そのほかの素材のシートカバー

❗ 清掃するときは、以下のことに注意してください。

- 人工皮革のカバーは、1%の洗剤（洗濯液など）を含む溶液で湿らせた布で清掃します。
- 布の表皮は、1%の洗剤（洗濯液など）を含む溶液で湿らせたマイクロファイバークロスで清掃します。注意深く汚れを落とし、シート全体をまんべんなく拭き取り、拭き跡が残らないようにします。その後、シートを乾燥させます。清掃の効果は、汚れの種類および

どの程度の期間汚れていたかによります。

- アルカンタラ® の表皮は、湿らせた布で清掃します。目に見える線が残らないように、シート全体をまんべんなく拭きます。

シートベルトの清掃

⚠ 警告

シートベルトは漂白や染色によって劣化する可能性があります。その結果、シートベルトが事故のときにちぎれたり、機能しなくなる可能性があります。これにより、けがまたは致命的なけがの危険性が高まります。

シートベルトを漂白したり、染色したり決してしないでください。

■ シートベルトの手入れには、ケミカル洗剤を使用しないでください。約 80 °C 以上の温度や直射日光に当てて乾燥させないでください。

▶ めるま湯と中性洗剤を使用します。

ルーフライニングとカーペットの清掃

▶ **ルーフライニング**：非常に汚れている場合は、柔らかいブラシ、またはメルセデス・ベンツにより推奨され、承認されたクリーナーを使用してください。

▶ **カーペット**：メルセデス・ベンツによって推奨および承認されてるカーペットや布用のクリーナーを使用します。

役に立つ情報	338
車載品の収納場所	338
パンク	340
バッテリー（車両）	345
ジャンプスタート	349
けん引およびけん引始動	352
ヒューズ	355

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場で情報をご覧ください。(▷ 25 ページ)

車載品の収納場所

非常信号用具

車内には懐中電灯が装備されています。運転席ドアまたは助手席ドアのいずれかの小物入れに収納されています。

i 新品の懐中電灯には電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙片が挟まれています。初めて使用する前に、紙片を取り除きます。

i 懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。電池が切れたら交換してください。

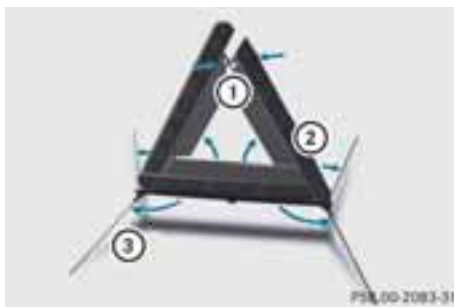
停止表示板

停止表示板の取り外し/取り付け



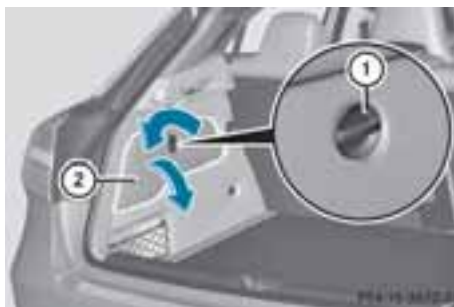
- ▶ **取り外す**： テールゲートを開きます。
- ▶ ラゲッジルームフロアを上方に開きます (▷ 311 ページ)。
- ▶ 停止表示板 ① のロックを解除するためには、ブラケットの固定具を後方に押しします。
- ▶ 停止表示板 ① をブラケットから取り外します。
- ▶ **取り付ける**： 停止表示板 ① をブラケットに戻し、押し下げて固定します。

停止表示板の組み立て



- ▶ 脚部 ③ を横にひろげます。
- ▶ 側方の反射板 ② を上方に起こして三角形を作り、押し込み式スタッド ① を使用して、上部で固定します。

救急セット



- ▶ テールゲートを開きます。
- ▶ **小物入れを開く**：回転ノブ ① を反時計回りにまわし、カバー ② を下に倒します。



- ▶ 救急セット ③ を取り出します。

i 最低 1 年に 1 回、救急セット ③ の使用期限を点検してください。必要な場合は内容物を交換し、なくなった物は補充してください。

車載工具

全体的な注意事項

タイヤフィットキット装備車両：タイヤフィットキットはラゲッジルームのフロア下の収納スペースにあります。

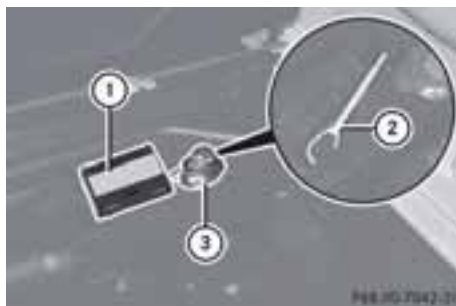
タイヤ交換工具キット装備車両：タイヤ交換工具キットはラゲッジルームのフロア下の収納スペースにあります。

i 国ごとの仕様の違いによって、車両にはタイヤ交換工具は装備されていません。タイヤ交換用工具の中には、その車両専用のものが含まれています。車両のタイヤ交換を行なうために必要となる、承認されたタイヤ交換工具についての詳細情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

必要なタイヤ交換工具としては、以下のものなどが含まれます。

- ジャッキ
- 輪止め
- ホイールレンチ

タイヤフィットキット装備車両



- ① タイヤ空気充填コンプレッサー
- ② けん引フック
- ③ タイヤフィット充填ボトル

- ▶ テールゲートを開きます。
- ▶ ラゲッジルームのフロアを上方に開きます (▶ 311 ページ)。
- ▶ タイヤフィットキットを使用します (▶ 341 ページ)。

i けん引フック ② はタイヤ空気充填コンプレッサー ① の下にあります。

タイヤ交換工具キット装備車両

- ▶ テールゲートを開きます。
 - ▶ ラゲッジルームのフロアを上方に開きます (▶ 311 ページ)。
 - ▶ タイヤ交換工具キットを取り外します。
- タイヤ交換工具キットには以下のものが含まれます。

- ジャッキ
- ホイールレンチ
- 手袋
- 折りたたみ式輪止め

パンク

車両の準備

お客様の車両には、以下が装備されていることがあります。

- MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）（▶ 340 ページ）

MOExtended タイヤ装備車両では、車両の準備作業は必要ありません。

- タイヤフィットキット（▶ 339 ページ）
- 応急用スペアタイヤ（一部の国のみ）

車輪の交換 / 装着に関する情報（▶ 368 ページ）

- ▶ 交通からできるだけ離れた、かたく滑らない水平な場所に車両を停車します。
- ▶ 非常点滅灯を作動させます。
- ▶ 動き出さないように、車両を固定します（▶ 180 ページ）。
- ▶ 可能な場合は、前輪を直進位置にしてください。
- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ 乗員全員を車両から降ろします。そのときは、彼らが危険にさらされないことを確認してください。
- ▶ タイヤ交換をするときは、危険なエリアの近くに誰もいないことを確認してください。タイヤ交換を直接補助しない人は、フェンスの向こう側に立つなどしてください。
- ▶ 車両から降りてください。そのときは交通状況に注意してください。
- ▶ 運転席ドアを閉じます。
- ▶ 適切な距離を離して停止表示板を置きます（▶ 338 ページ）。法規を遵守してください。

i 自動車道路や高速道路では、停止表示板を使用することにより後続車両に警告を発することが法律で義務付けられています。

i MOExtended タイヤ装備車両は、出荷時にタイヤフィットキットを装備していません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットキットを追加で装備することをお勧めします。タイヤフィットキットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）

全体的な注意事項

MOExtended タイヤ（ランフラットタイヤ）により、1 本または複数のタイヤの空気圧がすべて損失しても、車両の走行を続けることができます。影響を受けたタイヤには明らかに目に見える損傷があるとは限りません。

タイヤウォールの MOExtended マークで MOExtended タイヤを識別できます。このマークはタイヤサイズ表示、耐荷重性能、スピードインデックスの横に表示されています。

MOExtended タイヤは、作動しているタイヤ空気圧警告システムとの組み合わせでのみ使用することができます。

マルチファンクションディスプレイに空気圧警告メッセージが表示された場合：

- ディスプレイメッセージの指示に従ってください。（▶ 283 ページ）
- タイヤに損傷があるかを確認してください。
- 運転する場合は、以下の注意事項を遵守してください。

最長走行距離は、車両に部分的に積載しているときは約 80 km、車両にいっぱいまで積載をしているときは約 30 km です。

車両の荷物に加えて、走行可能な距離は以下によって異なります。

- 走行速度
- 道路状況
- 外気温度

ランフラットモードで走行可能な距離は、極端な走行状況 / 操作によって短くなったり、穏やかな運転スタイルによって長くなることがあります。

走行可能な距離は、タイヤ空気圧警告システムの警告メッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されたときに起点になります。

最高速度が約 80 km/h を超えないようにしてください。

i 1 本または 4 本すべてのタイヤを交換するときは、必ず以下のみを使用してください。

- 車両に指定されたタイヤサイズ
- "MOExtended" マーク付きタイヤ

タイヤがパンクし、MOExtended タイヤと交換できない場合は、一時的な措置として標準タイヤを使用してください。必ず適正なサイズと適正な種類（サマータイヤまたはウィンタータイヤ）を使用してください。

i MOExtended タイヤ装備車両は、出荷時にタイヤフィットキットを装備していません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットキットを追加で装備することをお勧めします。タイヤフィットキットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

エマーゼンシーモードで運転すると、コーナリングや急加速、ブレーキ時など

に走行特性が低下します。事故の危険性があります。

規定の最高速度を超えないでください。急激なステアリング操作、運転操作、障害物(縁石、穴、オフロード)を超える運転を避けてください。これは特に荷物積載時にあてはまります。

以下の場合、エマーゼンシーモードでの運転は中止してください。

- 大きい異音が聞こえるとき
- 車に振動が発生するとき
- 煙やタイヤの焦げる臭いが発生するとき
- ESP®が常時作動するとき
- タイヤのサイドウォールに裂け目があるとき

エマーゼンシーモードでの運転のあとは、さらに使用できるかの確認のためにホイールリムをメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検してください。不具合のあるタイヤは新品と交換してください。

タイヤフィットキット

重要な安全上の注意事項

タイヤフィットはタイヤシーラント剤です。

タイヤフィットを使用して、4 mm 以下のパンク、特にタイヤトレッドにあるものをふさぐことができます。タイヤフィットは、-20 °Cまでの外気温度で使用できます。

⚠ 警告

以下の状況のときは、タイヤフィットが十分に機能しないため、タイヤを適切に修理することはできません。

- 上記に記した以上のタイヤの裂け目や穴
- ホイールリムが損傷しているとき
- 非常に低い空気圧、またはパンクした状態で走行したとき

事故の危険性があります。

それ以上走行しないでください。メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

⚠ 警告

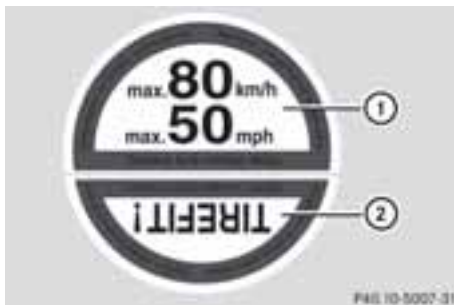
タイヤフィットは有害で、炎症を起こす原因となります。皮膚、眼、服に付着させたり、吸い込んだりしないようにしてください。タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。タイヤフィットは子供の手の届かないところに保管してください。負傷するおそれがあります。

タイヤフィットが付着した場合は、以下の指示にしたがってください。

- タイヤフィットをただちに水道水で皮膚から洗い流してください。
- タイヤフィットが眼に付着した場合は、ただちに水道水で十分に洗い流してください。
- 万一、タイヤフィットを飲み込んだ場合は、ただちに水道水で口を十分すすぎ、水道水を大量に飲ませてください。無理に吐かせないでください。ただちに専門医の診断を受けてください。
- タイヤフィットが付着した衣類は、ただちに着替えてください。
- アレルギー反応が生じた場合は、ただちに専門医の診断を受けてください。

タイヤ充填コンプレッサーのステッカーにあるメーカーの安全上の説明を遵守してください。

タイヤフィットキットの使用



タイヤフィットステッカー、2分割

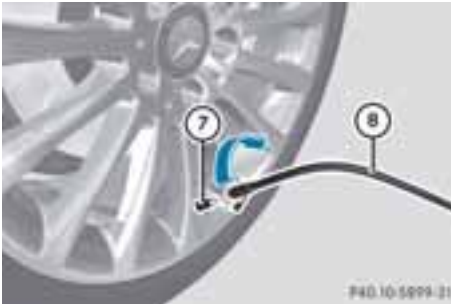
- ▶ タイヤに刺さったクギやネジなどは取り除かないでください。
- ▶ ラゲッジルームフロア下の収納スペースからタイヤフィットのボトル、付属のタイヤフィットステッカー、およびタイヤ充填コンプレッサーを取り出します(▶ 339 ページ)。
- ▶ タイヤフィットステッカーの部分 ① を運転者の見やすい位置に貼ります。
- ▶ タイヤフィットステッカーの部分 ② を不具合のあるタイヤのホイールのバルブ付近に貼ります。



- ▶ 充填ホース ⑥ およびプラグ ③ をタイヤ充填コンプレッサーのケースの底部から取り外します。
- ▶ プラグが固定されるまで、黄色の充填ホースコネクターをタイヤフィットの

ボトル①の黄色のキャップ⑤の取り付け部にスライドします。

- ▶ 前部のシーリングリングで、キャップおよび両方のフックが固定されるまで、タイヤフィットのボトル①の黄色のキャップ⑤をタイヤ充填コンプレッサー②の取り付け部にスライドします。



- ▶ パンクしたタイヤのバルブ⑦からキャップを取り外します。
- ▶ 充填ホース⑧をバルブに締めます。
- ▶ 電源プラグ③を車内のライター(▶ 315 ページ)のソケットまたは12V電源ソケット(▶ 315 ページ)に差し込みます。
- ▶ イグニッションスイッチを1の位置にまわします(▶ 161 ページ)。
- ▶ タイヤ充填コンプレッサーのオン/オフスイッチ④をONに押します。
電動エアポンプが作動し始めます。応急用スペアタイヤに空気が送り込まれます。

i 最初に、タイヤにタイヤフィットが送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約500 kPa (5 bar / 73 psi) まで高まる場合があります。

この間は、タイヤ充填コンプレッサーを停止しないでください。

- ▶ タイヤ充填コンプレッサーを最大約10分間作動させます。その後にはタイヤは

約200 kPa (2.0 bar/29 psi) 以上の圧力になっていなければなりません。

! 絶え間なくタイヤ充填コンプレッサーを約10分以上作動させないでください。オーバーヒートするおそれがあります。冷えたら再度、タイヤ充填コンプレッサーを作動させることができます。

タイヤ空気圧が200 kPa (2.0 bar/29 psi) に達した場合、(▶ 344 ページ) をご覧ください。

タイヤ空気圧が200 kPa (2.0 bar/29 psi) に達しなかった場合、(▶ 343 ページ) をご覧ください。

i タイヤフィットが漏れ出た場合は、そのまま乾燥させてください。フィルム状になり、剥がすことができます。

衣類にタイヤフィットが附着した場合は、できるだけ早くパークロロエチレンでクリーニングしてください。

不十分なタイヤ空気圧

10分後にタイヤ空気圧が200 kPa (2.0 bar/29 psi) に達していない場合：

- ▶ タイヤ充填コンプレッサーを停止します。
- ▶ 不具合のあるタイヤのバルブから充填ホースを外します。
- ▶ ごく低速で約10m前進または後退します。
- ▶ 再度、タイヤに空気を注入します。

10分後までには、タイヤ空気圧は200 kPa (2.0 bar/29 psi) 以上になっていなければなりません。

⚠ 警告

規定の時間が経過したのに、必要十分なタイヤ空気圧に達しない場合は、タイヤは致命的に損傷しており、タイヤフィットによるタイヤ修理はできません。損傷したタイヤや非常に低下したタイヤ空気

圧により、車両のブレーキや走行特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。

それ以上走行を続けしないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

十分なタイヤ空気圧

⚠ 警告

タイヤフィットで一時的に修理したタイヤは車両操縦性が損なわれてしまい、高速走行には適しません。事故の危険性があります。

そのため、状況に応じて運転スタイルを調整し慎重に走行してください。タイヤフィットで修理したタイヤで走行する場合は、指定された最高速度を超過しないでください。

■ 使用後は、ホースから余分なタイヤフィットが漏れることがあります。タイヤフィットが付着すると、シミの原因になります。

したがって、ホースはタイヤフィットが収納されていた袋に入れてください。

🌀 環境保護に関する注意

使用済みのタイヤフィットのボトルを廃棄処分する場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご依頼ください。

約 10 分後にタイヤ空気圧が約 200 kPa (2.0 bar/29 psi) に達した場合：

- ▶ タイヤ充填コンプレッサーを停止します。
- ▶ 不具合のあるタイヤのバルブから充填ホースを外します。
- ▶ タイヤフィットのボトル、タイヤ充填コンプレッサーおよび停止表示板を収納します。
- ▶ **ただちに発進します。**

タイヤフィットで修理されたタイヤの最高速度は 80 km/h です。運転者が容易に視認できるメーターパネル内に、タイヤフィットステッカーの上部を貼付してください。

- ▶ 約 10 分間走行した後に停止し、タイヤ充填コンプレッサーでタイヤ空気圧を点検します。
タイヤ空気圧が 130 kPa (1.3 bar/19 psi) 以上でなければなりません。

⚠ 警告

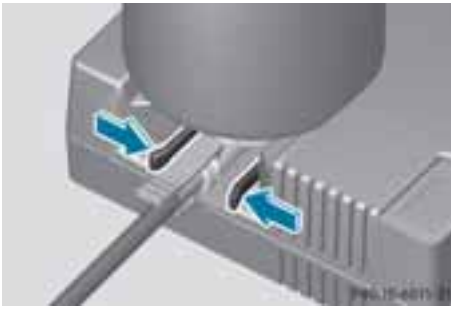
短時間の走行後に規定タイヤ空気圧に達しない場合は、タイヤがひどく損傷しています。この場合は、タイヤフィットでタイヤを修理することができません。タイヤの損傷およびタイヤ空気圧が低すぎるにより、車両のブレーキ操作や操縦性が著しく損なわれるおそれがあります。事故発生の危険性があります。

それ以上走行を続けずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。

- ▶ タイヤ空気圧がまだ 130 kPa (1.3 bar/19 psi) 以上の場合は修正します。数値は燃料給油口フラップをご覧ください。
- ▶ **タイヤ空気圧を上げる：** タイヤ充填コンプレッサーを作動させます。



- ▶ **タイヤ空気圧を下げる：** 空気圧ゲージ ② の横にある空気圧調整スイッチ ① を押します。



- ▶ タイヤ充填コンプレッサーからタイヤフィットのボトルを取り外すためには、黄色いキャップのロックタブを一緒に押します。
- ▶ タイヤフィットのボトルをタイヤ充填コンプレッサーから引き出します。充填ホースはタイヤフィットのボトルにとどまったままになります。
- ▶ タイヤフィットのボトル、タイヤ充填コンプレッサーおよび停止表示板を収納します。
- ▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、そこでタイヤを交換してください。
- ▶ タイヤフィットのボトルおよび充填ホースはできるだけ早くメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですべて交換してください。
- ▶ タイヤフィットのボトルは 4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですべて交換してください。

バッテリー（車両）

重要な安全上の注意事項

取り外し、または取り付けなどのバッテリーの作業は、専門的な知識および専用工具の使用が必要です。したがって、バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ 警告

バッテリーに不適切な作業を行なうと、例えばショートにつながり、車両の電子部品を損傷します。これにより、ライトシステム、ABS（アンチロック・ブレーキングシステム）または ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）のような安全に関連したシステムに機能の制限を与えることにつながることがあります。車両の操作安全性が制限されるおそれがあります。例えば、以下のときに車両のコントロールを失うおそれがあります。

- ブレーキ時
- 急なステアリング操作時、および/または車両速度が道路の状態に合っていないとき

事故の危険性があります。

ショート、または似たような出来事のあるときは、すぐにメルセデス・ベンツ指定サービス工場にご連絡ください。それ以上走行しないでください。バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。

ABS (▷ 73 ページ) および ESP® (▷ 77 ページ)に関するさらなる情報

⚠ 警告

静電気を帯びていると、火花が発生してバッテリーから発生する高可燃性のガスに引火することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱う前に、車体に触れて身体の静電気を放電させてください。

バッテリーを充電している間、およびジャンプスタートを行なっているときは、可燃性の高い混合ガスが発生します。

お客様にも、そしてバッテリーにも静電気が帯電していないことを常に確認してください。静電気の帯電は以下のときなどに発生します。

- 合成繊維製の衣服を着用しているとき
- 衣服とシートの間で摩擦が起こるとき

- カーペットまたは他の合成物質の上でバッテリーを押す、または引いたとき
- バッテリーを布で拭いたとき

⚠ 警告

充電中はバッテリーから水素ガスが発生します。バッテリーのショートや火花の発生により、水素ガスに引火するおそれがあります。爆発の危険性があります。

- 接続されたバッテリーのプラス端子が車両部品と接触していないことを確認してください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- バッテリーの接続および切り離しを行なうときは、記載された手順通りにバッテリー端子を接続することが重要です。
- ジャンプスタートを行なうときは、同じ極のバッテリー端子を接続していることを確認してください。
- ブースターケーブルの接続、切り離しを行なうときは、記載された手順に従うことが特に重要です。
- エンジン作動中は、決してバッテリー端子の接続または切り離しを行なわないでください。

⚠ 警告

バッテリー液は腐食性があります。けがをします。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。バッテリーをのぞき込まないでください。バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。バッテリー液が付着したときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

🌿 環境保護に関する注意



電池には環境汚染物質が含まれています。電池を家庭用ゴミとして廃棄することは法律で禁じられ

ています。使用済みの電池は個別に回収し、環境に適合するリサイクル方法で処分してください。



電池は環境に配慮した方法で廃棄してください。使用済みの電池は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお持ちいただくか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

! メルセデス・ベンツ指定サービス工場
でバッテリーの点検を定期的に受けてください。

整備手帳のメンテナンスインターバルを確認するか、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! バッテリーに関する作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。やむを得ずお客様自身でバッテリーを切り離す必要がある場合は、以下の注意事項をお守りください。

- エンジンを停止し、キーを抜き取ります。メーターパネルのすべての表示灯が消灯していることを確認します。オルタネーターなどの電子部品を損傷するおそれがあります。
- 先にマイナス端子、次にプラス端子を外します。決して端子を逆に接続しないでください。車両の電子部品を損傷するおそれがあります。
- オートマチックトランスミッション搭載車では、バッテリーを切り離した後、シフトポジションが **P** にロックされます。車両が動き出さないように固定されます。そのため、車両を動かすことができなくなります。

運転中はバッテリーおよびプラス端子のカバーを確実に装着しておく必要があります。

バッテリーを取り扱うときは、安全上の注意事項および防護措置を守ってください。



警告



バッテリーを取り扱うときは、火気や裸火、タバコは禁止です。火花の発生は避けてください。



バッテリー液は腐食性があります。皮膚、目または衣服への付着を防いでください。

手袋やエプロン、マスクなど、適切な保護衣を着用してください。

清潔な水で、ただちに飛散した酸を洗い流してください。必要に応じて、医師の診察を受けてください。

保護眼鏡を着用してください。



子供を近づけないでください。



取扱説明書の指示に従ってください。

安全のため、バッテリーは必ず純正品を使用してください。これらのバッテリーは、衝撃抵抗が高いため、事故の際にバッテリーが損傷した場合にも結果として、乗員が酸によるやけどを負う危険性はありません。

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分に充電されていることが必要です。

車両のバッテリーは他のバッテリーと同様に、車両を使用しないと、徐々に放電

する可能性があります。そのような場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのバッテリーの接続を外す作業を依頼してください。純正バッテリー充電器を使用してバッテリーを充電することもできます。詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車両を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多い場合は、通常よりも頻りにバッテリー液量や充電状態を点検してください。車両を長期間使用しないときの保管方法については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i 駐車時に電気装備を必要としないときは、キーを抜いてください。エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、電力をわずかに消費します。

i 電力供給が中断した場合、例えば、バッテリーが放電した場合は、以下のことを行ってください。

- 時刻を設定します（別冊のCOMANDシステム取扱説明書を参照してください）。
- ミラーを一度展開して、ドアミラーの自動展開/格納機能をリセットします（▶ 119 ページ）。

バッテリーの充電

⚠ 警告

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、可燃性のガスがバッテリーから発生することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱うときは、特に火気や裸火、火花、タバコなどを近づけないでください。バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、十分な換気を確保してください。バッテリーをのぞき込まないでください。

⚠ 警告

バッテリー液は腐食性があります。けがを
するおそれがあります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意
してください。バッテリーから発生する
ガスを吸い込まないでください。バッテ
リーをのぞき込まないでください。バッ
テリーは子供の手が届かない場所に保管
してください。バッテリー液が付着した
ときはただちに水洗いし、医師の診察を
受けてください。

⚠ 警告

放電したバッテリーは、気温が氷点下にな
ると凍結するおそれがあります。ジャン
プスタートやバッテリーの充電を行な
うときは、バッテリーからガスが発生す
ることがあります。爆発の危険性があ
ります。

バッテリーの充電やジャンプスタートを
行なう前に、凍結したバッテリー液を解
凍してください。

**❗ 必ず最大充電電圧が約 14.8 V のバッ
テリー充電器を使用してください。**

**❗ バッテリーを充電する場合は、必ず
ジャンプスタートターミナルを使用して
ください。**

ジャンプスタートターミナルは、エンジ
ンルーム（▷ 349 ページ）内にあります。

- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ ジャンプスタートにより救援車のバッ
テリーを接続したときと同じ順序で、
バッテリー充電器をプラス端子とア
ース端子に接続してください。（▷ 349
ページ）

低温時に、表示灯 / 警告灯が点灯しない
場合は、放電したバッテリーが凍結して
いることがあります。このような場合は、
バッテリーを充電することも車両をジャン
プスタートすることもできないことが
あります。解凍したバッテリーの寿命は
短くなる場合があります。特に低温時の

始動性能が損なわれることがあります。
メルセデス・ベンツ指定サービス工場
で解凍したバッテリーの点検を受けてく
ださい。

バッテリーの充電に使用する充電器は、
必ず純正品を使用してください。メルセ
デス・ベンツ車両用に特別に適合した、
メルセデス・ベンツによりテストおよび
承認されたバッテリー充電器ユニットは
アクセサリとして入手できます。搭載
された位置のままでのみ、バッテリーの
充電が許可されています。情報および入
手については、メルセデス・ベンツ指定
サービス工場におたずねください。バッ
テリーを充電する前に、バッテリー充電
器の取扱説明書をお読みください。

ジャンプスタート

ジャンプスタートには、エンジンルーム内のプラス端子とアースポイントで構成されているジャンプスタートターミナルのみを使用してください。

⚠ 警告

バッテリー液は腐食性があります。けがをするおそれがあります。

皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。バッテリーから発生するガスを吸い込まないでください。バッテリーをのぞき込まないでください。バッテリーは子供の手が届かない場所に保管してください。バッテリー液が付着したときはただちに水洗いし、医師の診察を受けてください。

⚠ 警告

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、可燃性のガスがバッテリーから発生することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーを取り扱うときは、特に火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。バッテリーの充電やジャンプスタートを行なうときは、十分な換気を確保してください。バッテリーをのぞき込まないでください。

⚠ 警告

充電中はバッテリーから水素ガスが発生します。バッテリーのショートや火花の発生により、水素ガスに引火するおそれがあります。爆発の危険性があります。

- 接続されたバッテリーのプラス端子が車両部品と接触していないことを確認してください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。
- バッテリーの接続および切り離しを行なうときは、記載された手順通りにバッテリー端子を接続することが重要です。
- ジャンプスタートを行なうときは、同じ極のバッテリー端子を接続していることを確認してください。
- ブースターケーブルの接続、切り離しを行なうときは、記載された手順に従うことが特に重要です。
- エンジン作動中は、決してバッテリー端子の接続または切り離しを行なわないでください。

⚠ 警告

放電したバッテリーは、気温が氷点下になると凍結するおそれがあります。ジャンプスタートやバッテリーの充電を行なうときは、バッテリーからガスが発生することがあります。爆発の危険性があります。

バッテリーの充電やジャンプスタートを行なう前に、凍結したバッテリー液を解凍してください。

! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。未燃焼燃料によって触媒が損傷するおそれがあります。

低温時に、表示灯 / 警告灯が点灯しない場合は、放電したバッテリーが凍結していることが多いです。このような場合は、車両をジャンプスタートすることも、またはバッテリーを充電することもできないことがあります。解凍したバッテリーの寿命は短くなる場合があります。特に低温時の始動性能が損なわれる場合があります。解凍したバッテリーは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

車両の始動のために急速充電器を使用しないでください。車両のバッテリーが放電したときは、ブースターケーブルを使用して他の車両や補助バッテリーからエンジンをジャンプスタートすることができます。以下の点に注意してください。

- すべての車両でバッテリーに手が届くわけではありません。他の車両のバッテリーに手が届かない場合は、補助バッテリーまたはジャンプスタート機器を使用して、車両をジャンプスタートしてください。
- エンジンおよび排気システムが冷えているときにのみ、車両のジャンプスタートを行ってください。
- バッテリー液が凍結している場合は、エンジンを始動することはできません。最初にバッテリーを解凍してください。
- ジャンプスタートは、定格電圧 12 V のバッテリーからのみ行なうことができます。
- 十分な太さがあり、絶縁された端子クランプを持つブースターケーブルのみを使用してください。
- バッテリーが完全に放電した場合は、始動を試みる前に、ジャンプスタートに使用するために接続されたバッテリーを数分間そのままにしてください。これにより、放電したバッテリーに若干充電されます。
- 2 台の車両が接触していないことを確認します。

以下のことを確認してください。

- ブースターケーブルが損傷していない。
- ブースターケーブルがバッテリーに接続されている間、端子クランプの絶縁されていない部分が他の金属部品と接触していない。
- エンジンがかかっているときに、V ベルトプーリーやファンなどの部品にブースターケーブルが接触していない。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせて、車両が動き出さないように固定します。
- ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **O** の位置にまわして、抜きます。
- ▶ リアデフォグラー、ライトなどすべての電気装備を停止します。
- ▶ ボンネットを開きます。



位置番号 ⑥ は、他車の充電されているバッテリーまたは対応するジャンプスタート機器を示しています。

- ▶ プラス端子 ② のカバー ① を押し、同時に後ろにスライドさせます。
- ▶ ブースターケーブルを使用して、自車のプラス端子 ② を救援用バッテリー ⑥ のプラス端子 ③ に接続します。自分自身のバッテリーから始めます。
- ▶ 救援車両のエンジンを始動し、アイドリング回転数で作動させます。
- ▶ 救援用バッテリー ⑥ に最初にブースターケーブルを接続するようにして、ブースターケーブルを使用して救援用バッテリー ⑥ のマイナス端子 ④ を自車のアースポイント ⑤ に接続します。
- ▶ エンジンを始動します。
- ▶ ブースターケーブルを外す前に、エンジンを数分間作動させてください。
- ▶ 最初に、アースポイント ⑤ とマイナス端子 ④ から、次にプラスクランプ ② とプラス端子 ③ から、ブースターケーブルを取り外します。いずれの際も、最初に自車の端子から開始してください。
- ▶ ブースターケーブルを取り外した後に、プラス端子 ② のカバー ① を閉じます。
- ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でのバッテリーの点検を受けてください。

i ジャンプスタートは、通常の操作状況とはみなされていません。

i ジャンプスタートのケーブル、およびジャンプスタートについての詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。

けん引およびけん引始動

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

安全性に関連する機能は以下の場合に制限されるか、または使用できなくなります。

- エンジンが作動しないとき
- ブレーキシステムまたはパワーステアリングに不具合がある
- 電圧供給または車両の電気システムに不具合がある

車両をけん引する場合は、ステアリング操作、またはブレーキ操作により大きな力が必要になることがあります。事故の危険性があります。

そのような場合は、けん引バーを使用してください。けん引する前に、ステアリングが自由に動くことを確認してください。

⚠ 警告

自車の許容総重量より重い車をけん引またはけん引始動しようとする、以下の状態が発生するおそれがあります。

- けん引フックが外れる。
- トレーラーを連結した車両が横転する。

事故が起こるおそれがあります。

他車をけん引またはけん引始動するときは、自車の許容総重量より軽い車でなければなりません。

❗ コリジョンプリベンションアシストプラス、ディストロニック・プラスまたはホールド機能が作動すると、特定の状況で車両に自動的にブレーキがかかります。車両の損傷を防ぐため、次のような状況ではこれらのシステムが解除してください。:

- けん引時
- 洗車時

❗ けん引ロープやロッドは、けん引フック以外にはかけないでください。車体が損傷するおそれがあります。

❗ けん引ロープを使用してけん引を行う場合は、必ず以下の点に注意してください。

- ロープは、両車とも同じ側につないでください。
- けん引ロープの長さは5m以内である必要があります。その中間に白い布(30x30cm)を付けて、けん引中であることが周囲から明確にわかるようにしてください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- 走行中は、けん引する車のブレーキランプに注意してください。常に車間距離を維持しつつ、ロープをたるませないように走行してください。
- ワイヤロープや金属製のチェーンは使用しないでください。車体に傷が付くおそれがあります。

❗ スタックから脱出するためにけん引フックを使用しないでください。車体を損傷するおそれがあります。できれば、クレーンを使用して車両を脱出させてください。

❗ けん引する時は、ゆっくりとスムーズにけん引します。けん引力が大きすぎると、車両が損傷するおそれがあります。

❗ 車両は最長で約50kmまでけん引できます。けん引する際の速度は、約30km/hを超えないようにしてください。

距離が約50kmを超える場合は、必ず車両全体をリフトアップして、車両運搬車を利用してください。

❗ お客様の車両より重い車両のけん引またはけん引始動は絶対に避けてください。

❗ オートマチック車はけん引始動しないでください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。

けん引やけん引始動を行なうときは、各国の法規を遵守してください。

できるだけ、けん引よりも車両を運搬するようにしてください。

車両をけん引するときは、オートマチックトランスミッションがポジション **N** になければなりません。

バッテリーが接続されていて、充電されていないと、以下ようになります。

- エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわすことができません
- トランスミッションをポジション **N** に動かすことができません

i 車両をけん引する前に、車速感応ドアロックを解除してください (▶ 246 ページ)。さもないと、車両を押したり、けん引するときに、閉め出されるおそれがあります。

車両をけん引する前に、けん引防止機能 (▶ 83 ページ) を解除してください。

けん引フックの取り付け/取り外し

けん引フックの取り付け



例：けん引フック取り付け部のカバー

▶ けん引フックを収納スペースから取り外します。

けん引フックは、ラゲッジルーム下の車両工具キットにあります (▶ 339 ページ)。

タイヤフィットキット装備車両：けん引フックは、タイヤ空気充填コンプレッサー下にあります。

- ▶ カバーの **①** のマークを矢印の方向に内側に押します。
- ▶ カバー **①** を開口部から取り外します。
- ▶ 停止するまで時計回りにけん引フックをまわし、締め付けます。

けん引フックの取り外し

- ▶ けん引フックを緩めて取り外します。
- ▶ カバー **①** の上部をバンパーに合わせ、固定されるまで底部を押します。

- ▶ けん引フックをラゲッジルームフロア下の収納スペースに置きます (▷ 339 ページ)。
- ▶ タイヤフィットキット装備車両：タイヤ空気充填コンプレッサーを置きます。

フロントアクスルをつり上げての車両のけん引

4MATIC 非装備車両のみ、前輪を上げてけん引することができます。

! 4MATIC 装備車は、フロントまたはリアアクスルを持ち上げてけん引しないでください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。

4MATIC 装備車両は、両アクスルを地面に接地してけん引する、または積載して運搬するかのいずれかにします。

! フロントアクスルをつり上げてけん引を行なうときは、必ずイグニッションをオフにしてください。ESP®の介入によりブレーキが損傷するおそれがあります。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。
- ▶ 車両が停止しているときに、ブレーキペダルを踏んで、そのまま保持します。
- ▶ オートマチックトランスミッションをポジション **P** にシフトします。
- ▶ ブレーキペダルを放します。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを解除します。
- ▶ 車速感応ドアロックを解除します (▷ 246 ページ)。
- ▶ 非常点滅灯を作動させます (▷ 127 ページ)。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわし、エンジンスイッチにキーを残したままにします。

前輪を上げて車両をけん引するときは、安全指示を遵守することが重要です (▷ 352 ページ)。

両アクスルを接地させての車両のけん引

i 非常点滅灯を作動させてけん引しているときに進路変更の合図を行なうためには、通常通りにコンビネーションスイッチを使用してください。このときは、希望の方向の方向指示灯のみが点滅します。コンビネーションスイッチを元に戻したときは、非常点滅灯が再度点滅し始めます。

運転席または助手席ドアを開いたとき、またはエンジンスイッチからキーを取り外したときは、オートマチックトランスミッションは自動的にポジション **P** にシフトします。車両をけん引するときに、オートマチックトランスミッションをポジション **N** のままにするためには、以下の点に従わなければなりません。

- ▶ 車両が停止していることを確認します。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。
- ▶ ブレーキペダルを踏んだまま保持します。
- ▶ オートマチックトランスミッションをポジション **N** にシフトします。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置のままにします。
- ▶ ブレーキペダルを放します。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを解除します。
- ▶ 非常点滅灯を作動させます (▷ 127 ページ)。

車両をけん引するときは、安全に関する指示に注意することが重要です (▷ 352 ページ)。

車両の運搬

❗ 車両を固定するときは、アクスルやステアリング構成部品などにかけずに、ホイールにのみかけてください。車体を損傷するおそれがあります。

- ▶ エンジンスイッチのキーを **2** の位置にまわします。
- ▶ トランスミッションをポジション **N** に動かします。

車両を積載したら、ただちに以下のようになります：

- ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせることにより、車両が動き出すことを防止してください。
- ▶ トランスミッションをポジション **P** にシフトします。
- ▶ エンジンスイッチのキーを **0** の位置にまわして、抜きます。
- ▶ 車両を固定します。

運搬目的で車両をトレーラーまたはトランスポーターに引き上げるために、けん引フックを使用することができます。

4MATIC 車両に関する注意事項

❗ 4MATIC 装備車は、フロントまたはリアアクスルを持ち上げてけん引しないでください。トランスミッションが損傷するおそれがあります。

4MATIC 装備車両は、両アクスルを接地してけん引するか、または積載して運搬するかのいずれかのみになります。

車両のトランスミッションが損傷したり、フロントまたはリアアクスルが損傷している場合は、トランスポーターまたはトレーラーで運搬してください。

電気システムが損傷しているとき

バッテリーに不具合がある場合は、オートマチックトランスミッションはポジション **P** でロックされます。オートマ

チックトランスミッションをポジション **N** にシフトするためには、ジャンプスタート時と同じ方法で、車両の電気システムに電力を供給しなければなりません (▶ 349 ページ)。

トランスポーターまたはトレーラーで車両を運搬してください。

けん引始動 (エンジンエマージェンシースタート)

❗ オートマチック車はけん引始動しないでください。オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

i "ジャンプスタート" に関する情報は、(▶ 349 ページ) にあります。

ヒューズ

重要な安全上の注意事項

警告

切れたヒューズを使用したり、ブリッジしたり、またはより高いアンペア数のヒューズと交換すると、ケーブルに過負荷がかかります。火災の原因になります。事故やけがの危険性があります。

切れたヒューズは、必ず正しいアンペア数の指定された新品のヒューズと交換してください。

❗ ヒューズは必ず、メルセデス・ベンツ車両に適合し、関連するシステムへの正しい電流値を満たしたもののみを使用してください。"S" のマークが付いているヒューズのみ使用してください。さもないと、構成部品またはシステムを損傷するおそれがあります。

車両のヒューズは異常のある回路への接続を切断します。ヒューズが切れた場合は、回路上のすべての構成部品とそれらの機能が作動しなくなります。

切れたヒューズは、色とヒューズ定格で確認した上で、同じ定格のヒューズと交換しなければなりません。ヒューズの定格は、ヒューズ配置表に記載されています。

新しく差し込んだヒューズが切れる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場原因究明および修理を行なってください。

ヒューズを交換する前に

- ▶ 車両が動き出さないように固定してください。(▶ 180 ページ)
- ▶ すべての電気装備を停止します。
- ▶ キーをまわしてイグニッション位置を **0** にした後、キーを抜き取ります(▶ 161 ページ)。メーターパネル内のすべての表示灯が消灯します。

ヒューズは、以下のヒューズボックス内にあります。

- 進行方向に見たときの車両のエンジンルーム内左側のヒューズボックス
- 助手席足元のヒューズボックス

ヒューズ配置表は助手席足元のヒューズボックス(▶ 357 ページ)にあります。

エンジンルーム内のヒューズボックス

⚠ 警告

ボンネットを開いているとき、ワイパーを作動位置のままにしていると、ワイパーリンクージでけがをすることがあります。けがの危険性があります。

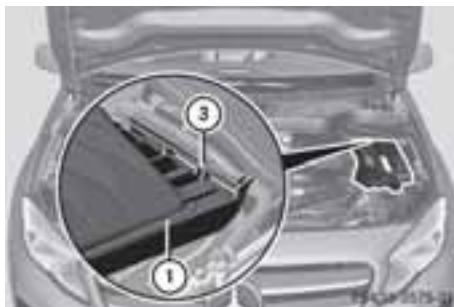
ボンネットを開く前に、必ずワイパーおよびエンジンスイッチをオフにしてください。

! カバーを開く際に、ヒューズボックス内部に浸水しないように注意してください。

! カバーを閉じる時は、ヒューズボックスに確実にハマっていることを確認してください。ヒューズボックスの中に水分や異物が浸入すると、ヒューズの機能に障害が発生するおそれがあります。



- ▶ ボンネットを開きます。
- ▶ 乾いた布を使用して、ヒューズボックスに付着している水分を取り除きます。
- ▶ **開く**： クランプ **②** を外します。
- ▶ カバー **①** を矢印の方向に持ち上げて取り外します。

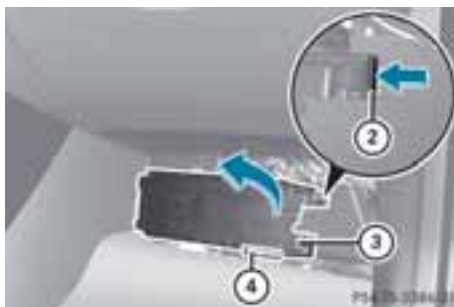


- ▶ **閉じる**： シール部がカバー **①** が正しい位置にあることを確認します。
- ▶ カバー **①** をヒューズボックスの後方側の開口部 **③** に差し込みます。
- ▶ カバー **①** を下げます。
- ▶ クランプ **②** をヒューズボックスに掛けて閉じます。
- ▶ ボンネットを閉じます。

助手席足元のヒューズボックス



- ▶ **開く**：助手席側からフロアマットを取り外します。
- ▶ フロアカバー ① を折り目に沿って手前に引き出します。



- ▶ カバー ③ を外すためには、固定クランプ ② を押します。
- ▶ カバー ③ を矢印の方向のキャッチ側へ開きます。
- ▶ カバー ③ を手前に取り外します。

i ヒューズ配置表 ④ はカバー ③ の右下側にあります。

- ▶ **閉じる**：カバー ③ をヒューズボックス左側の固定部に差し込みます。カバー ③ が固定部に固定されます。
- ▶ 音がしてクランプ ② が固定されるまで、カバー ③ を下方に閉じます。
- ▶ 折り目のあるフロアカバー ① を後方に戻します。

役に立つ情報	360
重要な安全上の注意事項	360
操作	361
寒冷時の取り扱い	363
タイヤ空気圧	364
タイヤ交換	367
ホイールとタイヤの組み合わせ ...	372
応急用スペアタイヤ	377

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場
で情報をご覧ください。(▷ 25 ページ)

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

誤ったサイズのホイールやタイヤを使用すると、車輪ブレーキまたはサスペンションの部品を損傷することがあります。事故の危険性があります。

純正部品の仕様に適合するホイールやタイヤと必ず交換してください。

ホイールを交換する場合、正しく取り付けるために以下を確認してください：

- 型式
- タイプ

タイヤを交換する場合、正しく取り付けるために以下を確認してください：

- 型式
- メーカー
- タイプ

⚠ 警告

パンクは車両の走行、ステアリング、ブレーキ特性を著しく損なうことがあります。事故の危険性があります。

ランフラット特性のないタイヤ：

- パンクしたタイヤで走行しないでください。
- ただちにパンクしたタイヤを応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤと交換

するか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でご相談ください。

ランフラット特性を持つタイヤ：

- MOExtended タイヤ(ランフラット特性を持つタイヤ)に関する情報と警告注意に注意してください。

メルセデス・ベンツにより承認されていない、または正しく使用されていないアクセサリーは、作動安全性を損なうおそれがあります。

承認されていないアクセサリーを購入したり、ご使用になる前には、メルセデス・ベンツ指定サービス工場以下の事柄をご確認ください。

- 適合性
- 合法性
- 推奨品

(▷ 372 ページ)ホイールとタイヤのサイズと種類に関する情報は、 にあります。車両のタイヤ空気圧に関する情報は、 以下にあります。

- 燃料給油口フラップにあるタイヤ空気圧ラベル (▷ 179 ページ)
- "タイヤ空気圧" (▷ 364 ページ)

ブレーキシステムおよびホイールの改造は許可されていません。ホイールスペーサーまたはブレーキダストシールドの使用は許可されていません。これらは車両の一般使用許可を無効にします。

i タイヤとホイールについてのさらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。

操作

走行に関する情報

- 車両に重い荷物を積んでいるときは、タイヤ空気圧を点検し、必要に応じて調整してください。
- 走行中は、振動や騒音が発生したり、ステアリングが片側に取られるなど、車両操縦性に変化が現れていないか注意してください。このような症状の原因には、タイヤやホイールの損傷が考えられます。タイヤに異常を感じたら、ただちに速度を落として慎重に運転してください。すみやかに安全な場所に停車して、タイヤとホイールに損傷がないか点検してください。タイヤが損傷すると、車両操縦性が損なわれる原因になります。損傷が何も認められない場合、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ではタイヤおよびホイールの点検を受けてください。
- 車両を駐車するときは、タイヤが縁石や障害物により変形していないことを確認してください。また、縁石や路面の段差などを乗り越える必要がある場合は、速度を落とし、縁石や段差に対してタイヤをできるだけ直角にして乗り越えてください。そうしないと、タイヤ、特にサイドウォールが損傷するおそれがあります。

ホイールとタイヤの定期点検

⚠ 警告

タイヤが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。その結果として、車両のコントロールを失うおそれがあります。事故発生の危険性があります。タイヤに損傷がないか定期的に点検を行ない、損傷したタイヤはただちに新品と交換してください。

ホイールとタイヤの定期点検は、少なくとも月に1度、またオフロードや凹凸路の走行後にも行ない、タイヤに損傷がないか確認してください。ホイールが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。特に、以下のような損傷にご注意ください。

- タイヤの傷
- 刺し傷などの穴
- タイヤの裂け目
- タイヤの突起
- ホイールの変形や腐食

タイヤのトレッドの深さやタイヤの幅全体にわたるトレッドの状態を定期的に点検してください(▶ 362 ページ)。必要な場合は、タイヤ表面の内側を点検するために、前輪をフルロックまでまわしてください。

ほこりや水分の侵入を防ぎバルブを保護するため、すべてのホイールにバルブキャップを必ず装着してください。純正品または承認された製品以外のバルブキャップをバルブに装着しないでください。純正品以外のバルブキャップまたはタイヤ空気圧モニターなどのシステムを装着しないでください。

長距離走行の前は特に、定期的にすべてのタイヤの空気圧を点検してください。必要な場合は、タイヤ空気圧を調整してください(▶ 364 ページ)。

応急用スペアタイヤに関する注意事項を遵守してください(▶ 377 ページ)。

タイヤの耐用年数は、以下を含むさまざまな要因に左右されます。

- 走行スタイル
- タイヤ空気圧
- 総走行距離

タイヤトレッドに関する重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

タイヤのトレッドが不十分であると、タイヤのグリップが低下します。このようなタイヤは水を排出することができなくなり、濡れた路面で、特に走行状況に適していない速度で走行すると、ハイドロプレーニング現象が生じる危険性が高くなります。事故発生の危険性があります。タイヤ空気圧が高すぎたり低すぎたりすると、トレッド面の位置によって偏摩耗が生じることがあります。タイヤの定期点検を行なう時は、タイヤの溝の深さだけでなく、タイヤの内側の摩耗状態も点検してください。

タイヤの溝の深さの最小値：

- サマータイヤ：3mm
- ウィンタータイヤ：4mm

安全保持のために、タイヤの溝の深さが法律で定められた最小値に達する前に、該当するタイヤを新品と交換してください。

タイヤの選択、装着および交換

⚠ 警告

記載されているタイヤ耐荷重性能および承認されている最高速度を超過すると、タイヤが損傷したり、タイヤが破裂したりするおそれがあります。事故の危険性があります。

このため、車両モデルに使用が承認されているタイヤのタイプとサイズのみを使用してください。車両に必要なタイヤ荷重指数と速度記号を確認してください。

タイヤの認証に関する国の要件に注意してください。これらの要件は車両の特別なタイヤの種類を規定することができます。さらに、特定の地域およびエリア内の運転での特定のタイヤ種類の使用は、非常に有益になることがあります。タイヤに関するさらなる情報は、専門のタイ

ヤ業者またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にあります。

- ホイールとタイヤ、4輪とも同一種類、同一銘柄のものを装着してください。
例外：パンクした場合は、違う種類、違う銘柄の使用が認められています。"MOExtended タイヤ (ランフラットタイヤ)" (▷ 340 ページ) の項目を遵守してください。
- 適正なサイズのタイヤをホイールに装着してください。
- 新しいタイヤでは最初の約 100 km は控えめな速度で走行してください。この距離を走行後にのみ、最高の性能に達します。
- タイヤトレッド部の残り溝が不足したタイヤで走行しないでください。濡れた路面ではタイヤのグリップが著しく低下します (ハイドロプレーニング現象)。
- 摩耗に関わらず、6 年以上経過したタイヤは交換してください。

応急用スペアタイヤに関する注意事項を遵守してください (▷ 377 ページ)。

MOExtended タイヤ (ランフラットタイヤ)

MOExtended タイヤ (ランフラットタイヤ) により、1 本または複数のタイヤの空気圧がすべて損失しても、車両の走行を続けることができます。

MOExtended タイヤは、作動しているタイヤ空気圧警告システムおよびメルセデス・ベンツにより特別にテストされたホイールとの組み合わせでのみ使用することができます。

パンクしたランフラットタイヤで走行するときの注意事項 (▷ 340 ページ)。

i MOExtended タイヤ装備車両は、出荷時にタイヤフィットを装備していません。ウィンタータイヤなど、ランフラッ

ト特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で装備することをお勧めします。タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

寒冷時の取り扱い

全体的な注意事項

冬になる前にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で車両の寒冷時対応を実施してください。

"タイヤの交換"に記載された注意事項を守ってください。(▷ 367 ページ)

サマータイヤでの走行

+7℃以下の温度では、サマータイヤは弾力性を失い、接地性と制動力が低下します。車両のタイヤを M+S タイヤに交換してください。非常に低い温度でのサマータイヤの使用は、亀裂が発生し、復元不可能なタイヤの損傷の原因になるおそれがあります。このようなタイヤの損傷は、保証の対象外になります。

⚠ 警告

タイヤが損傷すると、タイヤ空気圧が低下する原因になります。その結果として、車両のコントロールを失うおそれがあります。事故発生の危険性があります。タイヤに損傷がないか定期的に点検を行ない、損傷したタイヤはただちに新品と交換してください。


M+S タイヤ

⚠ 警告

ウィンタータイヤの溝の深さが約 4 mm 以下になったときは、冬季用のタイヤとして不適切になり、十分な接地性を確保できなくなります。事故につながるおそれがあります。

ウィンタータイヤの溝の深さが約 4 mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。

+7℃以下の気温では、ウィンタータイヤまたはオールシーズンタイヤを使用してください。どちらのタイヤも M+S マークで識別できます。

冬季の道路状況では、M+S マークに加えて雪の結晶マーク  の記載があるウィンタータイヤのみが最も優れたグリップをもたらします。冬季においては、これらのタイヤによってのみ、ABS や ESP® のような走行安全装備が適切に機能するようになります。これらのタイヤは、特に雪道走行用に開発されています。

安全な車両操縦性を確保するため、4 輪とも同じ銘柄およびトレッドの M+S タイヤを使用してください。

装着された M+S タイヤの指定された最大許容速度を常に守って走行してください。

車両のものよりも低い最大許容速度の M+S タイヤを装着している場合は、適切な警告ラベルを運転者の視界内に貼り付けてください。これはメルセデス・ベンツ指定サービス工場です。

これらの状況では、M+S タイヤの最高許容速度を超えないように、スノータイヤスピードリミッターを使用して車両の最高速度を制限することも必要です (▷ 196 ページ)。

M+S タイヤの装着したときは、以下を行なってください。

- ▶ タイヤ空気圧を点検します (▷ 364 ページ)。
- ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください (▷ 366 ページ)。

応急用スペアタイヤでの走行に関する情報 (▷ 377 ページ)。

スノーチェーン

⚠ 警告

スノーチェーンを後輪に装着すると、それらが車体またはシャーシの部品を損傷するおそれがあります。これにより、車両またはタイヤが損傷するおそれがあります。事故の危険性があります。

危険な状態を避けるために

- スノーチェーンを後輪に装着しないでください。
- スノーチェーンはペアで前輪にのみ装着してください。

■ スチールホイール装備車：スチールホイールにスノーチェーン取り付けの場合、ホイールのホイールキャップを損傷する可能性があります。スノーチェーンを取り付ける前に、各ホイールからホイールキャップを取り外してください。

安全上の理由のため、メルセデス・ベンツによりお客様の車両用に特別に承認された、または同等の品質基準のスノーチェーンのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します。

スノーチェーンを装着するときは、以下の点に注意してください。

- スノーチェーンはすべてのホイールとタイヤの組み合わせに装着できるわけではありません。許容されるホイールとタイヤの組み合わせ (▷ 372 ページ)。
- 路面が完全に雪に覆われているときのみ、スノーチェーンを使用してください。雪に覆われていない路面に来たときは、できるだけ早くスノーチェーンを取り外してください。
- 法令でスノーチェーンの使用が制限されている地域があります。スノーチェーンを装着する場合は、該当する規制を遵守してください。

- 最大許容速度 50 km/h を超えないようにしてください。
- スノーチェーンを装着しているときは、決してアクティブパーキングアシストを使用しないでください (▷ 214 ページ)。

i スノーチェーンを装着して発進するときに、ESP® (▷ 78 ページ) を解除しても構いません。このようにして、制御しながら車輪を空転させ、駆動力を高めることができます (掘る動作)。

応急用スペアタイヤでの走行に関する情報 (▷ 377 ページ)

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧基準値

⚠ 警告

タイヤ空気圧が不足または過剰な場合、以下の危険があります。

- 荷重が大きく車両速度が高い場合は特に、タイヤが破裂するおそれがある。
- タイヤが過度に、また不均一に摩耗し、それによってタイヤの駆動力が損なわれるおそれがある。
- ステアリング操作やブレーキ操作などの車両操縦性が大幅に損なわれるおそれがある。

事故を起こすおそれがあります。

指定のタイヤ空気圧を遵守し、以下のときにはスペアタイヤを含むすべてのタイヤの空気圧を点検してください。

- 少なくとも 2 週間に 1 回
- 荷重が変化したとき
- 長距離走行を開始する前
- オフロード走行など、使用条件が変わったとき

必要であれば、適正なタイヤ空気圧に調整してください。

⚠ 警告

適切でないアクセサリーをバルブに取り付けると、バルブに過負荷がかかって誤作動し、タイヤ空気圧が不足する原因となります。設計上、タイヤ空気圧モニターシステムを後装着すると、バルブが開いたままになり、タイヤ空気圧が不足するおそれもあります。事故発生の危険性があります。

標準仕様のバルブキャップまたはメルセデス・ベンツ純正の車両専用バルブキャップのみをバルブに取り付けてください。

⚠ 警告

タイヤ空気圧が何度も低下する場合は、ホイール、バルブまたはタイヤが損傷している可能性があります。タイヤ空気圧が不十分であると、タイヤが破裂するおそれがあります。事故発生の危険性があります。

- タイヤに異物がないか点検します。
- ホイールやバルブからの空気漏れがないか点検します。

損傷を修理できない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

🌀 環境保護に関する注意

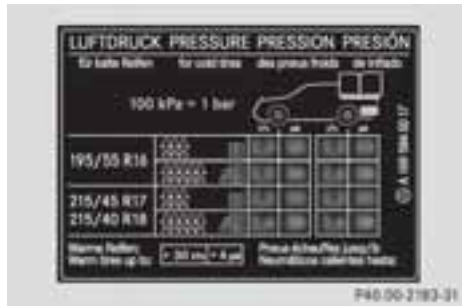
少なくとも 2 週間に 1 度、タイヤ空気圧の点検を行なってください。

車両の燃料給油口フラップ内側には、さまざまな使用状況でのタイヤ空気圧の表があります。

応急用スペアタイヤでの使用 (▷ 377 ページ)

燃料給油口フラップ内側の表には、さまざまな積載状態でのタイヤ空気圧が記載されています。この表には、さまざまな乗員数および積載量のもの指定されています。実際の座席数と異なる場合があります。詳細情報は、車両の登録書類を確認してください。

タイヤサイズの指定がない場合、タイヤ空気圧情報ラベルに記載されているタイヤ空気圧は、車両用に承認されているすべてのタイヤに適用されます。



タイヤのサイズに応じて空気圧を調整する場合は、以下の空気圧に関する情報は、そのタイヤサイズのみ有効となります。タイヤ空気圧を点検するためには、適切な空気圧ゲージを使用してください。タイヤの外観は、タイヤ空気圧に関する信頼性のある結論を出すことにはなりません。

可能であれば、タイヤが冷えているときにのみ、タイヤ空気圧を修正してください。

以下では、タイヤが冷えています：

- タイヤに直射日光が当たらない状態で、最低 3 時間車両を駐車した場合、および
- 1.6 km 以上車両が走行していない場合

外気温度、走行速度およびタイヤの荷重によって、タイヤの温度およびタイヤ空気圧は 10 °C ごとに約 10 kPa (0.1 bar/1.5 psi) ずつ変化します。温まっているタイヤの空気圧を点検するときは、このことを考慮に入れてください。そのときの使用条件に対して非常に低い場合にのみ、タイヤ空気圧を修正してください。

著しく高い、または著しく低いタイヤ空気圧で走行すると、以下になります：

- タイヤ寿命が短くなります
- タイヤの損傷が増える原因になります
- ハンドリング特性および走行安全性へ悪影響を与えます（ハイドロプレーニング現象など）。

① 低負荷用のタイヤ空気圧値は、快適な乗り心地を得ることができる最低値です。

ただし、高負荷用の数値を使用することもできます。これらは許容値であり、車両の走行に悪影響を与えることはありません。

タイヤ空気圧警告システム

全体的な注意事項

タイヤ空気圧警告システムは、車両が動いている間に、車輪の回転速度を使用して設定されているタイヤ空気圧をモニターします。システムは、タイヤ空気圧の著しい低下を検知することができます。タイヤ空気圧の低下にともない車輪の回転速度が変化した場合は、マルチファンクションディスプレイに対応する警告メッセージが表示されます。

マルチファンクションディスプレイの **メータ** メニューに表示される **タイヤ空気圧警告システム オン OK ボタンで再始動** というメッセージで、タイヤ空気圧警告を認識することができます。ディスプレイメッセージのさらなる情報は、"タイヤ空気圧警告システムの再起動"にあります (▶ 366 ページ)。

重要な安全上の注意事項

タイヤ空気圧警告システムは、適切でないタイヤ空気圧の設定には警告は行いません。推奨タイヤ空気圧に関する注意を遵守してください (▶ 364 ページ)。

タイヤ空気圧警告は、定期的なタイヤ空気圧点検の必要性に代わるものではありません。複数のタイヤでの同時で同量な空気圧低下は、タイヤ空気圧警告システムでは検知されません。

タイヤ空気圧モニターは、タイヤに異物が刺さった場合などの急激な空気圧の低下には、警告を行なうことができません。空気圧が突然低下した場合は、ブレーキを慎重に効かせて車両を停止します。急激なステアリング操作は避けてください。

以下では、タイヤ空気圧警告システムの機能が制限されたり、遅れることがあります：

- 車両のタイヤにスノーチェーンを装着している
- 冬季の道路状況
- 砂地や砂利道を走行している
- 非常にスポーティな運転スタイル（高速コーナリング、急加速など）をとっている
- 重い荷物とともに走行している（車内に、またはルーフ上に）






タイヤ空気圧警告システムの再起動

以下の場合、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。





- タイヤ空気圧を変更した
 - ホイールまたはタイヤを変更した
 - 新しいホイールまたはタイヤを装着した
- ▶ 再起動の前に、4 本すべてのタイヤで、タイヤ空気圧が使用状況に応じて適正に設定されていることを確認してください。推奨タイヤ空気圧は燃料給油口フラップのタイヤ空気圧ラベルに記載されています。

タイヤ空気圧警告システムは、適切なタイヤ空気圧に設定してある場合のみ、信頼性のある警告を行なうことができます。適切でないタイヤ空気圧に



設定されている場合は、これらの適切でない数値がモニターされます。


- ▶ タイヤ空気圧の項目にある注意事項に従ってください (▶ 364 ページ)。
- ▶ エンジンスイッチのキーが **2** の位置にあることを確認します (▶ 161 ページ)。
- ▶ ステアリングの  または  スイッチを押して、**メンテナンス** メニューを選択します。
- ▶  または  スイッチを押して、**タイヤ空気圧** を選択します。
- ▶  スイッチを押します。
マルチファンクションディスプレイに **ランフラットインジケーター作動 OK で再始動** というメッセージが表示されます。


再起動を確定したい場合：

- ▶  スイッチを押します。
マルチファンクションディスプレイに **タイヤ空気圧 正常ですか？** というメッセージが表示されます。
- ▶  または  スイッチを押して、**はい** を選択します。
- ▶  スイッチを押します。
マルチファンクションディスプレイに **ランフラットインジケーター再始動** というメッセージが表示されます。
読み込み期間後に、4 輪すべてのタイヤに設定されたタイヤ空気圧のモニターを行ないます。

再起動をキャンセルしたい場合：

- ▶  スイッチを押します。
または
- ▶ **タイヤ空気圧 正常ですか？** というメッセージが表示されたときは、 また

は  スイッチを押して、**キャンセル** を選択します。

- ▶  スイッチを押します。
前回の再起動時に保存されたタイヤ空気圧値が引き続きモニターされます。

タイヤ交換

パンク

パンク時に行なうことに関する情報は、「パンク」の項目にあります (▶ 340 ページ)。パンクしたときに MOExtended タイヤで走行する際の情報は、「万一のとき」の項目にあります (▶ 340 ページ)。

応急用スペアタイヤ装備車両： パンクした場合は、「車輪の取り付け」 (▶ 368 ページ) の記載にしたがって応急用スペアタイヤを装着してください。

車輪の入れ替え

 **警告**

ホイールまたはタイヤのサイズが異なる場合に、フロントとリアの車輪を入れ替えると、走行特性が著しく損なわれることがあります。車輪のブレーキまたはサスペンションの部品も損傷することがあります。事故の危険性があります。
ホイールとタイヤが同じサイズの場合にのみ、フロントとリアの車輪を入れ替えてください。

異なるサイズのフロントとリアのホイールを入れ替えると、一般の使用許可が無効になることがあります。

車輪を交換するときは指示や安全上の注意に常に注意を払ってください (▶ 367 ページ)。

使用状況により、フロントおよびリアタイヤの摩耗具合は異なります。タイヤに明らかな摩耗具合が形成される前に、車

輪を入れ替えてください。一般的に、フロントタイヤではショルダー部が、リアタイヤではセンター部がより摩耗します。前後同じサイズの車輪を持つ車両では、タイヤの摩耗具合に応じて 5,000 ~ 10,000 km ごとに車輪を入れ替えることができます。回転方向が維持されていることを確認します。

車輪を入れ替えるときは常に、ホイールの接触面とブレーキディスクを十分に清掃してください。タイヤ空気圧を点検し、必要な場合はタイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

回転方向

タイヤの回転方向が指定されているタイヤは、例えばハイドロプレーニング現象のおそれがある状況などで補助的な効果を発揮します。回転方向が指定されているタイヤは、指定された回転方向になるように装着することで性能を十分発揮できます。

タイヤのサイドウォールにある矢印は、正しい回転方向を示しています。

車輪の保管

使用していないタイヤは、涼しくて乾燥している、なるべく暗い場所に保管してください。タイヤにオイルやグリース、ガソリン、軽油などが付着しないように保護してください。

車輪の清掃

⚠ 警告

円形ジェットノズル（粉塵グラインダー）の水流は、タイヤまたはシャーシの部品に外見からは目に見えない損傷を引き起こすおそれがあります。このようにして損傷した部品は予期せず故障するおそれがあります。事故の危険性があります。

車両の清掃をするときに円形ジェットノズル付きの高圧式スプレーガンを使用しないでください。損傷したタイヤまたはシャーシの部品はすぐに交換してください。

車輪の取り付け

車両の準備

- ▶ かたく、滑らない水平な地面に車両を停車します。
- ▶ 電気式パーキングブレーキを手動で作動させます (▶ 182 ページ)。
- ▶ 前輪を直進位置にします。
- ▶ DIRECT SELECT レバーを **P** にします。
- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。
- ▶ 車両装備に含まれている場合は、車両からタイヤ交換工具キットを取り出します。
- ▶ 動き出さないように車両を固定します。

i 国による仕様の違いによって、車両にはタイヤ交換工具キットは装備されていません。車両の車輪交換を行なうために必要な工具についての情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

必要な車輪交換工具としては、例えば以下が含まれることがあります。

- ジャッキ
- 輪止め
- ホイールレンチ

車両が動き出さないように固定する



車両に輪止めが装備されている場合は、タイヤ交換工具キットの中にあります。
(▶ 339 ページ)

折りたたみ式の輪止めは、タイヤ交換時などに車が動き出すのを防止するための補助的な固定手段です。

- ▶ 両側のプレートを上方に起こします①。
- ▶ 下側のプレートを引き出します②。
- ▶ 下側のプレートの凸部をベースプレートの開口部に差し込みます③。



水平な場所で車両に輪止めをする

- ▶ **水平な場所で**： 交換したい車輪の対角線上にある車輪の前後に、輪止めまたは適切な他の物を置きます。



緩い下り坂で車両に輪止めをする

- ▶ **軽い下り坂勾配で**： フロントおよびリアアクスルの車輪の前に、輪止めまたは適切な他の物を置きます。

車両を上げる

⚠ 警告

車両の適切なジャッキポイントに正しくジャッキを設置しないと、車両をジャッキアップした時にジャッキが倒れるおそれがあります。負傷するおそれがあります。

必ず車両の適切なジャッキポイントにジャッキを設置してください。ジャッキの底面は車両のジャッキポイントの真下に来るように設置してください。

車両を上げるときは以下に従ってください。

- 車両を上げるときは、メルセデス・ベントツによりテストされ、承認された車両専用のジャッキのみを使用してください。ジャッキが正しく使用されていない場合は、車両を上げている間に倒れるおそれがあります。
- ジャッキは、車輪交換の間に短時間車両を上げたままにするためだけに設計されています。車両下部のメンテナンス作業を行なう目的には適していません。
- 上り坂や下り坂斜面での車輪交換は避けてください。

- 車両を上げる前に、パーキングブレーキを効かせて輪止めをして動き出さないようにしてください。車両を上げている間は、絶対にパーキングブレーキを解除しないでください。
- ジャッキは、かたく平坦で滑らない地面の上に置いてください。やわらかい地面の上では、大型の平坦な耐荷重マットを使用してください。滑りやすい地面の上では、ラバーマットなどの滑り止めマットを敷いてください。
- ジャッキの下敷きとして、木製のブロックや類似のものを使用しないでください。さもないと、高さが制限されることにより、ジャッキが耐荷重性能を得られない可能性があります。
- タイヤの下面と地面との間の距離が3cmを超えていないことを確認してください。
- 上げた車両の下には、絶対に手または足を入れないでください。
- 車両の下に横にならないでください。
- 車両を上げているときは、エンジンを始動しないでください。
- 車両を上げているときは、ドアやテールゲートを開閉しないでください。
- 車両を上げているときは、車内に人がいないことを確認してください。



ホイールトリム付きスチールホイール

- ▶ **スチールホイール装備車両**：ホイールトリムの2箇所の開口部に注意して手

を伸ばし、ホイールトリムを取り外します。



- ▶ ホイールレンチ ① を使用して、交換するタイヤのホイールボルトを約1回転緩めます。ボルトは完全に緩めないでください。

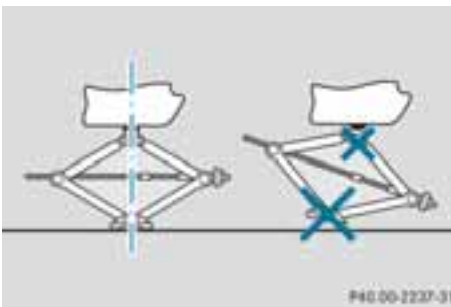


ジャッキポイントは、フロントのホイールアーチのすぐ後ろと、リアのホイールアーチのすぐ前にあります（矢印）。

- ▶ 車載工具からタイヤ交換工具キットのラチェットレンチを取り出して、**AUF**の文字が見えるようにジャッキの六角ナットにセットします。



- ▶ ジャッキ ③ をジャッキポイント ② の位置に合わせます。



例

- ▶ ジャッキの底面がジャッキポイントの真下に位置していることを確認してください。
- ▶ ジャッキ ③ がジャッキポイント ② に完全にはまり、ジャッキの底面が地面に均一に接地するまでラチェットレンチ ④ をまわします。
- ▶ ラチェットレンチ ④ をまわし、タイヤが地面から最大 3cm 離れるまでジャッキアップします。

車輪の取り外し

! 砂などの異物が付着しないように注意してください。ホイールボルトをねじ込む時に、ボルトやハブのネジ山が損傷するおそれがあります。

- ▶ ホイールボルトを緩めます。
- ▶ タイヤを取り外します。

新しい車輪の取り付け

⚠ 警告

オイルやグリースが付着したホイールボルトまたは損傷したホイールボルト/ハブのネジ山は、ホイールボルトが緩む原因になります。その結果として、走行中にホイールが緩むおそれがあります。事故発生の危険性があります。

ホイールボルトには、絶対にオイルやグリースを塗布しないでください。ネジ山が損傷している場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷したホイールボルトまたはハブのネジ山を切り直してください。それ以上は走行を続けしないでください。

⚠ 警告

車両をジャッキアップしている時にホイールボルトまたはホイールナットを締め付けると、ジャッキが倒れることがあります。負傷の危険性があります。

車両が接地している場合にのみ、ホイールボルトまたはホイールナットを締め付けてください。

"タイヤの交換" (▷ 367 ページ) にある指示や安全上の注意事項に常に注意を払ってください。

ホイールボルトは、必ずホイールと車両に適合した製品を使用してください。安全上の理由のため、メルセデス・ベンツ車およびそれぞれのホイールのために承認されホイールボルトのみを使用することを、メルセデス・ベンツは推奨します。



- ▶ ホイールおよびホイールハブの接合面を清掃します。
- ▶ 新しいタイヤをホイールハブに取り付け、押し込みます。
- ▶ 手の力で締まるまで、ホイールボルトを締め付けます。

車両を下げる

⚠ 警告

ホイールナットやボルトが規定の締め付けトルクで締め付けられていないと、ホイールが緩むおそれがあります。事故発生の危険性があります。

タイヤを交換した後で、直ちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で、締め付けトルクの点検を受けてください。



- ▶ **AB** の文字が見えるように、ジャッキの六角ナットにラチェットレンチを取り付けます。
- ▶ 車両が再度しっかりと接地するまでラチェットレンチをまわします。
- ▶ ジャッキを横に置きます。
- ▶ 示されている対角パターンの順番 (①～⑤) で、ホイールボルトを均一に締めます。規定の締め付けトルクは **130 Nm** です。

- ▶ ジャッキをまわして元の状態に戻します。
- ▶ ジャッキとその他の車載ツールを車両に再び収納します。
- ▶ 新しく取り付けたタイヤの空気圧を点検し、それに応じて調整します。
推奨タイヤ空気圧に従ってください (▷ 364 ページ)。

ホイールとタイヤの組み合わせ

全体的な注意事項

! 安全に走行するため、タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。

それらのタイヤは、ABS や ESP® などのコントロールシステムに適応しており、以下のマークが付いています。

- MO = Mercedes-Benz Original
- MOE = Mercedes-Benz Original Extended (ランフラット特性を持つタイヤ)
- MO1 = Mercedes-Benz Original (特定の AMG タイヤ)

ランフラット特性を持つタイヤ (MOExtended) は、純正品および承認されたホイールだけに装着できます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリを使用しないでください。車両操縦性や騒音、排出ガス、燃料消費などに悪影響を与えるおそれがあります。また、乗車人数や荷物が増えた場合などには、タイヤやホイールが車体やサスペンションに接触するおそれがあり、タイヤや車両の損傷につながるおそれがあります。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイール、アクセサリを装着した場合は、損傷が生じても保証の対象外になります。

タイヤやホイール、指定された組み合わせなどに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

! 再生タイヤは、元の損傷状態を確認することが難しいため、使用をお勧めできません。再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできなくなります。中古タイヤは、過去の使用状況が確認できない場合は装着しないでください。

! 大径ホイール：特定のホイールサイズの断面幅が減少すると、悪路での乗り心地が低下します。走行快適性および安定性が低下し、さらに路面の障害物を乗り越える際にホイールやタイヤへの損傷リスクが高くなります。

以下のタイヤ表で使用されている略語の概要

- BA：前後の車輪
- FA：前輪
- RA：後輪

さまざまな使用条件での推奨タイヤ空気圧の表は、車両の燃料給油口フラップの内側にあります。タイヤ空気圧についてのさらなる情報は (▶ 364 ページ) をご覧ください。タイヤ空気圧は定期的に、タイヤが冷えているときにのみ点検してください。

車両装備に関する注意事項 - 車両には常に以下のように装着してください。

- アクスル (左 / 右) に応じて決められた同じサイズのタイヤ
- サマータイヤ、ウィンタータイヤ、MOExtended タイヤ (ランフラットタイヤ) など、異なる種類のタイヤを同時に装着しないでください。

例外：パンクした場合は、違う種類、違う銘柄の使用が認められています。"MOExtended タイヤ (ランフラットタイヤ)" の項目に従ってください (▶ 340 ページ)。

i MOExtended タイヤ装備車両は、出荷時にタイヤフィットを装備していません。ウィンタータイヤなど、ランフラット特性を持たないタイヤを装着するときは、タイヤフィットを追加で装備することをお勧めします。タイヤフィットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

i すべてのホイール / タイヤの組み合わせが、すべての国で工場出荷時に装着されているわけではありません。

タイヤ

GLA 180

サマータイヤ

R 17

タイヤ	ホイール
BA : 215/60 R17 96 V	BA : 6.5 J x 17 H2 オフセット 38

R 18

タイヤ	ホイール
BA : 235/50 R18 97 V ⁶	BA : 7.0 J x 18 H2 オフセット 46

R 19



タイヤ	ホイール
BA : 235/45 R19 95 V ⁶	BA : 8.0 J x 19 H2 オフセット 43.5

ウィンタータイヤ

R 17

タイヤ	ホイール
BA : 215/60 R17 96 H M+S 	BA : 6.5 J x 17 H2 オフセット 38

R 18

タイヤ	ホイール
BA : 215/55 R18 95 H M+S  ⁶	BA : 6.5 J x 18 H2 オフセット 38
BA : 235/50 R18 97 H M+S 	BA : 7.0 J x 18 H2 オフセット 46

⁶ MOExtended タイヤも使用可能。

R 19

タイヤ	ホイール
BA : 235/45 R19 95 H M+S 	BA : 8.0 J x 19 H2 オフセット 43.5

GLA 250 4MATIC

サマータイヤ

R 17

タイヤ	ホイール
BA : 215/60 R17 96 V	BA : 6.5 J x 17 H2 オフセット 38

R 18

タイヤ	ホイール
BA : 235/50 R18 97 V ⁶	BA : 7.0 J x 18 H2 オフセット 46

R 19

タイヤ	ホイール
BA : 235/45 R19 95 V ⁶	BA : 8.0 J x 19 H2 オフセット 43.5



ウィンタータイヤ

R 17

タイヤ	ホイール
BA : 215/60 R17 96 H M+S 	BA : 6.5 J x 17 H2 オフセット 38

⁶ MOExtended タイヤも使用可能。

R 18

タイヤ	ホイール
BA : 215/55 R18 95 H M+S  6	BA : 6.5 J x 18 H2 オフセット 38
BA : 235/50 R18 97 H M+S 	BA : 7.0 J x 18 H2 オフセット 46

R 19

タイヤ	ホイール
BA : 235/45 R19 95 H M+S 	BA : 8.0 J x 19 H2 オフセット 43.5

GLA 45 AMG 4MATIC

サマータイヤ

R 19

タイヤ	ホイール
BA : 235/45 ZR19 99 Y XL ⁷	BA : 8.0 J x 19 H2 オフセット 43.5

R 20

タイヤ	ホイール
BA : 235/40 ZR20 96 Y XL ⁷	BA : 8.0 J x 20 H2 オフセット 43.5

ウィンタータイヤ


R 18

タイヤ	ホイール
BA : 215/55 R18 99 V XL M+S 	BA : 7.5 J x 18 H2 オフセット 42

⁶ MOExtended タイヤも使用可能。

⁷ スノーチェーンの使用は許可されていません。"スノーチェーン"の項目にある注意事項に従ってください。

R 19

タイヤ	ホイール
BA : 235/45 R19 99 V XL M+S  7	BA : 8.0 J x 19 H2 オフセット 43.5

応急用スペアタイヤ

重要な安全上の注意事項

 警告

スペアタイヤまたは応急用スペアタイヤと、交換した車輪のホイールまたはタイヤのサイズやタイヤの種類は異なることがあります。スペアタイヤ/応急用スペアタイヤを装着すると、走行特性が著しく損なわれることがあります。事故の危険性があります。

危険な状態を避けるために

- 適宜運転スタイルを合わせ、慎重に運転してください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤを1つ以上装着しないでください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤは一時的にのみ使用してください
- ESP® をオフにしないでください
- サイズの異なる応急用スペアタイヤまたはスペアタイヤは最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場⁷で交換してください。ホイールとタイヤのサイズがタイヤの種類とともに正しいことに注意してください。

応急用スペアタイヤ、またはサイズの異なるスペアタイヤを使用するときは、80 km/h の最高速度を超えないようにしてください。

応急用スペアタイヤには、スノーチェーンを装着しないでください。

全体的な注意事項

i 国による仕様の違いとは別に、車両には応急用スペアタイヤは装備されていません。応急用スペアタイヤは、車両専用のものです。車両に承認された応急用スペアタイヤに関する詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお問い合わせください。

特に長距離走行の前には、応急用スペアタイヤを含めて、すべてのタイヤの空気圧を定期的に点検し、必要に応じて空気圧を調整してください(▷ 364 ページ)。ホイールまたは"ホイールとタイヤ"に記載されている値(▷ 378 ページ)は有効です。

i 応急用スペアタイヤを装着して走行する場合は、タイヤ空気圧警告システムが正常に機能しないことがあります。不具合のある車輪を新しい車輪に交換したときにのみ、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

i 応急用スペアタイヤを装着して走行する場合は、タイヤ空気圧警告システムが正常に機能しないことがあります。不具合のある車輪を新しい車輪に交換したときにのみ、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

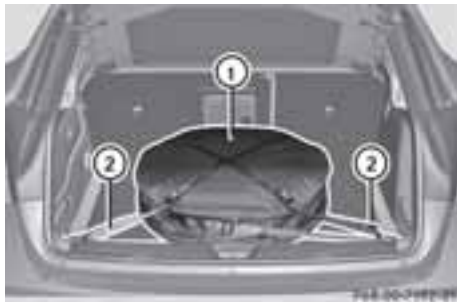
応急用スペアタイヤは回転方向とは逆に装着することができます。応急用スペアタイヤに記載されている使用制限時間ならびに制限速度を守って使用してください。

ホイールとタイヤ

7 スノーチェーンの使用は許可されていません。"スノーチェーン"の項目にある注意事項に従ってください。

摩耗に関わらず、6年以上経過したタイヤは交換してください。これは応急用スペアタイヤにも該当します。

応急用スペアタイヤの取り外し



"ミニスペア"応急用スペアタイヤ装備車両

"ミニスペア"応急用スペアタイヤは応急用スペアタイヤのバッグ①に収納され、ラゲッジルームに固定されています。

- ▶ テールゲートを開きます。
- ▶ 応急用スペアタイヤのバッグ①の固定用ストラップ②を外します。
- ▶ "ミニスペア"応急用スペアタイヤのバッグ①を"ミニスペア"応急用スペアタイヤごと取り外します。
- ▶ "ミニスペア"応急用スペアタイヤのバッグ①を開き、"ミニスペア"応急用スペアタイヤを取り出します。

"タイヤの取り付け" (▷ 368 ページ) の説明および安全上の注意を遵守してください。

AMG 車両： 応急用スペアタイヤはトランクの応急用スペアタイヤバッグ①の中にあります。

- ▶ テールゲートを開きます。
- ▶ 応急用スペアタイヤのバッグ①の固定用ストラップ②を外します。

- ▶ 応急用スペアタイヤバッグ①をコラプシブル応急用スペアタイヤごと取り外します。
- ▶ 応急用スペアタイヤバッグ①を開き、コラプシブル応急用スペアタイヤを取り出します。

"タイヤの取り付け" (▷ 368 ページ) の説明および安全上の注意を遵守してください。

サービスデータ

全モデル (AMG 車を除く)

"ミニスペア"応急用スペアタイヤ	
タイヤ	スチールホイール
T 135/90 R17 104 M	4.0 B x 17 H 2 ET 34
タイヤ空気圧：	
420 kPa (4.2 bar/ 61 psi)	

AMG 車

コラプシブル応急用スペアタイヤ	
タイヤ	スチールホイール
T 185/55 D20 100 P	6.0 B x 20 H 2 ET 36
タイヤ空気圧：	
350 kPa (3.5 bar/51 psi)	

役に立つ情報	380
車両の電子制御部品	380
ビークルプレート	380
サービスプロダクトと容量	381
車両データ	386
オフロード走行用車両データ	387

役に立つ情報

i この取扱説明書は発行時点で利用可能な、車両のすべてのモデルやシリーズ、オプション装備を記載しています。国別仕様の違いがあることもあります。お客様の車両には記載されている全ての機能が装備されていないことがあることにご留意ください。これは安全に関するシステムや機能の場合もあります。

i メルセデス・ベンツ指定サービス工場
で情報をご覧ください。(▷ 25 ページ)

車両の電子制御部品

エンジン電子制御部品の不正改造

! コントロールユニット、センサー、作動構成部品、コネクタケーブルなど、電子制御部品およびその関連部品に関わる点検整備や修理などの作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に依頼してください。車両の構成部品が通常より早く摩耗したり、保証を適用できないことがあります。

無線機の後付け (RF 送信機)

RF 送信機の装着については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場へお問い合わせください。

ビークルプレート

車台番号 (VIN) のあるビークルプレート



例：右ハンドル車両

- ▶ 運転席ドアを開きます。
ビークルプレート ① が確認できます。



例：ビークルプレート

② 車台番号

i 車両のビークルプレートに示されたデータは、データの一部です。このデータは車両ごとに異なりますので、ここに示されたデータとは異なることがあります。お客様の車両に該当するデータは、車両のビークルプレートにあります。

車台番号



- ▶ 右フロントシートを最も後方の位置までスライドさせます。
- ▶ 右フロントシート前方のフロアカバー ① をめくり上げます。
車台番号 ② が確認できます。

車台番号はビークルプレートでも確認できます (▶ 380 ページ)。

エンジン番号

エンジン番号はクランクケースに刻印されています。さらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。

サービスプロダクトと容量

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

サービスプロダクトは健康に有害で危険です。けがの危険性があります。

サービスプロダクトの使用、保管および廃棄については、それぞれ元の容器のラベルの指示を遵守してください。サービスプロダクトは必ず元の容器に密閉して保管してください。サービスプロダクトは必ず子供の手の届かないところに保管してください。

🌿 環境

燃料および油脂は、環境汚染を配慮して、廃棄処分してください。

サービスプロダクトには以下のものが含まれます。

- 燃料
- 潤滑剤 (エンジンオイル、トランスミッションオイルなど)
- 冷却水
- ブレーキ液
- ウォッシャー液
- エアコンディショナーの冷媒

構成部品とサービスプロダクトは適合していなければなりません。メルセデス・ベンツでは、メルセデス・ベンツによりテストされ、承認された製品のみを使用することを推奨します。これらは、メルセデス・ベンツ取扱説明書の該当する項目に記載されています。

メルセデス・ベンツにより承認されたサービスプロダクトは、容器の以下のマークにより識別できます。

- MB-Freigabe (MB-Freigabe 229.51 など)
- MB Approval (MB Approval 229.51 など)

他のマークや推奨は、MB シート番号 (MB 229.5 など) に準拠した品質レベルまたは仕様を示しています。これらは、メルセデス・ベンツによる承認は必要としません。

さらなる情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。

燃料

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

燃料は可燃性の高いものです。燃料を不適切に扱った場合は、火災および爆発の危険性があります。

火気、裸火、火花の発生および喫煙は避けてください。給油の前にはエンジン、当てはまる場合は補助ヒーターを停止します。

⚠ 警告

燃料は健康に有毒で危険です。けがの危険性があります。

燃料は決して飲まないこと、また目や衣服に付着させないでください。燃料の気体を吸い込まないでください。燃料は子供から離してください。

お客様または他の方が燃料に触れた場合は、以下に従ってください。

- 石鹸および水道水を使用して、ただちに肌から燃料を洗い流してください。
- 燃料が目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分にすすいでください。ただちに医師の診察を受けてください。
- 燃料を飲み込んだ場合は、ただちに医師の診察を受けてください。無理に吐かせないでください。
- 燃料が付着した衣服はただちに替えてください。

燃料タンク容量

モデル	全容量
4MATIC 装備モデル	56.0 L
他の全モデル	50.0 L

モデル	予備燃料
AMG 車	約 8.0 L
他の全モデル	約 6.0 L

ガソリン

燃料のグレード

❗ ガソリンエンジン車両に給油するために軽油を使用しないでください。誤って異なる燃料を給油した場合は、イグニッションをオンにしないでください。さもないと、燃料が燃料システムに入るおそれがあります。少量の誤った燃料でも、燃料システムやエンジンの損傷につながるおそれがあります。メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡して、燃料タンクや燃料系統から完全に抜き取ってください。

❗ 最低 95 RON の無鉛ガソリンのみを使用して給油してください。

そうしないと、エンジンの出力が低下したり、エンジンが損傷する原因になります。

❗ 必ず指定の燃料を使用してください。その他の燃料で車両を操作すると、エンジンの不具合の原因になります。

❗ 以下のような燃料を使用しないでください。

- E85 (エタノール配合率 85 % のガソリン)
- E100 (エタノール 100 %)
- M15 (メタノール配合率 15 % のガソリン)
- M30 (メタノール配合率 30 % のガソリン)
- M85 (メタノール配合率 85 % のガソリン)
- M100 (メタノール 100 %)
- ガソリンと金属を含有する添加物
- ディーゼル

このような燃料を車両に推奨されている燃料とは決して混合しないでください。添加剤を使用しないでください。エンジンの損傷につながるおそれがあります。ただし、スラッジの生成を抑制・除去す

る効果のある添加剤を除きます。ガソリンにはメルセデス・ベンツで推奨された添加剤のみを混合してください。"添加剤"をご覧ください。さらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

通常、燃料グレードに関する情報はポンプにあります。給油ポンプにラベルがない場合は、給油スタンドのスタッフにおたずねください。

❶ E10 燃料には最大 10 %のバイオエタノールが含まれています。お客様の車両は、E10 燃料の使用に適しています。E10 燃料をお客様の車両に給油することができます。

GLA 250 4MATIC： 推奨燃料が入手できない場合は、一時的な措置としてオクタン価が 93 RON/83 MON の無鉛レギュラーガソリンを使用することができます。

他の全モデル： 推奨燃料が使用できない場合は、一時的な措置としてオクタン価が 91 RON の無鉛レギュラーガソリンを使用することができます。これにより、エンジン性能が低下したり、燃料消費が増加することがあります。フルスロットルでの走行および急加速は避けてください。91 RON 以下の燃料を使用して、絶対に給油しないでください。

給油についての情報 (▷ 177 ページ)。

AMG 車

❶ 燃料を給油するときは、最低 98 RON の無鉛プレミアムガソリンを使用してください。

指定以外の燃料を給油すると、エンジンの出力が低下したり、エンジンが損傷するおそれがあります。

❶ 緊急時で指定燃料が入手できないときに限り、91 RON 無鉛レギュラーガソリンも使用できます。

その結果燃料消費量が著しく増大し、エンジン出力は著しく低下します。アクセルをいっぱい踏み込んで運転するのは避けてください。

91 RON あるいはそれ以下のグレードのガソリン以外の燃料しか入手できない場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での燃料で走行するために必要な車両の調整を受けてください。

添加剤

❶ 燃料添加剤を後で加えてエンジンを作動させると、エンジン故障につながるおそれがあります。燃料に燃料添加剤を混ぜないでください。これには、生成堆積物除去および防止のための添加剤は含まれません。ガソリンにはメルセデス・ベンツにより承認された添加剤のみを混合してください。製品の容器に記載の使用上の注意をお守りください。推奨添加剤に関するさらなる情報はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に入手できます。

メルセデス・ベンツは、添加剤を含有している燃料ブランドの使用を推奨します。一部の国で入手できる燃料の品質は、十分でないことがあります。結果として、残留物が噴射システムに堆積するおそれがあります。その場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談のうえ、メルセデス・ベンツにより推奨された洗浄添加剤をガソリンに混合してください。容器にある注意事項および規定の配合率を常に遵守してください。

燃料消費に関する情報

🌀 環境に関する注意

CO₂ (二酸化炭素) の排出は、地球温暖化の主な原因となります。車両の CO₂ 排出量は、燃料消費と直接関係があり、以下の条件によって変化します。

- エンジンの燃焼効率
 - 走行スタイル
 - 環境の影響や道路状況、交通の流れのような、技術的ではない他の要因
- 緩やかな運転を心がけ、定期的に点検整備を行なうことにより、CO₂ 排出量を最小限に抑えることができます。

以下のような状況では、燃料消費量が増加します。

- 非常に低い外気温で
- 市街地で
- 短距離の走行で
- 山間路で

エンジンオイル

全体的な注意事項

エンジンオイルを取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意事項に従ってください(▶ 381 ページ)。

エンジンオイルの品質は、エンジンの性能や使用寿命に大きな影響を与えます。広範囲にわたるテストの末、メルセデス・ベンツでは最新の技術基準に適合するエンジンオイルのみを承認しています。

そのため、メルセデス・ベンツエンジンには、メルセデス・ベンツが承認したエンジンオイルのみを使用してください。テストされ、承認されたエンジンオイルについての詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですぐ入手できます。オイル交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことを、メルセデス・ベンツは推奨します。

AMG 車両には SAE 0W-40 または SAE 5W-40 のエンジンオイルのみを使用してください。

容量

以下の数値は、オイルフィルターを含むオイル交換時のものです。

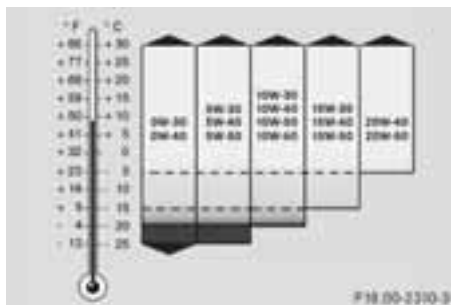
未記載の数値は印刷時点で確認できなかったものです。

モデル	交換容量
GLA 180	5.8 L
他の全モデル	5.6 L

添加剤

! エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジンオイルの粘度



粘度は、液体の流動特性を示します。エンジンオイルの粘度が高いほどゆっくりと流れ、粘度が低いほど速く流れます。エンジンオイルの選択は、対応する外気温を基準にして、SAE グレード（粘度）に応じたものにしてください。表では、使用すべき SAE グレードを示しています。低温の環境では、劣化や煤、添加剤などにより使用時のエンジンオイルの特性が著しく損なわれます。そのため、適切な SAE グレードの承認されたエンジンオイルを使用して、定期的にオイル交換を行なうことを強く推奨します。

ブレーキ液

⚠ 警告

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。ブレーキ液の沸点を下げます。ブレーキ液の沸点が低すぎる場合、ブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生します。ブレーキ液が劣化しベーパーロックが起こると、ブレーキの性能が損なわれます。事故の危険性があります。ブレーキ液は、定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

ブレーキ液 (p. 381 ページ) を取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意事項を遵守してください。

ブレーキ液の交換時期は、整備手帳で確認してください。

承認されたブレーキ液に関する情報は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場ですることができます。

i ブレーキ液はメルセデス・ベンツ指定サービス工場です定期的に交換して下さい。

冷却水

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

不凍液がエンジンルームの熱くなっている構成部品に触れると、発火する可能性があります。火災およびけがの危険性があります。

不凍液を充填する前にエンジンを冷やしてください。不凍液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。エンジンを始動する前に、不凍液で汚れた構成部品を清掃してください。

! 冷却水は、必ず弊社指定の不凍液を混合したものを補給してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

冷却水についての詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場にお尋ねください。

! たとえ高温の地域であっても、必ず適切な冷却水を使用してください。

不適切な冷却水を使用すると、エンジン冷却システムの腐食やオーバーヒートを防ぐことができなくなります。

i 冷却水はメルセデス・ベンツ指定サービス工場です定期的に交換し、交換を整備手帳で確認してください。

冷却水 (p. 381 ページ) を取り扱う場合は、サービスプロダクトの重要な安全上の注意事項に従ってください。

冷却水は水と不凍液 / 防錆剤の混合液です。以下の役割があります。

- 防錆保護
- 凍結防止
- 沸点の上昇

不凍液 / 防錆剤が適切な濃度の場合、作動中の冷却水の沸点は約 130 °C になります。

エンジン冷却システム内の不凍液 / 防錆剤の濃度は、

- 50 % 以上にしてください。これにより、約 -37 °C までエンジン冷却システムを凍結から保護します。
- 55 % (-45 °C までの凍結防止保護) を超えないようにします。さもないと、熱が効果的に発散されません。

i 車両の納車時には、適切な凍結防止および防錆保護を行なうことができる濃度の冷却水が充填されています。

i 冷却水は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場での定期整備ごとに点検が行なわれます。

ウインドウウォッシャーおよびヘッドライトウォッシャー

重要な安全上の注意事項

⚠ 警告

ウインドウウォッシャー液が熱いエンジン部品または排気システムに触れた場合、発火するおそれがあります。火災およびけがの危険性があります。

ウインドウウォッシャー液の濃縮液が補充口の脇に飛散していないことを確認してください。

❗ 夏季用や冬季用など、ヘッドライトの樹脂製レンズに適したウォッシャー液のみを使用してください。不適切なウォッシャー液を使用すると、ヘッドライトの樹脂製レンズを損傷するおそれがあります。

❗ 蒸留水や脱イオン水をウォッシャー液リザーブタンクに入れないでください。レベルセンサーを損傷するおそれがあります。

❗ 夏季用および冬季用の純正ウォッシャー液を混合して使用します。純正品以外のウォッシャー液を使用すると、噴射ノズルが詰まるおそれがあります。

ウォッシャー液を取り扱う場合は、サービスマニュアルの重要な安全上の注意事項に従ってください(▶ 381 ページ)。

気温が氷点より高いとき：

▶ 水と夏用ウォッシャー液の混合液をウォッシャー液リザーブタンクに補充します。

水の量 100 に対して夏用ウォッシャー液の量 1 を混合します。

気温が氷点より低いとき：

▶ 水と冬用ウォッシャー液の混合液をウォッシャー液リザーブタンクに補充します。

外気温度に応じて混合率を調整してください。

- -10 °Cまで：水の量 2 に対して冬用ウォッシャー液の量 1 を混合します。
- -20 °Cまで：水の量 1 に対して冬用ウォッシャー液の量 1 を混合します。
- -29 °Cまで：水の量 1 に対して冬用ウォッシャー液の量 2 を混合します。

❗ 1 年を通して、夏用または冬用ウォッシャー濃縮液をウォッシャー液に追加してください。

車両データ

全体的な注意事項

記載の車両データについては、以下の点に注意してください。

- 記載の車高は、以下に応じて異なります。
 - タイヤ
 - 積載量
 - サスペンションの状態
 - オプション装備
- オプション装備により最大積載量は減少します。

寸法および重量



モデル	① 最大ヘッ ドルーム	② 開いたと きの高さ
AMG 車	1866 mm	2019 mm
他の全モデル	1876 mm	2034 mm

ルーフとトランクの最大重量

未記載の数値は印刷時点で確認できなかったものです。

GLA 180	
ルーフの最大重量	
トランクの最大重量	
他の全モデル	
ルーフの最大重量	75 kg
トランクの最大重量	100 kg

電池

未記載の数値は印刷時点で確認できなかったものです。

GLA 45 AMG
4MATIC

バッテリー電圧

バッテリー容量

他の全モデル

バッテリー電圧 12 V

バッテリー容量 70 Ah

オフロード走行用車両データ

最大許容水深

❗ 水深が基準値を越えてはいけません。水流では、許容水深は浅くなることに注意してください。

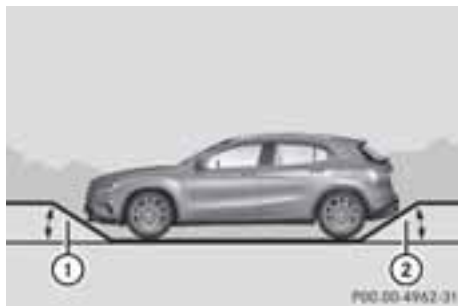


未記載の最大水深値は①印刷時点で確認できなかったものです。

積載され、走行準備ができている状態は、タンクが満たされている、すべての液類が補給されている、そして運転者が車中にいるという状態です。

冠水路の走行に関する詳しい情報 (▷ 186 ページ)。

アプローチ/デパーチャーアングル



フロント①およびリア②のアプローチ/デパーチャーアングルについて印刷時に未確認の数値はまだ記載されていません。アプローチ/デパーチャーアングルに関するさらなる情報は (▷ 190 ページ) をご覧ください。

最大登坂能力

車両の最大登坂能力はオフロードの状態および路面状況によって異なることに注意してください。

最大登坂能力について印刷時に未確認の数値はまだ記載されていません。

急な地形を走行するときは、注意してアクセルペダルを踏み、車輪が空転していないことを確認してください。

i 急な上り坂で発進するときに前軸にかかる荷重が減少する場合は、前輪は空転する傾向があります。4 ETS はこれを認識し、それに応じて車輪にブレーキを効かせます。後輪トルクが増加し、発進しやすくなります。

登坂能力に関する詳しい情報については、(▷ 190 ページ) をご覧ください。

発行物の詳細

インターネット

メルセデス・ベンツ車や Daimler AG についての詳細情報については、以下のウェブサイトに記載されています。

<http://www.mercedes-benz.co.jp>

編集オフィス

©Daimler AG: Daimler AG の書面による許可なく、本書のすべてまたは一部を複製、翻訳または複製することはできません。

車両メーカー

Daimler AG
Mercedesstrasse 137
70327 Stuttgart
Germany



1565841000

Order no. 6515 5403 20 Part no. 156 584 10 00 Edition NA 2014-03a